

ANNUAL REPORT

2009

THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

新潟県立万代島美術館

The Niigata **Bandaijima** Art Museum

年報



目次

平成21年度の流れ	近代美術館		3		
	万代島美術館		4		
展覧会	近代美術館	常設展	小林古径と院展の日本画家たち	7	
			現代美術のクラシック	9	
			西洋の魅力を探る旅	12	
			コルヴィッツとバルラッハの版画	15	
			佐々木象堂と新潟の金工	18	
		企画展	油絵事始め—リアリズムを求めて	21	
			ネオテニー・ジャパン	27	
			土田麦僊—近代日本画の理想を求めて	34	
			あふれる詩心—版画と陶芸	41	
			マルチアーティスト阿部展也	47	
		共催展	新潟県美術展覧会（県展）長岡展	52	
			亀倉雄策賞受賞記念展	52	
			長岡市展	53	
			新潟県ジュニア美術展覧会長岡展	53	
			長岡市中学校美術部作品展	54	
		友の会展	55		
		友の会15周年記念展	55		
		万代島美術館	企画展	金 GOLD—黄金の国ジパングと佐渡金銀山展	56
				美の視点—記憶のかたち	58
				佐伯祐三展—パリで天逝した天才画家の道	64
				ジブリの絵職人 男鹿和雄展	71
			所蔵品展	松永真のポスター展	84
				花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	88
	教育普及	近代美術館	巡回ミュージアム		92
			イベント		93
			刊行物		97
			作品解説会		98
団体への解説				99	
学校教育との連携				99	
観覧料免除				101	
アートボランティア				102	
博物館実習				103	
			万代島美術館	イベント（講演会、美術鑑賞講座、他）	104
				刊行物	105
				作品解説会	105
				団体への解説	106
				学校教育との連携	106
				観覧料免除	106
		博物館実習	106		
調査・研究	新潟県立近代美術館		109		
	新潟県立万代島美術館		110		
収集・保存	作品の収集	平成21年度収集作品	111		
	作品の保存	作品の修復	120		
	作品の貸出		120		
管理・運営	開館及び入館状況	近代美術館	124		
		万代島美術館	125		
	講堂・ギャラリー等の貸出	近代美術館	126		
		アンケート集計	近代美術館	127	
			万代島美術館	129	
		組織及び業務		131	
		職員		131	
	施設	近代美術館		132	
		万代島美術館		134	
	審議会等	新潟県立近代美術館協議会		136	
新潟県立美術館友の会			136		
自己評価に対する委員評価			138		
沿革			145		

平成21年度の流れ (新潟県立近代美術館)

4月	11日(土)	企画展「油絵事始め」開会
	23日(木)	常設展「小林古徑と院展の日本画家たち」開会
	26日(日)	ワークショップ「高橋由一の《鮭図に迫る》-さかなをえがく」
	29日(水)	早津剛ギャラリー・トーク
5月	2日(土)	映画鑑賞会「仔鹿物語」
	3日(日)	ワークショップ「美術館の舞台裏探検」
	3日(日)	巡回ミュージアム弥彦会場開会
	5日(火)	巡回ミュージアム解説会
	5日(火)	講演会「油絵事始め 山岡コレクションの魅力」
	16日(土)	美術鑑賞講座「近代美術史入門1 明治期の洋画」
	23日(土)	美術鑑賞講座「近代美術史入門2 明治期の日本画」
	24日(日)	池山阿有ギャラリー・トーク
	24日(日)	巡回ミュージアム解説会
	30日(土)	美術鑑賞講座「近代美術史入門3 大正期の日本画」
31日(日)	企画展「油絵事始め」閉会	
6月	5日(金)	県展「長岡展」開会
	5日(金)	出前講座「横山操と新潟」 燕市立小中川小学校
	7日(日)	巡回ミュージアム解説会
	11日(木)	巡回ミュージアム弥彦会場閉会
	14日(日)	県展「長岡展」閉会
	14日(日)	常設展「小林古徑と院展の日本画家たち」閉会
	18日(木)	常設展「現代美術のクラシック」開会
	21日(日)	キャンドルナイト@ kinbi
	21日(日)	秋山さやかワークショップ「長岡をつづる」
	23日(火)	出前講座「どこでもアート つんで・ならべて」長岡市立上組小学校
23日(火)	秋山さやか公開制作 (-6/25)	
7月	9日(木)	出前講座「マチスの切り絵に迫る」新潟市立亀田小学校
	12日(日)	コンサート「Noism09 nomadic」
	12日(日)	ワークショップ「ギャラリー・トーク 美術でおしゃべり①」
	21日(火)	企画展「ネオテニー・ジャパン」開会
	21日(火)	秋山さやか、加藤泉、鴻池朋子、須田悦弘ギャラリー・トーク
	21日(火)	映画鑑賞会 青木陵子+伊藤存「説子／2008」(-8/6)
	25日(土)	コンサート 電子音響室内楽「A r」
	25日(土)	巡回ミュージアム上越会場開会
	26日(日)	ワークショップ「ギャラリー・トーク 美術でおしゃべり②」
	28日(火)	こどもアートミュージアム開幕
8月	2日(日)	高橋龍太郎×ゲストトーク
	7日(金)	映画鑑賞会 長岡造形大学 映像作品 (-9/10)
	8日(土)	映画鑑賞会 アーティストドキュメンタリー映画「≡草間彌生」
	8日(土)	巡回ミュージアム解説会
	9日(日)	ワークショップ「ゆめの広がる石コウのタマゴ」
	15日(土)	映画鑑賞会アーティストドキュメンタリー映画「天明屋尚」
	16日(日)	丸山直文ワークショップ
	22日(土)	映画鑑賞会アーティストドキュメンタリー映画「舟越桂」
	29日(土)	映画鑑賞会アーティストドキュメンタリー映画「会田誠」
	30日(日)	山口晃アーティストトーク
30日(日)	巡回ミュージアム上越会場閉会	

10月	5日(土)	映画鑑賞会アーティストドキュメンタリー映画「森山大道」
	8日(火)	出前講座「どこでもアート つんで・ならべて」現代アートを体験 形と色の組み合わせ」「マチスの切り絵に迫る」新潟市立岡方第二小学校
	10日(木)	企画展「ネオテニー・ジャパン」閉会
	13日(日)	常設展「現代美術のクラシック」閉会
	19日(土)	企画展「土田麦僊」開会
	19日(土)	常設展「西洋の魅力を探る旅」開会
	20日(日)	ワークショップ「大人のぬり絵-土田麦僊の舞妓を描く」
	25日(金)	出前講座「マチスの切り絵に迫る」県立月ヶ岡養護学校ふなおか分校
	26日(土)	美術鑑賞講座「土田麦僊 人と作品」
	3日(土)	美術鑑賞講座「西洋美術史入門1 北方ルネサンス(ドイツ)」
4日(日)	ワークショップ「色と形でピカソに挑戦」	
7日(水)	出前講座「砂浜を描いた洋画家 國領経郎」柏崎市市民プラザ	
10日(土)	美術鑑賞講座「西洋美術史入門2 近代レアリズム(フランス)」	
14日(水)	出前講座「どこでもアート つんで・ならべて」出雲崎町立出雲崎小学校	
17日(土)	美術鑑賞講座「西洋美術史入門3 モダニズム(フランス)」	
20日(火)	出前講座「色と形でピカソに挑戦」関川村民会館	
21日(水)	出前講座「長岡出身の洋画家 小山正太郎」長岡市立小国中学校	
24日(土)	美術鑑賞講座「昭和期の麦僊-古典美の追求と朝鮮」	
31日(土)	講演会「土田麦僊とヴェイトユの少女 画像の背後のフランス」	
31日(土)	出前講座「現代アートを体験 形と色の組み合わせ」「マチスの切り絵に迫る」色と形でピカソに挑戦」糸魚川市立糸魚川小学校	
11月	1日(日)	ワークショップ「落ち葉をあつめてカラフル・アート」
	3日(火)	企画展「土田麦僊」閉会
	11日(水)	長岡市展開会
	15日(日)	常設展「西洋の魅力を探る旅」閉会
	15日(日)	出前講座「岩田正巳と新興大和絵の画家たち」三条市立図書館
	15日(日)	長岡市展閉会
	19日(木)	常設展「コルヴィッツとバルラッハの版画」開会
	21日(土)	企画展「あふれる詩心」開会
	28日(土)	美術鑑賞講座「詩心あふれる芸術家たち」
	5日(土)	美術鑑賞講座「コルヴィッツとバルラッハ」
12日(土)	映画鑑賞会「彫る 棟方志功の世界」	
20日(木)	出前講座「マチスの切り絵に迫る」県立高等養護学校手まりの里分校	
24日(日)	企画展「あふれる詩心」閉会	
29日(金)	新潟県ジュニア展「長岡展」開会	
12月	7日(日)	常設展「コルヴィッツとバルラッハの版画」閉会
	7日(日)	新潟県ジュニア展「長岡展」閉会
	11日(木)	常設展「佐々木象堂と新潟の金工」開会
	16日(火)	企画展「マルチ・アーティスト 阿部展也」開会
	27日(土)	美術鑑賞講座「阿部展也とその周辺」
	27日(土)	出前講座「現代アートを体験 形と色の組み合わせ」「どこでもアート つんで・ならべて」燕市小中川児童館
	20日(土)	美術鑑賞講座「佐々木象堂と新潟の金工」
	28日(日)	企画展「マルチ・アーティスト 阿部展也」閉会

平成 21 年度の流れ (新潟県立万代島美術館)

4月	19日(日)	企画展「金 GOLD 黄金の国ジパングと佐渡金銀山展」閉会	
	20日(月)～30日(木)	展示替えによる休館	
5月	1日(金)	展示替えによる休館	
	2日(土)	企画展「美の視点 記憶のかたち」開会	
	2日(土)	「美の視点 記憶のかたち」アーティスト・トーク	
	4日(月・祝)	「美の視点 記憶のかたち」アーティスト・トーク	
	9日(土)	「美の視点 記憶のかたち」アーティスト・トーク	
	10日(日)	「美の視点 記憶のかたち」アーティスト・トーク	
	16日(土)	「美の視点 記憶のかたち」アーティスト・トーク	
	17日(日)	「美の視点 記憶のかたち」アーティスト・トーク	
	24日(日)	「美の視点 記憶のかたち」アーティスト・トーク	
	31日(日)	「美の視点 記憶のかたち」アーティスト・トーク	
6月	7日(日)	「美の視点 記憶のかたち」アーティスト・トーク	
	13日(土)	美術鑑賞講座「日本画家の生涯と作品②土田麦僊」	
	21日(日)	「美の視点 記憶のかたち」閉会	
	22日(月)～30日(火)	展示替えによる休館	
7月	1日(火)～3日(金)	展示替えによる休館	
	3日(金)	企画展「没後 80 年記念 佐伯祐三展」開場式	
	4日(土)	「佐伯祐三展」開会	
	4日(土)	「佐伯祐三展」美術講演会「佐伯祐三とその芸術」	
	18日(土)	美術鑑賞講座「現代の美術—1980 年代」	
	26日(日)	「佐伯祐三展」トークイベント「Noism 金森稜 佐伯祐三を通じ創作を語る」	
8月	8日(土)	美術鑑賞講座「佐伯祐三—天才画家という存在」	
	30日(日)	「佐伯祐三展」閉会	
	31日(月)	展示替えによる休館	
9月	1日(火)～18日(金)	展示替えによる休館	
	19日(土)	企画展「ジブリの絵職人 男鹿和雄展」開場式 「ジブリの絵職人 男鹿和雄展」開会	
10月	10日(土)	美術鑑賞講座「世界遺産をめぐる旅⑤中世グルジアの教会堂壁画」	
11月	7日(土)	「ジブリの絵職人 男鹿和雄展」「はなちゃんず スタジオジブリ名曲コンサート」	
	7日(土)	「ジブリの絵職人 男鹿和雄展」ワークショップ「男鹿和雄さんと遊ぼう！」	
	14日(土)	美術鑑賞講座「美術のすがた④—近代の壁画をめぐる」	
	29日(日)	「ジブリの絵職人 男鹿和雄展」閉会	
	30日(月)	展示替えによる休館	
12月	1日(火)～11日(金)	展示替えによる休館	
	12日(土)	所蔵品展「松永真のポスター展」開会	
	28日(月)～31日(木)	年末の休館	
1月	1日(金)～3日(日)	年始の休館	
	16日(土)	美術鑑賞講座「広告と美術」	
2月	6日(土)	美術鑑賞講座「北東アジア近現代美術史① ロシア：ピョートル大帝からペレストロイカまで」	
	14日(日)	「松永真のポスター展」閉会	
	15日(月)～26日(金)	展示替えによる休館	
	27日(土)	所蔵品展「花鳥風月—現代日本画にみる自然の美」開会	
3月	13日(土)	美術鑑賞講座「日本画の歴史入門 花鳥画の歴史」	

事業報告



常設展



【趣旨】

当館の所蔵品による展示。従来は3つある展示室の特徴を生かした分野別の展示が多かったが、本年度からはこれにとられず、一つのテーマに基づき所蔵品を多彩に構成する形をとるようになった。また、併せて遠来の来館者にも応えられるように当館の名品を展示する場も設けた。



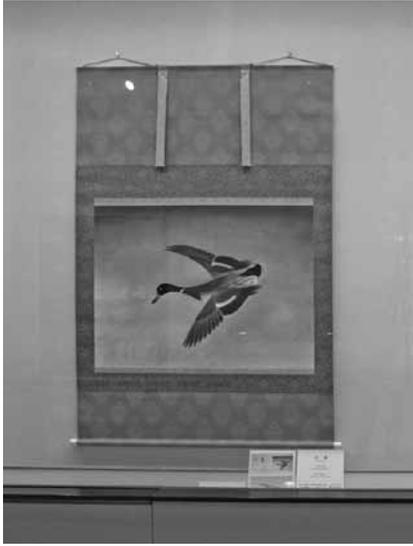
【観覧料】

- 一般……………410円 (330円)
- 大学・高校生……………200円 (160円)
- 中学・小学生……………100円 (80円)

※土・日祝日は小・中学生無料

※ () 内は20名以上の団体料金

※企画展観覧券で観覧可



小林古徑と院展の日本画家たち

【趣 旨】

岡倉天心によって1898年(明治31)に創立され、その没後1914年(大正3)に再興された日本美術院(院展)。上越出身の小林古徑(1883～1957)は、日本美術院の留学生として訪れた大英博物館で中国絵画を模写したことを契機に、東洋画の命である描線の美しさを追究するようになった。古徑らによって推し進められたこの傾向は「新古典主義」とよばれ、再興日本美術院の主調となっていく。

本展では、小林古徑をはじめとして、横山大観、下村観山、菱田春草、小杉放菴、安田靉彦、前田青邨など、日本美術院の主要作家とともに、小島丹漾、長井亮之、番場春雄など、古徑につづく世代の新潟ゆかりの院展作家を、所蔵品約60点により紹介した。構成は、第1章「日本美術院の俊英たち」、第2章「古徑に続くものたち」、第3章「院展から横の会へ」とした。なお、展示室2の末尾には新収蔵品紹介、展示室3には名品展「空のある名品たち」を併設した。

【総 括】

●評価すべき点

新潟県では今日でも院展出品作家が多く、現代に連なる院展の系譜をたどることによって、その歴史的意義を検証できた意義は大きかった。また、日本画のみならず、院展洋画部の存在についても触れ、萬鉄五郎、小出楯重ら普段は他の洋画作品とともに展示される作家について、別の視点から

紹介できたことが良かった。

●検討課題

展覧会名には「小林古徑」と銘打ったが、展示した古徑作品は7点であり、所蔵品および寄託品のみでの紹介には限界があった。来館者が展覧会名から期待する内容と実際の内容とに齟齬がないようにしていきたい。また、年度当初の常設展であり、広報が十分に行き届かなかった憾みがある。いかに周知・集客をはかっていくかが課題である。

【開催日・その他】

会 期：平成22年4月23日(木)～6月14日(日)

(開催日数52日間)

会期中展示替え

(前期：～5月19日/後期：5月20日～)

主 催：新潟県立近代美術館

観覧料：一般……………420円(340円)

大学・高校生……………200円(160円)

※中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

【関連行事】

・作品解説会

会期中の土曜日午前11時～

担当 長嶋圭哉

【出品リスト】

第1章 院展の俊英たち

【前期】		
中村 岳陵	嵐山朝陽・東山夕照	1926
橋本 雅邦	秋景山水図	1892頃
川合 玉堂	溪山晚秋	1930頃
横山 大観	早春	1924
小林 古径	異端(大下絵)	1914頃
	文珠	1931
	紫苑	1933
小杉 放菴	春秋屏風	1937
前田 青邨	被物	不明
川端 龍子	紅唇図	1941
川崎 千虎	信濃川洪水図	1897
寺崎 広業	信濃川洪水図	1897
松本 楓湖	信濃川洪水図	1897
邨田 丹陵	信濃川洪水図	1897
速水 御舟	浦津	1911
安田 靱彦	不盡山(寄託品)	昭和30年代
小川 芋銭	仙洞叱羊の図	不明
酒井 三良	籠居雪聲	1931
【後期】		
下村 観山	入日	1915
菱田 春草	放鶴	1904
横山 大観	朝暉	1954
小林 古径	雨	1917
	飛鶴	1930
	紅梅	1927頃
安田 靱彦	佐久良比東	1939
良寛	なすすけ	文化文政期
北野 恒富	茶々	不明
小杉 未醒	風神雷神図	1917
富田 溪仙	春山飛泉	不明
	鶴の巢籠図	不明
川崎 千虎	信濃川洪水図	1897
寺崎 広業	信濃川洪水図	1897
松本 楓湖	信濃川洪水図	1897
邨田 丹陵	信濃川洪水図	1897
郷倉 千鶴	豊饒群雀	1928
小林 古径	生果(寄託品)	大正後期
奥村 土牛	少女図	1926
【全会期】		
山本 自炉	鑄銅瓶掛	1939
高井 進	青瓷線文壺	2002
齋藤 三郎	白磁連弁文陰刻蓋付壺	1977
三浦小平二	青磁鉢	1978
萬 鉄五郎	雪の景(土沢)	1915
	木の間風景	1918
村山 槐多	裸婦	1916
川口 軌外	静物	1945頃
小出 楯重	ソファアの裸体B	1930

第2章 古径に続くものたち～新潟ゆかりの院展作家

【前期】		
番場 春雄	雪に遊ぶ	1935
中島 萬木	奥三面の山の嶺	1971
【後期】		
長井 亮之	砂丘	1936
【全会期】		
長井 亮之	見学	1969
	素描	
中島 萬木	待春	1967
番場 春雄	大雪嶺	1969
	残雪の椿園	1972
小島 丹濑	河口暮色	1956
	待つ	1965
	素描	
小林 大幾	飛瀑	1978

	伊豆の七瀬	1976
	佐渡の舟庫	1970
	大河渡る	2002
穂苅 春雄	はつなつの譜	1965
大矢 黄鶴	北岬	1976
大矢 紀	明けゆく	2001
大矢十四彦	北に花咲く	1973
大矢 紀	信仰の島	1979
	清韻	1994
	煌	2005
伊藤 彰耳	出会・ニヶ月	1996
千野 茂	裸婦	1957
千野 茂	フォーム	1976

第3章 院展から横の会へ

【全会期】		
中島 千波	空* '98-9- 五羅皆空	1998
林 功	懐い出	1996
林 功	綱引き	1998
千野 茂	F嬢	1970
島田 美晴	牙影蓮置物	1942以前
宮 芳平	カーテンに	1914
早津 剛	小出の家(中魚沼郡中里村小出にて)	1979
	倉俣の家(中魚沼郡中里村倉俣にて)	1981
池山 阿有	妬ばた	1993

併設「空のある名品たち」

【全会期】		
C・F・ドービニー	オワーズ河、イル・ド・ヴォーの夜明け	1869
C・モネ	コロンプの平原、霧	1873
M・エルンスト	鳥=人頭	1934~35
T・ルソー	ボートに乗る人のいる夏の風景	1845頃
A・フォンタネージ	ブジェイ高原	1858~60頃
J・デュプレ	羊飼い	1883
G・クールベ	エトルタ海岸、夕日	1869
C・コロロ	ピブリ	1874~75
G・ルオー	晩秋 NO.3	1948~52
北川 民次	大地	1939
国領 経郎	遠い海	1987
細野 實	雲の標	2002
佐藤 哲三	風景	1953頃
牧野 虎雄	春去らんとす	1925
【前期】		
難波田龍起	空の空間B	1978
	空と時間と	1978
難波田史男	鳥	1961
	白い太陽	1970
	詩人の空	1971
	白い月	1973
【後期】		
J・ミロ	太陽の賛歌2	1975
	太陽の賛歌9	1975
	太陽の賛歌 14	1975
	太陽の賛歌 25	1975
	太陽の賛歌 33	1975

その他の館内展示

【全会期】		
A・ロダン	考える人	1880
E・バルラッハ	ロシアの恋人たち	1908
M・マリーニ	騎手のための構想・習作	1955
ボモドーロ	予言	1983
淀井 敏夫	エビダウロス・追想	1984
北村 四海	すみれ	1920頃



現代美術のクラシック

【趣旨】

一口に現代美術と言っても、その内容は多種多様であるが、そのはじまりを日本では、1945年以降の戦後美術からと考える人も多い。仮に1945年を日本の現代美術の起点と考えると、2009年では既に64年が経過していることになる。これは例えば、印象派の誕生を1874年とすれば、その64年後は一挙に1938年となり、前述のピカソやデュシャンをはじめ、ほとんどの西洋美術思潮が含まれてしまう計算となる。つまり「現代美術」の幅は物理的な時間の経過からみても、長い歴史を有していることがわかる。

そこで本展では「現代美術のクラシック」と題して、もう現代美術の古典とも言ってもよい作品や作家、そして定石となった「手法」をクラシックとして紹介した。とは言い「現代美術」を編年体にならべていくような「博物史」的に紹介するのは、時代に直結した現代美術としてはふさわしくないことから、「何だろうこれは」という気持ちをダイレクトに感じて頂けるよう、展示については、「色を見る」「ものを見る」「方法を見る」「考えを見る」という4つの視点で分類しながらも、作品のインパクトを重視するものとした。また、現代美術は苦手という方も多いことから、さらにその4つの特徴を「色でいっぱい」「少ない色」「素材にこだわって」「文字と意味」「いろいろな描き方」「増えていく」「流用」「光ったり動いたり」「今を生きる」「明るさがいちばん」「時の過ぎゆくままに」という11のフィールドに分け、分かり易く解説し、



それぞれの分類とフィールドを作品のキャプションに表示することで、作品理解の手がかりとなるよう心懸けた。

一般的な現代美術の解説書を読むだけではわかりにくい、現代美術の魅力を感じてもらえたのではないかと考えている。

【総括】

今日の視点でそれぞれの時代の現代美術を感じてもらえるよう、展示作品全ての作品解説を全て作り直して提示した。11のフィールドについてはなるべく現代美術特有の言葉を使用しないようにし、平明で分かり易い文章になるよう心懸けた。アンケート等でも、その点に関しては評価を得ることができたと言える。

同一期間で開催された「ネオテニー・ジャパン」が、国内で現在の最先端の現代美術を紹介する展覧会でもあったことから、その手法が突発的なものではなく、その根幹となったまさにクラシックな表現を併せて紹介できたことで、より現代美術に親しみを持てるものとなった。

【検討課題】

当時の意図が現代においては作品解説を加えてもわかりにくいものがあり、当該作品の時代的な必然性を伝えるに作品がいくつかみられた。作品展示及び解説文以外の紹介の要素の検討を考慮する必要がある。

【開催日・その他】

=2009年6月18日(木)~9月13日(日)=

※会期中一部展示替があります

(前期~7月12日 後期~7月14日)

観覧料 (常設展のみ)

一般……………420円 (340円)

大高生……………200円 (160円)

中学生以下無料

担当 藤田裕彦、濱田真由美

【出品リスト】

現代美術のクラシック CLASSICS OF CONTEMPORARY ART

ものを見る① 文字と意味 SIGNIFIÉ/SIGNIFIED

1	比田井南谷	作品25	1956	ラッカー、墨、ファイバーボード
2	江口草玄	窟	1956	墨、紙
3	原正樹	プラスのトルソー	1988	鍍金・真鍮
4	荒川修作	セパレット・コンティニュームス	1965-66	油彩・キャンバス
5	フェルディナント・クリヴェット	詩画43	1968	油彩・キャンバス、プラスチック

先駆者たち PIONEER

6	吉原治良	作品	1935	油彩・キャンバス
7	吉原治良	静物	1929	油彩・キャンバス
8	斎藤義重	作品(赤)	1960	油彩・合板
9	斎藤義重	作品(BLUE)	1961	油彩・合板・ドリル使用
10	斎藤義重	日の出の下に	1965	油彩・板
11	斎藤義重	無題	1961	油彩・キャンバス
12	斎藤義重	無題	1967	油彩・板
13	村井正誠	ものうり	1958	油彩・キャンバス

色を見る① 色でいっぱい ABSTRACT EXPRESSIONISM

14	木村忠太	桜樹のある村	1984	油彩・キャンバス
15	川端実	作品	1963	油彩・キャンバス
16	オノサトシノブ	同心円	1971	油彩・キャンバス
17	田中稔之	円の光景'82-14	1982	油彩・キャンバス
18	清水伸	いつの世までも	2000	油彩・キャンバス
19	森本紀久子	作品I	1964	油彩・キャンバス
20	末松正樹	群青	1959	油彩・キャンバス
21	末松正樹	題不祥	1951	油彩・キャンバス
22	末松正樹	自画像	1930	油彩・キャンバス

前期のみ

ものを見る① 素材にこだわって VIEW TO A MATERIAL

23	山口長男	漠	1972	油彩・板
24	丸山直文	DHL	1992	アクリル絵具、綿布
25	丸山直文	KIND	1994	アクリル絵具、綿布
26	川崎ヒロ子	MORE 01-02	1999	アクリル・キャンバス、胡粉、墨
27	川崎ヒロ子	MORE -99-N-II	1999	アクリル・キャンバス、胡粉、墨
28	李禹煥	コレスポンダンセ	1993	キャンバス、油絵具
29	李禹煥	線より	1976	キャンバス、岩絵具
30	長沢明	BOOKBOARD-BLUE	1999	ミクストメディア
31	長沢明	MELODICAL NOTE	1995	アクリル、岩絵具、真鍮、麻、木、和紙、鉛、箔
32	久野真	鋼鉄による作品	1963	鉄板
33	ジェットリオ・アルヴィアーニ	揺らぐ肌理のある表面	1966	ステンレス
34	関根美夫	測定絵画「門」	1965	油彩、キャンバス

色を見る② 少ない色 MINIMAL ART

35	二村裕子	ZONE76-8-1	1976	シルクスクリーン+紙+インク
36	二村裕子	ZONE76-8-2	1976	シルクスクリーン+紙+インク
37	アグスティノー・ボナルミ	物体	1968	合成樹脂塗料+カンヴァス+木
38	トマス・レンク	層72	1968	油彩+板
39	チャールズ・ヒンマン	休憩	1965	アクリル・シェイプトキャンバス

考えを見る① 今を生きる REALISM NOW

40	倉石隆	画室	1953	油彩・キャンバス
41	上野省策	いずこえ	1975	油彩・キャンバス
42	高松次郎	椅子にかけた男の影	1965	油彩・キャンバス
43	高松次郎	陰絵帽子掛	1966	油彩・板
44	高松次郎	影絵花	1966	油彩・板

45	高松次郎	カギ #223	1968	油彩・板	
46	高松次郎	カギ #355	1972	油彩・板	
47	岡本太郎	顔	1965	油彩・キャンバス	
方法を見る① いろいろな描き方 VARIOUS PAINTING					
48	元永定正	作品、ピンク・赤・91	1960	油彩・キャンバス	
49	元永定正	作品	1965	油性合成樹脂塗料・キャンバス	
50	白髪一雄	白色のひろがり	1965	油彩・キャンバス	
51	白髪一雄	志賀#107	1973	油彩・キャンバス	
52	小林正人	画く力	1994	油彩・キャンバス	
53	桂ゆき	異邦人	1961	油彩・キャンバス、紙、岩絵具	
54	エンリコ・カステラーニ	白の表面 NO.40	1966	油彩、キャンバス、釘	
55	エンリコ・カステラーニ	白の表面 NO.41	1966	油彩、キャンバス、釘	
56	小島信昭	型をとりつけたボックス	1966	ラッカー、FRP、木製パネル	
57	菊畑茂久馬	植物図鑑(一)	1965	油彩+プラスチック+木+木製パネル	
58	田中敦子	作品1963 ATSUKO TANAKA	1963	合成樹脂、エナメル塗料、キャンバス	
59	磯辺行久	WORK'63-87	1964	大理石粉+特殊メディウム、油彩、木枠、金粉	
60	向井修二	作品	1964	油彩、板、キャンバス	
考えを見る② 明るさがいちばん POP, NEO POP					
61	岡本信治郎	10人のインディアンより1点	1964	水彩・キャンバス	
62	阿部展也	太郎	1949	油彩・キャンバス	
63	猪熊弦一郎	犬とネクタイ	1991	油彩・キャンバス	
64	ジェラルド・ライング	減速No.1	1964	アクリル・キャンバス	
65	饒囀	日本	1966	油彩・キャンバス、ヒートン、テグス、スコップ	
66	アレン・ジョーンズ	木の中の女	1965	油彩・キャンバス	
67	篠原有司男	花魁殺し	1965	油彩・キャンバス	
68	篠原有司男	スパイダーマン	1981	油彩・キャンバス	
方法を見る③ 流用 APROPRICATION					
69	アンディ・ウォーホル	花(5点)	1970	スクリーン・プリント	前期・後期と入れ替え
70	キース・ヘリング	花I	1990	シルクスクリーン	前期・後期と6点づつ入れ替え
71	ロイ・リキテンスタイン	睡蓮と柳	1992	スクリーン・プリント	
72	ロバート・ラウシェンバーグ	乱闘(白霜シリーズ)	1975	混合技法	
方法を見る④ 光ったり動いたり LIGHTING AND MOVING					
73	ゲルハルト・リヒター	無題	1967/68	油彩・キャンバス・プラスチック	
74	ハインツ・マック	光の回転	1968	ガラス・プラスチック・モーター	
75	山口勝弘	作品	1967	アクリル樹脂・蛍光管	
76	レモ・ピアンコ	3D	1966	木	
77	福岡道雄	ピンクパルーン	1967	ポリエステル	
考えを見る③ 時の過ぎゆくまに AS TIME GOES BY					
78	郭徳俊	フォードと郭	1975	リトグラフ	前期
79	萩原朔美	ONE(3点組)	1976	写真孔版	前期
80	野田哲也	DIARY: AUG 11TH '78	1978	木版・シルクスクリーン	前期
81	野田哲也	DIARY: MURCH 5TH '79	1979	木版・シルクスクリーン	前期
82	野田哲也	DIARY: AUG 10TH '78	1979	木版・シルクスクリーン	前期
83	野田哲也	DIARY: FEB 2ND '80	1980	木版・シルクスクリーン	前期
	郭徳俊	位相-7612	1976	パネル、アクリル絵具	前期
	市橋太郎	セルフポートレート1973年10月22日午後3時08分	1973	カラープリント	後期
	市橋太郎	1973年10月22日午後3時15分	1973	カラープリント	後期
	野田哲也	DIARY: JULY 11TH '80	1980	木版・シルクスクリーン	後期
	野田哲也	DIARY: APRIL 7TH '96	1996	木版・シルクスクリーン	後期
	野田哲也	DIARY: JULY 11TH '97	1997	木版・シルクスクリーン	後期
	野田哲也	DIARY: JAN 18TH '98	1998	木版・シルクスクリーン	後期
84	福田美蘭	ぶれちゃった写真	2003	アクリル、パネル	
85	河原温	JAN.1.1975	1975	アクリル・キャンバス	
86	マイケル・サンドル	すずめ蛾	1967	グラスファイバーに彩色、真鍮	
87	フランシス・モーランド	A.B.C	1966	グラスファイバー、銀を真空蒸着	
88	デリック・ウッドハム	Y	1965	グラスファイバーに彩色	
89	市村司	作品1	1965	油彩・デコラ板	
90	最上壽之	ジュンジュン	1967	アクリル樹脂	
91	フェルナンド・ボテロ	頭像	1989	ブロンズ鑄造	
92	チェスワフ・ズペール	V.I.P.	1993	油彩・ガラス	
93	今中クミ子	作品	1966	アクリル樹脂	
94	三木富雄	耳(EAR)	1965	アルミニウム合金	
95	伊藤隆康	負の球	1967	アクリル樹脂	



西洋の魅力を探る旅 —モネ、ロダンからピカソまで—

【趣旨】

芸術家にとって、旅とはどのような意味をもつものだろうか。ドイツ・ルネサンスの画家デューラーは、青年時代に当時の芸術先進国であるイタリアへ旅して人体表現等を学び、帰国後に木版画連作「黙示録」を制作して名声を確立している。旅で得た経験や発見を糧として、自己の芸術を高めた作家だといえるだろう。本展のテーマ「西洋の魅力を探る旅」に因み、旅をキーワードとして、普段とは違った角度から作品を鑑賞する趣向をとった。①芸術家の旅から生まれた作品 ②旅人の目で味わってほしい作品 という2つの視点から、各国別に当館の所蔵品を分類して再構成している。イタリア、スペイン、フランスなどヨーロッパの地域性の違いを見比べ、作家の人生の転回点となった旅を再確認しながら、デューラーが活躍した15世紀末から、20世紀のピカソまで、500年間の時間旅行をしてもらうことを試みたものである。

【総括】

当館の作品収集の柱の一つである「世界の美術」を地域別・時代別に分かり易く紹介することができた。

●評価すべき点

当館の西洋美術コレクションはフランスとドイツが中心であり、従来はフランスのみ、あるいはドイツのみ、版画のみといった個別の紹介にとどまることが多かった。今回は展示室2と3を使用して、新鮮な切り口でコレクションの全体像を示

すことができた点が有意義だった。「国別の構成が分かり易かった」という声がアンケートにあった。展示方法においては、導入部分の版画は照明を落として集中力を高める雰囲気を作り、その後の絵画コーナーでは明るくリラックスして鑑賞できるよう変化をつける工夫をした。

●検討課題

展覧会構成は効果的に練り上げることができたが、解説キャプションや章パネルは簡略なものを作成したにとどまった。作品に関連する地図パネルや年表を作成していれば、テーマに沿いながら鑑賞をより深められたとも考えられる。

【開催日・その他】

=会期（開催日数）=

平成21年9月19日(土)～11月15日(日)53日間

主催 新潟県立近代美術館

観覧料 一般……………420円(340円)

大学・高校生……………200円(160円)

※小・中学生無料

※()内は20名以上の団体料金

【関連行事】

・美術鑑賞講座〈シリーズ西洋美術史入門〉

10月3日(土)

第1回「北方ルネサンス(ドイツ)」

講師：桐原 浩

(県立万代島美術館業務課長)

参加人数：24人

10月10日(土)

第2回「近代リアリズム (フランス)」

講師：平石昌子 (当館学芸課長代理)

参加人数：20人

10月17日(土)

第3回「モダニズム (フランス)」

講師：濱田真由美 (当館主任学芸員)

参加人数：24人

担当 平石昌子

【出品リスト】

1. イタリア篇

【前期】		
A.デューラー	『黙示録』	1498初版(1511版)
	初版扉絵 ヨハネの殉教	
	第1図 七つの燭台を見るヨハネ	
	第3図 四人の騎者	
	第8図 書物を食べるヨハネ	
	第10図 聖ミカエル、竜を倒す	
	第14図 深淵の鍵をもつ天使と新しきエルサレム	
	『大受難伝』第3葉 オリーブ山上のキリスト	1497-1500
【後期】		
A.デューラー	『黙示録』	1498初版(1511版)
	扉絵 聖母子を仰ぎ見るヨハネ	1511
	第4図 第五および第六の封印を切る	
	第5図 風を止める四位の天使	
	第7図 エウフラテス河畔の四位の天使	
	第9図 太陽の女性と七頭の竜	
	第13図 バビロンの娼婦	
	『大受難伝』第4葉 キリスト捕縛	1510(1511版)
	メレンコリア I	1514
	6つの組紐文：第6葉 7つの同じ網目文様のある組紐文	1505-07
J.バレルバリ	ヴェネツィア鳥瞰図	1500(16c後半の摺)
J.カロ	聖アントニウスの誘惑 (第2ヴァージョン)	1635以前
	狩猟図	1620頃
	『使徒たちの殉教』	1632
	扉絵：キリスト磔刑図	
	1. ベテロの殉教	
	2. パウロの殉教	
	3. アンデレの殉教	
	4. 大ヤコブの殉教	
	5. ヨハネの殉教	
	6. トマスの殉教	
	7. 小ヤコブの殉教	
A.ロダン	考える人	1880

2. スペイン篇

F.ゴヤ	『カプリチオス』	1799
	1. フランシスコ・ゴヤ・イ・ルシエンテス、画家	
	2. 娘たちはハイと承諾して最初に来た男と結婚する	
	16. 神やお赦し下さい、それが母親だったとは	
	17. ぴったりよ	
	22. 可哀そうな娘たち	
	26. 彼女たちはもう席を得た	
	31. 彼女のために祈っている	
	61. 彼女は飛び去った	
	『戦争の惨禍』	1810年代(1863初版)
	1. 来たるべきものへの悲しき予感	
	2. 理由があろうとなかろうと	
	4. 女たちは勇気をあたえる	
	5. やはり野獣だ	
	7. なんと勇敢な!	
	11. その連中のためでもない	
	26. 見るにたえない	
	45. そしてこれも見た	
	50. かわいいそうなお母さん!	

	55. 物乞いは最低だ	
	64. 山積みにして墓地へ	
	69. 無だ・事実が物語るだろう	
	70. 彼らは行く道を知らない	
	72. 結末はこれだ	
	79. 真理は死んだ	
	80. 彼女はよみがえるだろうか?	
J.カロ	『戦争の惨禍 (大)』	1633
	3. 戦闘	
	4. 掠奪	
	11. 絞首刑	
	12. 銃殺	
E.マネ	マクシミリアンの処刑	1868

3. フランス篇

P.セザンヌ	水浴 (寄託作品)	1875-77
C.トロワイヨン	りんごの取り入れ	1840頃
P.-E.-T.ルソー	ボートに乗る人のいる夏の風景	1845頃
C.-F.ドービニー	オワーズ河、イル・ド・ヴォーの夜明け	1869
J.-B.-C.コロー	ビブリ	1874-75
A.フォンタネージ	ブジェイ高原	1858-60頃
G.クールベ	エトルタ海岸、夕日	1869
C.ピサロ	ルヴシエンヌの画家の家、雪 (寄託作品)	1871
C.モネ	コロンプの平原、霜	1873
J.デュプレ	羊飼いの	1883
V.ファン・ゴッホ	長い棒を持つ農婦 (寄託作品)	1885
P.-E.ランソン	収穫する7人の女性	1895
M.ドニ	ベンガル虎 バッカス祭	1920
A.ブーシェ	朝顔	1996頃
M.ドニ	『アムール (愛)』	1892-99
	6. たそがれは古い絵画のような優しさを持つ	
	8. そして彼女の手が優しく触れる	
	9. 私たちの魂はゆっくりとした動作の中に	
	10. 青白い銀の長椅子の上で	
	11. 人生は貴重な憤り深いものとなる	
P.ボナール	『パリ生活の諸相』	1895-99
	4. 中庭に面した家	
	7. 夕暮れ	
	9. 橋	
	10. 劇場にて	
	12. 凱旋門	
F.ヴァロットン	怠惰	1896
A.ロダン	疲れ	1887頃
J.ティン	夏の夕べ	1882
	新聞	1883
	野心を抱く女	1885
J.-E.ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859
J.アンソール	シノワズリー	1920-25頃
J.T.トーロップ	聖アウグスティヌスの祝福	1915
G.ルオー	晩秋 NO.3	1948-52頃

4. 20世紀への旅

P.ピカソ	テーブル上のギターと楽譜	1920
	ランプの下の静物	1962
	絵皿	不明
B.ニコルソン	1946 (PAINTING)	1946
フンデルトワッサー	グリーンフィールド・ブルーレイク	1961
	日本で描いた最初の渦巻#466	1961
M.マリーニ	馬	1953
	騎手	1950
	騎手のための構想・習作	1955
R.デュフィ	オーケストラ (寄託作品)	1949
G.デ・キリコ	不思議な部屋の吟遊詩人	1972
M.シャガール	作品	不明
L.タマヨ	女シリーズ	不明
	女シリーズ	不明
	作品	不明
J.ミロ	「太陽の賛歌」	1975
	第3葉	
	第6葉	
	第8葉	
	第11葉	
	第18葉	
	第19葉	
	第20葉	
	第32葉	
スベール	V.I.P	1993
F.ボテロ	頭像	1989
M.エルンスト	鳥=人頭	1934-35(1992铸造)
A.ボモドーロ	予言	1983

回廊・スロープ

野見山皖治	樹	1978
L.フォンタナ	空間概念・期待	1962
G.カボグロッシ	表面.308	1959
堂本尚郎	黒い太陽-W	1973
岩田藤七	花器	1960
岩田藤七	皿	1976
ロゼリン・テリール	作品	不明



コルヴィッツとバルラッハの版画

【趣旨】

ドイツの版画家・彫刻家であるケーテ・コルヴィッツは、二度の世界大戦でみずからの息子や孫を失いながら、またナチスの弾圧を受けつつも、労働者や底辺に生きる人々に暖かいまなざしを注いだヒューマニズムあふれる作品を数多く発表し、美術を通して生きる勇気を与え続けてきた。人類の幸福と平和を願うコルヴィッツの作品は、魯迅をはじめとする知識人の手によって東アジアにも伝えられ、日本でも大きな共感を生んだ。コルヴィッツと同時代を生きたエルンスト・バルラッハも、人道主義的な理念のもとで数多くの版画や戯曲、戦没者記念碑を制作し、その結果コルヴィッツの作品と同様にナチス当局から「退廃芸術」の烙印を押されたが、その宗教性をもたえた簡潔な造形は、今でも我々の心を打ち続けている。本展覧会は、一般に「ドイツ表現主義」の作家として分類されるヒューマニズムの作家であるコルヴィッツとバルラッハの作品を、とりわけ版画を中心に、関連資料と共に一堂に展示するもので、また、この二人の生きた時代のドイツの、マックス・クリンガーの作品やキルヒナーやノルデラ「ブリュッケ」の作品、グロスら「ノイエザッハリッヒカイト」の作家による版画作品を併せて展示し、20世紀前半のドイツのアートシーンをたどった。また、こうしたドイツの版画運動の影響を受けた日本の「創作版画」の作品も、新潟出身の深澤策一の作品を中心に併せて展示した。

【総括】

●評価すべき点

当館のドイツ版画のコレクションを体系的に紹介することができた。また、単にドイツ版画のみにとどまらず、魯迅の木刻運動をはじめ、韓国の民衆美術や現代中国の前衛美術など、コルヴィッツの影響を受けた東アジアの美術運動をパネルによって体系的に紹介することができた。

●検討課題

冬期間の開催であり、また版画という地味なメディアを扱った展覧会だったこともあり、入館者数はあまり多くなかった。効果的な広報手段を考えていくべきであろう。

【開催日・その他】

＝2009年11月19日(木)～2010年2月7日(日)
(64日)＝

主催：新潟県立近代美術館

観覧料：一般……………420円(340円)

大学・高校生……………200円(160円)

※中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

【関連行事】

・美術鑑賞講座

「コルヴィッツとバルラッハ」

12月5日(土)14時～ 講堂

講師：桐原浩（新潟県立万代島美術館業務課長）

参加人数：18名

・学芸員による作品解説会

会期中の土曜日11時～

【関連記事】

●新聞

12月4日(金) 魚沼新聞

12月10日(木) 長岡新聞

1月21日(木) 北日本新聞

●雑誌

ホットペッパー長岡11月号

Week 12/4号

月刊Komachi 12月号・1月号

担当 高 晟俊

【出品リスト】

1. コルヴィッツとバルラッハの版画		
1	ケーテ・コルヴィッツ	自画像 1904年
2	ケーテ・コルヴィッツ	インスピレーション 1905年
3	ケーテ・コルヴィッツ	農民戦争1 耕す人 1906年
4	ケーテ・コルヴィッツ	農民戦争2 凌辱 1907年
5	ケーテ・コルヴィッツ	農民戦争3 大鎌 1905年
6	ケーテ・コルヴィッツ	農民戦争4 地下室で武器を取れ 1906年
7	ケーテ・コルヴィッツ	農民戦争5 蜂起 1903年
8	ケーテ・コルヴィッツ	農民戦争6 戦場 1907年
9	ケーテ・コルヴィッツ	農民戦争7 囚人 1908年
10	ケーテ・コルヴィッツ	戦争1 犠牲 1922-23年
11	ケーテ・コルヴィッツ	戦争2 志願兵 1922-23年
12	ケーテ・コルヴィッツ	戦争3 両親 1922-23年
13	ケーテ・コルヴィッツ	戦争4 未亡人I 1922-23年
14	ケーテ・コルヴィッツ	戦争5 未亡人II 1922-23年
15	ケーテ・コルヴィッツ	戦争6 母親 1922-23年
16	ケーテ・コルヴィッツ	戦争7 群集 1922-23年
17	ケーテ・コルヴィッツ	母親と子供たち 1924-37年
18	エルンスト・バルラッハ	ロシアの恋人たち 1908年 (1940年購造)
19	エルンスト・バルラッハ	神の変容 第1葉 第一日 1920年
20	エルンスト・バルラッハ	神の変容 第2葉 大聖堂 1920年
21	エルンスト・バルラッハ	神の変容 第3葉 神の乞食 1921年
22	エルンスト・バルラッハ	神の変容 第4葉 死の舞踏 1921年
23	エルンスト・バルラッハ	神の変容 第5葉 神の腹 1921年
24	エルンスト・バルラッハ	神の変容 第6葉 岩山 1920年
25	エルンスト・バルラッハ	神の変容 第7葉 第七日 1921年
26	エルンスト・バルラッハ	『人物スケッチ』 ※個人蔵 1895年 (第6版:1917年)
27	エルンスト・バルラッハ	『芸術と芸術家』 ※個人蔵 1909年
28	エルンスト・バルラッハ	『戦時』 ※個人蔵 1914年
29	エルンスト・バルラッハ	『デア・ビルダーマン』 1916年
30	エルンスト・バルラッハ	カッシーラー画廊での初個展図録 1917年
31	エルンスト・バルラッハ	嵐の中の群像 (『現代ドイツ版画家集』より) 1919年
32	エルンスト・バルラッハ	戯曲『死せる日』 ※個人蔵 1919年
33	エルンスト・バルラッハ	戯曲『寝れないとこ』 ※個人蔵 1919年
34	エルンスト・バルラッハ	頭 ※個人蔵 1919年
36	エルンスト・バルラッハ	ヴァルブルギスの夜 ※個人蔵 1923年
37	エルンスト・バルラッハ	歓喜に寄せて ※個人蔵 1927年
38	エルンスト・バルラッハ	『自叙伝』 ※個人蔵 1928年
2. ドイツ表現主義とその周辺		
39	マックス・クリンガー	オウィディウス [変身譚] の犠牲者たちの救済 表紙 1879年
40	マックス・クリンガー	呼びかけ (絵画の捧げ物) 1879年
41	マックス・クリンガー	ビュラムスとティスベ 1 1879年
42	マックス・クリンガー	ビュラムスとティスベ 1 1879年
43	マックス・クリンガー	ビュラムスとティスベ 2 1879年
44	マックス・クリンガー	ビュラムスとティスベ 3 1879年
45	マックス・クリンガー	ビュラムスとティスベ 4 1879年
46	マックス・クリンガー	第一間奏曲 1879年
47	マックス・クリンガー	ナルキッソスとエコー 1 1879年
48	マックス・クリンガー	ナルキッソスとエコー 2 1879年
49	マックス・クリンガー	第二間奏曲 1879年
50	マックス・クリンガー	アポロンとダフネ 1 1879年
51	マックス・クリンガー	アポロンとダフネ 2 1879年
52	マックス・クリンガー	アポロンとダフネ 3 1879年
53	マックス・クリンガー	オウィディウス (サデュルヌス) 1879年
54	エドヴァルト・ムンク	病める少女 1894年
55	エルンスト・キルヒナー	アブサロムとその忠告者 1918年
56	エルンスト・キルヒナー	ドルリー 1917年
57	エミール・ノルデ	跪く少女 1907年
58	マックス・ベヒシュタイン	主の祈り 扉絵 1921年
59	マックス・ベヒシュタイン	天におられるわたしたちの父よ、 1921年
60	マックス・ベヒシュタイン	みなが聖とされますように。 1921年
61	マックス・ベヒシュタイン	み国が来ますように。みこころが天に行われるとおり地にも行われますように。 1921年
62	マックス・ベヒシュタイン	わたしたちの日のこの糧を今日もお与ください。 1921年
63	マックス・ベヒシュタイン	わたしたちの罪をおゆるください。 1921年
64	マックス・ベヒシュタイン	わたしたちも人をゆるします。 1921年
65	マックス・ベヒシュタイン	わたしたちを誘惑におちいらせず、 1921年
66	マックス・ベヒシュタイン	悪からお救いください。 1921年
67	マックス・ベヒシュタイン	国はあなたのものです。 1921年
68	マックス・ベヒシュタイン	力と栄光は、 1921年
69	マックス・ベヒシュタイン	永遠にアーメン 1921年
70	マックス・ベヒシュタイン	或る村：表題 1918-19年
71	マックス・ベヒシュタイン	或る村 1 朝 1918-19年
72	マックス・ベヒシュタイン	或る村 2 昼 1918-19年
73	マックス・ベヒシュタイン	或る村 3 夕暮れ 1918-19年
74	マックス・ベヒシュタイン	或る村 4 農家 1918-19年
75	マックス・ベヒシュタイン	或る村 5 村の通り 1918-19年
76	マックス・ベヒシュタイン	或る村 6 村の入口 1918-19年
77	オスカー・ココシュカ	自画像 - 製図用鉛筆を持つ胸像 1914年
78	オスカー・ココシュカ	嘆願する女 1914年
79	ライオネル・ファイニンガー	市庁舎、ツォッテルシュテット 2 1918年
80	ライオネル・ファイニンガー	緑の橋 1910-11年
81	マックス・ベックマン	年の市 1 呼び込み (自画像) 1921年
82	マックス・ベックマン	年の市 2 楽屋 1921年
83	マックス・ベックマン	年の市 3 舞台裏 1921年
84	マックス・ベックマン	年の市 4 射的場 1921年
85	マックス・ベックマン	年の市 5 大男 1921年
86	マックス・ベックマン	年の市 6 黒人 1921年
87	マックス・ベックマン	年の市 7 メリー・ゴーランド 1921年
88	マックス・ベックマン	年の市 8 綱渡り師 1921年

89	マックス・ベックマン	年の市9 黒人のダンス	1921年
90	マックス・ベックマン	年の市10 蛇女	1921年
91	ジョージ・グロス	神は共にあり1	1920年
92	ジョージ・グロス	神は共にあり2	1920年
93	ジョージ・グロス	神は共にあり3	1920年
94	ジョージ・グロス	神は共にあり4	1920年
95	ジョージ・グロス	神は共にあり5	1920年
96	ジョージ・グロス	神は共にあり6	1920年
97	ジョージ・グロス	神は共にあり7	1920年
98	ジョージ・グロス	神は共にあり8	1920年
99	ジョージ・グロス	神は共にあり9	1920年
100	ワシリー・カンディンスキー	木版画集	1909年
101	美術家集団ブリュッケ	第1回ブリュッケ展図録	1910年

3. 日本の創作版画

102	深澤 索一	宇都宮所見(索一自選小品集) ※前期のみ展示	1924年
103	深澤 索一	丘(索一自選小品集) ※前期のみ展示	1927年
104	深澤 索一	郊外(索一自選小品集) ※前期のみ展示	1923年
105	深澤 索一	郊外(索一自選小品集) ※前期のみ展示	1926年
106	深澤 索一	樹木(索一自選小品集) ※前期のみ展示	1925年
107	深澤 索一	静物(索一自選小品集) ※前期のみ展示	1919年
108	深澤 索一	静物(索一自選小品集) ※後期のみ展示	1927年
109	深澤 索一	切り通し(索一自選小品集) ※後期のみ展示	1924年
110	深澤 索一	切り通し(索一自選小品集) ※後期のみ展示	1927年
111	深澤 索一	冬(索一自選小品集) ※後期のみ展示	1926年
112	深澤 索一	冬日(索一自選小品集) ※後期のみ展示	1924年
113	深澤 索一	洋館(索一自選小品集) ※後期のみ展示	1924年
114	深澤 索一	新東京百景 京橋 ※前期のみ展示	1932年
115	深澤 索一	新東京百景 言問橋 ※前期のみ展示	1930年
116	深澤 索一	新東京百景 坂下門 ※前期のみ展示	1931年
117	深澤 索一	新東京百景 芝増上寺 ※前期のみ展示	1929年
118	深澤 索一	新東京百景 昭和通ガソリンヤ ※前期のみ展示	1931年
119	深澤 索一	新東京百景 清洲橋 ※後期のみ展示	1930年
120	深澤 索一	新東京百景 濱町公園 ※後期のみ展示	1929年
121	深澤 索一	新東京百景より 築地 ※後期のみ展示	1929年
122	深澤 索一	新東京百景より 柳ばし ※後期のみ展示	1929年
123	深澤 索一	花 ※前期のみ展示	不明
124	深澤 索一	菜 ※前期のみ展示	1929年
125	深澤 索一	石仏 ※前期のみ展示	1943年
126	深澤 索一	相撲 ※前期のみ展示	1936年
127	深澤 索一	代々木風景 ※後期のみ展示	1932年
128	深澤 索一	築地風景 ※後期のみ展示	1933年
129	深澤 索一	奈良風景 ※後期のみ展示	1929年頃
130	深澤 索一	薬師寺付近 ※後期のみ展示	1933年
131	谷中 安規	少年画集2 浅草(桜) ※前期のみ展示	1933年
132	谷中 安規	少年画集3 見世物 ※前期のみ展示	1933年
133	谷中 安規	少年画集4 運動会 ※前期のみ展示	1933年
134	谷中 安規	少年画集5 浅草(公園) ※前期のみ展示	1933年
135	谷中 安規	少年画集6 水遊び ※後期のみ展示	1933年
136	谷中 安規	少年画集7 盆踊り ※後期のみ展示	1933年
137	谷中 安規	少年画集8 朝鮮 ※後期のみ展示	1933年
138	谷中 安規	戦争版画集1 騎馬 ※前期のみ展示	1933年
139	谷中 安規	戦争版画集2 探索 ※前期のみ展示	1933年
140	谷中 安規	戦争版画集3 攻撃 ※前期のみ展示	1933年
141	谷中 安規	戦争版画集4 川 ※前期のみ展示	1933年
142	谷中 安規	戦争版画集5 烽火 ※後期のみ展示	1933年
143	谷中 安規	戦争版画集6 接戦 ※後期のみ展示	1933年
144	谷中 安規	戦争版画集7 万歳 ※後期のみ展示	1933年
145	谷中 安規	戦争版画集8 雪 ※後期のみ展示	1933年
146	谷中 安規	朝鮮 ※前期のみ展示	1932年
147	谷中 安規	明治時代 ※前期のみ展示	1932年
148	谷中 安規	研究所にて ※後期のみ展示	1932年
149	谷中 安規	花 ※後期のみ展示	1933年
150	平塚 連一	夜の女 ※前期のみ展示	1924年
151	平塚 連一	代々木風景 ※後期のみ展示	1926年

4. 西洋絵画と東アジアの「洋画」

152	テオドール・ルソー	ボートに乗る人のいる夏の風景	不明
153	シャルル=フランソワ・ドービニー	オワーズ河、イル・ド・ヴォーの夜明け	1869年
154	ギュスターヴ・クールベ	エトルタ海岸、夕日	1869年
155	クロード・モネ	コロンプの平原、霜	1873年
156	ジョン=エヴァレット・ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859年
157	アントニオ・フォンタネージ	プジェイ高原	1858-60年頃
158	浅井 忠	農人	1890年
159	小山 正太郎	仙台的桜	1881年
160	岸田 劉生	冬枯れの道路(原宿附近写生)	1916年
161	萬 鉄五郎	木の間風景	1918年
162	佐伯 祐三	広告塔	1927年
163	高村 真夫	裸婦	1921年
164	佐藤 哲三	柿を持つ女	1934年
165	梅原 龍三郎	紫禁城	1942年
166	安井 曾太郎	読書	1942年
167	安井 曾太郎	人物 ※前期のみ展示	不明
168	安井 曾太郎	人物 ※前期のみ展示	不明
169	安井 曾太郎	人物 ※前期のみ展示	不明
170	安井 曾太郎	人物 ※前期のみ展示	不明
171	安井 曾太郎	人物 ※後期のみ展示	不明
172	安井 曾太郎	人物 ※後期のみ展示	不明
173	安井 曾太郎	人物 ※後期のみ展示	不明
174	安井 曾太郎	人物 ※後期のみ展示	不明
175	藤田 嗣治	私の夢	1947年
176	山口 長男	段	1968年
177	金 昌烈	水滴	1974年
178	金 淵奎	かつて私であったこと	1994年
179	喬 十光	江南の水郷	1988年

ロビー・回廊展示作品

作家名	タイトル	制作年
180	マックス・エルンスト	鳥=人間 1934-35年 (1992年鋳造)
181	イサム・ノグチ	女(リシ・ケシュにて) 1956年
182	アルフレッド・ブーシェ	朝顔 1896年
183	北村 四海	空想に耽り居る女 1916年

佐々木象堂は1882年佐渡郡佐和田町河原田（現・佐渡市）生まれ、初代宮田監堂に鑄金を学び、帝展をはじめとする官展を中心に発表を続け、蠟型鑄金の技術において、1960(昭和35)年重要無形文化財保持者（いわゆる人間国宝）として認定されました。

本展では象堂の各時代を代表する作品をキーワードにして、近代工芸が成立し、やがて今日の現代工芸へと結びついていく一潮流を、新潟の金工作家や、象堂と交流、あるいは影響関係にあった作家の作品で紹介します。

■観覧料(常設展のみ)
一般420(340)円
大高生200(160)円
中学生以下無料
※()内は有料20名以上の団体料金。
※障害者手帳をお持ちの方は無料です。
(受付で手帳をご提示ください)
※企画展観覧券で常設展示もご覧いただけます。

佐々木象堂《蠟型鑄銅鼠耳小花入》
1959年

佐々木象堂《鑄銅色結響可麗物》
1940年

「佐々木象堂と新潟の金工」
《常設展V》
2010年2月11日(木)～4月11日(日)予定



佐々木象堂と新潟の金工

【趣旨】

佐々木象堂は1882年佐渡国雑太郡河原田町（現・佐渡市）生まれ、初代宮田監堂に蠟型鑄金を学び、上京後は前衛工芸家グループ「无型」の中核的存在となった。戦後は佐渡に戻り、後進の育成を行いながら、自身も日展、伝統工芸展で発表を続け、1960年に人間国宝となった。

佐々木象堂の生涯は、近代工芸の成立の時代と重ね合わせて眺めることができる。明治維新以降、工芸は美術の分野としては考えられず、官展であった文展や帝展にも発表の場は与えられない状態が長く続いた。象堂はその中で、近代にふさわしい工芸、美術としての工芸を目指し続けたのである。

その当時を生きた工芸家たちは、伝統工芸を目指すもの、革新的な工芸を目指すもの様々であったが、誰もが象堂と同じ想いを抱くこととなり、そんな想いが工芸家たちを結びつけ、工芸を美術として認識してもらうため、尽力したのである。

1927(昭和2)年、彼らの願いは結実し、第8回帝展に第四部として工芸部が設立されることになったが、それは「工芸」とは何かという新たな問いの始まりでもあった。

本展では、佐々木象堂をキーワードに、近代工芸の成立から新潟の金属工芸の展開と、併せて同時代に描かれた絵画作品を紹介した。金属工芸家はそれぞれ工芸をどのように捉え、どのように作品化したのか。その大きな回答を感じてもらえる展覧会となったと考えている。

【総括】

●評価すべき点

当初は近代以降の金工史を編年的に紹介することが目的であったが、工芸が決して社会と乖離するものではなく、工芸を同時代美術の一つとして認識してもらえよう、当時の世相を反映した作品を併せて展示することで、それぞれの金工作品が誕生した必然性を感じてもらえたのではないかと考えている。

佐々木象堂をキーワードにすることで、新潟の金工と日本の金工に技術的にも造形的にも差がなく、伝統工芸、現代工芸問わず、新時代にふさわしい工芸を目指していた息吹を紹介することができた。

●検討課題

佐々木象堂作品がやはり少なく、象堂の個展であると考えてこられた来館者には物足りない展覧会となった。

金工だけではなく第3展示室も用いて工芸全般に拡げて企画した方が、同時代美術としての工芸という側面が理解しやすい面もあったと思われる。

【開催日・その他】

=2010年2月11日(木)~4月11日(日)=

観覧料 (常設展のみ)

一般……420円 (340円)

大高生……200円 (160円)

中学生以下無料

【展覧会イベント】

講座：3月20日

演題：「佐々木象堂と新潟の金工」

講師：藤田裕彦 (当館学芸課長)

参加人数：33名

担当 藤田裕彦

【出品リスト】

佐々木象堂と新潟の金工

1	山本自爐	鍍銀瓶掛	1939年(昭和14年)	鍍金・銅
2	西脇順三郎	万代橋風景	1941年(昭和16年)	紙本彩色

I. 黎明期の金属工芸 (展示室1)

1	初代本間琢斎	蠟型鍍銅羅漢紐香炉	明治初期	蠟型鍍金・銀
2	佐々木象堂	鍍銀終文香炉	1924年(大正13年)	蠟型鍍金・銀
3	三代本間琢斎	蠟型鍍銅・釣灯籠	1900年(明治33年)	鍍金・銅
4	三代本間琢斎	蠟型鍍銅花鳥文花瓶	1900年(明治33年)	鍍金・銅
5	五十嵐俊明	中国武將図屏風	(制作年不詳)	前期
(5)	五十嵐俊明	春秋屏風	(制作年不詳)	後期
6	三輪大次郎	睡蓮の沼	(制作年不詳)	油彩・板
7	三輪大次郎	高原の朝	(制作年不詳)	油彩・板
8	三輪大次郎	秋の森	(制作年不詳)	油彩・板
9	三輪大次郎	米を洗う女	(制作年不詳)	油彩・板

II. 近代金属工芸の誕生 (展示室1)

1	佐々木象堂	鍍銅色絵騎置物	1940年(昭和15年)	蠟型鍍銅・青銅
2	佐々木象堂	鍍銀馬置物	1933年(昭和8年)	鍍金・銀
3	亀倉蒲舟	黄銅彫文飾箱	1937年(昭和12年)	彫金・黄銅
4	津田信夫	鍍銅壺・波光連如	1942年(昭和17年)	鍍金・銅
5	山本自爐	鍍銅燭香炉	1940年(昭和15年)	鍍金・銅
6	香取秀真	斑紫銅鍍銅壺	(制作年不詳)	鍍金・銅
7	津田信夫	鍍銅鳳凰置物	1940年(昭和15年)	鍍金・銅
8	柴田武次	彫金懸棚	1933年(昭和8年)	彫金・鉄・木
9	柴田武次	鍍銀花瓶	1937年(昭和12年)	鍍金・銀
10	柴田武次	鍍打込魚文花瓶	1941年(昭和16年)	鍍金・錫
11	柴田武次	黒鉄鍍銅打花器	1943年(昭和18年)	鍍金・銅・錫
12	柴田武次	線紋様黒味銅花瓶	(制作年不詳)	鍍金・銅
13	柴田武次	鍍金真鍮花瓶	昭和10年代	鍍金・銅
14	柴田武次	鍍鉄銀象嵌波瀾紋香炉	(制作年不詳)	鍍金・鉄・銀
15	吉田醇一郎	飾り衣桁	1938年(昭和13年)	漆細工・岩絵具・木
16	山本自爐	飛躍	制作年不明	鍍金・銅
17	山本自爐	鍍銅花瓶	制作年不明	鍍金・銅
18	小川英風	銀製・波・花瓶	1969年(昭和44年)	彫金・銀
19	原直樹	鍍銅花壺・銘花瓶	1954年(昭和29年)	鍍金・銅
20	吉田醇一郎	小硯箱	1944年(昭和19年)	漆工
21	佐藤三郎	バリ郊外	1927-28年(昭和2-3年)	油彩・キャンバス
22	佐藤三郎	バリ郊外	1927-28年(昭和2-3年)	油彩・キャンバス
23	里見勝蔵	赤と緑の静物	1928年(昭和3年)	油彩・キャンバス
24	安宅安五郎	群蝶	1926年(大正15年)	油彩・キャンバス
25	長谷部権次呂	女子警防団	1943年(昭和18年)	紙・岩絵具
26	鈴木良治	つれづれ	1928年(昭和3年)	油彩・キャンバス
27	三輪兎勢	草の上	1947年(昭和22年)	紙本彩色
27	三輪兎勢	アダチオ	1949年(昭和24年)	紙本彩色

III. 戦後の金属工芸 (~1950年代・展示室1)

1	佐々木象堂	鍍銀鼎式香炉	1950年(昭和25年)	鍍銅・銀
2	市橋敏雄	オーヴァル・コンポジション	1965年(昭和40年)	鍍金・青銅
3	川口軌外	静物	1945年(昭和20年)	キャンバス・油彩
4	海老原喜之助	市場	1937年(昭和12年)	油彩・板
5	國領經郎	千原氏像	1948年(昭和23年)	油彩・キャンバス
6	荒井一郎	母と子	1950年(昭和25年)	油彩・キャンバス
7	水島清	海峽	1953年(昭和28年)	油彩・キャンバス
8	吉原治良	静物	1929年(昭和4年)	油彩・キャンバス

IV. 現代の金属工芸 (1950年代~現代・展示室2)

1	佐々木象堂	蠟型鍍銅獣装耳小花入	1959年(昭和34年)	蠟型鍍金・青銅
2	堀浄親	兜金	1970年(昭和45年)	鍍金・鉄
3	市橋敏雄	白銅置物・萌生	1977年(昭和52年)	鍍金・白銅
4	堀政晴	鍍分花器「彩」	1997年(平成9年)	銅・合金
5	原益夫	エンドレス	1997年(平成9年)	鍍金・銅
6	宮田亮平	ゲルからの移行窓	1979年(昭和54年)	鍍金ステンレス・アクリル
7	原正樹	曲面の斜角柱	1970年(昭和45年)	鍍金・真鍮
8	原正樹	蠟型鍍銅青銅の器	1980年(昭和55年)	蠟型鍍金・青銅
9	原正樹	ブラスのトルソー	1988年(昭和63年)	鍍金・真鍮
10	二代宮田藍堂	蠟型鍍銅ひねり蓮の余情香炉	1972年(昭和47年)	鍍金・青銅
11	二代宮田藍堂	蠟型鍍銅ひねり一瞬置物	1976年(昭和51年)	蠟型鍍金・青銅
12	市橋敏雄	吹分オベリスク 真昼の鎮魂歌	1995年(平成7年)	鍍金
13	市橋敏雄	朱銅花器・森の詩	1982年(昭和57年)	鍍金・白銅
14	市橋敏雄	蠟型青銅パネル 風林花山	1997年(平成5年)	紙鍍鍍金・青銅
15	原益夫	式分の壺	1987年(昭和62年)	鍍金・銅
16	亀倉蒲舟	磨崖	1973年(昭和48年)	彫金・銅
17	北川民次	大地	1939年(昭和14年)	油彩・キャンバス
18	児島善三郎	森と聚楽	1958年(昭和33年)	油彩・キャンバス
19	安井曾太郎	読書	1942年(昭和17年)	油彩・キャンバス
20	梅原龍三郎	紫禁城	1942年(昭和17年)	油彩・キャンバス
21	亀倉蒲舟	門	1975年(昭和50年)	彫金・金銀彩・銅
22	亀倉蒲舟	刈	1965年(昭和40年)	彫金・銅
23	伊藤豊	鍍銅花器・香	1971年(昭和46年)	鍍金・銅
24	田中道久	カラコレス	1975年(昭和50年)	油彩・キャンバス
25	広川青五	89白い空間	1989年(平成元年)	染織・ヒロウト地
26	宮田修平	ブローチ、机、椅子	1976年(昭和51年)	ロゼームメッキ・銀
27	宮田修平	トルソ	1975年(昭和50年)	ステンレス
28	高井貞二	MIDORI TO UZU	1965年(昭和40年)	油彩・キャンバス
29	石山恵美子	門の組曲	1993年(平成5年)	七宝・木
30	三代宮田藍堂	終わりのない物語「恋秤」	1983年(昭和58年)	蠟型鍍金・金・銀・白銅・ガラス・アクリル
31	三代宮田藍堂	終わりのない物語「月下独酌 唐・李白に捧ぐ」	1991年(平成3年)	鍍金・アルミニウム・アクリル・黄銅
32	三代宮田藍堂	終わりのない物語「世阿弥の流入箱」	1993年(平成5年)	蠟型鍍金・アルミニウム・プラスチック・縄
33	三代宮田藍堂	終わりのない物語「五合庵の昼寝」	1994年(平成6年)	蠟型鍍金・白銅・アクリル
34	石山恵美子	膏鬘	1981年(昭和56年)	七宝・鍍装
35	本間一秋	冬夏青々	1977年(昭和52年)	風尾竹
36	亀倉康之	枯野	1978年(昭和53年)	アルミニウム打出

37	倉石隆	駅近く	1976年(昭和51年)	油彩・キャンパス
38	岡鹿之助	朝の城	1970年(昭和45年)	油彩・キャンパス
39	新保兵次郎	窓辺	制作年不詳	油彩・キャンパス

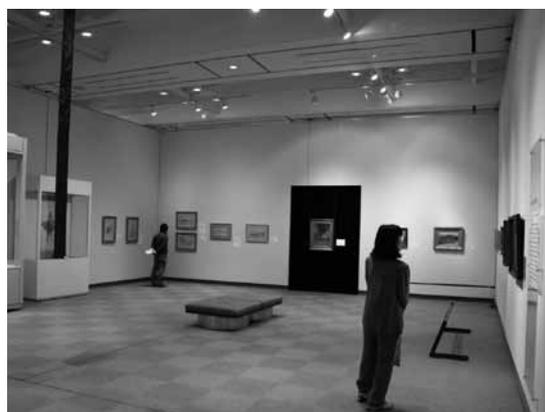
春を感じてー近代美術館名品展（展示室3）

1	ポール=エリー=ランソ	収穫する7人の女性	1895年	膠絵・キャンパス・顔料
2	ギュスターヴ=クールベ	エトルタ海岸、夕日	1869年	油彩・キャンパス
3	クロード=モネ	コロンブの平原、霜	1873年	油彩・キャンパス
4	コンスタンロワイヨン	りんごの取り入れ	制作年不明	油彩・キャンパス
5	ジャン=バティスト=カミ=エッソ	ビブリア	1874-1875	油彩・キャンパス
6	ジュリアン=デュプレ	羊飼い	制作年不明	油彩・キャンパス
7	アントニオ=フォンタネージ	ブジェイ高原	1858-1860年	油彩・キャンパス
8	牧野虎雄	T婦人像	1928年(昭和3年)	油彩・キャンパス
9	山口薫	林と動物	1958年(昭和33年)	油彩・キャンパス
10	脇田和	あらし	1955年(昭和25年)	油彩・キャンパス
11	羽下修三	二千六百年を舞う	1940年(昭和15年)	木彫・着彩・榊
12	福田平八郎	鴛鴦	1964年頃(昭和39年)	紙本・彩色
13	徳岡神泉	林檎	1959年(昭和34年)	紙本・彩色
14	岡田紅陽	湖畔の春〈本栖湖〉	1935年(昭和10年)	モノクロームプリント-前期
15	岡田紅陽	神韻霊峰〈七面山〉	1943年(昭和18年)	モノクロームプリント-前期
16	岡田紅陽	悠遠涼々 富士山	1953年(昭和28年)	モノクロームプリント-前期
(15)	岡田紅陽	湖心清澄	1938年(昭和13年)	モノクロームプリント-後期
(16)	岡田紅陽	黒富士(三ツ峠)	1943年(昭和18年)	モノクロームプリント-後期
(17)	岡田紅陽	朝霧(愛鷹山)	1957年(昭和32年)	モノクロームプリント-後期
18	蕪木研爾	流氷(オホーツク)作品1979-1	1979年(昭和54年)	モノクロームプリント-前期
19	蕪木研爾	流氷(オホーツク)作品1979-2	1979年(昭和54年)	カラープリント-前期
(19)	蕪木研爾	流氷(オホーツク)作品1980-1	1980年(昭和55年)	モノクロームプリント-後期
(20)	蕪木研爾	流氷(オホーツク)作品1980-2	1980年(昭和55年)	カラープリント-後期

回廊

三代宮田藍堂	伝承	1968年(昭和43年)	鍍金・アルミニウム
石山恵美子	積の賦	1985年(昭和60年)	ステンレス・七宝
チェスワフ=ズベール	V.I.P.	1993年	光学ガラス・油彩

企画展



油絵事始め—リアリズムを求めて

【趣旨】

幕末から明治にかけ時代が大きな変貌を遂げた時期、画家たちはこれまでの日本美術にはない「リアリズム」の表現に触れ、西洋に手本を求めながら新たな挑戦を果敢に試みた。本展では、日本近代洋画の確立に向けて苦闘した画家たちの軌跡を、黎明期に活躍した高橋由一をはじめとして一堂に紹介した。内容は、いわゆる「山岡コレクション」が中心となった。これは、日本におけるディーゼルエンジン事業の始祖と言われるヤンマーディーゼルの創業者、故山岡孫吉氏が収集し、笠間日動美術館に収蔵された作品である。本展覧会では、これら151点に加え、笠間日動美術館の所蔵品から貴重な初期洋画の作品を補足して構成した。また、新潟県長岡市出身で、国内に洋画を導入するにあたり重要な役割を果たした小山正太郎〔1857-1916〕については、当館所蔵作品を加え、まとめて17点を展示した。そのため日本洋画の幕開けの時代に活躍した、新潟県出身の小山の業績を見直すよい機会となった。

【総括】

●評価すべき点

「五姓田—明治新潟を描いた絵師」展を同時期に開催した新潟市歴史博物館と、互いの情報をチラシや館内掲示物に掲載するなど、広報での連携を行った。また、ポスターにも知名度の高い高橋由一の「鮭」を大きく用いるなど工夫した。

●検討課題

入館者数は当初の予定の半分程度にとどまった。年度当初なので難しかったかも知れないが、内容が幕末明治の洋画史を概説的にたどる内容であったことから、高校の日本史の授業との連携等も考えてみるべきだったか。また、若年層に訴えかける工夫をしてみるべきであったろう。

【開催日・その他】

=2009年4月11日(土)~5月31日(日)(51日間)=
主 催：新潟県立近代美術館、新潟日报社、U X
新潟テレビ21

後 援：長岡市、長岡市教育委員会、NHK新潟放送局、株式会社エヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7

協 力：財団法人日動美術財団

観覧料：一般……………800円(600円)

大学・高校生……………600円(400円)

※中学生以下は無料

※()内は20名以上の団体料金

【関連行事】

・記念講演会

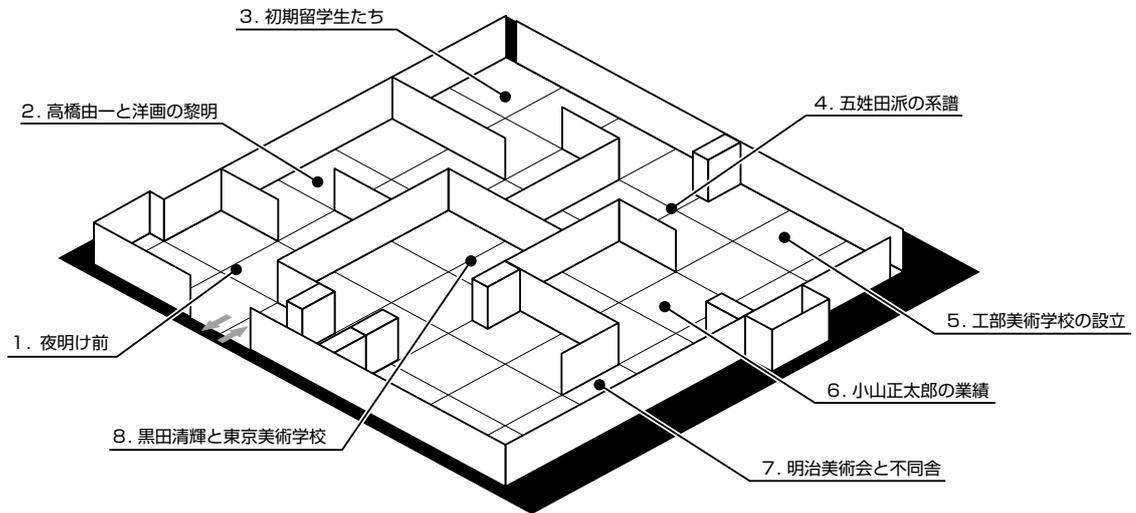
「油絵事始め 山岡コレクションの魅力」

5月5日(火・祝) 14:00~

講 師：青木 茂氏

(文星芸術大学教授・明治美術学会会長)

参加人数：45名



・ギャラリー・トーク

「画家が見た初期洋画の技術」

4月29日(水・祝) 14:00～

講師：早津 剛氏 (洋画家 無所属)

参加人数：25名

5月24日(日) 14:00～

講師：池山阿有氏

(洋画家 光風会理事・日展会員)

参加人数：20名

・作品解説会

毎週日曜 14:00～

・美術鑑賞講座

「明治期の洋画——高橋由一、小山正太郎を中心に」

5月16日(土) 14:00～

講師：桐原 浩 (万代島美術館業務課長)

参加人数：35名

・ワークショップ

「高橋由一の《鮭図》に迫る—さかなを描く」

4月26日(日) 14:00～

参加人数：13名

【関連記事】

●新聞

4月11日(土) 新潟日報

4月16日(木) 新潟日報

4月21日(火) 長岡新聞

●雑誌

週刊朝日だより 4月第4週号

●テレビ

4月11日(土)

5月4日(月)、5日(火)、7日(木)、8日(金)、12日(火)

スーパーJチャンネル／高巖俊

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	3,574
	前売	253
無料観覧者数	招待	1,313
	免除	981
総観覧者数		6,121
有料率 (%)		63

担当 高巖俊、平石昌子

【出品リスト】

1. 夜明け前

3	円山応挙	支那風景／三十三間堂		木版画 手彩色・紙	各々21.0×27.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
4	伝 円山応挙	港の図	1767年	墨、彩色・絹	36.0×31.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
1	伝 信方	達磨図		墨、彩色・紙	37.0×51.6	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
2	小川破笠	海魚	1740年	墨、彩色・紙	23.3×40.2	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
173	司馬江漢	房州利根河今井渡		墨・絹	43.5×54.3	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
5	司馬江漢	風景		彩色・絹	49.0×68.0	笠間日動美術館
6	司馬江岷	七里ヶ浜		泥絵具・絹	27.3×50.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
7	司馬道士	雲仙牧羊図		泥絵具・絹	30.7×43.6	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
8	垂欧堂田善	浅草観音図		銅版画	25.0×52.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
11	立原杏所	鳴門風景		墨、彩色・絹	60.0×95.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
9	伝 小田野直武	ライオン図		墨、彩色・紙	90.0×33.1	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
12	安田雷洲	外国戦争図 (ナポレオン戦争図)		墨、彩色・紙	54.5×69.3	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
10	鍛形憲斎	洋人舞踏図		墨・紙	16.1×25.1	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
14	作者不詳	婦人弾琴図		泥絵具・紙	50.5×44.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
15	長崎系洋風画 / 伝平賀源内	薬草会議図		油彩・画布	45.7×90.2	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
16	長崎系洋風画 (作者不詳)	異人図		油彩・画布	50.1×31.3	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
18	長崎系洋風画 (作者不詳)	異人夫妻図		油彩・画布	158.0×83.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
17	長崎系洋風画 (作者不詳)	異人館		泥絵具・紙	104.5×58.3	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
19	泥絵 (作者不詳)	外桜田風景		泥絵具・紙	31.6×47.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
20	泥絵 (作者不詳)	高縄風景		泥絵具・紙	31.6×47.3	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
21	泥絵 (作者不詳)	向島風景		泥絵具・厚紙	25.0×52.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)

2. 高橋由一と洋画の黎明

22	高橋由一	丁髷姿の自画像	1866-67年	油彩・画布	48.0×38.8	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
27	高橋由一	本牧海岸	1877年	油彩・画布	51.7×63.9	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
28	高橋由一	品川海晏寺紅葉図	1880年	油彩・画布	45.7×69.9	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
29	高橋由一	鮭図	1879-80年	油彩・板	85.9×24.6	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
30	高橋由一	鯛図		油彩・板	54.6×75.9	笠間日動美術館
31	伝 高橋由一	蔬菜図		油彩・紙	48.0×69.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
23	高橋由一	三偉人 リンカーン、ピスマルク、ガリバルディ		墨、淡彩・絹	36.3×28.6	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
24	高橋由一	青年図	1874年	水彩・紙	19.0×18.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
25	高橋由一	住吉神社	1874年	水彩・紙	28.0×20.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
26	高橋由一	猫図		水彩・紙	21.5×25.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
39	C.ワグマン	東禅寺浪士乱入図		水彩・紙	34.8×51.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
40	C.ワグマン	百合図	1878年	油彩・画布	81.7×60.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
41	C.ワグマン	浦の風景		油彩・画布	45.5×76.5	笠間日動美術館
33	C.ワグマン	廣東夫人	1858年	鉛筆・紙	16.3×14.7	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
34	C.ワグマン	支那夫人	1858年	水彩・紙	21.0×13.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
35	C.ワグマン	廣東風景	1858年	水彩・紙	17.0×21.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
36	C.ワグマン	廣東風景	1858年	水彩・紙	20.3×22.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
37	C.ワグマン	廣東風景	1858年	水彩・紙	22.7×25.2	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
38	C.ワグマン	廣東風景		水彩・紙	10.0×13.2	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
48	C.ワグマン	藩士扮装図		水彩・紙	27.5×22.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
49	C.ワグマン	明治の侍		水彩・紙	22.5×18.7	笠間日動美術館
58	C.ワグマン	車夫		鉛筆・紙	14.0×19.3	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
50	C.ワグマン	長久保風景		鉛筆、水彩・紙	23.7×29.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
51	C.ワグマン	富士山遠望		水彩・紙	23.0×30.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
52	C.ワグマン	上州風景		鉛筆、水彩・紙	23.5×30.7	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
53	C.ワグマン	東海道風景		水彩・紙	17.8×25.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
54	C.ワグマン	信州風景		水彩・紙	25.8×35.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
55	C.ワグマン	箱根風景		水彩・紙	22.1×29.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
56	C.ワグマン	七里ヶ浜		水彩・紙	22.1×36.1	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
57	C.ワグマン	新潟風景	1870年	水彩・紙	23.5×30.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
46	C.ワグマン	外国美人図		水彩・絹	36.3×24.6	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
47	C.ワグマン	漫画 (伍長は答えた。憲兵さん、あなたの言う通り。)		鉛筆、水彩・紙	24.0×24.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
44	C.ワグマン	小漁夫		油彩・画布	38.0×22.8	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
42	C.ワグマン	桶屋		油彩・厚紙	19.5×25.0	笠間日動美術館
43	C.ワグマン	武士の図		油彩・紙	41.6×32.4	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
45	C.ワグマン	ワグマン夫人像		水彩・紙	44.9×30.9	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
113	G.ピゴ	万歳		油彩・画布	30.2×19.3	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
114	G.ピゴ	武士の子		銅版画	18.5×12.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
115	G.ピゴ	普仏戦争	1893年	石版画	40.7×56.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
32	E.キヨソーネ	川上操六中将図	1896年	木炭・紙	59.0×45.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
59	橋本雅邦	武官測量図		水彩・紙	24.4×26.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)

174	荒木寛敏	春芳争妍図	1884年	彩色・絹	38.0×54.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
60	徳川慶喜	池畔風景		油彩・画布	17.6×33.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
62	床次正精	福山城		油彩・画布	55.1×94.6	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
63	床次正精	港湾図		油彩・画布	20.1×50.1	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
64	田村宗立	人物	1880年	油彩・画布	33.8×24.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
65	小林清親	雪の日		硝子絵	30.0×40.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
68	安達吟光	日本橋界限		油彩・画布	34.5×52.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)

3. 初期留学生たち

66	国沢新九郎	英国風景 (初春郊外)		油彩・画布	49.9×60.4	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
176	高橋勝蔵	カリフォルニア風景	1892年	水彩・紙	25.0×35.8	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
116	高橋勝蔵	桑港海岸	1893年	水彩・紙	23.4×35.7	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
117	高橋勝蔵	函館港	1901年	水彩・紙	32.5×48.8	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
83	川村清雄	双鶏の図		油彩・板	45.8×87.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
84	川村清雄	花の宴		油彩・板	48.7×92.5	笠間日動美術館
86	川村清雄	ヴェネツィア風景		油彩・板	91.2×45.3	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
85	川村清雄	パルスレイケン像		油彩・画布	65.2×53.1	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
61	百武兼行	ブルガリアの女	1882年	油彩・画布	93.3×71.3	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
73	山本芳翠	内海風景		油彩・板	19.4×36.2	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
74	山本芳翠	日の出		油彩・板	20.5×33.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
75	山本芳翠	婦女横笛		油彩・画布	31.5×42.4	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
76	山本芳翠	鬼と少女		油彩・紙	44.4×33.4	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
77	山本芳翠	琉球風景 (A)	1887-88年	油彩・厚紙	46.9×37.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
78	山本芳翠	琉球風景 (B)	1887-88年	油彩・厚紙	46.8×37.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
79	山本芳翠	けしと小鳥	1892年	油彩・画布	40.6×55.6	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
80	山本芳翠	菊図		油彩・画布	86.5×42.8	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
81	山本芳翠	議會スケッチ (A)	1887年	墨、彩色・紙	35.5×45.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
82	山本芳翠	議會スケッチ (B)	1887年	墨、彩色・紙	35.0×44.6	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
120	合田清	晩帰 (模写・エミール・アダン原画)	1886年	木口木版画	19.6×30.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)

4. 五姓田派の系譜

13	小林安治	芸妓立姿		墨、彩色・絹	78.5×35.1	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
178	五姓田芳柳	美人吹笛図		彩色・絹	64.0×33.1	笠間日動美術館
88	五姓田義松	少年法界坊		水彩・紙	31.5×24.2	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
92	五姓田義松	駿河湾風景		油彩・画布	42.6×72.8	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
89	五姓田義松	富嶽図		油彩・画布	26.3×48.6	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
90	五姓田義松	七里ヶ浜		油彩・画布	30.3×45.8	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
91	五姓田義松	塩原風景		油彩・画布	34.3×48.6	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
93	五姓田義松	人形の着物	1883年	油彩・画布	151.5×115.6	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
95	渡辺幽香	溪流		油彩・画布	33.7×91.2	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
87	渡辺文三郎	多摩夕照図	1878年	水彩・紙	40.7×53.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
122	二世五姓田芳柳	富嶽図		油彩・画布	45.2×91.6	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
125	二世五姓田芳柳	大楠公		油彩・画布	130.4×96.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
126	二世五姓田芳柳	婦人像 (井田讓夫人)		油彩・画布	53.0×45.5	笠間日動美術館
127	二世五姓田芳柳	自画像		油彩・画布	53.0×45.5	笠間日動美術館
136	山内愚僊	住吉神社	1902年	油彩・画布	54.0×81.8	笠間日動美術館 (山岡コレクション)

5. 工部美術学校の設立

121	松岡寿	ホルバインの「エラスムス」臨模		鉛筆・紙	44.0×35.3	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
94	浅井忠	外国婦人図 (臨模)	1887年	木炭・紙	52.0×35.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
参考出品	浅井忠	農人	1890年	油彩・画布	34.8×29.1	新潟県立近代美術館・万代島美術館
参考出品	浅井忠	岩礁のある海		水彩・紙	15.0×24.6	新潟県立近代美術館・万代島美術館
111	高橋源吉	小金井の桜		鉛筆、水彩・紙	22.0×34.9	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
108	曾山幸彦	お茶の水風景		油彩・画布	21.7×30.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
175	曾山幸彦	洋装少年		コンテ・紙	36.5×28.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
118	ラギーザ玉	蓮池		油彩・画布	30.5×91.0	笠間日動美術館
119	ラギーザ玉	保津川の溪流		油彩・画布	65.0×99.8	笠間日動美術館
109	山下りん	ヤコブ像 (使徒之図)		油彩・画布	71.2×58.0	笠間日動美術館
110	山下りん	機密の晩餐		油彩・画布	27.3×48.7	笠間日動美術館
112	彭城貞徳	静物		油彩・画布	73.5×150.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
177	彭城貞徳	油絵屏風		油彩・画布	150.3×325.0	笠間日動美術館

6. 小山正太郎の業績

参考出品	小山正太郎	仙台の桜	1881年	油彩・画布	39.5×60.8	新潟県立近代美術館・万代島美術館
参考出品	小山正太郎	男の肖像	C.1883年	油彩・画布	45.5×33.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館

97	小山正太郎	山村嫁女 (A)	C.1889年	油彩・紙	26.0×33.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
98	小山正太郎	山村嫁女 (B)	C.1889年	油彩・画布	19.1×26.9	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
参考出品	小山正太郎	婦人	C.1891年	油彩・紙	25.6×20.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
99	小山正太郎	吉野山遠望	1913年	油彩・画布	33.6×45.7	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
107	小山正太郎	青梅風景	1902年	油彩・画布	56.9×41.8	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
100	小山正太郎	山村風景		油彩・画布	33.5×45.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
105	小山正太郎	入間川西岸笹井村渡頭	1892年	鉛筆・紙	25.0×43.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
104	小山正太郎	五旬起臥セシ若狭丸ノ甲板	1900年	鉛筆・水彩・紙	24.0×46.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
102	小山正太郎	相模川右岸小倉村水車	1906年	鉛筆・紙	44.0×28.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
101	小山正太郎	御嶽村遠望	1892年	鉛筆・水彩・紙	27.0×44.8	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
106	小山正太郎	皆野村	1908年	鉛筆・紙	26.3×46.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
103	小山正太郎	妙義山		鉛筆・紙	44.0×28.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
参考出品	小山正太郎	牧童図		紙本彩色	105.5×42.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
参考出品	小山正太郎	中等臨画第一編	1900年	書籍		新潟県立近代美術館・万代島美術館
参考出品	小山正太郎	中等臨画第二編	1900年	書籍		新潟県立近代美術館・万代島美術館
参考出品	小山正太郎	一樹花十字詩図	1908年	絹本墨画	144.0×42.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
参考出品	小山正太郎	障子貼り図	1908年	絹本彩色	144.0×42.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館

7. 明治美術会と不同舎

参考出品	小泉成一	小春ノ日和	1889年	油彩・画布	57.0×80.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
144	岡精一	搜索	1889年	油彩・画布	87.0×49.4	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
152	揚忠三郎	北野天神之図	1889年	油彩・画布	79.5×66.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
145	佐久間文吾	天神境内		油彩・紙	34.5×26.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
146	佐久間文吾	北野神社		油彩・画布	61.4×100.7	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
123	二世五姓田芳柳	上杉景勝一笑図	1890年	油彩・画布	各56.0×41.2	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
96	渡辺幽香	房州根本海岸	1897年	油彩・画布	49.5×95.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
163	渡部審也	猿曳図	1898年	油彩・画布	124.3×91.2	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
67	権田守吉	各藩武士扮装図(模写・近藤正純原画)画帳		墨、彩色・紙	各37.8×26.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
164	渡部審也	供侍図	1909年	油彩・画布	100.0×72.8	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
162	渡部審也	百姓		油彩・画布	60.7×42.6	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
156	満谷国四郎	かりそめの悩み	1907年	油彩・画布	133.7×88.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
157	満谷国四郎	かぐや姫	1909年	油彩・画布	150.7×115.5	笠間日動美術館
131	中村不折	男の裸体	C.1902年	油彩・画布	80.5×59.5	笠間日動美術館
132	中村不折	裸体図		油彩・画布	125.5×93.2	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
133	中村不折	老漁夫	1906年	油彩・画布	166.9×97.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
151	鈴木烏川	能舞図「末廣」		油彩・板	37.2×91.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
153	須田輝洲	唐犬と鶏		泥絵具・紙	各24.5×17.9	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
154	須田輝洲	牡丹と水仙		油彩・板	37.8×74.3	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
165	北蓮蔵	静物		油彩・画布	60.0×80.4	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
166	北蓮蔵	静物(鼓)		油彩・板	53.0×60.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
138	黒田清輝	清国負傷兵広島着	1894年	ペン、墨・紙	23.8×14.8	笠間日動美術館
130	東城鉦太郎	旅順開城	1911年	油彩・画布	75.8×60.8	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
129	東城鉦太郎	平壤攻略図		油彩・絹	124.8×86.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
124	二世五姓田芳柳	天津事変		油彩・絹	124.7×86.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
158	満谷国四郎	東京慈恵医院行啓		油彩・画布	65.6×60.6	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
159	鹿子木孟郎	日露役奉天入城		油彩・画布	72.0×55.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
134	中村不折	日本海海戦		油彩・画布	72.8×60.7	笠間日動美術館 (山岡コレクション)

8. 黒田清輝と東京美術学校

69	R.コラン	婦人像		油彩・画布	38.0×46.3	笠間日動美術館
70	R.コラン	洋装の婦人像		鉛筆・紙	26.5×21.5	笠間日動美術館
71	R.コラン	裸婦		鉛筆・紙	50.0×32.0	笠間日動美術館
72	R.コラン	横たわる裸婦		コンテ・紙	20.6×45.0	笠間日動美術館
135	久米桂一郎	習作	1889年	油彩・画布	57.9×30.3	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
137	黒田清輝	裸体	1889年	木炭・紙	62.5×46.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
139	黒田清輝	昔語り(画稿)	C.1896年	木炭・紙	60.8×46.3	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
140	黒田清輝	黒田清兼像	1907年	油彩・画布	81.1×65.4	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
141	黒田清輝	浜の丘 稲村ヶ崎海岸の積糞	C.1910年	油彩・板	18.0×13.9	笠間日動美術館
142	藤島武二	観桜会		油彩・板	32.1×41.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
143	藤島武二	ヴェネツィア風景	1908-09年	油彩・板	23.6×32.8	笠間日動美術館
128	長原孝太郎	百合図	1899年	油彩・画布	67.0×39.4	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
149	岡田三郎助	彫刻師	1890-91年	油彩・画布	64.5×45.9	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
150	岡田三郎助	久保田米齋像	1901年	木炭・紙	17.1×13.4	笠間日動美術館
147	湯浅一郎	緑陰	1900年	油彩・画布	91.0×70.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
148	湯浅一郎	妓生の図	1913年	油彩・画布	46.6×37.8	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
179	小林萬吾	遠州浜名湖		油彩・画布	40.9×53.0	笠間日動美術館

155	白滝幾之助	霧のテムズ河(模写・ターナー原画)		油彩・画布	53.5×71.2	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
160	和田英作	快晴	1897年	油彩・画布	29.5×45.7	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
161	和田英作	近江石山寺紫式部	1925年	油彩・画布	52.9×41.1	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
167	山本森之助	島原城址		油彩・画布	42.8×64.5	笠間日動美術館
168	小林鐘吉	舞妓囃	1909年	油彩・画布	45.1×33.0	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
169	青木繁	裸体	1903年	木炭、赤チョーク・紙	63.3×46.5	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
170	青木繁	二人の少女	1909年	油彩・画布	60.5×45.5	笠間日動美術館
171	橋本邦助	姉妹		油彩・画布	120.5×90.9	笠間日動美術館 (山岡コレクション)
172	中村彝	肖像	1908年	油彩・板	42.6×28.3	笠間日動美術館



「青木陵子+伊藤存『説子／2008』映像作品上映会」
 日 時：7月21日～8月6日 午前9時～午後5時
 会 場：当館ハイビジョンギャラリー
 出品者：青木陵子（美術家）、伊藤存（本展出品作家）
 参加人数：998名



「電子音楽コンサート『Ar』」
 日 時：7月25日 午後2時～
 会 場：当館2階ギャラリー
 出 演：福島諭、瀧池潤一（作曲家、サクソ奏者）
 参加人数：約90名

「長岡造形大学教員作品展『福田毅ユーモアボスターの世界』」
 日 時：8月7日～20日 午前9時～午後5時
 会 場：当館2階ギャラリー
 出品作家：福田毅
 参加人数：2,785名

「長岡造形大学教員作品展『表現へのまなざしパート2』」
 日 時：8月22日～9月10日 午前9時～
 会 場：当館2階ギャラリー
 出品作家：岡谷敦夫、熊井恭子、小林花子、小林誠、鈴木均治、高崎賀朗、中村和宏、長谷川克義、馬場省吾
 参加人数：2,249名

「アーティストドキュメンタリー映画シリーズ『ニアイコール』上映会」
 日時：8月8日・15日・22日・29日・9月5日
 午前10時～／午後2時～
 会 場：当館講堂
 参加延べ人数：175人

【図 録】

仕 様：B5変型版 168頁
 企画・監修：内田真由美、児島やよい
 編 集：宮村周子、鈴木真子
 編集協力：佐久間恵
 発 行：株式会社美術出版社
 内 容：序文
 「ネオテニー・ジャパンとは？」
 （高橋龍太郎）
 展覧会出品作品
 「レビッシュなマーケットへ」（斎藤環）
 「コレクター、その不穏と快楽」（榎木野衣）
 「狂気の魔女、脆い僕」（潘廣宣）
 出品作家解説
 「高橋コレクションにみる90年代以降のジャパン・アート」（児島やよい）
 対談（高橋龍太郎vs山下裕二）
 「どうしてお医者さんはアートを買いたくなるのか」（辛酸なめこ）
 「ひとりのコレクターの意志—高橋コレクション」（内田真由美）
 出品作品リスト

【関連記事】

●新聞

5月18日 新潟日報
「ネオテニー・ジャパン展 県立近代美術館7月21日開幕」

5月27日 日本経済新聞
「拘束されない最新の美術」(編集委員 宝玉正彦)

6月17日 新潟日報
「ネオテニー展 関連芸術祭21日に開幕」

6月19日 魚沼新聞
「21日、ワークショップ」

6月21日 新美術新聞
「ネオテニー・ジャパン 世界が注目する、ニッポンの現代アート基礎知識」

6月22日 新潟日報
「町の素材使い作品制作 長岡でワークショップ」

6月25日 新潟日報
「糸と針で長岡表現 秋山さん 会場の近美で公開制作」

6月25日 新潟日報夕刊(長岡版)
「『長岡』がテーマ作品を公開制作」

6月29日 新潟日報
「日本発『幼形成熟』テーマ 新たな芸術世界を」

7月8日 長岡よみうり
「千秋が原『花の広場』に1000個のキャンドル」

7月11日 新美術新聞
「ときの人 高橋龍太郎さん」

7月13日 新潟日報
「躍動の演技 観客魅了 Noismが新作ダンス披露」

7月14日 新潟日報
「成熟遂げた現代美 21日から『ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション』展」
(近代美術館主任学芸員 濱田真由美)

7月22日 新潟日報
「現代アートの堂に 長岡『ネオテニー』展開幕」

7月25日 長岡新聞
「現代美術の作品一堂に」

7月27日 新潟日報
「日報抄」

7月29日 新潟日報
「高橋氏が語る自らの収蔵品」

8月4日 新潟日報
「現代美術の魅力紹介 収集家 高橋さんがトーク」
新潟日報「きらめく感性とロマン 現代アートの旗手たち」

- ①奈良美智《In the Deepest Puddle》／近代美術館主任学芸員 濱田真由美(8月7日)
 - ②鴻池朋子《mimio-odyssey》／近代美術館学芸課長 藤田裕彦(8月8日)
 - ③町田久美《訪問者》／近代美術館学芸課長代理 平石昌子(8月11日)
 - ④小林孝亘《Dog》／近代美術館学芸課長 藤田裕彦(8月12日)
 - ⑤加藤美佳《パンジーズ》／近代美術館主任学芸員 濱田真由美(8月13日)
- 8月16日 新潟日報
長岡新聞「長岡・ネオテニー展 入場者数が1万人突破」
長岡新聞「ネオテニー・ジャパン展」
- ①会田誠《生育空爆之図》／近代美術館主任学芸員 濱田真由美(8月25日)
 - ②丸山直文《Islands of Mirror》／近代美術館主任学芸員 濱田真由美(8月27日)
- 9月1日 新美術新聞
「『ネオテニー』の正体」(茨城県つくば美術館主任学芸員 外館和子)
- 9月2日 新潟日報
「ネオテニー展出品者・山口さん 講演会で秘話披露」
- 9月4日 新潟日報
「入場者2万人を突破」
新潟日報「きらめく感性とロマン」
- ①会田誠《大山椒魚》(9月2日)
 - ②できやよい《Untitled(Francesco Yayoi)》(9月7日)
 - ③青山悟《校庭(東)》(9月8日)
 - ④村山瑠璃子《愛のドレス》(9月9日)
 - ⑤池田学《興亡史》(9月10日)

●雑誌

「世界が注目するニッポンの現代アート!」『月刊にいがたタウン情報』7月号
「日本新世代のトップアーティストの作品を展示」『週刊朝日だより』7月15日号
「ネオテニー・ジャパン—高橋コレクション」『WEEK!』7月17日号
「ネオテニー・ジャパン—高橋コレクション」『パスマガジン』8月号
「ネオテニー・ジャパン—高橋コレクション」『月刊新潟こまち』8、9月号

「ネオテニー・ジャパン—高橋コレクション」『月刊にいがたタウン情報』8、9月号

●テレビ

5月20日～22日 NST新潟総合テレビ
スーパーニュース「ネオテニー・ジャパン展（上野の森会場）」

6月27日 NST新潟総合テレビ
ART LOVER「ネオテニー・ジャパン①」

7月4日 NST新潟総合テレビ
ART LOVER「ネオテニー・ジャパン②」

7月11日 NST新潟総合テレビ
ART LOVER「ネオテニー・ジャパン（秋山さやか）」

7月12日 NST新潟総合テレビ
スーパーニュース「Noism公演」

7月18日 NST新潟総合テレビ
スマイルスタジアム「ネオテニー・ジャパン展」
ART LOVER「ネオテニー・ジャパン展（鴻池朋子）」

7月21日 NST新潟総合テレビ
NSTスピーク／スーパーニュース／NSTゴールデンニュース「ネオテニー・ジャパン展開場式」

7月24日 NST新潟総合テレビ
スーパーニュース「秋山さやかインタビュー」

7月31日 NST新潟総合テレビ
スーパーニュース「加藤美佳インタビュー」

8月2日 NST新潟総合テレビ
スーパーニュース「高橋龍太郎インタビュー」

8月7日 NST新潟総合テレビ
スーパーニュース「福田毅インタビュー」

8月14日 NST新潟総合テレビ
美少女図鑑（番組ロケ）

8月15日 NST新潟総合テレビ
スーパーニュース「1万人突破」

9月2日 NHK新潟放送局
新潟ニュース610「ネオテニー・ジャパン—高橋コレクション展 高橋氏インタビュー」

9月3日 NST新潟総合テレビ
スーパーニュース「2万人突破」

●ラジオ

7月27日 FM PORT
モーニングゲート「マリーズセレクション」

8月3日 FM PORT
モーニングゲート「マリーズセレクション」

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	16,746
	前売	2,185
無料観覧者数	招待	3,302
	免除	3,863
総観覧者数		26,096
有料率（%）		72.5

担当 濱田真由美、藤田裕彦

【出品リスト】

会田 誠	大山椒魚	2003	アクリル絵具、パネル	
	にゅうようくくうぼくのま 紐 育 空爆之図 (戦争画 RETURNS)	1996	襖、蝶番、日本経済新聞、ホログラムペーパーにプリントアウトしたCGを白黒コピー、チャコールペン、水彩絵具、アクリル絵具、油性マーカー、事務用修正ホワイト、鉛筆、その他 零戦CG制作：松橋陸生	
青山 悟	校庭 (西)	2004	刺繍、ポリエステル	
	校庭 (東)	2004	刺繍、ポリエステル	
	Ring	2005	刺繍、ポリエステル (コットン、ポリエステル糸)	
秋山 さやか	ベルリンをあるく 2006年6月1日～16日	2006	ししゅう糸・もめん糸・毛糸・リボン・針がね・ひも・ビーズ・シール・インク・絵の具・顔料・紙・布・ビール・ワイン・せっけん・きつぷ・手ぶくろ・アパートの壁土・植物...などベルリンで見つけた素材と、手すき和紙	
	あるく 私の生活基本形 千秋・長岡 2009年6月20日～28日	2009	ししゅう糸、もめん糸、ポリエステル糸、毛糸、リボン、リリヤーン、ワイヤー、ビーズ、ボタン、くるみボタン、スパンコール、シール、ストラップ、ぬいぐるみキット、切符、メモの切れはし、お弁当の包み紙、箸ぶくろ、ペットボトルのラベル、入浴剤のラッピング、美術館のワークショップ素材のあまり、小国和紙の切れはし、などなど...千秋と長岡で見つけた素材・ポリエステル布に昇華プリント	
池田 学	領域	2004	ペン、インク、紙	
	興亡史	2006	ペン、インク、紙	
池田 光弘	untitled	2007	油彩、カンヴァス	
	untitled	2006	アクリル絵具、油彩、綿布	
伊藤 存	よだれのきらめき	2001	刺繍、布、木枠にマウント	
	空地 (コウモリ)	2003	刺繍 (両面)、布	
小川 信治	WITHOUT YOU - Lady Seated at a Virginal	2000	油彩、カンヴァス	
	最後の晚餐 - イエス	2001	鉛筆、乾性油、水彩紙	
	最後の晚餐 - ユダ	2001	鉛筆、乾性油、水彩紙	
	最後の晚餐 - 弟子たち	2001	鉛筆、乾性油、水彩紙	
小沢 剛	地蔵建立 - 天安門広場 [中国]	1989	ゼラチンシルバープリント、調色	
	ベジタブル・ウェポン - アイスランドのグラフラックス (生鮭の岩塩・ハーブ漬け) / ニューヨーク	2002	タイプCプリント	
	ベジタブル・ウェポン - ナン・プリ/チェンマイ、タイ	2004	タイプCプリント	
	なすび画廊 - 福田美蘭	1993	牛乳箱、おもちゃ、ポジフィルム	
	なすび画廊 - 宮島達男	1994	牛乳箱、造花、チェーン、木材	
岡本 一太郎・三太郎 (小沢 剛)	新なすび画廊 - 小沢剛	1999	牛乳箱、シール	
	無題 (尾形光琳)	2007	醤油画、シルクスクリーン	
小谷 元彦	Human Lesson (Dress 01)	1996	オオカミの毛皮、他	
	Solange	2003	透明エポキシ樹脂、ピアノ線、他	
	Fingerspanner	1998	木 (メイプル)、弦、鉄	
	Phantom-Limb	1997	Cプリント、アクリルフレーム	
	Rompers	2003	DVD / music by pirami	
	加藤 泉	無題	2007	木、アクリル絵具、木炭、シリコン、鉄
加藤 泉	無題	2004	木、アクリル絵具、木炭	
	無題	2004	油彩、カンヴァス	
	無題	2007-2008	木、油絵具、天然石、鉄	
	無題	2001	油彩、カンヴァス	
	無題	2009	ペン、鉛筆、方眼紙	
	加藤 美佳	パンジーズ	2001	油彩、カンヴァス
	工藤 麻紀子	もうすぐ衣替え	2003	油彩、カンヴァス
鴻池 朋子	Knifer life	2000-2001	アクリル絵具、鉛筆、墨、カンヴァス、木パネル	
	惑星はしばらく雪に覆われる	2006	ミクストメディア	
	mimio-Odyssey	2005	DVD	
小林 孝亘	Dog	1998	油彩、カンヴァス	
	Sunbather 8	2003	油彩、カンヴァス	
佐伯 洋江	Untitled	2007	ペンシル、インク、紙	
さわ ひらき	elsewhere	2003	ビデオ (モノクロ、サイレント)	
	spotter	2003	ビデオ (モノクロ)	
須田 悦弘	泰山木 一実	1999	木に彩色	
	雑草	2008	木に彩色	
高嶺 格	Korean Studies	2004	陶土、釉薬、鳥の羽	
東芽	にっぽんのちっちゃい台所	2003	ミクストメディア	
	屋上からの景色	2003	インク、和紙	
	賞味期限	2003	インク、和紙	
	台所での犯罪	2003	インク、和紙	
	台所の片隅	2003	インク、和紙	
	ありきたりの終焉	2003	インク、和紙	

千葉 正也	平和な村	2007	油彩、カンヴァス
でき やよい	みみちん	1998	アクリル、紙、パネル
	Untitled	2000	アクリル、マネキン (5体)
	Untitled (Francesco Yayoi)	2000	ポスターカラー、紙、パネル
照屋 勇賢	告知 一森	2005	紙袋 (シャネル)、接着剤
	告知 一森	2006	紙袋 (ゴディバ)、接着剤
天明屋 尚	ネオ千手観音	2002	アクリル絵具、木
奈良 美智	In the Deepest Puddle	1995	アクリル絵具、カンヴァス
	Candy Blue Night	2001	アクリル絵具、綿布
	Untitled	1999	アクリル絵具、色鉛筆、プラスチック、板
	green mountain	2003	アクリル絵具、色鉛筆、紙
名和 晃平	PixCell-Gazelle#2	2006	ミクストメディア
	PixCell-Trumpet#2	2006	ミクストメディア
	PixCell-Shoe#4(R)	2006	ミクストメディア
		1997	ファイバーブラスター、陰刻鋳型
西尾 康之	素粒の鎧	2002	テラコッタ
	巨大女為正義	2002	テラコッタ
町田 久美	郵便配達夫	1999-2006	青墨、岩絵具、雲肌麻紙
	マルキ・ド・サド原作/澁澤龍彦訳『淫蕩学校』挿絵	2003-2005	青墨、岩絵具、顔料、金泥、銀泥、胡粉、雲肌麻紙
	オンナノコ	2003-2005	鉛筆、紙
	訪問者	2004	墨、岩絵具、顔料、雲肌麻紙
丸山 直文	Island of Mirror	2003	アクリル、綿布
	dragonflies	2004	アクリル、綿布
	twins	1995	アクリル、綿布
三沢 厚彦	Dog 2001-02	2001	楠に油彩
	Cat 2002-02	2002	楠に油彩
	animal 2005-02	2005	粘土、木、ボンド、紙、アクリル
Mr.	ブラジリアン柔術クリスマス	2002	アクリル絵具、パッチワーク・カンヴァス
	ドイツ人かもしれない	2002	アクリル絵具、カンヴァス
三宅 信太郎	STAR SWEET SHINTARO WARS LIVE PAINTING 夢工場の逆襲への新たなる挑戦	2002	アクリル絵具、色鉛筆、クレヨン、インク、鉛筆、紙、人形4体
村上 隆	ルイ・ヴィトンのお花畑	2003	木、シルク、酸性染料、箔、金属、プラチナ、紙
	ポリリズム 赤	1989	アクリル、板、田宮模型 1/35スケールアメリカ歩兵 (GIセット)
	ポリリズム	1991	合成樹脂、キャスト、ステンレス・パー、板に鉛、田宮模型 1/35スケールアメリカ歩兵 (GIセット)
	中村と村上	1992	シルクスクリーン、ステンレス
	無題	1994	銀箔、ボード
	無題	1994	金箔、ボード
	Mr.DOB	1996	塩化ビニール、ヘリウムガス
	ズザザザザ	1994	アクリル絵具、シルクスクリーン、カンヴァス、板
村瀬 恭子	Lights in the Forest (Sitting)	2003	油彩、綿布
	Lights in the Forest (Standing)	2003	油彩、綿布
村山 留里子	愛のドレス	2004	ミクストメディア
	ガラス亡霊婦人	2006	ガラス、絹、麻、鉄、針金、ビーズ、鏡、木
	No title (RBO1~10)	2004	ミクストメディア、ビスチェ
山口 晃	今様遊楽園	2000	油彩、カンヴァス
	今様遊楽園下図	2000	鉛筆、ペン、カンヴァス
	當古おばか合戦 一おばか軍本陣圖	2001	油彩、水彩、カンヴァス
	五武人圖	2003	墨、紙



近代日本画の理想を求めて
土田麦僊
TSUCHIDA BAKUSEN

新潟県立近代美術館
Niigata Museum of Modern Art



土田麦僊展—近代日本画の理想を求めて

【趣旨】

本展覧会は、近代日本画の新しい可能性を追求し続け、清明で内なる美を内包した作品を描いた新潟県出身画家・土田麦僊の画業を紹介する回顧展。

土田麦僊は、1887年新潟県佐渡島に生まれ、早くから才能を発揮して京都に上り、竹内栖鳳に師事した。1918年京都市立絵画専門学校の同窓であった小野竹喬、村上華岳らとともに国画創作協会を結成し、1921年からは欧州に遊学、昭和期には東洋美への傾斜を強め、1936年49歳の若さで没した。

本展では、麦僊が画家としての地歩を固めた「文展と風景画」、東西美術の総合をめざした「国画創作協会と滞欧」、晩年にたどり着いた境地を示す「帝展と七絃会展」と、麦僊の画業を三期に分け、初期より晩年までの本画65点、下絵約130点、関連資料等を紹介した。主要な作品を集めての大規模な回顧展は12年ぶり、新潟県においては28年ぶりの開催であった。

【総括】

●評価すべき点

本展では、企画展示室および常設展示室1を会場とし、代表作を出来る限り紹介できるようにした。本画だけでなく、それと関連する素描・スケッチを併せて展示し、制作過程がわかるよう工夫した。

展覧会の全担当者が論文を執筆し、主要作品一覧や年譜、関連文献など、麦僊研究の基本となる資料を網羅した200頁超の図録を作成することが

でき、667冊を売り上げた。課員が原稿を作成した音声ガイドも1,228件の貸出があり、好評を得た。県内では四半世紀ぶりに県出身作家の大規模な回顧展を実現できた意義は大きい。学芸員の研究成果にもとづき、当館の独自性を強くアピールできた展覧会であったといえる。

●検討課題

麦僊の代表作を完全に網羅できず、それが入場者数目標未達成という結果につながったと考えられる。借用依頼の初動が遅れたこと、また作品の保存状態が劣化してきていることが主因である。

また、本展の準備時期が夏の企画展の会期と重なり、多くの職員が多数の関連イベントの対応に追われた。このため、広報等、本展に関する十分な協力体制が築けなかった。

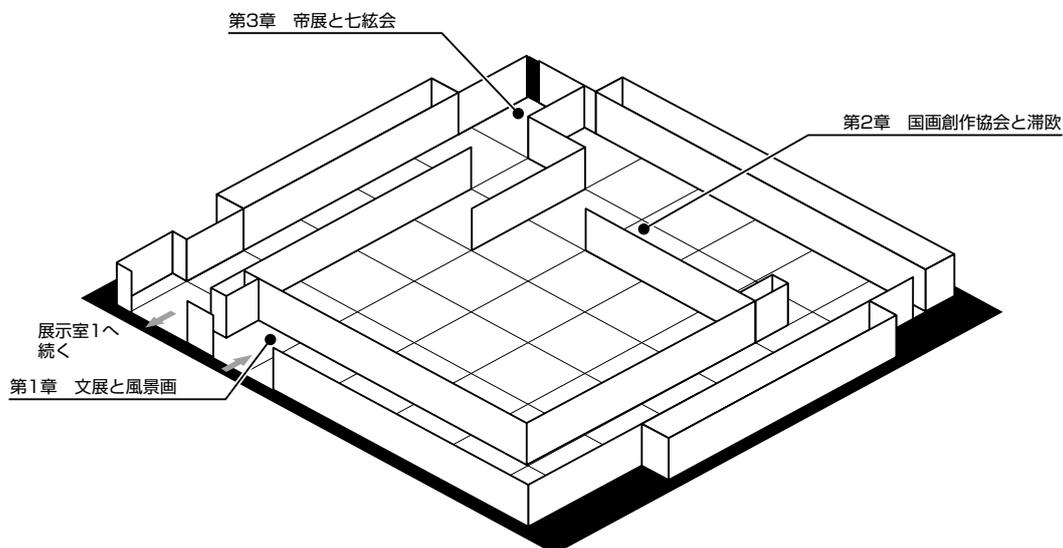
【開催日・その他】

=平成21年9月19日(土)～11月3日(火・祝) =
(開催日数42日)

※会期中展示替あり

主 催：土田麦僊展実行委員会、新潟県立近代美術館、新潟日報社、UX新潟テレビ21

後 援：長岡市、長岡市教育委員会、佐渡市、佐渡市教育委員会、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、株式会社佐渡テレビ



ジョン、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、
エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、
FMながおか80.7

協 力：新潟日報美術振興財団
新潟文化祭2009対象事業

観覧料：一般……1,000円(800円)〈800円〉

大学・高校生……800円(600円)

※中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

※〈 〉内は前売り券料金

【関連行事】

・講演会

「土田麦僊とヴェイトユの少女—画像の背後のフ
ランス—」

10月31日(土)14時～

講 師：柏木加代子氏(京都市立芸術大学教授)

参加人数：66人

・美術鑑賞講座

「土田麦僊 東洋的な、そうして古典的な」

9月26日(土)14時～

講 師：横山秀樹(当館副館長)

参加人数：60人

「昭和期の麦僊—古典美の追求と朝鮮」

10月24日(土)14時～

講 師：長嶋圭哉(当館主任学芸員)

参加人数：34人

・ワークショップ～びじゅつ☆体験隊

「大人のぬり絵—土田麦僊の舞妓を描く」

9月20日(日)

参加人数：11人

【図 録】

仕 様：A4判変型 210頁

監 修：新潟県立近代美術館 横山秀樹

編 集：新潟県立近代美術館 横山秀樹・

長嶋圭哉・平賀麻子

新潟県立万代島美術館 池田珠緒

発 行：土田麦僊展実行委員会

内 容：ごあいさつ

謝辞

「土田麦僊—東洋的な、そうして古典的な」
横山秀樹

第1章 文展と風景画

「土田麦僊の初期作品について—《島の女》
をとおして—」平賀麻子

第2章 国画創作協会と滞欧

「麦僊の舞妓—《三人の舞妓》から《明粧》
まで」池田珠緒

第3章 帝展と七絃会展

「未完の『晩年』—昭和期の麦僊について」
長嶋圭哉

麦僊遺品・写真

主要作品一覧

年譜

参考文献

再録『土田麦僊遺作展覧会目録』(昭和
13年)

出品目録

【関連記事】

●新聞

- 8月4日 新潟日報
「土田麦僊 近代日本画の理想を求めて 県立近代美術館で9月19日スタート」
- 8月29日 新潟日報
「絵が語る麦僊の歩み 初公開の遺品も展示 19日から県立近代美術館」
- 9月3日 越南タイムス
「土田麦僊—近代日本画の理想を求めて 県立近代美術館で19日から開催」
- 9月8日 十日町タイムス
「佐渡出身『土田麦僊』回顧展 28年ぶり県立近代美術館で開催」
- 9月15日 新潟日報
特集「土田麦僊—近代日本画の理想を求めて 19日から県立近代美術館」(長嶋圭哉)
- 9月18日 新潟日報
日報抄
- 9月19日 新潟日報
「東西融合の美 きょうから土田麦僊展」
- 9月20日 新潟日報
「鮮やか色使い 感嘆 土田麦僊展スタート」
- 9月25日 魚沼新聞
「『土田麦僊展』県立近代美術館」
- 9月27日 新潟日報
「郷土の巨匠 描く美 土田麦僊・大矢紀・齋藤満栄 日本画展がめじろ押し」
- 9月第4週号 週刊朝日だより
「土田麦僊 近代日本画の理想を求めて 11月3日まで 新潟県立近代美術館」
- 10月3日 長岡新聞
「近代美術館 土田麦僊を紹介 県内出身の近代日本画家」
- 10月17日 新潟日報
文化欄「『土田麦僊』展 変遷経て古典の美へ」(横山秀樹)
- 10月23日 日本経済新聞(全国版)
文化往来「常に革新を忘れなかった土田麦僊」
- 10月25日 新潟日報
「『土田麦僊展』来場1万人に」
- 10月29日 新潟日報
池田珠緒「近代日本画の巨匠 土田麦僊展 舞妓林泉図 自分の中の理想美表現」

- 11月1日 新潟日報
「土田麦僊展」
- 11月2日 読売新聞
「土田麦僊回顧展」

新潟日報 連載記事

- 「近代日本画の巨匠 土田麦僊展」
- 9月29日 1. 《伊豆之海》(横山秀樹)
- 9月30日 2. 《大原女》(平賀麻子)
- 10月1日 3. 《海女》(平賀麻子)
- 10月2日 4. 《舞妓林泉図》(池田珠緒)
- 10月5日 5. 《甜瓜図》(長嶋圭哉)

新潟日報 名品紹介「『土田麦僊展』開催中」

- 10月24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日

●テレビ

- 9月18日 UX新潟テレビ21
スーパーJチャンネルにいがた 開幕報道
- 9月21日、22日、23日、24日、25日
UX新潟テレビ21
スーパーJチャンネルにいがた 名品紹介
- 10月24日 UX新潟テレビ21
スーパーJチャンネルにいがた 入場者1万人報道

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	8,964
	前売	2,045
無料観覧者数	無料	2,937
	免除	1,157
総観覧者数		15,103
有料率 (%)		72.9

担当 横山秀樹、長嶋圭哉、平賀麻子

【出品リスト】

■第1章 文展と風景画

No.	題名	制作年	材質	形状	所蔵者	展示替え ※空欄のものは全会期
1	山水花鳥図(松岳)	明治37年	紙本淡彩	六曲一双屏風		右隻:~10月12日 一双:10月14日~
2	龍図(玉邦)	明治37年	紙本墨画	六曲一双屏風	新潟市美術館	右隻:~10月12日 左隻:10月14日~
3	清暑	明治38年	絹本彩色	軸装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
4	扇売美人図	明治39年頃	紙本彩色	軸装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
5	榻	明治40年頃	絹本彩色	軸装	京都市美術館	
6	罰	明治41年	絹本彩色	額装	京都国立近代美術館	
7	髪	明治44年	絹本彩色	軸装	京都市立芸術大学芸術資料館	
8	春余	明治45年頃	紙本彩色	額装		
9	海女	大正2年	絹本彩色	六曲一双屏風	京都国立近代美術館	
10	早春図	大正2年頃	絹本彩色	軸装	広島県立美術館	10月14日~
11	散華	大正3年	絹本彩色	六曲一隻・二曲二隻屏風	大阪市立近代美術館建設準備室	~10月12日
12	梅ヶ畑村	大正4年	絹本彩色	軸装	和歌山県立近代美術館	~10月18日
13	宇治白川村(扇面)	大正4年	紙本彩色	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
14	惜春(扇面)	大正4年	紙本彩色	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
15	郊外(扇面)	大正4年	紙本彩色	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
16	筏(扇面)	大正4年	紙本彩色	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
17	秋山清流	大正5年	絹本彩色	軸装		10月14日~
18	雨後図	大正5年	絹本彩色	軸装	広島県立美術館	10月14日~
19	南国の冬	大正6年	絹本彩色	軸装		
20	伊豆之海	大正6年	絹本彩色	軸装	大阪市立近代美術館建設準備室	~10月12日
21	熊野の山	大正7年	絹本彩色	軸装	株式会社ヤマタネ	
22	峯芳吉像	大正7年	紙、水彩	額装	佐渡博物館	

■第2章 国画創作協会と滞欧

23	オリーブの老樹	大正11年	紙、鉛筆、色鉛筆、淡彩	額装	大阪市立近代美術館建設準備室	~10月12日
24	ルノアールの庭	大正11年	紙、鉛筆、淡彩	額装	大阪市立近代美術館建設準備室	~10月12日
25	聖シスト寺(ピサ)	大正11年	紙、鉛筆、色鉛筆、淡彩	額装	大阪市立近代美術館建設準備室	~10月12日
26	羅馬のある街角	大正11年	紙、鉛筆、淡彩	額装	大阪市立近代美術館建設準備室	~10月12日
27	聖グレゴリオの石段	大正11年	紙、鉛筆、淡彩	額装	大阪市立近代美術館建設準備室	~10月12日
28	聖グレゴリオの広場	大正11年	紙、鉛筆、淡彩	額装	大阪市立近代美術館建設準備室	10月14日~
29	エルクラナム附近	大正11年	紙、鉛筆、淡彩	額装	大阪市立近代美術館建設準備室	10月14日~
30	雨後のヴェスビオ	大正11年	紙、鉛筆、淡彩	額装	大阪市立近代美術館建設準備室	10月14日~
31	夜のヴェネチア	大正11年	紙、鉛筆、淡彩	額装	大阪市立近代美術館建設準備室	10月14日~
32	堀割の岸にて	大正11年	紙、鉛筆、淡彩	額装	大阪市立近代美術館建設準備室	10月14日~
33	ヴェトイユ風景	大正11年	キャンバス、テンペラ	額装	大原美術館	
34	ヴェトイユ風景	大正11年	水彩、紙	額装	知足美術館	
35	仏国風景	大正12年頃	絹本彩色	軸装	雪梁舎美術館寄託	
36	西洋少女像	大正12年頃	カルトン、テンペラ	額装	京都国立近代美術館	
37	春宵舞妓図	大正12年	絹本彩色	軸装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
38	舞妓林泉図	大正13年	絹本彩色	額装	東京国立近代美術館	~10月12日/10月22日~
39	蔬菜	大正13年	紙本彩色	額装		
40	鮭之図	大正13年	紙本彩色	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
41	花籠	大正13年	絹本彩色	軸装		
42	美人草	大正14年	絹本彩色	額装	雪梁舎美術館寄託	
43	芥子	大正15年	絹本彩色	軸装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
44	鶉	大正15年	絹本彩色	軸装	京都国立近代美術館	
45	大原女	昭和2年	絹本彩色	額装	京都国立近代美術館	
46	鴛鴦	昭和3年頃	絹本彩色	軸装(双幅)		10月14日~
47	立雛	不明	絹本彩色	軸装		

■第3章 帝展と七絃会展

48	朝顔	昭和4年	絹本彩色	軸装	京都市美術館	
49	大原女	昭和4年	絹本彩色	軸装		
50	白百合	昭和4年	絹本彩色	軸装		
51	寒山拾得	昭和4年	紙本墨画	軸装	雪梁舎美術館寄託	
52	牽牛花	昭和4年頃	絹本彩色	軸装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
53	舞妓	昭和5年頃	絹本彩色	額装	雪梁舎美術館寄託	
54	甜瓜図	昭和6年	絹本彩色	軸装	埼玉県立近代美術館	
55	新秋(瓜と虫)	昭和7年	絹本彩色	軸装		
56	菊	昭和7年	絹本彩色	額装	雪梁舎美術館寄託	
57	芍薬	昭和8年	絹本彩色	軸装		
58	平林	昭和8年	絹本彩色	額装	京都市美術館	
59	山茶花	昭和8年	絹本彩色	軸装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
60	菊	昭和8年	絹本彩色	軸装		

61	朝顔	昭和9年	絹本彩色	軸装	智積院
62	燕子花	昭和9年頃	絹本彩色	額装	知足美術館
63	蓮花	昭和10年	絹本彩色	軸装	
64	舞妓	昭和10年頃	絹本彩色	額装	
65	富貴草	昭和10年頃	絹本彩色	額装	株式会社ヤマタネ

■素描・大下絵

D-1	写生帖				佐渡博物館
D-2	昆虫の図 素描	不明	紙、淡彩	軸装	佐渡市新穂歴史民俗資料館
D-3	徴税日 素描	明治42年	紙、淡彩	額装	佐渡博物館
D-4	徴税日 素描	明治42年	紙、墨	額装	佐渡博物館
D-5	徴税日 素描	明治42年	紙、墨	額装	佐渡博物館
D-6	春の歌 素描	明治40年	紙、墨	額装	佐渡博物館
D-7	愾 大下絵	明治40年頃	紙、墨	額装	佐渡博物館
D-8	罰 素描	明治41年	紙、墨	額装	佐渡博物館
D-9	罰 素描	明治41年	紙、墨	額装	佐渡博物館
D-10	島の女 大下絵	明治45年	紙、淡彩	二曲一雙屏風	新潟県立近代美術館・万代島美術館 ~10月12日
D-11	海女 素描	大正2年	紙、鉛筆	額装	佐渡博物館
D-12	海女 素描	大正2年	紙、墨、鉛筆	額装	佐渡博物館
D-13	古画模写(南禅寺)	大正5年頃	紙、淡彩	画帳	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-14	古画模写(ピワと小鳥)	大正5年頃	紙、淡彩	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-15	大原女 素描	大正4年頃	紙、淡彩	額装	知足美術館
D-16	三人の舞妓 大下絵	大正5年	紙、淡彩	二曲一雙屏風	BSN新潟放送(新潟市美術館寄託)
D-17	三人の舞妓 素描	大正5年	紙、淡彩	額装	知足美術館
D-18	三人の舞妓 素描	大正5年	紙、淡彩	額装	
D-19	三人の舞妓 素描	大正5年頃	紙、朱	額装	佐渡博物館
D-20	三人の舞妓 素描	大正5年頃	紙、淡彩	額装	佐渡博物館
D-21	三人の舞妓 素描	大正5年頃	紙、朱	額装	佐渡博物館
D-22	熊野風景 素描	大正6年	紙、墨	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-23	熊野風景 素描	大正6年	紙、墨	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-24	熊野風景 素描	大正6年	紙、墨	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-25	熊野風景 素描	大正6年	紙、墨	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-26	熊野風景 素描	大正6年	紙、墨	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-27	熊野風景 素描	大正6年頃	紙、墨	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館
D-28	伊豆風景 素描	大正6年頃	紙、墨	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館
D-29	熊野風景 素描	大正6年頃	紙、淡彩	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館
D-30	志摩風景 素描	大正5年	紙、淡彩	額装	和歌山県立近代美術館 ~10月18日
D-31	伊豆の春 素描	大正5年	紙、墨	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館
D-32	伊豆の春 素描	大正5年	紙、墨	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館
D-33	湯女 大下絵	大正7年	紙、淡彩	二曲一雙屏風	佐渡博物館
D-34	湯女 素描	大正7年	紙、コンテ	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-35	湯女 素描	不明	紙、鉛筆、淡彩	額装	京都国立近代美術館 ~10月12日
D-36	湯女 素描	不明	紙、鉛筆、淡彩	額装	京都国立近代美術館 10月14日~
D-37	三人の舞妓 素描	大正8年	紙、淡彩	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館
D-38	三人の舞妓 素描	大正8年	紙、淡彩	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館
D-39	三人の舞妓 素描	大正8年	紙、淡彩	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-40	三人の舞妓 素描	大正8年	紙、淡彩	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-41	三人の舞妓 素描	大正8年	紙、淡彩	額装	知足美術館
D-42	三人の舞妓 素描	大正8年	紙、淡彩	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-43	三人の舞妓 素描	大正8年	紙、淡彩	額装	知足美術館
D-44	三人の舞妓 大下絵	大正8年	紙、淡彩	額装	佐渡博物館
D-45	三人の舞妓 大下絵	大正8年	紙、淡彩	額装	佐渡博物館
D-46	春 大下絵(樹)	大正9年	紙、淡彩	額装	佐渡博物館
D-47	春 大下絵(母親)	大正9年	紙、淡彩	額装	佐渡博物館
D-48	春 大下絵(子供)	大正9年	紙、淡彩	額装	佐渡博物館
D-49	春 小下絵	大正9年	紙、淡彩	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-50	春 素描(母)	大正9年	紙、鉛筆	画帳	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-51	春 素描(子供)	大正9年	紙、朱	画帳	新潟県立近代美術館・万代島美術館 ~10月12日
D-52	春 素描(子供)	大正9年	紙、朱	画帳	新潟県立近代美術館・万代島美術館 10月14日~
D-53	中国風景 素描(蘇州場外)	大正10年	紙、淡彩	画帳	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-54	中国風景 素描(上海)	大正10年	紙、淡彩	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-55	中国風景 素描(竜甫)	大正10年	紙、淡彩	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-56	中国人物 素描(梁第)	大正10年	紙、淡彩	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-57	中国人物 素描(時鴻)	大正10年	紙、淡彩	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-58	シンガポール風景 素描	大正10年	紙、鉛筆	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-59	シンガポール風景 素描	大正10年	紙、鉛筆	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館
D-60	シンガポール風景 素描	大正10年	紙、鉛筆	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館

D-61	巴里の女 素描	大正10年	紙、鉛筆	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
D-62	巴里の女 素描	大正10年	紙、パステル	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
D-63	巴里の女 素描	大正11年頃	紙、鉛筆	額装	佐渡博物館	
D-64	巴里の女 素描	大正10年	紙、鉛筆	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
D-65	巴里の女 素描	大正11-12年	紙、鉛筆	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
D-66	巴里の女 素描	大正11年頃	紙、鉛筆	額装	佐渡博物館	
D-67	巴里の少女 素描	大正10年頃	紙、鉛筆	額装		
D-68	巴里の少女 素描	大正10年頃	紙、鉛筆、淡彩	額装	佐渡博物館	
D-69	男性頭部 模写	大正11年	紙、鉛筆	画帳	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
D-70	舞妓林泉図 大下絵	大正13年	紙、淡彩	軸装	京都国立近代美術館	10月14日～
D-71	舞妓林泉図 素描	大正13年	紙、淡彩	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-72	舞妓林泉図 素描	大正13年	紙、鉛筆	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-73	舞妓林泉図 素描	大正13年	紙、鉛筆	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-74	舞妓林泉図 素描	大正13年	紙、鉛筆	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-75	舞妓林泉図 素描	大正13年	紙、鉛筆	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-76	舞妓林泉図 素描	大正13年	紙、鉛筆	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-77	舞妓林泉図 素描	大正13年	紙、淡彩	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-78	蔬菜 大下絵	大正13年	紙、淡彩	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
D-79	鮭とねぎ 大下絵	不明	紙、淡彩	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
D-80	芥子 素描	大正14年	紙、淡彩	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
D-81	芥子 素描	大正14年	紙、淡彩	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
D-82	大原女 素描	大正13年頃	紙、淡彩	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-83	大原女 素描	大正13年頃	紙、赤鉛筆	額装	知足美術館	
D-84	大原女 素描	大正13年頃	紙、鉛筆	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-85	大原女 素描	大正13年頃	紙、鉛筆	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-86	大原の里 素描	不明	紙、淡彩	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-87	大原女 素描	大正13年頃	紙、鉛筆	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-88	大原女 素描	大正13年頃	紙、朱	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-89	大原女 素描	大正13年頃	紙、淡彩	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-90	大原女 素描	大正13年頃	紙、朱	額装	知足美術館	
D-91	大原女 素描	大正13年頃	紙、鉛筆	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-92	豊粟 素描	昭和4年頃	紙、鉛筆、淡彩	額装	京都国立近代美術館	
D-93	豊粟 素描	昭和4年頃	紙、鉛筆、淡彩	額装	京都国立近代美術館	
D-94	豊粟 素描	昭和4年頃	紙、鉛筆、淡彩	額装	京都国立近代美術館	
D-95	豊粟 素描	昭和4年頃	紙、鉛筆、淡彩	額装	京都国立近代美術館	
D-96	豊粟 素描	昭和4年頃	紙、鉛筆、淡彩	額装	京都国立近代美術館	
D-97	大原女 素描	昭和5年	紙、淡彩	額装	知足美術館	
D-98	明粧 大下絵	昭和5年	紙、淡彩	軸装	京都市美術館	～10月12日/10月22日～
D-99	舞妓 素描	大正11年	紙、淡彩	額装	知足美術館	
D-100	舞妓 素描	昭和5年	紙、淡彩	額装	知足美術館	
D-101	明粧 素描	昭和5年	紙、鉛筆	額装	佐渡市新穂歴史民俗資料館	
D-102	蓮華 素描	昭和5年	紙、鉛筆、淡彩	額装	京都国立近代美術館	
D-103	蓮華 素描	昭和5年	紙、鉛筆、淡彩	額装	京都国立近代美術館	
D-104	蓮華 素描	昭和5年	紙、鉛筆、淡彩	額装	京都国立近代美術館	
D-105	菊 大下絵	昭和8年	紙、淡彩	額装	佐渡博物館	
D-106	菊 素描	昭和8年頃	紙、淡彩	軸装	東京国立近代美術館	
D-107	菊 素描	昭和8年頃	紙、淡彩	軸装	東京国立近代美術館	
D-108	山茶花 大下絵	昭和8年	紙、淡彩	額装	佐渡博物館	
D-109	燕子花 大下絵	昭和9年	紙、淡彩	額装	佐渡博物館	
D-110	朝顔 大下絵	昭和9年	紙、淡彩	額装	佐渡博物館	
D-111	蓮花 大下絵	昭和10年	紙、淡彩	額装	佐渡博物館	
D-112	蓮華 大下絵	不明	紙、淡彩	額装	佐渡博物館	
D-113	歌妓図 大下絵	昭和9年	絹、淡彩	額装	京都市美術館	
D-114	舞妓 大下絵	昭和10年	紙、淡彩	額装	佐渡博物館	
D-115	舞妓 素描	大正13年頃	紙、淡彩	額装	知足美術館	
D-116	舞妓 素描	大正13年頃	紙、淡彩	額装	知足美術館	
D-117	燕子花 素描	昭和9年頃	紙、淡彩	額装	佐渡博物館	
D-118	舞妓 素描	昭和9年	紙、淡彩	額装	知足美術館	
D-119	少女 素描	不明	紙、淡彩	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
D-120	娘 素描	昭和6年	紙、鉛筆、朱	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
D-121	娘 素描	昭和6年	紙、鉛筆	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
D-122	娘 素描	昭和6年	紙、鉛筆	額装	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
D-123	女子騎馬人形 素描	不明	紙、淡彩	軸装	京都国立近代美術館	
D-124	妓生の家 素描	昭和10年	紙、朱	額装	京都国立近代美術館	～10月12日
D-125	妓生の家 素描	昭和10年	紙、朱	額装	京都国立近代美術館	10月14日～
D-126	妓生の家 素描	昭和10年	紙、朱	額装	佐渡博物館	
D-127	妓生の家 素描	昭和10年	紙、鉛筆	額装	京都国立近代美術館	～10月12日

D-128	姘生の家 素描	昭和10年	紙、鉛筆	額装	京都国立近代美術館	10月14日～
D-129	姘生の家 素描	昭和10年	紙、朱	額装	佐渡博物館	
■関連資料						
資-1	絵付け 六角小鉢	大正5年	陶器		雪梁舎美術館寄託	
資-2	《清暑》四等賞褒賞証	明治38年5月8日			佐渡博物館	
資-3	《残陽》四等賞褒賞証	明治39年5月10日			佐渡博物館	
資-4	《晚春》四等賞銅牌褒賞証	明治39年5月15日			佐渡博物館	
資-5	竹杖会賞状	明治39年1月2日			佐渡博物館	
資-6	《春の歌》二等賞銀牌褒賞証	明治40年5月10日			佐渡博物館	
資-7	《春の歌》二等賞銀牌賞金贈与証 (金拾五円也)				佐渡博物館	
資-8	《罰》三等賞	明治41年10月31日			佐渡博物館	
資-9	第2回文展賞状送付通知				佐渡博物館	
資-10	《徴税日》二等賞銀牌褒賞証	明治42年5月10日			佐渡博物館	
資-11	《徴税日》二等賞銀牌賞金贈与証 (金式拾五円也)				佐渡博物館	
資-12	《春山の霞壯夫》二等賞褒賞証	明治43年5月10日			佐渡博物館	
資-13	帝国美術院会員証 (昭和9年)				佐渡博物館	
資-14	帝国美術院会員証 (昭和10年)				佐渡博物館	
資-15	麦摺画会及び依頼画、寄贈画制作規定				京都国立近代美術館	
資-16	パスポート・チケット				京都国立近代美術館	
資-17	トランク				佐渡博物館	
資-18	トランク					
資-19	印章				京都国立近代美術館	
資-20	筆洗					
資-21	朱肉入れ					
資-22	硯・墨				佐渡博物館	
資-23	花籠					
資-24	千代・麦僊宛書簡				京都国立近代美術館	
資-25	麦僊書簡				佐渡博物館	
資-26	峯芳吉宛葉書				佐渡博物館	
資-27	関真次郎宛ヨーロッパからの葉書				新潟県立近代美術館・万代島美術館	
資-28	写真資料				佐渡市新穂歴史民俗資料館	
資-29	写真資料					



あふれる詩心—版画と陶芸—

川上澄生／棟方志功／齋藤三郎

【趣 旨】

詩情ゆたかな作品により、近代日本版画の分野において光彩を放った川上澄生と棟方志功。本展は、彼らの芸術を回顧するとともに、両者と交流のあった上越高田の陶芸家齋藤三郎の作品を紹介し、戦後新潟の芸術家交流史の一端をたどることを試みたものである。

棟方志功は1930年代初めからしばしば新潟を訪れて制作しており、一方、川上澄生は柏崎のコレクター吉田正太郎との35年以上にわたる親交があり、いずれも本県にとってゆかりの深い作家といえる。また第二次大戦直後の上越高田では、物資のない時代であったが、豊かな芸術文化が育まれたことが近年注目されている。陶芸家齋藤三郎の工房は、疎開中の芸術家たちが往来するサロンのごとき空間を形成していた。川上や棟方が行き来した戦後高田の状況を再構成し、新潟で結ばれた版画と陶芸の親密な関係を浮き彫りにすることをもう一つの狙いとした展覧会でもあった。

【総 括】

●評価すべき点

- ・戦後上越の文化人たちの交流（棟方と齋藤の交友など）を展覧会の一つの核とし、県立の美術館としての特色を示すことができた。
- ・県ゆかりの作家の優れた版画コレクションが県内と近隣県に存在している。今展ではこれらの所蔵先の理解と協力が得られたため、充実した内容の展覧会構成ができた。また、近年は自主

企画展の図録を制作することが予算的に困難となっているが、仕様を工夫してクリアし、調査研究の反映や展覧会記録として形を残すことができたのは、大きな成果の一つであった。

●検討課題

- ・開催が決定してから企画展までの準備期間が一年未満と短く、他館や個人所蔵家への出品交渉に時間をかけることができなかった。自主企画の開催決定時期を早めるよう計画すべきである。
- ・厳冬の天候不順のため、入場者数が極端に伸び悩み、冬場の誘客対策が十分でなかった。地域ゆかりの展覧会だったが、地元メディアを巻き込んだ広報展開が不足した点にも課題を残した。

【開催日・その他】

=2009年11月21日(土)~2010年1月24日(日)
(50日間) =

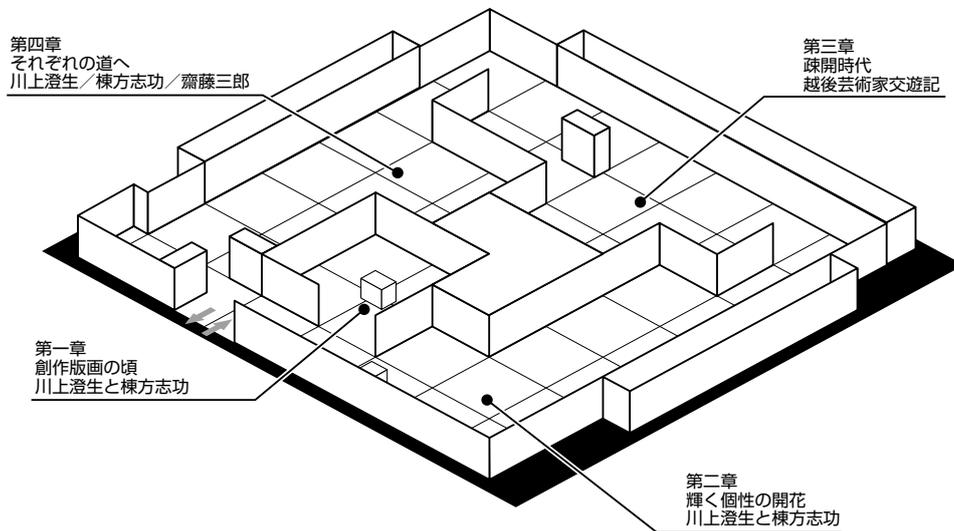
主 催：新潟県立近代美術館、新潟日报社、NST
新潟総合テレビ

後 援：長岡市・長岡市教育委員会、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT79.0、FMながおか80.7

観覧料：一般……………700円(500円)
大学・高校生……………500円(300円)

※中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金



【関連行事】

・美術鑑賞講座

「詩心あふれる芸術家たち」

11月28日(土)午後2時より 講堂

講 師：平石昌子 (当館学芸課長代理)

参加人数：37名

・映画鑑賞会

「影る 棟方志功の世界」

12月12日(土)午前11時／午後2時 講堂



【図 録】

製作部数：400冊

販売部数：255冊

無料配布部数：140冊

仕 様：B5判 48頁

編集／発行：新潟県立近代美術館

内 容：

第1章 創作版画の頃

第2章 輝く個性の開花

第3章 疎開時代

第4章 それぞれの道

「あふれる詩心 川上澄生／

棟方志功／ 齋藤三郎」

平石昌子

資 料：作家の言葉、作家略歴

作品リスト



【関連記事】

●新聞

11月22日(日) 新潟日報

迫力の版画 間近で 棟方ら3人展長岡で開幕

2010年1月8日(金) 新潟日報 文化欄

川上澄生の「初夏の風」棟方志功を版画に導く／平石昌子

12月4日(金) 越後タイムス

週末点描／柴野毅実

その他

新潟日報 11月19日(休)

長岡新聞 10月27日(金)、12月5日(土)

週刊朝日だより 11月27日(金)

暮らしの通信 11月21日号

カルチャーにいがた Vol.61

●雑誌

書道界 2009年12月号

月刊新潟 2009年11月号

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	2,707
	前売	
無料観覧者数	招待	905
	免除	283
総観覧者数		3,895
有料率 (%)		69

担当 平石昌子、平賀麻子

【出品リスト】

第1章 創作版画の頃 ―川上澄生と棟方志功

NO.	作家名	作品名	制作年	技法/形状	員数	寸法	所蔵
1	川上澄生	紅毛女人之図	1923年	木版		14.0×8.7	財団法人黒船館
2	川上澄生	ローマ字 初夏の風	1926年	木版		22.5×17.3	財団法人黒船館
3	川上澄生	葉売り	1927年	木版		15.7×15.7	財団法人黒船館
4	川上澄生	煙管四本	1927年	木版		31.5×25.6	財団法人黒船館
5	川上澄生	あざみ	1928年	木版		33.3×22.5	財団法人黒船館
6	川上澄生	円卓上の静物	1928年	木版		16.7×16.0	財団法人黒船館
7	川上澄生	新東京百景 銀座	1929年	木版		20.0×26.0	財団法人黒船館
8-1	川上澄生	『HANGA』1輯表紙〈QUEEN〉	1924年	木版		24.6×19.4	財団法人黒船館
8-2	川上澄生	『HANGA』1輯〈アラスカウナラスカ港 或る教会堂〉	1924年	木版		16.5×11.5	財団法人黒船館
9	川上澄生	『HANGA』5輯〈賭博者〉	1925年	木版		15.0×11.0	財団法人黒船館
10	川上澄生	『HANGA』8輯〈風景下野国〉	1925年	木版		15.0×22.0	財団法人黒船館
11	川上澄生	『HANGA』13輯〈水兵〉	1928年	木版		14.5×20.0	財団法人黒船館
12	川上澄生	『風』3号〈さようなら〉	1928年	木版		23.7×16.1	財団法人黒船館
13	川上澄生	『風』再刊4号表紙	1929年	木版		25.8×19.2	財団法人黒船館
14	川上澄生	『青髭』(再刊)	1965年 (初版1927)	木版詩画集 吾八		19.7×13.6	財団法人黒船館
15	棟方志功	『星座の花嫁』	1931年	木版画集 創作版画倶楽部			南砺市立福光美術館
15-1		貴女行路	1930年	木版		13.0×18.0	
15-2		蔵書票(扉)	1930年	木版		7.5×10.2	
15-3		星座の絵	1928年	木版		20.0×19.5	
15-4		貴女等・聖堂を出づる	1928年	木版		20.0×13.0	
15-5		ベチレヘムに聖星を観る	1928年	木版		13.0×18.0	
15-6		聖堂に並ぶ三貴女	1928年	木版		7.5×18.0	
15-7		貴婦人と蝶々	1929年	木版		7.5×10.5	
15-8		花か蝶々か	1929年	木版		17.0×17.0	
15-9		貴女等・彗星を観る	1930年	木版		15.0×17.0	
15-10		貴女・裳を引く	1930年	木版		13.0×18.0	

第2章 輝く個性の開花 ―川上澄生と棟方志功

16	川上澄生	『伊曾保物語 天』より 〈北風と太陽〉	1931年	木版	3	12.5×17.7	財団法人黒船館
17	川上澄生	『伊曾保物語 天』より 〈鳥と宝石〉	1931年	木版	2	12.5×17.7	財団法人黒船館
18	川上澄生	野球大会之図	1932年	木版		24.7×30.8	財団法人黒船館
19	川上澄生	仮面と勲章	1933年	木版空押		28.0×20.0	財団法人黒船館
20	川上澄生	農夫とその子供達	1933年	木版(手彩色)	3	12.3×17.5	財団法人黒船館
21	川上澄生	地球儀・地理書・洋燈・砂時計	1933年	木版(手彩色)		48.6×33.6	財団法人黒船館
22	川上澄生	菓子図	1933年	木版		15.3×21.5	財団法人黒船館
23	川上澄生	黒船図	1935年	木版(手彩色)		48.3×33.4	財団法人黒船館
24	川上澄生	人力三台馬車一台	1936年	木版(手彩色)		33.2×40.0	財団法人黒船館
25	川上澄生	村童野球戯之図	1936年	木版		33.0×43.5	財団法人黒船館
26	川上澄生	洋燈・女・猫	1939年	木版		29.7×20.1	財団法人黒船館
27	川上澄生	南蛮船図A	1939年	木版(手彩色)		72.0×52.0	財団法人黒船館
28	川上澄生	宇都宮新地風景	1940年	木版(手彩色)		28.3×44.3	財団法人黒船館
29	川上澄生	『画集あげれすいろは』(再刊)	1946年 (初版1929)	木版画集 富岳本社		16.6×12.0	個人
30	川上澄生	『あげれすいろは詩集』	1930年	木版詩画集 やぼんな書房		16.8×12.2	財団法人黒船館
31	川上澄生	『あげれすいろは人物』	1935年	木版詩画集 版画荘		25.7×18.3	財団法人黒船館
32	川上澄生	『少々昔嘶』	1936年	書籍 版画荘		22.2×15.0	財団法人黒船館
33	川上澄生	『ランブ』	1940年	書籍 アオイ書房		28.3×20.0	財団法人黒船館
34	川上澄生	『じゃがたらぶみ』	1941年	木版詩画集 日本民芸協会		16.0×10.9	財団法人黒船館
35	川上澄生	萩原朔太郎『猫町』(装幀)	1935年	書籍 版画荘		28.2×20.4	個人
36	川上澄生	KUROFUNOKAN (遠眼鏡)	1938年	油彩、紙		32.5×23.5	財団法人黒船館
37	川上澄生	大日本黒船館(ペルリ像)	1938年	油彩、紙		36.0×29.5	財団法人黒船館
38	川上澄生	アルファベット屏風	1938年	油彩、板		21.0×72.4	財団法人黒船館
39	棟方志功	空海頌(全52冊のうち6冊)	1937年	木版		各28.0×20.0	南砺市立福光美術館
39-1		名の柵					
39-2		扉の柵					
39-3		花波の柵					
39-4		春野の柵					
39-5		算蝶の柵					
39-6		月背の柵					

40	棟方志功	二菩薩釈迦十大弟子 (全12冊)	1939/48年	木版 六曲一双	各105.0×41.0	南砺市立福光美術館
40-1		文殊菩薩	1948年			
40-2		阿那律	1939年			
40-3		阿難陀	1939年			
40-4		迦施延	1939年			
40-5		富楼那	1939年			
40-6		羅?羅	1939年			
40-7		優婆離	1939年			
40-8		舍利弗	1939年			
40-9		摩訶迦葉	1939年			
40-10		須菩提	1939年			
40-11		目犍連	1939年			
40-12		普賢菩薩	1948年			
40-13		二菩薩釈迦十大弟子屏風箱	1953年	倭絵 板	184.0×30.0×65.0	
41	棟方志功	華嚴譜 釈迦如来の柵	1937年	木版	30.0×39.0	南魚沼市
42-1	棟方志功	観音経版画巻 優婆夷の柵	1938年	木版(手彩色)	40.9×50.6	南魚沼市
42-2	棟方志功	観音経版画巻 婆羅門女の柵	1938年	木版(手彩色)	40.9×50.6	南魚沼市
42-3	棟方志功	観音経版画巻 乾闥の柵	1938年	木版(手彩色)	40.9×50.6	南魚沼市
43	川上澄生 他	『版画』	1933年	版画誌 白と黒社	27.7×19.7	新潟県立近代美術館・万代島美術館

第3章 疎開時代 ー越後芸術家交遊記

44	川上澄生	士官一人兵士十八人	1940年	木版	51.8×76.2	財団法人黒船館
45	川上澄生	帽子・アコーディオン・玩具	1942年	木版(手彩色)	33.6×24.5	財団法人黒船館
46	川上澄生	貴婦人と騎士二人	1942年	木版空押(手彩色)	30.0×50.0	財団法人黒船館
47	川上澄生	女兒着せ替え人形	1945年	木版(手彩色)	16.7×24.0	財団法人黒船館
48	川上澄生	『南蛮船記』	1942年	木版絵本 私刊 手彩色	32.2×23.8	財団法人黒船館
49	川上澄生	『黄道十二宮』	1944年	木版画集 私刊	11.6×15.8	財団法人黒船館
50	川上澄生	『時計』	1944年	木版絵本 日本 愛書会 多色刷	33.2×36.5	財団法人黒船館
51	川上澄生	『あいのもしり』	1947年	木版絵本 私刊 手彩色	20.1×27.0	財団法人黒船館
52	川上澄生	『今昔阪神商家図』	1945年	油彩、紙	51 9.0×14.0	財団法人黒船館
53	川上澄生	『兎と山猫の話』	1946年	書籍 柏書房	18.4×12.5	個人
54	川上澄生	『北方風物』11号表紙	1946年	雑誌	25.6×18.3	新潟県立近代美術館・万代島美術館
55	川上澄生	更科源蔵『北海道繪本』(装幀)	1949年	書籍 日本交通公社	22.0×16.2	個人
56	川上澄生	『平戸幻想』	1950年	木版画集 私刊	15.5×19.5	個人
57	棟方志功	鐘溪頌	1945年	木版(手彩色) 六曲一双	各49.0×36.0	雪梁舎美術館寄託
57-1 此岸 57-2 鴛鴦 57-3 夜降 57-4 貝族 57-5 雷紋 57-6 呷王						
57-7 乞使 57-8 古布 57-9 菩提 57-10 竜巻 57-11 鯉族 57-12 風間						
57-13 倭桜 57-14 阿王 57-15 朝菊 57-16 落葉 57-17 中岸 57-18 牡丹						
57-19 祭巴 57-20 竜胆 57-21 瓢箪 57-22 唐衣 57-23 若栗 57-24 彼岸						
58	棟方志功	女人観世音板画巻 〈仰向妃の柵〉	1949年	木版(手彩色)	29.5×45.0	南魚沼市
59	棟方志功	四神板経天井画柵 天妃鼓笛す	1949年	木版	2 各88.0×88.0	南砺市立福光美術館
60-1	棟方志功	焔火頌 〈身沁の柵 (“冬の日は”の柵)〉	1950年	木版	31.4×25.2	雪梁舎美術館寄託
60-2	棟方志功	焔火頌 〈神火の柵 (“火の国の”の柵)〉	1955年	木版(手彩色)	30.0×24.0	雪梁舎美術館寄託
61-1	棟方志功	流離抄板画巻 〈角屋の柵〉	1953年	木版(手彩色)	31.0×28.5	雪梁舎美術館寄託
61-2	棟方志功	流離抄板画巻 〈澄愁の柵〉	1953年	木版(手彩色)	30.3×26.2	雪梁舎美術館寄託
61-3	棟方志功	流離抄板画巻 〈獅子窟の柵〉	1953年	木版(手彩色)	34.4×30.6	雪梁舎美術館寄託
61-4	棟方志功	流離抄板画巻 〈広鱧の柵〉	1953年	木版(手彩色)	30.6×26.5	南魚沼市
61-5	棟方志功	流離抄板画巻 〈狐狼の柵〉	1953年	木版(手彩色)	30.6×26.5	南魚沼市
62	棟方志功	松柏図	1946年	倭絵 六曲一双	各154.0×333.5	南砺市立福光美術館
63	棟方志功	天妃乾坤韻 (工楽頌両妃散華)	1951年 (1958摺)	木版(手彩色)	59.8×44.8	南魚沼市
64	棟方志功	紫袂の柵	1955年 (1961摺)	木版(手彩色)	26.6×22.0	南魚沼市
65	棟方志功	傘さすの柵	1955年 (1957摺)	木版(手彩色)	26.0×21.0	南魚沼市
66	棟方志功	大漁妃の柵	1957年 (1957摺)	木版(手彩色)	18.5×16.5	南魚沼市
67-1	棟方志功	歌々板画柵 〈桜吹雪の柵〉	1956年 (1956摺)	木版(手彩色)	33.4×31.8	南魚沼市
67-2	棟方志功	歌々板画柵 〈吾妹の柵〉	1956年 (1956摺)	木版(手彩色)	33.4×31.8	南魚沼市
68	棟方志功	仏画	昭和10年代	倭絵	27.3×24.0	個人
69	棟方志功	仏画	昭和20年代前半	倭絵	34.5×46.0	個人
70	棟方志功	陶齋頌 (壺に花)	昭和20年代前半	倭絵	35.0×45.0	個人
71	棟方志功	『板勤』	1944年	書籍 河出書房	26.3×18.5	個人

72-1	棟方志功	齋藤三郎宛葉書 昭和25年4月25日付	1950年	インク		14.0×9.0	個人
72-2	棟方志功	齋藤三郎宛葉書 昭和26年5月5日付	1951年	インク		14.0×9.0	個人
72-3	棟方志功	齋藤三郎宛葉書 昭和26年5月11日付	1951年	インク		14.0×9.0	個人
72-4	棟方志功	齋藤三郎宛葉書 昭和26年5月12日消印	1951年	印刷、インク		14.0×9.0	個人
72-5	棟方志功	齋藤三郎宛葉書 昭和26年10月27日消印	1951年	印刷、インク		14.0×9.0	個人
72-6	棟方志功	齋藤三郎宛葉書 昭和37年年賀状	1962年	木版、インク		14.0×9.0	個人
73	齋藤三郎	呉須揺落牡丹文瓶	1943年	磁器		高さ20.5×10.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
74	齋藤三郎	染付柘榴文額皿	1945年頃	磁器		径20.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
75	齋藤三郎	辰砂陰刻牡丹文瓶	1948年	陶器		高さ30.0、径15.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
76	齋藤三郎	色絵茄子文皿	1945-55年	磁器		高さ7.0、径25.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
77	齋藤三郎	灰釉大土瓶	1945-55年	陶器		高さ25.0、径15.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
78	齋藤三郎	鉄絵草文輪花皿	1955-59年	陶器	6	高さ4.5、径14.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
79	齋藤三郎	灰釉輪花草文なます皿	1955-59年	陶器	5	高さ5.0、幅16.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
80	齋藤三郎	辰砂鉄絵揺落牡丹文大皿	1955-65年	陶器		高さ8.5、径37.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
81	川上澄生	版画集苦小牧	1948年	木版		各15.8×21.3	財団法人黒船館
81-1		橋のある風景					
81-2		サイロのある風景					
81-3		樽前山					
81-4		王子製紙					
81-5		王子製紙					
82	川上澄生	あうゝえまりあ あうゝえ 海の星	1950年	木版		41.0×31.0	財団法人黒船館
83	川上澄生	ランプ	1952年	木版		37.8×25.6	財団法人黒船館
84	川上澄生	南蛮船図B	1953年	木版		23.5×27.8	財団法人黒船館
85	川上澄生	胸中の地図	1953年	木版(手彩色)		34.5×45.0	財団法人黒船館
86	川上澄生	蛮船入津群像図	1953年	木版(手彩色)		39.2×63.4	財団法人黒船館
87	川上澄生	花を持つ女(あやめの女)	1953年	木版(手彩色)		27.0×24.2	財団法人黒船館
88	川上澄生	開港横浜	1954年	木版		25.0×30.5	財団法人黒船館
89	川上澄生	横浜十二番	1954年	木版		20.5×27.0	財団法人黒船館
90	川上澄生	南蛮帽子を売る店	1954年	木版(手彩色)		27.0×24.0	財団法人黒船館
91	川上澄生	南蛮ぶり	1955年	木版(手彩色)		47.0×63.0	財団法人黒船館
92	川上澄生	日本越後國柏崎黒船館	1955年	木版		37.6×51.2	財団法人黒船館
93	川上澄生	日本へ	1956年	木版		41.5×55.0	財団法人黒船館
94	川上澄生	偽版えぞ古地図	1956年	木版(手彩色)		24.0×27.0	財団法人黒船館
95	川上澄生	和時計文字盤之図	1957年	木版(手彩色)		33.3×25.4	財団法人黒船館
96	川上澄生	太閤様	1957年	木版		30.0×39.2	財団法人黒船館

第4章 それぞれの道へ -川上澄生/棟方志功/齋藤三郎

97	川上澄生	天使と洋燈	1957年	木版		39.3×27.4	財団法人黒船館
98	川上澄生	きりしたん武士	1958年	木版		47.5×62.0	財団法人黒船館
99	川上澄生	悲しみの聖母	1960年	木版(手彩色)		62.0×47.8	財団法人黒船館
100	川上澄生	男女十八人	1960年	木版		31.0×24.0	財団法人黒船館
101	川上澄生	船載珍貨	1960年	木版(手彩色)		62.0×47.5	財団法人黒船館
102	川上澄生	英吉利國ろンドン東印度会社之圖	1963年	木版(手彩色)		69.0×52.0	財団法人黒船館
103	川上澄生	南蛮諸国 上・下	1964年	木版(箔刷手彩色)	10	各27.0×24.0	財団法人黒船館
104	川上澄生	女学生	1968年	木版		27.0×24.2	財団法人黒船館
105	川上澄生	明治風俗	1968年	木版		27.2×24.0	財団法人黒船館
106	川上澄生	波囲み南蛮船	1969年	木版		27.2×24.3	財団法人黒船館
107	川上澄生	波囲み聖母子	1969年	木版		27.2×24.3	財団法人黒船館
108	川上澄生	『伊曾保の譬絵断』	1959年	木版絵本 私刊 手彩色		16.5×21.0	財団法人黒船館
109	川上澄生	『鈍刀』22号〈鉛の玩具〉	1954年	版画誌		11.4×14.7	財団法人黒船館
110	川上澄生	『鈍刀』30号〈自画像〉	1956年	版画誌		12.2×8.5	財団法人黒船館
111	川上澄生	『版画』	1958年	書籍 東峰書院		18.4×17.6	個人
112	川上澄生	『新版明治少年懐古』	1967年	書籍 栃木新聞社		21.5×15.5	個人
113	川上澄生	『蛮船入津』	1966年	木版詩画集 中央公論社		28.4×21.0	個人
114	川上澄生	日本美人之図	1958年	ガラス絵		8.9×14.0	個人
115	川上澄生	泰西都市図	1956年	革絵		15.5×21.0	個人
116	川上澄生	女連れ	不明	アクリル		13.8×9.1	個人
117	川上澄生	越後新井てんまり 版画/版木	不明	木版(手彩色)		11.0×10.0	個人
118	川上澄生	年賀状		木版	27	14.0×9.0	個人
119	齋藤三郎	色絵竹垣文金彩茗荷大皿	1962年	磁器		径38.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
120	齋藤三郎	白磁鉄斑文瓶	1960-64年	磁器		高さ21.0、径11.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
121	齋藤三郎	色絵困櫛文皿	1965年頃	磁器		高さ3.0、径29.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
122	齋藤三郎	辰砂牡丹文偏壺	1965年頃	陶器		高さ14.0、径18.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
123	齋藤三郎	色絵椿文額皿	1968年	磁器		径18.2	新潟県立近代美術館・万代島美術館

124	齋藤三郎	染付梅花文拍子木香盒	1960年代半ば	磁器		4.5×5.7×6.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
125	齋藤三郎	色絵椿文松皮菱向付	1965-69年	磁器	5	3.5×13.5×13.0、 2.0×13.0×12.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
126	齋藤三郎	青白磁水滴	1965-70年	磁器	大1 小1	7.0×4.0/5.5×3.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
127	齋藤三郎	青白磁透彫台付円面硯	1965-70年	磁器		高さ9.5、径17.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
128	齋藤三郎	白磁捺面取瓢形瓶	1965-70年	磁器	2	高さ19.0、径11.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
129	齋藤三郎	辰砂椿文陶板	1970年頃	磁器		24.0×32.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
130	齋藤三郎	辰砂椿文陶板	1970年頃	磁器		22.0×27.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
131	齋藤三郎	染付竹林文壺	1970年頃	磁器		高さ35.0、径22.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
132	齋藤三郎	色絵果実文皿	1970年頃	磁器		高さ4.0、径27.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
133	齋藤三郎	染付吹墨寿梅文鉢	1970-74年	磁器		高さ5.0、径21.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
134	齋藤三郎	色絵唐草窓絵椿模様大壺	1977年	磁器		高さ23.0、径25.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
135	齋藤三郎	白磁壺	1977年	磁器		高さ19.3、径18.8	新潟県立近代美術館・万代島美術館
136	齋藤三郎	皮鯨茶盤	1974年	磁器		高さ6.5、径13.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
137	齋藤三郎	白磁染付「寿」字文皿	1974年	磁器		高さ6.0、径20.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
138	齋藤三郎	色絵椿文壺	1975年	磁器		高さ23.0、径15.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
139	齋藤三郎	青白磁面取長頸瓶	1975年頃	磁器	2	高さ18.0、 径22.0/22.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
140	齋藤三郎	赤絵面取瓢形瓶	1975年頃	磁器		高さ17.0、径8.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
141	齋藤三郎	色絵金彩茗荷文角皿	1975年頃	磁器		高さ5.0、径26.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
142	齋藤三郎	色絵蔬菜文皿	1975年頃	磁器		高さ5.5、径27.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
143	齋藤三郎	色絵唐辛子文大皿	1975年頃	磁器		高さ6.5、径34.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
144	齋藤三郎	色絵唐辛子文六角鉢	1975年頃	磁器		5.0×26.0×26.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
145	齋藤三郎	色絵干大根文大皿	1975年頃	磁器		高さ6.5、径38.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
146	齋藤三郎	色絵梅文宝瓶	1975年頃	磁器	2	高さ5.0、径16.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
147	齋藤三郎	染付曲家水滴	1975年頃	磁器		7.0×8.0×7.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
148	齋藤三郎	灰釉鉄絵柳文手附鉢	1975年頃	陶器		13.0×24.0×21.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
149	齋藤三郎	白磁壺	1975年頃	磁器		高さ30.0、径25.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
150	齋藤三郎	白磁蓋付小壺	1965-70年	磁器		高さ5.0、径5.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
151	齋藤三郎	瑠璃釉丸紋瓢形瓶	1975年頃	磁器		高さ15.0、径8.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
152	齋藤三郎	色絵椿文壺	1975-81年	磁器		高さ10.0、径12.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
153	齋藤三郎	雪椿数椿文壺	1974-84年	磁器		高さ15.0、径14.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
154	齋藤三郎	色絵椿文面取壺	1975-81年	磁器		高さ22.5、径19.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
155	齋藤三郎	白磁連弁文陰刻蓋付壺	1977年	磁器		高さ23.0、径18.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
156	齋藤三郎	色絵面取伊呂波文湯呑	1979年	磁器	5	高さ7.5、幅7.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
157	齋藤三郎	染付木蓮文面取大瓶	1980年頃	磁器		高さ28.0、径22.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
158	齋藤三郎	辰砂葡萄文大壺	1980-81年	磁器		高さ28.0、径28.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
159	齋藤三郎	辰砂瓶	不明	磁器		高さ17.0、径12.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
160	齋藤三郎	染付椿文扇面皿	不明	磁器	大3 小8	4.0×23.0×15.0 2.0×9.0×8.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
161	齋藤三郎	窓絵椿小紋面取壺	不明	陶器		高さ26.0、径18.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
162	齋藤三郎	色絵柚子香盒	不明	磁器		高さ4.5、径6.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
163	齋藤三郎	瑠璃六角水滴	不明	磁器		高さ2.0、径5.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
164	棟方志功	群生の柵	1957年	木版 八曲一双		各140.8×186.5	雪梁舎美術館寄託
165	棟方志功	雷童子の柵 (法雷鼓靈薩双座の柵・稚薩両韻の柵)	1958年	木版(手彩色)		42.5×23.5	南魚沼市
166	棟方志功	美女神誕生の柵	1959年	木版(手彩色)		34.0×42.0	南魚沼市
167	棟方志功	鯉壺の柵	1959年	木版(手彩色)		19.7×30.1	南魚沼市
168	棟方志功	大顔の柵	1959年	木版(手彩色)		20.0×18.5	南魚沼市
169	棟方志功	揚髭の柵	1959年	木版(手彩色)		25.5×19.3	南魚沼市
170	棟方志功	右首の柵・風の顔の柵	1959年 (1963摺)	木版(手彩色)		19.5×18.5	南魚沼市
171	棟方志功	薔薇妃の柵	1961年	木版(手彩色)		23.2×22.5	南魚沼市
172	棟方志功	幾波浪の柵 (羅牟俱美伊智の柵) (吉祥妃初渡大陸の柵)	1961年	木版(手彩色)		30.0×20.0	南魚沼市
173	棟方志功	瘋癲老人日記板画柵 〈颯子の柵〉	1962年	木版		20.2×30.4	南魚沼市
174	棟方志功	光明妃の柵 くちなし妃の柵	1962年	木版(手彩色)		34.0×25.5	南魚沼市
175	棟方志功	白頭巾の柵	1962年	木版		9.0×14.0	南魚沼市
176	棟方志功	燧炉肌の柵	1962年	木版(手彩色)		18.9×13.7	南魚沼市
177-1	棟方志功	東海道棟方板画 (吉原 左富嶽の柵)(左富士の柵・秋富嶽の柵)	1964年	木版(手彩色)		48.2×38.1	南魚沼市
177-2	棟方志功	東海道棟方板画 (金谷 胸襟仰開の柵)(冬富嶽の柵)	1964年	木版(手彩色)		48.2×38.1	南魚沼市
178	棟方志功	吉祥天妃の柵 弁財天妃の柵	1965年	木版(手彩色)		25.5×19.8	南魚沼市
179	棟方志功	くちなし妃の柵 テッセン妃の柵	1968年	木版(手彩色)		17.7×15.8	南魚沼市
180	棟方志功	あおもりはの柵	1970年	木版(手彩色)		45.0×37.2	南魚沼市
181	棟方志功	墨面と板業者の柵	1971年	木版(手彩色)		44.0×33.7	南魚沼市
182	棟方志功	琵琶弁天妃の柵(改刻)	1973年	木版(手彩色)		29.0×24.0	南魚沼市
183	棟方志功	萬里水雲長・鯉図	1958年	着物 手描			南魚沼市立福光美術館



マルチ・アーティスト 阿部展也展

【趣 旨】

1913年に新潟県五泉市に生まれた阿部展也は、1971年にイタリアのローマで死去するまでの約60年の生涯を、フィリピンや欧州など世界各地で過ごした。阿部の仕事は、その広範な活動範囲に比例するかのように、画業にとどまらない幅広いものだった。

独学で絵画を学んだ阿部は、様々な前衛美術グループの結成に参加したのち、「日本美術家連盟」の理事に弱冠三十代半ばで就任するなど、日本の美術界で重要な役割を担っていく。一方で、早くから写真制作にも着手し、瀧口修造らと「前衛写真協会」を結成。戦中は日本陸軍報道部の写真班員として国外に渡るなど、アマチュアの域を超えた仕事を行っていた。

その後、海外での活動が増えると、ロマネスクや東欧の建築やデザインを調査・研究し、独自の造形思考を形成していく。また、1962年に降得住したイタリアでは、現地の作家や美術関係者と人脈を築きながら、日本とイタリアの文化交流に寄与した。

本展では、こうした阿部展也の活動の多面性に焦点を当て、当館と新潟市美術館、板橋区立美術館の所蔵品を中心に、国内外の関連作家の作品とあわせて紹介した。

【総 括】

●評価すべき点

所蔵品を中心としながらも、新潟市美術館や板橋区立美術館といった関連作品の所蔵館から作品

を借用したことで、阿部展也の活動の多様さをアピールできた。また、現存しない阿部展也の写真については、パソコンのスライドショーで紹介したことで、鑑賞の助けとなった。

●検討課題

地元作家を紹介する展覧会として、内容的には意味のあるものであったにもかかわらず、予算の都合で図録を作成することができなかったことが非常に残念である。今後は低予算の小冊子であっても記録として残るものを作成し、普及に努めていきたい。

【開催日・その他】

⇒2010年2月16日(火)～3月28日(日) 実質会期36日間＝

主 催：新潟県立近代美術館

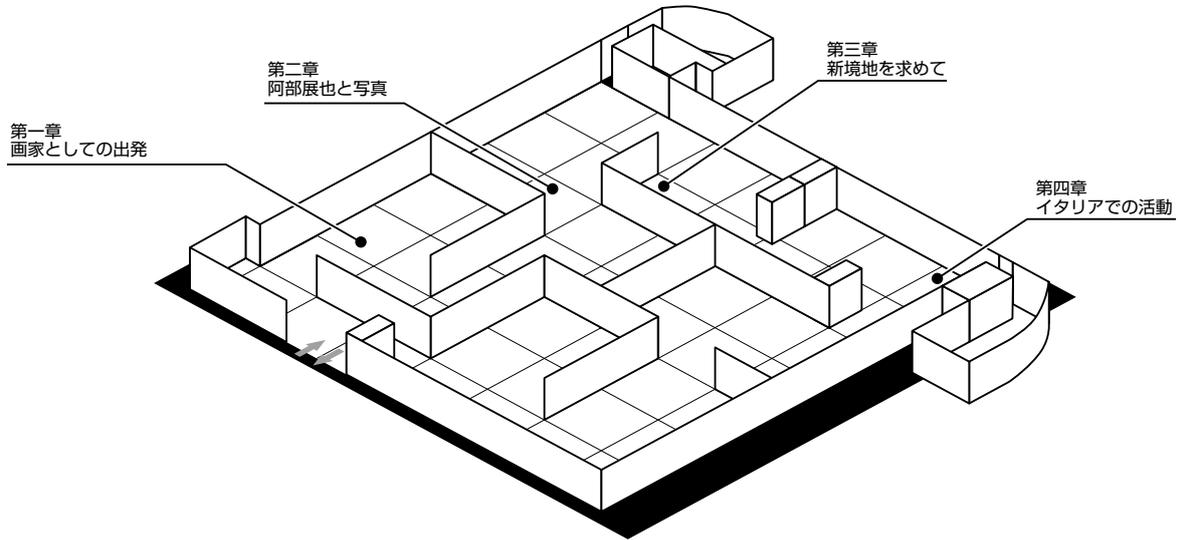
後 援：長岡市／長岡市教育委員会／新潟日报社／朝日新聞新潟総局／毎日新聞新潟支局／読売新聞新潟支局／産経新聞新潟支局／NHK新潟放送局／BSN新潟放送／NST新潟総合テレビ／TeNYテレビ新潟／UX新潟テレビ21／ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ／エフエムラジオ新潟／FM PORT 79.0／FMながおか80.7

観覧料：一般……………600円(400円)

大学・高校生……………400円(200円)

※中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金



【関連行事】

- ・美術鑑賞講座「阿部展也とその周辺」
- 日 時：2月27日(土)午後2時～
- 会 場：当館講堂
- 講 師：濱田真由美 (当館主任学芸員)
- 参加人数：11名

【関連記事】

- 新聞
- 1月26日 長岡新聞
「マルチ・アーティスト 阿部展也展」
- 2月16日 長岡新聞
「企画展『マルチ・アーティスト 阿部展也』 今日から開催」
- 2月17日 新潟日報
「前衛美術多岐に 五泉出身 阿部展也の作品展」
- 2月21日 五泉市民新聞
「五泉市生まれの画家 阿部展也忘れまい！」
- 3月12日 越後タイムス
「聞き書き阿部展也」(近代事務機社長 駒形豊)
- 3月13日 新潟日報
「本県ゆかりのマルチ・アーティスト『阿部展也』展」(近代美術館主任学芸員 濱田真由美)
- 3月14日 五泉市民新聞
「多彩な才能ほとばしる 阿部展也展」
- 3月20日 十日町新聞
「阿部展也展」

●雑誌

- 『Niigata』2月号、3月号
- 『ウィンド』2月号、3月号
- 『新潟情報』2月10日号
- 『暮らしの通信』2月20日号
- 『komachi』3月号
- 『ホットペッパー』3月号
- 『マイスキップ』3月号
- 『カルチャーにいがた』3月号
- 『JACK LAND』4月号

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	956
	前売	無し
無料観覧者数	招待	679
	免除	無し
総観覧者数		1,653
有料率 (%)		57.8

担当 濱田真由美、藤田裕彦

【出品リスト】

作家名	作品名	制作年	材質・素材	所蔵
I. 画家としての出発				
阿部展也	R-21 ROMA	1966	エンコースティック、板	板橋区立美術館
阿部展也	風景	c.1933-1935	油彩、板	新潟市美術館
滝口修造、阿部展也	『妖精の距離』より 《蝸牛の劇場》	1937	印刷物	新潟市美術館
滝口修造、阿部展也	『妖精の距離』より 《レダ》	1937	印刷物	新潟市美術館
滝口修造、阿部展也	『妖精の距離』より 《魚の欲望》	1937	印刷物	新潟市美術館
滝口修造、阿部展也	『妖精の距離』より 《瞬間撮影》	1937	印刷物	新潟市美術館
滝口修造、阿部展也	『妖精の距離』より 《遮られない休息》	1937	印刷物	新潟市美術館
滝口修造、阿部展也	『妖精の距離』より 《木魂の薔薇》	1937	印刷物	新潟市美術館
滝口修造、阿部展也	『妖精の距離』より 《反應》	1937	印刷物	新潟市美術館
滝口修造、阿部展也	『妖精の距離』より 《睡魔》	1937	印刷物	新潟市美術館
滝口修造、阿部展也	『妖精の距離』より 《影の通路》	1937	印刷物	新潟市美術館
滝口修造、阿部展也	『妖精の距離』より 《妖精の距離》	1937	印刷物	新潟市美術館
滝口修造、阿部展也	『妖精の距離』より 《風の受胎》	1937	印刷物	新潟市美術館
滝口修造、阿部展也	『妖精の距離』より 《夜曲》	1937	印刷物	新潟市美術館
阿部展也	作品	1945	インク、紙	新潟市美術館
阿部展也	Saint Divine Conception	1945	鉛筆、紙	新潟市美術館
阿部展也	Jail Song	1945	鉛筆、紙	新潟市美術館
阿部展也	Jail Song	1945	鉛筆、紙	新潟市美術館
阿部展也	Night	1947	油彩、キャンバス	新潟市美術館
阿部展也	花のデッサン #107	1948	インク、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	作品	1949	油彩、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「Adam and Eve No.2」のためのエスキース	1948	インク、紙	新潟市美術館
阿部展也	「夜曲なめくじ」より	1949	インク、水彩、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	作品51	1951	水彩、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	なめくじ夜曲	1947	インク、水彩、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	作品	1950	油彩、キャンバス	新潟市美術館
阿部展也	花子 #70	1948	インク、水彩、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	太郎	1949	油彩、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「飢え」より	1948	インク、紙	新潟市美術館
阿部展也	「埋葬」より #40	1952	鉛筆、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	夜明けB #79	1952	鉛筆、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	子供	1950	油彩、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	人	1951	油彩、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	埋葬	1952	油彩、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	埋葬2	1952	油彩、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
糸園和二郎	鳩	1958	油彩、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
杉全直	きっこう	1960	ミクストメディア、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
寺田政明	宇宙の生活	1938	油彩、キャンバス	板橋区立美術館
桂ゆき	異邦人	1961	油彩、紙、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
草間彌生	集積	1953	墨、紙	板橋区立美術館
漆原英子	MICROCOSM	1951	油彩、キャンバス	板橋区立美術館
榎本和子	断面 (I)	1951	油彩、キャンバス	板橋区立美術館
福島秀子	Work	1960	油彩、キャンバス	板橋区立美術館
八田豊	クルクルクル	1966	カーヴィング、ラッカー、真鍮版、木製パネル	新潟県立近代美術館・万代島美術館 (財団法人駒形十吉記念美術館寄託)
II. 阿部展也と写真				
濱谷浩	學藝諸家 瀧口修造 詩人	1937	モノクローム・プリント	新潟県立近代美術館・万代島美術館
濱谷浩	雪国：サイノカミの火の打ち合い	1940	モノクローム・プリント	新潟県立近代美術館・万代島美術館
大辻清司	オブジェ (『カメラ』40巻4号)	1950	雑誌	東京都写真美術館
阿部展也	『フォトアート』	1951	雑誌	東京都写真美術館
阿部展也	『写真サロン』表紙 1955年1月～11月号	1955	雑誌	新潟県立近代美術館
大辻清司	阿部展也 (『アトリエ』1950年6月号)	1950	雑誌	新潟県立近代美術館・万代島美術館
亀倉雄策	「第一回グラフィック集団展」出品作品 (複製写真)	1955	モノクローム・プリント	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「窓ガラスの中の美術」(『美術手帖』1959年1月号)	1959	雑誌	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	看護婦の像	1945	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
阿部展也	フィリピン風景より	1946	パステル、水彩、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	フィリピン風景より	1946	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
阿部展也	フィリピン風景より	1946	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
阿部展也	ドイツの男	c.1948	鉛筆、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	やかんとコップ	1947	鉛筆、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
比島派遣軍報道部	『比島戦記』	1942	書籍	個人
火野葦平	『ただいま零匹』	1956	書籍	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	連続小説「ただいま零匹」挿絵1	1955	コンテ、水彩、紙	新潟市美術館

阿部展也	連続小説「ただいま零匹」挿絵 24	1955	コンテ、水彩、紙	新潟市美術館
阿部展也	連続小説「ただいま零匹」挿絵 131	1955	コンテ、水彩、紙	新潟市美術館
阿部展也	インド旅行より #15	c.1953	コンテ、水彩、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	インド旅行より #76	c.1953	インク、水彩、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	インド旅行より #97	c.1953	クレヨン、水彩、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	インド旅行より	c.1953	コンテ、水彩、紙	新潟市美術館
阿部展也	インド旅行より 79	1953	コンテ、水彩、紙	新潟市美術館
阿部展也	インド旅行より 63	1953	コンテ、水彩、紙	新潟市美術館
阿部展也	インド旅行より 1	1953	コンテ、水彩、紙	新潟市美術館
阿部展也	インド旅行より 72	1953	コンテ、水彩、紙	新潟市美術館
阿部展也、町田甲一	『インドの石窟彫刻』	1957	書籍	新潟大学附属図書館
阿部展也(写真)	『インドの一面』	1958	書籍	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「南と北の寺」(特集:印度に何を見つけたか) (['芸術新潮'] 1960年8月号)	1960	雑誌	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「ユーゴスラビアの墓石彫刻」 (['みづゑ'] 1959年3月号)	1959	雑誌	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「遥かなりイタリアの10年 5・ユーゴスラビア のセツヴェンション」(['芸術新潮'] 1971年5月号)	1971	雑誌	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	ユーゴ、西ドイツ風景 人物スケッチ(ドゥプロヴニク)	1957	コンテ、鉛筆、水彩、紙	新潟市美術館
阿部展也	ユーゴ、西ドイツ風景 人物スケッチ(ドゥプロヴニク)	1957	コンテ、鉛筆、水彩、紙	新潟市美術館
阿部展也	ユーゴ、西ドイツ風景 人物スケッチ	1957	コンテ、鉛筆、水彩、紙	新潟市美術館
阿部展也	ユーゴ、西ドイツ風景 人物スケッチ(モスタル)	1957	コンテ、鉛筆、水彩、紙	新潟市美術館
阿部展也	ユーゴ、西ドイツ風景 人物スケッチ(ヘルツェグノヴィ)	1957	コンテ、鉛筆、水彩、紙	新潟市美術館
阿部展也	ユーゴ、西ドイツ風景 人物スケッチ(ドゥプロヴニク)	1957	コンテ、鉛筆、水彩、紙	新潟市美術館
阿部展也	ヨーロッパ風景より #51	1957	鉛筆、水彩、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	BEograd 於	1957	コンテ、水彩、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	SV.JOVAN KANEO	c.1957	コンテ、水彩、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
Ⅲ. 阿部展也と写真				
阿部展也	予言者	1954	油彩、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「シバ神幻想」より #25	c.1955	コンテ、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	人間	1955	油彩、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	作品	1956	油彩、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「人間」より #5	c.1955	鉛筆、パステル、水彩、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	作品 #37	不明	水彩、鉛筆、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	顔のうしろの顔	1957	油彩、ボード	板橋区立美術館
阿部展也	作品 #40	不明	パステル、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	顔 #32	c.1958	パステル、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	作品 #26	c.1958	パステル、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	ふくろ	c.1958	パステル、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	文字絵より #102	1959	ボールペン、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	作品 #87	1959	水彩、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	『現代アメリカ絵画』	1955	書籍	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「今日の作家 フォト・インタビュー」 (['芸術新潮'] 1959年11月号)	1959	雑誌	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「ポロック」(現代作家150人 欧米の画家 と彫刻家)(['美術手帖'] 1957年1月号)	1957	雑誌	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「今日の作家 フォト・インタビュー」 (['芸術新潮'] 1959年12月号)	1959	雑誌	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「アメリカで活躍する日本人画家」 (['芸術新潮'] 1958年10月号)	1958	雑誌	新潟県立近代美術館・万代島美術館
イサム・ノグチ	女(リシケシュにて)	1956	銅鉄	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	作品	1959	エナメル、紙、キャンバス	新潟市美術館
阿部展也	モニュメント	1959	エンコースティック、板	新潟市美術館
斎藤義重	作品 (Blue)	1961	油彩、合板	新潟県立近代美術館・万代島美術館
川端実	作品	1963	油彩、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
猪熊弦一郎	犬とネクタイ	1991	油彩、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
Ⅳ. イタリアでの活動				
阿部展也	テンプレート	1960	カラージュ、エンコースティック、板	板橋区立美術館
阿部展也	作品2、WHITE SCRIPT(E)	1960	エンコースティック、板	新潟市美術館
阿部展也	そこに人がいた	1961	エンコースティック、板	新潟市美術館
阿部展也	マス プロダクション	1961	エンコースティック、板	新潟市美術館
阿部展也	6 Lithographs	1961	リトグラフ、紙	新潟市美術館
阿部展也	作品B	1962	エンコースティック、板	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	SCRITTURA IN ROSSO	1963	エンコースティック、板	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	作品 ROMA	1963	エンコースティック、板	新潟市美術館
阿部展也	ABSTRACT	1963	ミクストメディア	新潟市美術館
阿部展也	O-ROMA	1964	エンコースティック、板	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	作品	1964	セメント、石膏、紙、板	新潟市美術館 (BSN新潟放送寄託)

阿部展也	作品 (ECHO GREEN)	1964	エンコースティック、	新潟市美術館 (BSN新潟放送寄託)
阿部展也	R-14 ROMA	1965	エンコースティック、板	新潟市美術館
阿部展也	R-8	1965	エンコースティック、板	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	R-9 ROMA	1967	エンコースティック、板	新潟市美術館
阿部展也	オブジェ (e)	1966	樹脂	新潟市美術館
阿部展也	JEMINI LAKE (R-3)	1968	油彩、板	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	R-6 ROMA	1969	アクリル、キャンバス	板橋区立美術館
阿部展也	R-29	1967	エンコースティック、板	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	R-15	1970	アクリル、キャンバス	板橋区立美術館
阿部展也	R-46 ROMA	1970	アクリル、キャンバス	新潟市美術館
BSN新潟美術館	イタリア現代絵画展	1965	展覧会カタログ	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「遥かなりイタリアの10年 4・地震におそわれたトスカーニア」 (『芸術新潮』1971年4月号)	1971	雑誌	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「フォンタナの死」 (『芸術新潮』1968年12月号)	1968	雑誌	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「<遺稿>遥かなりイタリアの10年 幻の建築家ミケラッツィ」 (『芸術新潮』1971年7月号)	1971	雑誌	新潟県立近代美術館・万代島美術館
阿部展也	「ピエロ・マンゾーニ」(特集:われを異色作家と呼ぶ) (『芸術新潮』1960年3月号)	1960	雑誌	新潟県立近代美術館・万代島美術館
ルチオ・フォンタナ	空間概念 期待	1962	水性塗料、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
ルチオ・フォンタナ	思考	1963	油彩、キャンバス	新潟市美術館 (BSN新潟放送寄託)
エンリコ・カステラーニ	白の表面 No.40	1966	油彩、キャンバス、釘	新潟県立近代美術館・万代島美術館 (財団法人駒形十吉記念美術館寄託)
ギュンター・ユッカー	LIGHT RELIEF	1959	金属、木、セメント	新潟市美術館 (BSN新潟放送寄託)
ジュゼッペ・ウンチーニ	鉄と砂	1964	砂、鉄、紙	新潟市美術館 (BSN新潟放送寄託)
ピエロ・マンゾーニ	作品 (地図)	1958	リトグラフ、紙	新潟市美術館 (BSN新潟放送寄託)
ピエロ・マンゾーニ	作品 (指紋)	1959-60	リトグラフ、紙	新潟市美術館 (BSN新潟放送寄託)
ジュゼッペ・カボグロッシ	表面 308	1959	油彩、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
レモ・ピアンコ	3D	1966	木	新潟県立近代美術館・万代島美術館 (財団法人駒形十吉記念美術館寄託)
アゴスティーノ・ボナルミ	物体	1966	合成樹脂塗料、キャンバス、木	新潟県立近代美術館・万代島美術館 (財団法人駒形十吉記念美術館寄託)
ジエトゥリオ・アルヴィアーニ	揺らぐ肌理のある表面	1966	ステンレス	新潟県立近代美術館・万代島美術館 (財団法人駒形十吉記念美術館寄託)
エミリオ・スカナヴィーノ	覚書	1961	油彩、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館 (財団法人駒形十吉記念美術館寄託)
ルチオ・デル・ベッツォ	足をもった偉大なる金	1966	油彩、金箔、木	新潟県立近代美術館・万代島美術館 (財団法人駒形十吉記念美術館寄託)
高橋秀	春	1970	アクリル、キャンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館

共 催 展

第64回新潟県美術 展覧会長岡展

第11回亀倉雄策賞受賞記念「植原 亮輔展」ならびに JAGDA 新人賞 作家作品展2009

【趣旨及び総括】

県民の日頃の創作活動の発表の場を提供し、併せて新潟県の芸術文化の振興に寄与することを目的に開設され、64回展を迎えた。

日本画・洋画・版画・彫刻・工芸・書道・写真の7部門に3,054人4,361点の応募があり、入賞作品54点、入選作品984点が選ばれた。

長岡展では、7部門の県展賞・奨励賞・新潟日報美術振興賞の入賞作品、長岡市及び周辺地域の入選作品、ならびに審査員・委員の作品、無鑑査作品を展示し、10日間で4,854名と多数の来館者があり、盛況であった。

【開催日・その他】

＝2009年6月5日(金)～6月14日(日)＝

主 催：新潟日报社・新潟県・新潟県教育委員会・
新潟市・長岡市・上越市教育委員会・小
千谷市教育委員会・佐渡市教育委員会

後 援：新潟市教育委員会・長岡市教育委員会・
上越市・小千谷市・佐渡市・新潟日報美
術振興財団

入場料：一般450円 大学生以下無料

審査員：日本画 倉島 重友（日本美術院同人）

能島 和明（日展評議員）

洋 画 工藤 和男（日展評議員）

杉山 吉伸（日展評議員）

版 画 河内 成幸（日本版画協会理事）

中山 隆右（日本版画協会理事）

彫 刻 中川 公明（文教大学非常勤講師）

能島 征二（日本芸術院会員）

工 芸 中井 貞次（日本芸術院会員）

原 典生（日展評議員）

書 道 麻生 泰久（書道評論家）

新井 光風（日展理事）

写 真 北井 一夫（写真家）

鈴木 一雄（日本写真家協会会員）

長岡展作品解説会

6月6日(土) 浦上 義昭（日本画）

堀田 正（彫刻）

石丸 雨虹（書道）

倉茂 義隆（写真）

6月7日(日) 渡辺 寿（洋画）

目黒 煌人（書道）

6月13日(土) 池山 阿有（洋画）

平澤実知雄（写真）

関 登美恵（日本画）

6月14日(日) 小川 宏（版画）

河面 元（工芸）

担当 佐藤克己

【趣旨及び総括】

JAGDA（社団法人日本グラフィックデザイナー協会）初代会長の故亀倉雄策氏のコレクションを所蔵する新潟県立近代美術館において、同氏を讃えて創設された「亀倉雄策賞」の受賞作家作品展を継続開催することで、更なるグラフィックデザインの発展に寄与する。また、「JAGDA新人賞」の受賞作家の作品展を併せて開催することによって、日本のグラフィックデザインの最新かつ最良の作品を展示し、多くの人にグラフィックデザインの創造性と面白さを感じてもらい、デザインへの理解と親近感を醸成することを目的とする。

作品展示と併せて、会期中に出品作家によるトークイベントを開催したことで、県内在住のデザインを学ぶ若者やデザイナーとの交流を図ることができた。

【開催日・その他】

2009年10月17日(土)～10月25日(日) 8日間

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：長岡造形大学、新潟県立近代美術館、社
団法人日本グラフィックデザイナー協会
(JAGDA)

協 力：長岡デザインフェア2009実行委員会、新潟
県立近代美術館友の会、長岡デザインフォー
ラム、クリエイションギャラリーG8、亀倉
雄策賞事務局、THEATRE PRODUCTS、
THEATRE MUSICA、LITTLE MORE、
KOHAN、TAIYO PRINTING、DRAFT/
D-BROS

入場無料

開催記念トークイベント：10月25日(日) 13:30～

16:45（新潟県立近代美術館 講堂）

パート1 13:30～15:00

JAGDA新人賞トーク（色部義昭・岡田善
敬・榮良太）

パート2 15:15～16:45

亀倉雄策賞トーク（植原亮輔）

担当 濱田真由美

第49回長岡市美術 展覧会

【趣旨及び総括】

美術を愛する市民の創作活動の成果を発表する場として、また、生活の中に美術を味わう楽しさを普及していくことをねらいとして開催された。

日本画、洋画、彫刻、工芸、書道、写真の6部門に、740人972点の応募があり、入賞作品60点、入選作品648点が選ばれた。長岡市長賞、奨励賞、新潟日報美術振興賞の入賞作品と入選作品、ならびに審査員の作品を展示した。多数の来館者があり盛況の内に終了した。

【開催日・その他】

2009年11月11日(水)～11月15日(日)

会場：新潟県立近代美術館企画展示室、
常設展示室1

主催：長岡市、長岡市教育委員会

共催：新潟県立近代美術館

後援：新潟日报社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、FMながおか80.7、長岡新聞社、(財)新潟日報美術振興財団、(財)新潟県文化振興財団、(財)長岡市芸術文化振興財団

主管：長岡市美術協会

事務局：長岡市 市民協働部 生涯学習文化課内

観覧料：無料

審査員：日本画 柴田 長俊 (創画会常務理事)

大矢十四彦 (日本美術院特待)

洋画 上山 良子 (長岡造形大学学長)

福岡 奉彦 (独立美術協会会員)

彫刻 大成 浩 (国画会彫刻部会員)

工芸 坂爪 勝幸 (陶芸家)

鈴木 均治 (国画会工芸部会員)

書道 三膳 春雪 (書壇院参事)

菅井 柳翠

(新潟県美術家連盟参事)

写真 齋藤 康一

(日本写真家協会常務理事)

山田 昌男

(日本写真家協会会員)

担当 立川厚生

第40回新潟県ジュニア 美術展覧会長岡展

【趣旨及び総括】

園児、児童、生徒を対象とした全県規模のコンクール。今回で40回目を迎えた。

県内765の幼稚園、小・中学校、特別支援学校などから37,315点の応募があり、県内外の審査員により選ばれた1,840点を新潟市、上越市、柏崎市、長岡市の4カ所で巡回展示した。長岡展は当館で開催され、土・日曜日には親子連れの観覧者も多かった。

【開催日・その他】

新潟展 2009年11月29日(日)～12月12日(土)

(新潟県民会館ギャラリー)

上越展 2010年1月14日(木)～1月18日(月)

(上越大和)

柏崎展 2010年1月21日(木)～1月25日(月)

(柏崎市ソフィアセンター)

長岡展 2010年1月29日(金)～2月7日(日)

(新潟県立近代美術館)

主催：新潟日报社・新潟県教育委員会・新潟県立近代美術館・新潟県美術教育連盟・新潟市教育委員会・長岡市教育委員会・上越市教育委員会・柏崎市教育委員会

後援：新潟日報美術振興財団

入場無料

審査員

幼稚園・保育園 (3～5歳)

松本健義 (上越教育大学准教授)

小学校 (1年)

春日明夫 (東京造形大学教授)

小学校 (2年)

結城和廣 (長岡造形大学教授)

小学校 (3年)

岩崎由紀夫 (大阪教育大学教授)

小学校 (4年)

林 耕史 (群馬大学准教授)

小学校 (5年)

水島尚喜 (聖心女子大学教授)

小学校 (6年)

服部鋼資 (東京福祉大学短期大学部教授)

中学校 (1年～3年)

柳沼宏寿 (新潟大学准教授)

特別支援学校

山田芳明 (鳴門教育大学准教授)

第13回長岡市中学校 美術部作品展

応募点数 幼児 4,799点
特賞3点 優秀賞26点
奨励賞253点 佳作4,517点
小学校 29,402点
特賞18点 優秀賞147点
奨励賞1,426点 佳作27,811点
中学校 3,114点
特賞9点 優秀賞17点
奨励賞161点 佳作2,927点
総合計 37,315点
特賞30点 優秀賞190点
奨励賞1,840点 佳作35,255点

担当 野村宏毅

【趣旨及び総括】

活動の成果を披露する場の少ない美術部に作品発表の機会を提供しようと始まった。生徒が伸び伸びと制作した作品を発表できる場を目指し、テーマや賞などは設けていない。親子連れなど、多くの観覧者があった。

【開催日・その他】

2009年11月14日(土)・15日(日)
会場：新潟県立近代美術館ギャラリー
主催：長岡悠久ライオンズクラブ
共催：新潟県立近代美術館
後援：長岡市教育委員会・長岡造形大学
参加校：東中・宮内中・東北中・西中・江陽中・
堤岡中・山本中・大島中・青葉台中・
旭岡中・三島中・小国中・秋葉中・附属中
入場無料

担当 立川厚生

第13回新潟県立美術館 友の会作品展

【趣旨及び総括】

友の会会員の制作した作品を募集し、会員の結束を図りながら、美術館の運営や活動に協力することを目的として、平成9年度に企画、開催を続けている。

第13回展では、会員24名による37点と長岡市美術協会の賛助作品7点を展示紹介した。

賛助作品については、平成16年度、友の会10周年にあたる第8回展より、当会発足の支援を行った長岡市美術協会への感謝を表し、展示を通じた交流の機会としている。

また、作品制作の楽しさを、広く身近に感じてもらうため、同時開催として、会場内にコーナーを設け、平成21年3月、佐渡市相川で開催された『第9回全国高等学校版画選手権大会「はなが甲子園」本選大会』の高校生による版画作品14点を展示紹介した。

【開催日・その他】

2009年9月20日(日)～10月4日(日)

会場：新潟県立近代美術館ギャラリー

主催：新潟県立美術館友の会、新潟県立近代美術館

入場無料

担当 佐藤和子（新潟県立美術館友の会事務局）

友の会15周年記念展「友の会 15周年のあゆみ～近代美術 館・万代島美術館とともに～」

【趣旨及び総括】

友の会15周年の記念事業として、今まで近代美術館、万代島美術館で開催された展覧会のポスターを一堂に展示しながら、両館とともに歩んできた友の会の活動を画像や資料で紹介した。

同時開催として、東京のクリエイションギャラリー G8で企画された『「手ぬぐい TOKYO」200人のクリエイターによる200の提案』を併設展示した。国内外で活躍するクリエイターのデザインする手ぬぐいを展示することにより、地方ではなかなか見ることのできない鑑賞の機会を会員のみならず、多くの来館者に提供した。

【開催日・その他】

2010年3月20日(土)～28日(日)

会場：新潟県立近代美術館ギャラリー

主催：新潟県立美術館友の会、新潟県立近代美術館

協力：新潟県立万代島美術館

入場無料

担当 佐藤和子（新潟県立美術館友の会事務局）

企画展



金GOLD 黄金の国ジパングと佐渡金銀山展

【趣旨】

金—GOLDは、古代から腐食しない金属として王冠や装身具に利用され、仏教の世界では仏像や仏具が金で装飾された。また、桃山時代には金箔を多用した障壁画が数多く制作され、江戸時代からはその貴重性から大判・小判などの貨幣としても利用された。現在においては、工芸作品の素材として使用されるのみならず、情報機器などの工業製品の部品としても用いられている。

このような金を用いた様々な作品と共に、金鉱石や砂金、金の延べ棒といった金そのものも展示した。

さらに、新潟県と佐渡市が世界遺産登録に取り組んでいる、かつて日本一の金産出量を誇った佐渡金銀山の歴史を、資料やパネルにより紹介した。

【総括】

●評価すべき点

- ・歴史、自然科学、美術工芸といった様々な切り口から金の魅力に迫るといふ、これまでにない視点を取り入れた展覧会であった。展示内容は鉱石、金塊、工芸品、絵巻、映像と多岐にわたった。
- ・万代島美術館としては初めて国宝及び重要文化財を展示した。
- ・巡回展に独自の佐渡金銀山展を併設し、両者が相互に補完しあう効果的な展示構成であった。
- ・佐渡金銀山の世界に誇るべき価値をPRし、同遺跡の世界遺産登録に向けた気運醸成の一端を担った。

●検討課題

- ・展示内容は博物館的要素が強く、必ずしも従来の美術館の客層が期待するものではなかった。
- ・観覧者数が伸び悩んだ。冬場の悪天候や多忙な年度の変わり目をはさむ会期設定などがその理由として考えられる。

【開催日・その他】

=2009年4月1日(水)~4月19日(日)=(19日間)

主催：新潟県教育委員会、佐渡市教育委員会、新潟日報社、BSN新潟放送、金GOLD黄金の国ジパングと佐渡金銀山展実行委員会

共催：毎日新聞社

後援：文部科学省、新潟市、新潟市教育委員会、NHK新潟放送局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエムしばた、燕三条エフエム放送、佐渡テレビジョン

協賛：あいおい損害保険、SGC信州ゴールデンキャッスル、DOWAホールディングス、日本写真印刷

協力：弥永北海道博物館、ユミカツラインターナショナル

学術協力：国立科学博物館

観覧料：一般……1,100円(1,000円)〈900円〉

大学・高校生……600円(500円)

中学生以下無料

※ () 内は20名以上の団体料金

※ 〈 〉 内は前売券料金

【関連行事】

展示品解説会

土、日 午後2時より
(他のイベントがある日を除く)

講演会

「佐渡金銀山の開発と支配—上杉・豊臣・徳川氏と“佐渡”国」
4月11日(土) 13:00～15:00
朱鷺メッセ 中会議室301
長谷川伸 (新潟市歴史博物館学芸員)
参加人数：93名

【図録】

●黄金の国ジパング展図録

販売部数：285部
無料配布部数：180部
仕様：A4版、144頁
編集：国立科学博物館、毎日新聞社
発行：国立科学博物館、毎日新聞社、NHKプロモーション
内容：1 金利用の歴史
2 金の科学
3 現代の金利用

●佐渡金銀山展

販売部数：259冊
無料配布部数：250部
仕様：A4版、40頁
編集：新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室、佐渡市教育委員会世界遺産・文化振興課
発行：金GOLD黄金の国ジパングと佐渡金銀山展実行委員会
内容：1 佐渡の金
2 上杉と佐渡金銀山

- 3 近世の相川金銀山
- 4 近代化された佐渡鉱山
- 5 世界遺産登録に向けて

【関連記事】

●新聞

・新潟日報
4/6(月)、4/7(火)、4/10(金)、4/18(土)
・毎日新聞
〔連載「輝きいまも」〕
⑦4/1(水)絵巻、⑧4/3(金)水上輪、⑨4/14(火)鉛板、⑩4/15(水)削岩機
〔その他〕
4/7(火)、4/18(土)

●テレビ

・BSN新潟放送
〔ニュース〕
4/10(金)北島康介選手2004アテネ五輪金メダル
〔イブニング王国〕
インフォメーション4/17(金)

●情報誌等

・トッとキガイド 3・4月号

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	2,877
	前売	2,075
無料観覧者数	無料	1,400
	免除	232
総観覧者数		6,584
有料率 (%)		75.2

担当 文化行政課世界遺産登録推進室



美の視点 記憶のかたち

【趣旨】

当館はこれまで「新潟の美術2004 新潟の作家100人」「新潟の美術2006 新潟の作家100人」を開催し、県ゆかりの現役作家の紹介に努めてきた。本展では、一人一人の創作活動をより深く観客に理解してもらうため、作家数を絞り、9名の作家による個展形式の展覧会という新たな試みを行った。

作家および作品選定は美術館が行った。結果として、日本画の稲田亜紀子、小林充也、杉原伸子、洋画の麻績勝広、近藤亮、西村満、版画の鶴巻貴子、彫刻の星野健司、映像の吉原悠博とジャンルは多岐にわたり、作家の年齢層も30代から70代と幅広い人選となった。

各作家の記憶から生み出される作品が、鑑賞者の記憶とどこかで重なり、鑑賞者にとって作品が身近に感じられるよう、展覧会タイトルを「記憶のかたち」とした。

アンケートでは地元作家の作品に対する好意的な意見が寄せられた。また、新たな作家を知ることができたという意見も見られた。様々な形式で県ゆかりの作家を紹介していくという県立美術館としての使命を再確認した。

【総括】

●評価すべき点

・個展形式とすることで、これまでの100人展とは異なり、一人一人の創作活動をより丁寧に紹介することができた。

- ・年齢や経歴、ジャンルに制限を設けなかったことで、幅広い層が楽しむことのできる展覧会となった。
- ・各作家について学芸員がカタログに小文を寄せ、作品の理解の助けとすることができた。
- ・会期中、出品作家を会場に招きアーティスト・トークを行った。作品を前にして作家の生の声が聞けることは観客にとっても有意義であったようであり、好評であった。

●検討課題

- ・単独開催の自主企画であったため広報面で苦戦した。
- ・展覧会の内容をよりわかりやすく伝える方法を工夫する必要があった。

【開催日・その他】

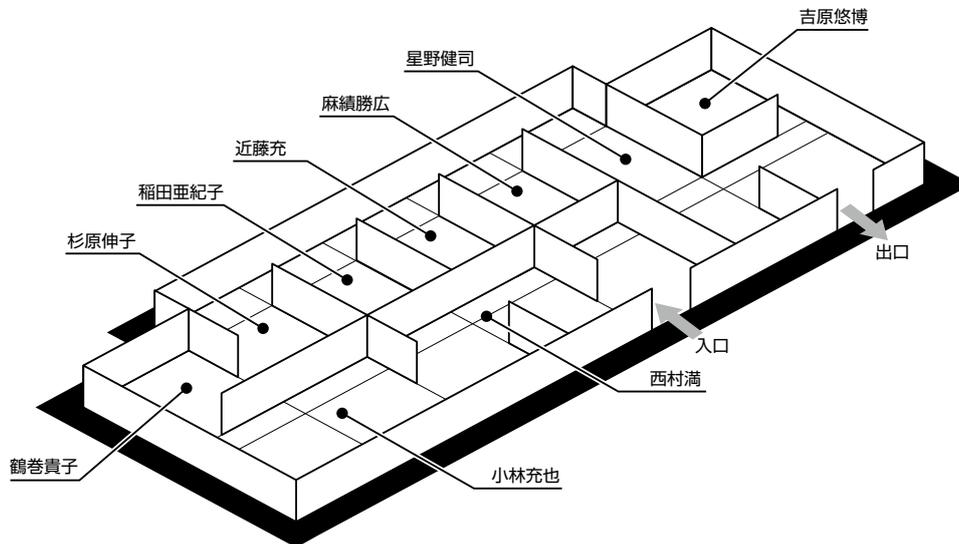
＝2009年5月2日(土)～6月21日(日) (45日)＝

主催：新潟県立万代島美術館

後援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般……………800円 (600円) <600円>

大学・高校生……………500円 (300円)



中学生以下無料

※ () 内は20名以上の団体料金

※ < > は前売り券料金

【関連行事】

・アーティスト・トーク

第1回 小林充也

5月2日(土)・万代島美術館展示室

参加人数：24名

第2回 杉原伸子

5月4日(月・祝)・万代島美術館展示室

参加人数：30名

第3回 麻績勝広

5月9日(土)・万代島美術館展示室

参加人数：26名

第4回 星野健司

5月10日(日)・万代島美術館展示室

参加人数：15名

第5回 吉原悠博

5月16日(土)・万代島美術館展示室

参加人数：22名

第6回 稲田亜紀子

5月17日(日)・万代島美術館展示室

参加人数：25名



第7回 西村満

5月24日(日)・万代島美術館展示室

参加人数：50名

第8回 近藤充

5月31日(日)・万代島美術館展示室

参加人数：35名

第9回 鶴巻貴子

6月7日(日)・万代島美術館展示室

参加人数：26名

・解説会

他イベント開催日を除く土・日・祝日(全9回)

万代島美術館展示室

当館学芸員

参加人数：延べ50名

【図録】

製作部数：1000冊

販売部数：233冊

無料配布部数：410冊

仕様：A4変形(27.5×21.0cm)版

72頁オールカラー

編集：新潟県立万代島美術館

発行：新潟県立万代島美術館

内容：

西村満 図版

「記憶の風景」藤田裕彦



小林充也 図版

「ふるさとへの〈追憶と夢〉」小見秀男

鶴巻貴子 図版

「カタチをつくる、版の記憶へ」小見秀男

杉原伸子 図版

「記憶の底から芽生えるもの」池田珠緒

稲田亜紀子 図版

「記憶の淵で」池田珠緒

近藤充 図版

「記憶をさがす旅」澤田佳三

麻績勝広 図版

「記憶の時間」澤田佳三

星野健司 図版

「鉄に託された記憶と希望」高晟峻

吉原悠博 図版

「土地の記憶」藤田裕彦

略歴

出品リスト

●テレビ

4月30日(木) NHKくらしのガイド

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	2,106
	前売	322
無料観覧者数	無料	1,314
	免除	245
総観覧者数		3,987
有料率 (%)		60.9

担当 池田珠緒、澤田佳三

【関連記事】

●新聞

5月26日(火) 新潟日報

郷愁誘う色彩の調和 個展形式作家9人競演

／池田珠緒

その他

新潟日報 (5/3日、5/25月)

北日本新聞 (6/4木)

【出品リスト】

作者名	No.	作品名	制作年	初出展覧会	素材・技法	寸法(縦×横cm)	所蔵
にしむらみつる 西村満							
	1	北の湿地	1979	個展	油彩、キャンヴァス	97.0×194.0	
	2	北辺	1979	スペース'79 今日のイメージ展	油彩、キャンヴァス	97.0×194.0	
	3	北の野	1984	1985年藝展	油彩、キャンヴァス	97.0×194.0	
	4	秋の野	1984	第28回安井賞展	油彩、キャンヴァス	97.0×194.0	新潟市美術館
	5	北の浜	1984	個展	油彩、キャンヴァス	112.0×194.0	
	6	海風	1987	第73回光風会展	油彩、キャンヴァス	97.0×145.5	新潟県警察学校
	7	黎明	1991	第2回浅井忠記念賞展	油彩、キャンヴァス	97.0×227.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
	8	北の曠野	1994	シリーズ新潟の美術'95	油彩、キャンヴァス	97.0×227.0	
	9	北の浜	1996	にいがたアートナウ1997	油彩、キャンヴァス	97.0×194.0	
	10	廃墟の階段	1999	第85回記念光風会	油彩、キャンヴァス	162.0×130.0	
	11	廃墟の階段	1999	第31回日展	油彩、キャンヴァス	162.0×130.0	
	12	廃墟の階段	2000	第86回光風会展	油彩、キャンヴァス	162.0×130.0	
	13	廃墟の階段	2001	第87回光風会展	油彩、キャンヴァス	162.0×130.0	
	14	廃墟の階段	2001	第33回日展	油彩、キャンヴァス	162.0×130.0	
	15	廃墟の階段	2003	第35回日展	油彩、キャンヴァス	162.0×130.0	

 こばやしみつや
小林充也

	1	朝市	1998	第30回日展	麻紙、膠彩	200.0×190.0	
	2	国道	2001	第36回日春展	麻紙、膠彩	130.3×89.4	
	3	夜景	2002	第34回日展	麻紙、膠彩	195.0×190.0	
	4	サーカス	2003	第35回日展	麻紙、膠彩	195.0×190.0	
	5	ローカル線	2003	第38回日春展	麻紙、膠彩	90.9×116.7	
	6	夜景	2004	第36回日展	麻紙、膠彩	170.0×225.0	
	7	ふるさとの夢	2004	個展	麻紙、膠彩	186.5×370.8	
	8	夕ぐれ刻	2006	第41回日春展	麻紙、膠彩	116.7×90.9	
	9	ひと泳ぎ	2006	第38回日展	麻紙、膠彩	170.0×225.0	
	10	帰り道	2007	第39回日展	麻紙、膠彩	200.0×200.0	
	11	夏の宴	2008	第40回日展	麻紙、膠彩	200.0×200.0	

 つるまきたかこ
鶴巻貴子

	1	晴れの日のズレ ～春夏秋冬を偲ぶ～	2002	第57回県展 (県展賞)	エッチング、アクアチント、ソフトグラ ンドエッチング、ドライポイント	36.0×84.5	
	2	夢際わのホール	2003	第58回県展 (奨励賞)	エッチング、アクアチント、ソフ トグラインドエッチング	53.0×75.0	
	3	one life, one day ワンライフ、ワンデイ	2004	第73回日本版画協会展 (山口源新人賞)	エッチング、アクアチント	100.0×120.0	
	4	winter land ウィンター ランド	2005	個展	エッチング、アクアチント	60.5×60.5	
	5	queen box クイーン ボックス	2005	個展	エッチング、アクアチント	60.5×60.5	
	6	lonely new paradise ロンリー ニュー パラダイス	2006	第74回日本版画協会展	エッチング、アクアチント	95.0×120.0	
	7	child nature チャイルド ネイチャー	2005	第10回浜松版画大賞展 (奨励賞)	エッチング、アクアチント	60.5×94.0	
	8	hello house ハロー ハウス	2005	第60回県展 (第60回記念賞)	エッチング、アクアチント	45.5×86.5	
	9	neo nature ネオ ネイチャー	2007	第76回日本版画協会展 (2008)	エッチング、アクアチント	60.0×77.0	
	10	merry märchen メリーメルヘン	2008	個展	エッチング、アクアチント	95.0×120.0	
	11	planète pure プラネットピュール(トリア)	2008	個展	エッチング、アクアチント	42.5×60.5	
	12	spring station スプリングステーション	2009		エッチング、アクアチント、 エンボス	60.5×60.5	
	13	forest fantasia フォレストファンタジア	2009		エッチング、アクアチント、 エンボス	72.0×52.0	
	14	pure philosophy ピュアフィロソフィ	2009		エッチング、アクアチント、 エンボス	90.0×111.5	

 すぎはらのぶこ
杉原伸子

	1	土	1991	第8回多摩総合美術展(佳作賞)	和紙、膠彩	91.0×91.0	財団法人守谷育英会
	2	翼のもとで	1992	第19回春季企画展(1993)	和紙、膠彩	116.7×116.7	
	3	心の顔	1996	個展	和紙、膠彩	37.2×30.1	

4	春を運ぶ舟	2002	個展	和紙、膠彩	50.1×113.0
5	夜間飛行#1	2002	個展	和紙、膠彩	36.3×27.2
6	夜間飛行#2	2002	個展	和紙、膠彩	42.0×110.0
7	夜間飛行#3	2002	個展	和紙、膠彩	36.0×42.1
8	夜間飛行#4	2002	個展	和紙、膠彩	42.2×110.0
9	夜間飛行#5	2002	個展	和紙、膠彩	36.3×27.5
10	記憶の森	2003	個展	和紙、膠彩	32.0×41.0
11	花の記憶	2003	個展	和紙、膠彩	32.0×27.5
12	風の記憶	2003	個展	和紙、膠彩	23.5×30.5
13	光の記憶	2003	個展	和紙、膠彩	25.0×31.5
14	ハルガキタ	2007	個展	和紙、膠彩	42.0×53.0
15	ハルノオト	2007	個展	和紙、膠彩	72.0×72.0
16	ひかりのはこ	2007	個展	和紙、膠彩	42.0×53.0
17	ひかりのはこ#2	2007	個展	和紙、膠彩	16.2×23.0
18	ヒナタノオト#1	2007	個展	和紙、膠彩	59.5×84.0
19	ヒナタノオト#2	2007	個展	和紙、膠彩	59.5×84.0
20	煙突のある風景	2007	個展	和紙、膠彩	41.0×32.0
21	遠い記憶	2007	個展	和紙、膠彩	16.2×23.0
22	客人の訪れ	2007	個展	和紙、膠彩	53.0×42.0
23	薫る風	2007	個展	和紙、膠彩	42.0×53.0
24	春の雨	2007	個展	和紙、膠彩	42.0×53.0
25	飛行	2007	個展	和紙、膠彩	41.0×32.0
26	六月	2007	個展	和紙、膠彩	30.0×42.0
27	風を探す旅	2008	第34回春季企画展	和紙、膠彩	122.9×97.4
28	空と水の間に	2009		和紙、膠彩	130.5×162.1
29	静かなはじまり	2009		和紙、膠彩	162.1×130.5
30	HORIZON -はじまりの色-	2009		和紙、膠彩	130.5×162.1
31	HORIZON -青-	2009		和紙、膠彩	45.0×182.2
32	HORIZON -赤-	2009		和紙、膠彩	45.0×182.2

いなだあきこ
稲田亜紀子

1	碧の記憶	2001	第36回日春展	雲肌麻紙、岩絵具	128.0×88.5
2	記憶の在処	2004	第36回日展	雲肌麻紙、岩絵具	171.8×227.3
3	水脈	2005	第37回日展	雲肌麻紙、岩絵具	181.8×227.3
4	伝言	2006	第41回日春展	雲肌麻紙、岩絵具	116.7×91.0
5	光輪	2006	第38回日展(特選)	雲肌麻紙、岩絵具	181.8×227.3
6	約束	2008	第40回日展	雲肌麻紙、岩絵具	181.8×227.3
7	夜の潭 ※5月16日より展示	2009	第44回日春展	雲肌麻紙、岩絵具	91.0×116.7
8	宙の話	2009		雲肌麻紙、岩絵具	97.3×130.3
9	兆	2009		雲肌麻紙、岩絵具	60.8×85.0

こんどうみつる
近藤充

1	月祭り	1998	第5回雪梁舎展(奨励賞)	テンペラ、油彩、箔、キャンヴァス	116.7×116.7
2	花霊	1998	第8回花の美術大賞展	テンペラ、油彩、箔、キャンヴァス	91.0×116.7
3	往還	2000	第2回雪梁舎フィレンツェ賞展(特別賞)	テンペラ、アクリル、墨、木炭、キャンヴァス、パネル	162.0×162.0 雪梁舎美術館寄託
4	未生/現生/後生	2002	白の会展	墨、アクリル、泥、顔料、木炭、麻布、紙	各162.0×162.5(3点)
5	夢想花	2003	個展	テンペラ、アクリル、泥、キャンヴァス、パネル	45.5×65.2
6	冠露	2005	個展	テンペラ、アクリル、箔、泥、キャンヴァス	45.2×27.2
7	春風	2005	個展	テンペラ、アクリル、箔、泥、キャンヴァス	45.2×27.2
8	夏睡	2009		テンペラ、アクリル、箔、泥、キャンヴァス、パネル	91.0×91.0
9	ある神話	2009		テンペラ、アクリル、岩絵具、泥、麻布	162.0×126.5
10	常世	2009		テンペラ、アクリル、岩絵具、麻布、パネル	61.0×145.5

おみかつひろ
麻績勝広

1	海の小石Ⅱ	1996	第73回春陽会展	油彩、キャンヴァス	97.0×193.9
2	冬の海Ⅱ	2000	第77回春陽会展	油彩、キャンヴァス	97.0×193.9
3	海の小石Ⅱ	2004	第81回春陽会展	油彩、キャンヴァス	193.9×130.3
4	海の石	2005	第82回春陽会展	油彩、キャンヴァス	145.5×145.5
5	海の石	2006	第83回春陽会展	油彩、キャンヴァス	193.9×97.0

6	泡と瓶	2007	第9回雪梁舎フィレンツェ賞展 (フィレンツェ大賞)	油彩、キャンヴァス	162.1×112.1	雪梁舎美術館寄託
7	泡と石 I	2007	第84回春陽会展(奨励賞)	油彩、キャンヴァス	193.9×97.0	
8	泡と石 II	2007	第84回春陽会展	油彩、キャンヴァス	193.9×112.1	
9	泡08-II	2008	第85回春陽会展(春陽会賞)	油彩、キャンヴァス	193.9×112.1	
10	泡	2008	第9回春陽会研究会選抜展	油彩、キャンヴァス	162.1×130.3	

ほしのけんじ
星野健司

1	ライダートリックスターII	1993	第3回横浜彫刻展	鉄	27.0×54.0×36.0	
2	ライダートリックスターVII 超レダ	1994	日向現代彫刻展(1998)	鉄、ステンレス	125.0×260.0×165.0	
3	ライダートリックスターVI	1994	個展	鉄	90.0×128.0×76.0	
4	ライダートリックスターV アトミック・ヴァージョン	1995	第2回木内克大賞野外彫刻展	鉄、ステンレス	100.0×227.0×111.0	
5	ライダートリックスターXII アマゾン	1997	個展	鉄	34.0×70.0×46.0	
6	ライダートリックスターXV アマゾン	1999- 2006	個展	鉄、ステンレス	43.5×100.0×69.0	
7	神聖舞踏ダフネXIII	2002	センツァフロンティエーレ かわさき(2003)	ステンレス、御影石	15.5×33.0×43.5	ギャラリー Space S

よしはらゆきひろ
吉原悠博

1	新川史眼	2007/ 2009	アートクロッシング2007にいがた 西区DEアート	ミクストメディア、プロジ ェクター		
---	------	---------------	------------------------------	----------------------	--	--



没後80年記念 佐伯祐三展 —パリで天逝した天才画家の道—

【趣旨】

洋画家・佐伯祐三（1898～1928）が遠くパリの地で没してから80年が経過するのを記念し、今もなお多くの人々の心に刻まれる佐伯の絵画芸術を、代表作約100点によってたどる大規模な回顧展。

大阪に生まれた佐伯は、東京美術学校（現・東京藝術大学）に学んだ後、渡欧。フォーヴィスムの巨匠ヴラマンクを訪問したことを転機に新たな表現に開眼し、ユトリロの影響も受けつつパリの街を舞台に独自の画風を築いていく。その後一時帰国はするものの、パリへの思いは断ちがたく再びフランスへ渡り、そして30歳という短くも情熱を燃やした生涯を閉じるのだった。この佐伯祐三の創造の軌跡を彼と深く関わりのあった画家たちの作品約20点とあわせて紹介し、佐伯芸術の成立とその広がりを展望した。新潟県内では、19年ぶりの佐伯祐三展となった。

本展は、佐伯作品の最大の所有先となる大阪市立近代美術館建設準備室の特別協力の下、大阪市立美術館、高松市美術館、北海道立近代美術館、そして当館の全国4館で共同開催し巡回した。新潟会場では、当館および新潟日报社、BSN新潟放送の3社で実行委員会を組織して開催した。

【総括】

- 評価すべき点
 - ・県内では19年ぶりの開催となった佐伯祐三展は、関連画家も含めて過去最大規模の充実した

内容となった。

- ・夏休み期間中でもあり主に中学生を対象とした鑑賞資料ジュニアセルフガイドを新潟市内の美術担当の中学校教員らとともに3種類作成し、会場内の各コーナーに配置した。中学生のみならず一般鑑賞者に対しても、佐伯の画風の変遷とその特徴を分かりやすく示すことができた。
- ・会場内の作品解説・作家略歴等のキャプション類を鑑賞者の読みやすさを重視して新潟会場独自に制作した。

●検討課題

- ・作品を保護するための結界の保有数に限度があり、結界の設置方法に不統一感が出てしまった。鑑賞と作品保護の両面から結界の設置方法について今後の検討と改善が残った。

【開催日・その他】

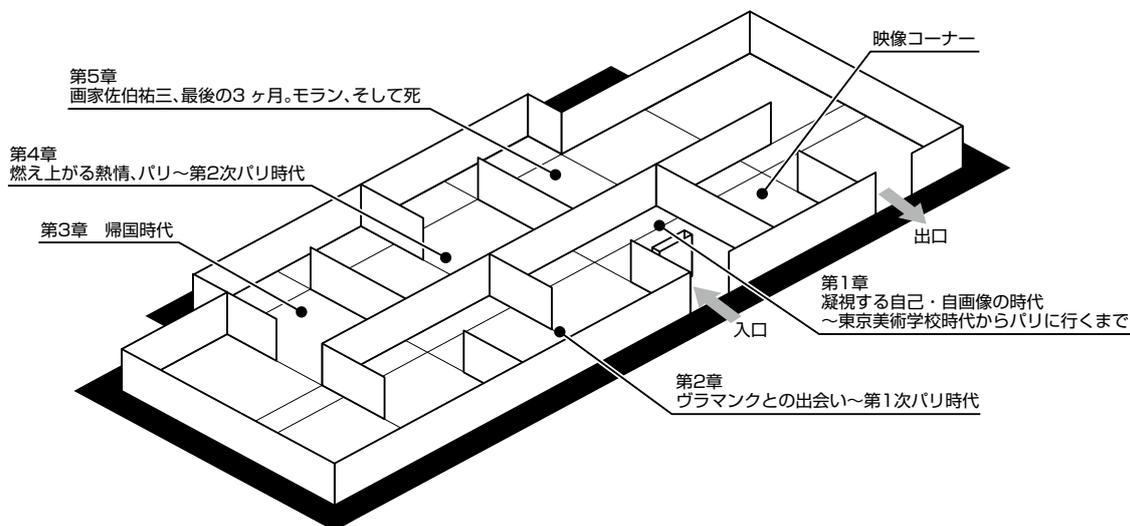
＝2009年7月4日(土)～8月30日(日) (58日間)＝

主催：新潟県立万代島美術館／新潟日报社／BSN新潟放送／「佐伯祐三展」新潟展実行委員会／新潟日報美術振興財団

後援：新潟市／新潟市教育委員会／NHK新潟放送局／エフエムラジオ新潟／FM PORT 79.0／FM KENTO／ラジオチャット・エフエム新潟／エフエムしばた／燕三条エフエム放送株式会社

特別協賛：三井ホーム 北新越ホーム株式会社

協賛：野崎印刷紙業株式会社／ニッセイ同和損害保険株式会社



特別協力：大阪市立近代美術館建設準備室
 協力：ヤマトロジスティクス株式会社
 観覧料：一般…1,000円(800円)<800円>
 大学・高校生……500円(300円)
 中学生以下無料
 ※ () は有料20名以上の団体料金
 ※ < > は前売り券料金

【関連行事】

- ・講演会
 「佐伯祐三とその芸術」
 7月4日(土) 14:00 ~ 15:40
 万代島ビル11階NICOプラザ会議室にて
 講師：橋爪節也氏
 (大阪大学総合学術博物館教授)
 参加人数：56名
- ・トーク・イベント
 「Noism 金森穰 佐伯祐三を通じ創作を語る」
 7月26日(日) 18:30 ~ 19:30
 万代島美術館展示室にて
 語り手：金森穰 (Noism芸術監督)、
 石塚おり (BSN新潟放送)、
 澤田佳三 (当館主任学芸員)
 参加人数：36名
- ・美術鑑賞講座
 「佐伯祐三—天才画家という存在」
 8月8日(土) 14:00 ~ 15:30

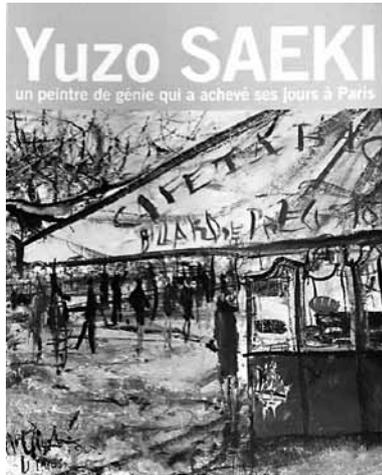
万代島ビル11階NICOプラザ会議室にて
 講師：澤田佳三(当館主任学芸員)
 参加人数：60名

- ・作品解説会
 会期中の土・日・祝日
 (ただし他のイベントがある日は除く)
 14:00より、美術館展示室にて、当館学芸員
 参加人数：延べ467名

- ・入場者1万人記念セレモニー
 8月13日(土) 13:00頃
 美術館エントランスロビーにて

【図録】

制作部数：4会場で作成
 販売部数：1,199冊
 無料配布部数：250冊
 仕様：A4判変形 本文240頁
 編集：橋爪節也 (大阪大学)
 熊田 司
 (大阪市立近代美術館建設準備室)
 菅谷富夫
 (大阪市立近代美術館建設準備室)
 執筆：橋爪節也
 熊田 司
 菅谷富夫
 久米淳之 (北海道立近代美術館)
 澤田佳三 (新潟県立万代島美術館)



小川知子
(大阪市立近代美術館建設準備室)
高柳有紀子
(大阪市立近代美術館建設準備室)
清原佐知子
(大阪市立近代美術館建設準備室)

翻訳：原 マヤ

デザイン：木村泰子、西家久雄（鮮デザイン）

印刷：野崎印刷紙業株式会社

発行：産経新聞大阪本社

内容：

- ・「新出作品三、四を論じて、佐伯絵画の要諦に及ぶ—藝術に相渉るとは何の謂ぞ—」熊田司
- ・図版
 - 第1章 凝視する自己・自画像の時代～東京美術学校からパリに行くまで～
 - 第2章 ヴラマンクとの出会い～第1次パリ時代～
 - 第3章 帰国時代
 - 第4章 燃え上がる熱情、パリ～第2次パリ時代～
 - 第5章 画家佐伯祐三、最後の3ヶ月。モラン、そして死
- ・「佐伯祐三に関する二、三の断章」橋爪節也
- ・「『天才画家・佐伯祐三』の意味」澤田佳三
- ・「エコール・ド・パリの終焉と佐伯祐三」久米淳之
- ・佐伯祐三年譜／高柳有紀子編
- ・佐伯祐三関係・主要展覧会記録／小川知子編

- ・主要参考文献／高柳有紀子編
- ・関連作家解説
- ・「佐伯祐三とフランス」関係地図
- ・作品リスト

【関連記事】

●新聞

8月3日(月) 新潟日報

「強烈な個性放った“天才”脱『アカデミック』に苦悩」／橋爪節也 (大阪大学総合博物館教授)

7月27日(月) 新潟日報

話かご「金森穰さん佐伯祐三を語る」

8月14日(金) 新潟日報

「新潟・佐伯祐三展 入場者1万人達成」

新潟日報「パリに散った天才 画家・佐伯祐三展」

①「美大生」／澤田佳三 (7/17(金))

②「出会い」／飯島沙耶子 (7/18(土))

③「涙の別れ」／澤田佳三 (7/22(水))

④「“帰国”」／桐原浩 (7/23(木))

⑤「死の影」／澤田佳三 (7/24(金))

その他

新潟日報 (7/4(土)、8/9(日)、8/14(金))

週刊「朝日だより」(6月第4週号)

十日町新聞 (6月25日(木))



●雑誌

ウインド2009年8月号 ウインドのオススメ
「没後80年記念 佐伯祐三展 パリで天逝した天才画家の道」／澤田佳三

BM /美術の杜第20号 巻頭特集「没後80年
記念 パリで天逝した天才画家の道 佐伯祐三展」



●テレビ

BSN新潟放送

7月7日(火)「イブニング王国」／澤田佳三

8月3日(月)～7日(金)「The NEWS 新潟」内
5回シリーズ「名画への誘い」

7月1日(水)、3日(金)、4日(土)、27日(月)、8月13日(木)
ニュース報道

NHK新潟放送局

6月30日(火)「くらしのガイド新潟」

7月3日(金)「新潟ニュース610」／澤田佳三

●ラジオ

6月19日(金)「田巻直子のまんまる金曜日」／
澤田佳三

7月4日(土)「さたばな」／澤田佳三

7月9日(木)、16日(木)、23日(木)、30日(木)

「ゴゴラク!」内 4回シリーズ「そこはプロ
に聞いてみよう」／澤田佳三

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	11,352
	前売	5,175
無料観覧者数	無料	3,379
	免除	955
総観覧者数		20,861
有料率 (%)		79.2

担当 澤田佳三、飯島沙耶子

【出品リスト】

作家名	作品名	制作年	素材・技法	寸法(縦×横cm)	所蔵／備考
第1章 凝視する自己・自画像の時代～東京美術学校時代からパリに行くまで～					
佐伯祐三	勝浦風景	1918-19年頃	油彩、カンヴァス	90.8×90.8	個人蔵
佐伯祐三	自画像	1919年頃	鉛筆、紙	29.4×19.5	個人蔵
佐伯祐三	戸山ヶ原風景	1920年	油彩、カンヴァス	50.0×60.5	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	小久保千代子像	1920年	油彩、カンヴァス	45.0×37.8	個人蔵
佐伯祐三	大谷セイ像	1920年頃	インク、紙	21.0×16.0	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	帆船	1920年頃	油彩、板	23.4×33.0	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	自画像	1920-23年頃	油彩、カンヴァス	45.5×33.4	三重県立美術館
佐伯祐三	帽子をかぶる自画像	1922年	油彩、カンヴァス	73.0×53.4	和歌山県立近代美術館
佐伯祐三	目白自宅附近	1922年頃	油彩、カンヴァス	37.0×52.0	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	自画像	1923年頃	油彩、カンヴァス	53.5×45.7	神奈川県立近代美術館
佐伯祐三	裸婦	1923年頃	油彩、カンヴァス	73.0×116.6	西宮市大谷記念美術館
佐伯祐三	自画像	1923年	油彩、カンヴァス	60.3×45.2	東京藝術大学
佐伯祐三	河内打上附近	1923年	油彩、板	24.5×33.7	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	河内燈油村附近	1923年	油彩、板	24.4×33.6	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	彌智子像	1923年	油彩、カンヴァス	45.0×45.2	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	パリ遠望	1924年	油彩、カンヴァス	55.3×72.7	大阪市立近代美術館建設準備室
第2章 ヴラマンクとの出会い～第1次パリ時代～					
佐伯祐三	立てる自画像	1924年	油彩、カンヴァス	80.5×54.8	大阪市立近代美術館建設準備室 ※「夜のノートルダム(マント・ラ・ジョリ)」の裏面
佐伯祐三	教会	1924年	油彩、カンヴァス	59.5×72.0	大阪市立美術館 ※裏面に「パリの裏町」
佐伯祐三	オワーズ河周辺風景	1924年	油彩、カンヴァス	45.5×53.0	和歌山県立近代美術館
佐伯祐三	オワーズ河周辺風景 (ネル＝ラ＝ヴァレ)	1924年	油彩、カンヴァス	59.0×79.5	個人蔵 ※「ノートル・ダム(マント・ラ・ジョリ)」の裏面
佐伯祐三	風景	1924年頃	油彩、カンヴァス	50.5×60.5	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	裸婦	1924年	油彩、カンヴァス	60.8×73.0	大阪市立近代美術館建設準備室 ※「壁」の裏面
佐伯祐三	オニー牧場	1925年	油彩、カンヴァス	60.0×80.3	下関市立美術館
佐伯祐三	村の教会堂	1925年	油彩、カンヴァス	45.5×61.0	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	パリ雪景	1925年頃	油彩、カンヴァス	65.0×80.0	個人蔵 ※裏面に「ブランジュリー」
佐伯祐三	セーヌ河の見える風景	1924年	油彩、板	36.5×45.4	東京藝術大学
佐伯祐三	パリ15区街	1925年	油彩、カンヴァス	54.0×65.2	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	リュ・デュ・シャトー	1925年	油彩、カンヴァス	44.1×50.1	個人蔵
佐伯祐三	パリの街角	1925年	油彩、カンヴァス	64.5×41.0	和歌山県立近代美術館
佐伯祐三	パリ歩道スケッチ	1925年	油彩、カンヴァス	33.6×24.3	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	壁	1925年	油彩、カンヴァス	73.1×60.8	大阪市立近代美術館建設準備室 ※裏面に「裸婦」
佐伯祐三	リュ・ブランシオン	1925年	油彩、カンヴァス	59.8×73.0	個人蔵
佐伯祐三	パリの街角(家具付ホテル)	1925年頃	油彩、カンヴァス	65.1×81.1	個人蔵
佐伯祐三	洗濯屋(オ・プティ・ソミュール)	1925年	油彩、カンヴァス	73.0×60.4	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	酒場(オ・カーヴ・ブルー)	1925年	油彩、カンヴァス	72.2×60.1	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	レ・ジュ・ド・ノエル	1925年	油彩、カンヴァス	71.7×59.4	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	ノートルダム(マント＝ラ＝ジョリ)	1925年	油彩、カンヴァス	79.5×59.0	個人蔵 ※裏面に「オワーズ河周辺風景(ネル＝ラ＝ヴァレ)」
佐伯祐三	ノートルダム(マント＝ラ＝ジョリ)	1925年	油彩、カンヴァス	78.7×52.5	大阪府立北野高等学校
佐伯祐三	夜のノートルダム (マント＝ラ＝ジョリ)	1925年	油彩、カンヴァス	80.5×54.5	大阪市立近代美術館建設準備室 ※裏面に「立てる自画像」
佐伯祐三	運送屋(カミオン)	1925年	油彩、カンヴァス	60.2×72.1	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	ヴォージラルの家	1925年	油彩、カンヴァス	65.0×80.5	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	広告のある門	1925年	油彩、カンヴァス	60.0×73.3	和歌山県立近代美術館
佐伯祐三	ラコルデル街	1925年頃	油彩、カンヴァス	73.0×60.0	個人蔵
佐伯祐三	テレビン油のある静物	1925年頃	油彩、カンヴァス	54.0×65.0	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	ボスターとローソク立て	1925年頃	油彩、カンヴァス	46.0×54.0	和歌山県立近代美術館
佐伯祐三	人形	1925年頃	油彩、カンヴァス	41.2×32.2	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	絵具箱	1925-26年頃	油彩、カンヴァス	45.8×53.8	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	バストゥールのガード	1925-26年頃	油彩、カンヴァス	52.5×63.3	個人蔵
佐伯祐三	休息(鉄道工夫)	1925-26年頃	油彩、カンヴァス	59.4×71.3	石橋財団石橋美術館
佐伯祐三	顔	1924年頃	インク、紙	28.0×18.0	個人蔵
佐伯祐三	オワーズ河周辺風景	1924年頃	水彩、紙	29.5×45.0	個人蔵
佐伯祐三	裸婦	1924年頃	インク、紙	17.5×24.5	個人蔵
佐伯祐三	アルルのはね橋	1925年	水彩、紙	21.2×27.2	個人蔵
佐伯祐三	動くポーズ	1925年	鉛筆、紙	33.2×22.3	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	サン・フランチェスコ聖堂	1926年	水彩、紙	24.5×32.0	大阪市立近代美術館建設準備室

作家名	作品名	制作年	素材・技法	寸法(縦×横cm)	所蔵／備考
モーリス・ドヴラマンク	雪の風景	1911年	油彩、カンヴァス	54.0×65.0	大阪市立近代美術館建設準備室
モーリス・ドヴラマンク	雪の村	1930年頃	油彩、カンヴァス	65.5×81.0	大阪市立近代美術館建設準備室
モーリス・ユトリロ	グロスレイの教会	1909年頃	油彩、ボード	53.6×73.4	大阪市立近代美術館建設準備室
里見勝蔵	マリーヌの記念	1924年	油彩、カンヴァス	73.5×92.0	鳥取県立博物館
里見勝蔵	平原の村(エルヴィル)	1924年頃	油彩、カンヴァス	33.6×46.3	大阪市立近代美術館建設準備室
里見勝蔵	雪景	1924-25年頃	油彩、カンヴァス	33.4×44.5	大阪市立近代美術館建設準備室
中山巍	時計と男	1925年	油彩、カンヴァス	90.9×72.7	岡山県立美術館
川口軌外	ボヘミアン	1928年	油彩、カンヴァス	116.5×80.3	和歌山県立近代美術館
第3章 帰国時代					
佐伯祐三	下落合風景	1926年頃	油彩、カンヴァス	80.5×65.0	個人蔵
佐伯祐三	下落合風景	1926年頃	油彩、カンヴァス	60.4×72.8	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	テニス(下落合風景)	1926年頃	油彩、カンヴァス	73.0×117.5	新宿区(落合第一小学校)
佐伯祐三	下落合風景	1926年	油彩、カンヴァス	60.9×73.0	学校法人甲南学園甲南小学校
佐伯祐三	下落合風景	1926年頃	油彩、カンヴァス	50.5×61.0	個人蔵
佐伯祐三	汽船	1926年頃	油彩、カンヴァス	38.0×45.5	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	滞船	1926年	油彩、カンヴァス	61.0×72.5	神奈川県立近代美術館
佐伯祐三	滞船	1926年頃	油彩、カンヴァス	53.0×65.0	横浜美術館
佐伯祐三	蟹	1926年頃	油彩、カンヴァス	31.8×41.0	個人蔵
佐伯祐三	米子像	1927年	油彩、カンヴァス	53.4×45.4	三重県立美術館
佐伯祐三	朝鮮風景	1927年頃	インク、紙	28.0×36.4	個人蔵
里見勝蔵	ストーブ	1924-25年頃	油彩、カンヴァス	63.7×52.3	個人蔵
前田寛治	ブルターニュの女	1925年	油彩、カンヴァス	166.0×101.0	個人蔵
小島善太郎	静物(くだもの)	1922年	油彩、カンヴァス	72.8×60.6	青梅市立美術館
木下孝則	後向きの裸女習作	1925年	油彩、カンヴァス	100.2×80.0	和歌山県立近代美術館
第4章 燃え上がる熱情、パリ～第2次パリ時代～					
佐伯祐三	オブセルヴァトワール附近	1927年	油彩、カンヴァス	73.0×92.0	和歌山県立近代美術館
佐伯祐三	オブセルヴァトワール附近	1927年	油彩、カンヴァス	54.3×65.3	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	パリ街景	1927年	油彩、カンヴァス	65.0×81.0	大原美術館
佐伯祐三	カフェ・タバ	1927年	油彩、カンヴァス	54.5×65.1	個人蔵
佐伯祐三	ピコン	1927年	油彩、カンヴァス	60.0×73.0	個人蔵
佐伯祐三	街角の広告	1927年	油彩、カンヴァス	80.3×65.2	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	広告(アン・ジュノ)	1927年	油彩、カンヴァス	65.2×81.1	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	パーの入り口	1927年	油彩、カンヴァス	60.0×49.0	国立国際美術館
佐伯祐三	レストラン(オテル・デュ・マルシェ)	1927年	油彩、カンヴァス	54.5×65.4	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	広告塔	1927年	油彩、カンヴァス	79.5×52.8	新潟県立近代美術館・万代島美術館
佐伯祐三	新聞屋	1927年	油彩、カンヴァス	73.6×60.2	朝日新聞社
佐伯祐三	門の広告	1927年	油彩、カンヴァス	58.8×81.3	個人蔵
佐伯祐三	裏町の広告	1927年	油彩、カンヴァス	60.4×73.0	京都国立近代美術館
佐伯祐三	場末の街	1927年	油彩、カンヴァス	60.3×73.0	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	寺院	1927年	油彩、カンヴァス	60.3×73.0	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	靴屋	1927年	油彩、カンヴァス	60.6×73.2	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	裸婦	1928年	鉛筆、紙	26.2×18.6	個人蔵
第5章 画家佐伯祐三、最後の3ヶ月。モラン、そして死					
佐伯祐三	共同便所	1928年	油彩、カンヴァス	72.4×59.8	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	バンテオン寺院	1928年	油彩、カンヴァス	65.0×53.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
佐伯祐三	工場	1928年	油彩、カンヴァス	73.4×60.3	田辺市立美術館
佐伯祐三	工場	1928年	油彩、カンヴァス	60.0×91.0	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	モランの寺	1928年	油彩、カンヴァス	59.8×72.0	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	モランの寺	1928年	油彩、カンヴァス	60.3×73.0	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	モランの寺	1928年	油彩、カルトン	37.2×44.5	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	モランの寺	1928年	油彩、カンヴァス	50.2×61.3	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	街はずれの寺	1928年	油彩、カンヴァス	60.3×72.1	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	納屋	1928年	油彩、カンヴァス	60.2×73.2	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	村の風景	1928年	油彩、カンヴァス	50.4×61.3	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	村と丘	1928年	油彩、カンヴァス	58.1×71.7	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	村と丘	1928年	油彩、カンヴァス	60.8×73.0	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	モラン風景	1928年	油彩、カンヴァス	59.6×91.8	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	カフェ・レストラン	1928年	油彩、カンヴァス	59.9×73.0	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	煉瓦焼	1928年	油彩、カンヴァス	60.2×73.1	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	白い道	1928年	油彩、カンヴァス	72.0×59.0	個人蔵
佐伯祐三	郵便配達夫(半身)	1928年	油彩、カンヴァス	65.0×54.5	大阪市立近代美術館建設準備室

作家名	作品名	制作年	素材・技法	寸法(縦×横cm)	所蔵／備考
佐伯祐三	郵便配達夫	1928年	油彩、カンヴァス	80.8×65.0	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	ロシアの少女	1928年	油彩、カンヴァス	65.3×53.5	大阪市立近代美術館建設準備室
佐伯祐三	黄色いレストラン	1928年	油彩、カンヴァス	73.0×60.8	大阪市立近代美術館建設準備室
荻須高徳	エドガール・キネ街	1928-30年頃	油彩、カンヴァス	60.0×73.0	大阪市立近代美術館建設準備室
荻須高徳	ムフタール街	1932年	油彩、カンヴァス	60.5×73.5	大阪市立近代美術館建設準備室
大橋了介	モランの教会	1928年	油彩、カンヴァス	60.2×73.2	大阪市立近代美術館建設準備室
大橋了介	巴里の道	1930年	油彩、カンヴァス	60.0×73.0	大阪市立近代美術館建設準備室
山口長男	二人像	1930年	油彩、カンヴァス	73.0×60.0	東京国立近代美術館
横手眞美	ローズリー別荘 ヴェトイユ	1927-30年頃	油彩、カンヴァス	60.0×73.0	大阪市立近代美術館建設準備室
佐野繁次郎	女	1932年	油彩、カンヴァス	116.7×90.9	大阪市立近代美術館建設準備室
関連資料					
	ライフマスク	1921年頃			大阪市立近代美術館建設準備室
	遺品 更紗			64.0×53.0	大阪市立近代美術館建設準備室 ※額装
	佐伯祐三宛、佐伯祐三絵葉書 1923年12月1日付 上海消印	1923			大阪市立近代美術館建設準備室
	佐伯祐三宛、佐伯祐三絵葉書 1924年2月16日付 パリ14区消印	1924			大阪市立近代美術館建設準備室
	佐伯祐三宛、佐伯祐三絵葉書 1925年 年賀状 パリ消印	1925			大阪市立近代美術館建設準備室
	佐伯米子宛 佐伯祐三書簡	1927			大阪市立近代美術館建設準備室
	中河與一『恐ろしき私』佐伯祐三 装丁 1927年 改造社	1927			大阪市立近代美術館建設準備室
	ポスター 一九三〇年協会 第一回洋画展覧会	1926		74.0×52.5	大阪市立近代美術館建設準備室 ※額装
	『一九三〇年叢書(一) 画集 佐伯祐三』一九三〇年協会編	1929			大阪市立近代美術館建設準備室
	ポスター 佐伯祐三回顧展 銀座三共ギャラリー	1935		76.5×52.5	大阪市立近代美術館建設準備室 ※額装
	「銀座画廊ニュース 佐伯祐三回 顧展号」	1935			大阪市立近代美術館建設準備室
	ポスター 山本發次郎氏所蔵 佐伯祐三遺作展覧会	1937		74.5×34.5	大阪市立近代美術館建設準備室 ※額装
	『山本發次郎氏蔵佐伯祐三画集』 座右宝刊行会	1937			大阪市立近代美術館建設準備室
	『山本發次郎氏所蔵 佐伯祐三遺作展覧会目録』	1937			大阪市立近代美術館建設準備室



ジブリの絵職人 男鹿和雄展

【趣旨】

男鹿和雄は、スタジオジブリの作品において美術監督を務め、主人公たちがいきいきと動くその舞台を描き続けてきた人物である。

この展覧会は、スタジオジブリが製作したアニメーション映画を中心に、男鹿和雄が描いた背景画や美術ボードを中心とするオリジナルのアニメーション美術作品を600点以上という大きな規模で公開した。ジブリ作品に関わる以前のテレビシリーズや劇場映画作品から始まり、アニメーション背景画以外にも、女優吉永小百合による原爆詩の朗読会「第二楽章」シリーズのための挿絵やオリジナルの絵本原画など、“絵職人”男鹿和雄の、現在に至るまでの幅広い活動を一堂に紹介した。

【総括】

●評価すべき点

- ・国民的に親しみ深いアニメーション映画の背景画であり、また古いテレビアニメーションの背景画から最新映画のものまで幅広い作品を扱ったため、老若男女を問わない多くの人が気軽に楽しめる展覧会であった。
- ・展示した作品そのものはどちらかというと一般向けの展示であった一方、展示室内のジオラマ〈トトロの祠〉、撮影コーナー〈フォト・ロケーション〉、ワークショップコーナー〈トトロの折り紙〉といった子どもを楽しませるコーナーが設けられ、喜ばれた。
- ・混雑が予想されたため、人の流れを考え、事前

に団体への対応や職員等の配置など対策を練り、概ね順調に誘導することができた。

●検討課題

- ・数多くの作品を展示するため、展示室内に壁の袖を多く出して順路の長い迷路のような会場となった。災害の時など、会場の奥からでもスムーズに展示室から出ることのできる通路を確保するよう、会場を構成する段階で要請すべきであった。
- ・最終日近くでは、多くの来館者を入館させたため、前に進めなくなるというトラブルが何回か起こった。来館者が多い場合の入場制限の仕方の検討が必要である。

【開催日・その他】

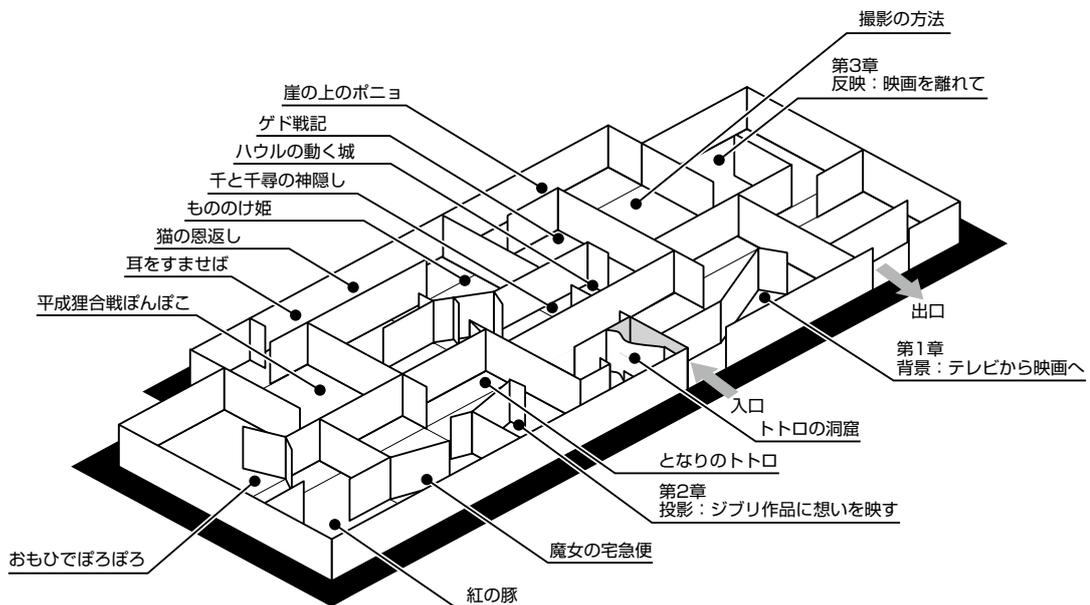
＝2009年9月19日(土)～11月29日(日)(66日間)＝
主 催：新潟県立万代島美術館、TeNYテレビ新潟、
男鹿和雄展新潟展実行委員会

企画制作協力：スタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館

後 援：新潟県、新潟市、新潟市教育委員会、(財)新潟観光コンベンション協会、新潟商工会議所、新潟県書店商業組合、読売新聞東京本社、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0

協 力：EPSON、ウォルト ディズニー スタジオホーム エンターテインメント

特別協賛：株式会社ブルボン



観覧料：一般……1,100円(900円)〈900円〉
 大学・高校生……………900円(700円)
 中学生以下無料
 ※ () 内は20名以上の団体料金
 ※ 〈 〉 内は前売り券料金

興行
 9月19日(土)～10月2日(金)
 T-joy新潟万代 / T-joy長岡
 入場料：1,500円
 鑑賞者数：372名 / 400名

【関連行事】

- ・コンサート
 「はなちゃんず」スタジオジブリ名曲コンサート
 11月7日(土)
 新潟万代島ビルディングエントランスガレリア
 11:00/13:30/15:00
 演奏：はなちゃんず(中村彰宏 / 中村由紀子)
 参加人数：120名 / 120名 / 100名
- ・ワークショップ
 男鹿和雄さんと遊ぼう!!
 11月7日(土)
 新潟万代島ビルディング11階 NICOプラザ会議室
 13:00～15:00
 参加人数：小学生10名
- ・映画上映会
 「男鹿和雄展開催記念「男鹿和雄の世界」上映会
 (主催：株式会社ブルボン)
 ブルボン上映会
 8月14日(金)～16日(日) T-joy長岡 シアター2
 上映：1日4回(9:30/12:00/14:30/17:00)
 参加人数：各回220名(招待)



【図録】

買取部数：150冊
 販売部数：3,526冊
 無料配布部数：104冊
 仕様：224mm×298mm 本文266頁
 編集：株式会社スタジオジブリ
 発行：日本テレビ放送網株式会社
 内容：はじめに
 里山に開かれた窓 / 高畑勲
 男鹿さんの絵と出逢って / 吉永小百合
 「職人」が支えてきた日本美術 / 山下裕二
 自然を愛する自由人、男鹿和雄 / 小林七郎
 第1章 背景：テレビから映画へ
 第2章 投影：ジブリ作品に想いを映す
 第3章 反映：映画を離れて
 男鹿和雄インタビュー
 展示物リスト



【関連記事】

●新聞

- 9月19日(土) 読売新聞(新潟版)
ジブリの絵職人・男鹿和雄さんに聞く
- 10月19日(月) 新潟日報
身近な自然を丹念に
- その他 読売新聞(新潟版)
(9/16(水)、9/20(日)、9/24(木))

〈連載〉

- ・読売新聞(新潟版)「ジブリの絵職人男鹿和雄」
 - ④「となりのトトロ」背景画／宮下東子
(10/19(月))
 - ④「おもひでぼろぼろ」美術ボード／宮下東子
(10/25(日))
 - ⑤「もののけ姫」背景画／宮下東子
(10月26日(月))

●雑誌

- 月刊にいがたタウン情報
2009年10月号 p.164-165
男鹿和雄が描く背景画の魅力的な世界
- 新潟情報(フリーペーパー) vol.557 p.4
男鹿和雄インタビュー
- 月刊キャレル 2009年10月号 p.10-13
キャレルインタビュー
「ジブリの絵職人」男鹿和雄さん
- 月刊キャレル 2009年11月号 p.82-83
男鹿和雄展へ行ってきました。



●テレビ

- 9月5日(土) 10:30 ~ 11:25
TeNYテレビ新潟
「トトロの森を描いた人。ジブリで発見！残したい日本の原風景」
(55分、10/18 25:29 ~再放送)
- 9月18日(金) 15:55 ~ 17:00 (20分)
TeNYテレビ新潟
「夕方ワイド新潟一番」男鹿和雄展紹介

●ラジオ

- 9月24日(木) エフエムしばた
「ごきげんラジオ769」男鹿和雄インタビュー

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	66,242
	前売	14,514
無料観覧者数	無料	21,731
	免除	2,020
総観覧者数		104,507
有料率(%)		77.3

担当 宮下東子、桐原浩

【出品リスト】

No.	作品名	種類	制作年	シートサイズ(左/右×上/下)(mm)	展示方法	素材
第1章 〈背景〉 テレビから映画へ						
1	侍ジャイアンツ	背景画およびセル画	1973	405/421×502/500	額	紙、水彩、セル、セル絵具、色鉛筆
2	侍ジャイアンツ	背景画	1973	405/421×502/500	額	紙、水彩
3	はじめ人間ギャートルズ	背景画	1974	190/195×278/280	3点1額	紙、水彩
4	はじめ人間ギャートルズ	背景画	1974	230/358×358	3点1額	紙、水彩
5	はじめ人間ギャートルズ	背景画	1974	216/215×323/322	3点1額	紙、水彩
6	ガンバの冒険	背景画	1975	428/425×512/510	額	紙、水彩
7	宝島	背景画	1978	420/418×540/542	額	紙、水彩
8	あしたのジョー2	背景画	1980	255×360	2点1額	紙、水彩、セル、セル絵具
9	あしたのジョー2	背景画	1980	255×360	2点1額	紙、水彩
10	あしたのジョー2	背景画およびセル画	1980	308/305×385/388	額	紙、水彩、セル
11	ユニコ	美術設定	1981	234/236×334	3点1額	紙、鉛筆
12	ユニコ	美術設定	1981	235/238×353/355	3点1額	紙、鉛筆
13	ユニコ	美術設定	1981	237×354	3点1額	紙、鉛筆
14	幻魔大戦	宣伝ポスター用のイラスト	1983	768×574/568	額	紙、水彩
15	幻魔大戦	『月刊バラエティ』掲載イラスト	1983	490×570/568	額	紙、水彩
16	幻魔大戦	背景画	1983	472×305/306	額	紙、水彩
17	幻魔大戦	背景画およびセル画	1983	436/440×588/590	額	紙、水彩、セル、セル絵具
18	幻魔大戦	背景画およびセル画	1983	460/465×608	額	紙、水彩、セル、セル絵具
19	幻魔大戦	背景画およびセル画	1983	310×402/405	額	紙、水彩、セル、セル絵具
20	幻魔大戦	背景画	1983	518/515×400	額	紙、水彩、セル
21	幻魔大戦	背景画およびセル画	1983	353/350×445/450	額	紙、水彩、セル、セル絵具
22	幻魔大戦	背景画	1983	432/434×590/586	額	紙、水彩
23	幻魔大戦	背景画	1983	276/278×770/768	額	紙、水彩
24	はだしのゲン	美術ボード	1983	360×255	額	紙、水彩
25	はだしのゲン	美術設定	1983	334×270	ケース	紙、鉛筆
26	はだしのゲン	背景画	1983	255×362	額	紙、水彩
27	はだしのゲン	美術ボード	1983	360×255	額	紙、水彩
28	はだしのゲン	背景画	1983	270×540	額	紙、水彩
29	はだしのゲン	美術設定	1983	255×650	ケース	紙、鉛筆
30	はだしのゲン	美術ボード	1983	255×362	額	紙、水彩
31	はだしのゲン	美術ボード	1983	255×362	額	紙、水彩
32	はだしのゲン	美術ボード	1983	255×360	額	紙、水彩、セル、セル絵具
33	はだしのゲン	美術ボード	1983	360×255	額	紙、水彩
34	はだしのゲン	背景画	1983	355/353×474	額	紙、水彩
35	はだしのゲン	美術設定	1983	355×475	ケース	紙、鉛筆
36	はだしのゲン	美術設定	1983	357/350×508	額	紙、鉛筆、色鉛筆、マーカーペン
37	はだしのゲン	美術設定	1983	255×360	ケース	紙、鉛筆
38	はだしのゲン	美術設定	1983	268×368	ケース	紙、鉛筆
39	はだしのゲン	美術設定	1983	255×539	ケース	紙、鉛筆
40	はだしのゲン	美術ボード	1983	180×255	ケース	紙、水彩
41	夏服の少女たち	背景画	1988	230×450	額	紙、水彩
42	夏服の少女たち	背景画	1988	250×362	額	紙、水彩、セル、セル絵具
43	夏服の少女たち	背景画	1988	255×362	額	紙、水彩
44	夏服の少女たち	背景画	1988	380×297/297	額	紙、水彩、セル、セル絵具
45	カムイの剣	背景画	1985	255×360	額	紙、水彩
46	カムイの剣	背景画	1985	297/295×418	額	紙、水彩、セル、セル絵具
47	カムイの剣	背景画	1985	372/375×480	額	紙、水彩
48	カムイの剣	背景画	1985	460×590	額	紙、水彩
49	カムイの剣	背景画	1985	370×483	額	紙、水彩
50	カムイの剣	背景画	1985	380×500/502	額	紙、水彩
51	カムイの剣	背景画	1985	480/488×370/373	額	紙、水彩
52	カムイの剣	背景画	1985	506×482/486	額	紙、水彩
53	カムイの剣	背景画	1985	315×380	額	紙、水彩、セル、セル絵具
54	時空の旅人	美術ボード	1986	255×362	ケース	紙、水彩
55	時空の旅人	美術ボード	1986	255×362	ケース	紙、水彩
56	時空の旅人	美術ボード	1986	255×362	ケース	紙、水彩
57	時空の旅人	美術ボード	1986	255×362	ケース	紙、水彩
58	時空の旅人	美術ボード	1986	255×362	ケース	紙、水彩
59	時空の旅人	美術ボード	1986	255×362	ケース	紙、水彩、セル、セル絵具
60	時空の旅人	美術ボード	1986	255×362	ケース	紙、水彩
61	時空の旅人	美術ボード	1986	255×362	ケース	紙、水彩
62	時空の旅人	美術設定	1986	460×610	パネル	紙、鉛筆
63	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆

64	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆、筆ペン
65	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、筆ペン
66	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆、筆ペン、マーカーペン
67	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
68	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
69	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
70	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
71	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
72	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
73	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
74	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
75	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
76	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
77	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
78	時空の旅人	美術設定	1986	360×260	パネル	紙、鉛筆
79	時空の旅人	美術設定	1986	260×720	パネル	紙、鉛筆
80	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
81	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
82	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
83	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
84	時空の旅人	美術設定	1986	350×595	パネル	紙、鉛筆、筆ペン
85	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
86	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、水彩、鉛筆
87	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
88	時空の旅人	美術設定	1986	360×290	パネル	紙、水彩、鉛筆
89	時空の旅人	美術設定	1986	260×720	パネル	紙、鉛筆
90	時空の旅人	美術設定	1986	260×720	パネル	紙、鉛筆、色鉛筆
91	時空の旅人	美術設定	1986	260×540	パネル	紙、色鉛筆、筆ペン
92	時空の旅人	美術設定	1986	260×600	パネル	紙、水彩、鉛筆、ペン、筆ペン
93	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、筆ペン
94	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
95	時空の旅人	美術設定	1986	360×260	パネル	紙、鉛筆
96	時空の旅人	美術設定	1986	410×290	パネル	紙、鉛筆、ペン、マーカーペン
97	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
98	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆、筆ペン
99	時空の旅人	美術設定	1986	250×300	パネル	紙、鉛筆
100	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
101	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
102	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
103	時空の旅人	美術設定	1986	260×360	パネル	紙、鉛筆
104	妖獣都市	美術ボード	1987	254/252×360	額	紙、水彩
105	妖獣都市	美術ボード	1987	254/255×359	額	紙、水彩
106	妖獣都市	美術ボード	1987	400×288	額	紙、水彩
107	妖獣都市	美術ボード	1987	254×360	額	紙、水彩
108	妖獣都市	美術ボード	1987	255/253×360	額	紙、水彩、セル、セル絵具
109	妖獣都市	美術ボード	1987	254/253×360	額	紙、水彩
110	妖獣都市	背景画	1987	253×360	額	紙、水彩
111	妖獣都市	背景画	1987	262×890	ケース	紙、水彩
	妖獣都市	背景画（ブック5点）	1987	262×890	ケース	紙、水彩

第2章 〈投影〉 ジブリ作品に想いを映す

112	となりのトトロ	背景画	1988	538/539×336/339	額	紙、水彩
113	となりのトトロ	美術ボード	1988	360/368×253	額	紙、水彩
114	となりのトトロ	美術ボード	1988	360×252	額	紙、水彩
115	となりのトトロ	背景画	1988	355×378/377	額	紙、水彩、セル、セル絵具
116	となりのトトロ	美術ボード	1988	340×270	額	紙、水彩
117	となりのトトロ	美術ボード	1988	184×255	ケース	紙、水彩
118	となりのトトロ	背景画	1988	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
119	となりのトトロ	背景画およびセル画	1988	255×390/393	額	紙、水彩、セル、セル絵具
120	となりのトトロ	背景画	1988	270×383	額	紙、水彩
121	となりのトトロ	美術ボード	1988	270×382	額	紙、水彩
122	となりのトトロ	背景画	1988	270×382	額	紙、水彩
123	となりのトトロ	美術ボード	1988	148×224	ケース	紙、水彩
124	となりのトトロ	美術ボード	1988	166×230	ケース	紙、水彩
125	となりのトトロ	美術ボード	1988	158×250	ケース	紙、水彩
126	となりのトトロ	美術ボード	1988	150×230	ケース	紙、水彩

127	となりのトトロ	美術ボード	1988	270×382	額	紙、水彩	
128	となりのトトロ	美術ボード	1988	142×224	ケース	紙、水彩	
129	となりのトトロ	背景画	1988	270×382	額	紙、水彩	
130	となりのトトロ	背景画	1988	270×382	額	紙、水彩	
131	となりのトトロ	美術ボード	1988	185×254	ケース	紙、水彩	
132	となりのトトロ	美術ボード	1988	182×252	ケース	紙、水彩	
133	となりのトトロ	背景画	1988	270×382	額	紙、水彩	
134	となりのトトロ	美術ボード	1988	181×255	ケース	紙、水彩	
135	となりのトトロ	美術ボード	1988	180×254	ケース	紙、水彩	
136	となりのトトロ	美術ボード	1988	180×254	ケース	紙、水彩	
137	となりのトトロ	美術ボード	1988	178×255	ケース	紙、水彩	
138	となりのトトロ	美術ボード	1988	178×255	ケース	紙、水彩	
139	となりのトトロ	背景画	1988	270×382	額	紙、水彩	
140	となりのトトロ	背景画	1988	586×370	額	紙、水彩	セル、セル絵具
141	となりのトトロ	背景画	1988	270×382	額	紙、水彩	セル、セル絵具
142	となりのトトロ	美術ボード	1988	180×255	額	紙、水彩	
143	となりのトトロ	美術ボード	1988	184×255	ケース	紙、水彩	
144	となりのトトロ	背景画	1988	270×382	額	紙、水彩	
145	となりのトトロ	美術ボード	1988	185×255	ケース	紙、水彩	
146	となりのトトロ	美術ボード	1988	270×380	額	紙、水彩	
147	となりのトトロ	美術ボード	1988	178×254	ケース	紙、水彩	
148	となりのトトロ	背景画およびセル画	1988	248/257×360/363	額	紙、水彩	セル、セル絵具
149	となりのトトロ	美術ボード	1988	180×255	ケース	紙、水彩	
150	となりのトトロ	美術ボード	1988	190×271	ケース	紙、水彩	
151	となりのトトロ	美術ボード	1988	184×255	ケース	紙、水彩	
152	となりのトトロ	背景画	1988	270×380	額	紙、水彩	
153	となりのトトロ	背景画	1988	270×381	額	紙、水彩	
154	となりのトトロ	背景画	1988	242/245×463/460	額	紙、水彩	
155	となりのトトロ	背景画	1988	255×360	額	紙、水彩	
156	となりのトトロ	背景画およびセル画	1988	418/420×360/357	額	紙、水彩	セル、セル絵具
157	となりのトトロ	背景画およびセル画	1988	244/246×362	額	紙、水彩	セル、セル絵具
158	となりのトトロ	美術ボード	1988	181×253	ケース	紙、水彩	
159	となりのトトロ	美術ボード	1988	183/184×254/254	額	紙、水彩	
160	となりのトトロ	美術ボード	1988	255/253×360	額	紙、水彩	
161	となりのトトロ	背景画およびセル画	1988	270×380	額	紙、水彩	セル、セル絵具
162	となりのトトロ	背景画およびセル画	1988	258/250×638/636	額	紙、水彩	セル、セル絵具
163	となりのトトロ	美術ボード	1988	255×360	額	紙、水彩	
164	となりのトトロ	背景画	1988	270×382	額	紙、水彩	
165	となりのトトロ	背景画	1988	270×382	額	紙、水彩	セル、セル絵具
166	となりのトトロ	美術ボード	1988	182×255	ケース	紙、水彩	
167	となりのトトロ	背景画	1988	630/620×358/360	額	紙、水彩	
168	となりのトトロ	美術ボード	1988	360×254	額	紙、水彩	
169	となりのトトロ	美術ボード	1988	181×253	ケース	紙、水彩	
170	となりのトトロ	美術ボード	1988	192×270	ケース	紙、水彩	
171	となりのトトロ	美術ボード	1988	191×272	ケース	紙、水彩	
172	となりのトトロ	美術ボード	1988	192×270	ケース	紙、水彩	
173	となりのトトロ	背景画およびセル画	1988	265/263×378/376	額	紙、水彩	セル、セル絵具
174	となりのトトロ	美術ボード	1988	180×255	ケース	紙、水彩	
175	となりのトトロ	背景画	1988	585×378	額	紙、水彩	
176	となりのトトロ	美術ボード	1988	270×380	額	紙、水彩	
177	となりのトトロ	背景画	1988	270×382	額	紙、水彩	
178	となりのトトロ	美術ボード	1988	182×256	ケース	紙、水彩	
179	となりのトトロ	背景画	1988	257/255×694/696	額	紙、水彩	
180	となりのトトロ	背景画	1988	258/256×383/384	額	紙、水彩	セル
181	となりのトトロ	美術ボード	1988	180×252	ケース	紙、水彩	
182	となりのトトロ	美術ボード	1988	180×255	ケース	紙、水彩	
183	となりのトトロ	美術ボード	1988	180×255	ケース	紙、水彩	
184	となりのトトロ	美術ボード	1988	182×255	ケース	紙、水彩	
185	となりのトトロ	美術ボード	1988	185×255	ケース	紙、水彩	
186	となりのトトロ	背景画	1988	270×383	額	紙、水彩	
187	となりのトトロ	美術ボード	1988	270×382	額	紙、水彩	
188	となりのトトロ	美術ボード	1988	360×255	額	紙、水彩	
189	となりのトトロ	背景画およびセル画	1988	283/282×1030	額	紙、水彩	セル、セル絵具
190	となりのトトロ	美術ボード	1988	183×678	ケース	紙、水彩	
191	となりのトトロ	背景画	1988	420×371	額	紙、水彩	
192	となりのトトロ	背景画およびセル画	1988	270×382	額	紙、水彩	セル、セル絵具
193	となりのトトロ	美術ボード	1988	181×253	額	紙、水彩	

194	となりのトトロ	美術ボード	1988	184×255	ケース	紙、水彩	
195	となりのトトロ	美術ボード	1988	182×255	ケース	紙、水彩	
196	となりのトトロ	美術ボード	1988	270×380	額	紙、水彩	
197	となりのトトロ	美術ボード	1988	177×254	ケース	紙、水彩	
198	となりのトトロ	美術ボード	1988	180×254	ケース	紙、水彩	
199	となりのトトロ	背景画	1988	270×382	額	紙、水彩	
200	となりのトトロ	美術ボード	1988	182×255	ケース	紙、水彩	
201	となりのトトロ	美術ボード	1988	180×254	ケース	紙、水彩、色鉛筆	
202	となりのトトロ	美術ボード	1988	180×255	ケース	紙、水彩	
203	となりのトトロ	美術ボード	1988	180×255	ケース	紙、水彩	
204	となりのトトロ	美術ボード	1988	180×255	ケース	紙、水彩	
205	となりのトトロ	美術ボード	1988	177×254	ケース	紙、水彩	
206	となりのトトロ	背景美術用のメモとスケッチ	1988	235×350	ケース	紙、水彩	
207	となりのトトロ	美術設定	1988	258×364	ケース	紙、鉛筆	
208	となりのトトロ	美術設定	1988	258×364	ケース	紙、鉛筆	
209	となりのトトロ	美術設定	1988	258×364	ケース	紙、鉛筆	
210	となりのトトロ	美術設定	1988	258×364	ケース	紙、鉛筆	
211	となりのトトロ	美術設定	1989	259×365	ケース	紙、鉛筆	
212	となりのトトロ	美術設定	1988	258×364	ケース	紙、鉛筆	
213	となりのトトロ	美術設定	1988	257×364	ケース	紙、鉛筆	
214	となりのトトロ	美術設定	1988	257×364	ケース	紙、鉛筆	
215	となりのトトロ	美術設定	1988	258×364	ケース	紙、鉛筆	
216	となりのトトロ	美術設定	1988	257×364	ケース	紙、鉛筆	
217	となりのトトロ	美術設定	1988	257×364	ケース	紙、鉛筆	
218	魔法の宅急便	背景画およびセル画	1989	358×360	額	紙、水彩、セル、セル絵具	
219	魔法の宅急便	背景画およびセル画	1989	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具	
220	魔法の宅急便	背景画およびセル画	1989	250/214×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具	
221	魔法の宅急便	背景画およびセル画	1989	270×380	額	紙、水彩、セル、セル絵具	
222	魔法の宅急便	背景画	1989	740×370	額	紙、水彩	
223	魔法の宅急便	背景画およびセル画	1989	270/265×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具	
224	魔法の宅急便	背景画およびセル画	1989	x	3階	紙、水彩、セル、セル絵具	
225	紅の豚	背景画	1992	625×430/358	額	紙、水彩、セル、セル絵具	
226	紅の豚	背景画	1992	245×630	額	紙、水彩	
227	紅の豚	背景画	1992	270×380	額	紙、水彩	
228	紅の豚	背景画およびセル画	1992	280×670/668	額	紙、水彩、セル、セル絵具	
229	紅の豚	背景画	1992	265/260×675	額	紙、水彩、セル、セル絵具	
230	紅の豚	背景画	1992	270/265×620	額	紙、水彩	
231	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	258/256×362	額	紙、水彩	
232	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	190×270	額	紙、水彩	
233	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	190×270	2点1額	紙、水彩	
234	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	190×270	2点1額	紙、水彩	
235	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×382	額	紙、水彩	
236	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×380	額	紙、水彩	
237	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×380	額	紙、水彩	
238	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	235/238×328	額	紙、水彩	
239	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×380	額	紙、水彩	
240	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	190×270	3点1額	紙、水彩	
241	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	216×312	3点2額	紙、水彩	
242	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	230×330	3点3額	紙、水彩	
243	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×382	額	紙、水彩	
244	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×380/383	額	紙、水彩	
245	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×382	額	紙、水彩	
246	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×383	額	紙、水彩、セル、セル絵具	
247	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	190×270	額	紙、水彩	
248	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	192×270	3点1額	紙、水彩、セル、セル絵具	
249	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	192×270	3点1額	紙、水彩、セル、セル絵具	
250	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	192×270	3点1額	紙、水彩、セル、セル絵具	
251	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×382	額	紙、水彩	
252	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×382	額	紙、水彩	
253	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	190×270	額	紙、水彩	
254	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×382	額	紙、水彩	
255	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×380	額	紙、水彩	
256	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×381	額	紙、水彩	
257	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×381	額	紙、水彩、セル、セル絵具	
258	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×382	額	紙、水彩	
259	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×381	額	紙、水彩	
260	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	191×270	額	紙、水彩	

261	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×380	額	紙、水彩、セル、セル絵具
262	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×382	額	紙、水彩
263	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	190×270	額	紙、水彩
264	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
265	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	192×270	額	紙、水彩
266	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×380	額	紙、水彩
267	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×380	額	紙、水彩
268	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	192×270	額	紙、水彩
269	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	190×270	額	紙、水彩
270	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	190×270	額	紙、水彩
271	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×380	額	紙、水彩
272	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
273	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×382	額	紙、水彩
274	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×382	額	紙、水彩
275	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×380	額	紙、水彩
276	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×380	額	紙、水彩
277	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×382	額	紙、水彩
278	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×382	額	紙、水彩
279	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	190×270	額	紙、水彩
280	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×382	額	紙、水彩
281	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×380	額	紙、水彩
282	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	190×270	額	紙、水彩
283	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×381	額	紙、水彩
284	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
285	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×380	額	紙、水彩
286	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×364	額	紙、水彩
287	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×380	額	紙、水彩
288	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×381	額	紙、水彩
289	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×382	額	紙、水彩
290	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×381	額	紙、水彩
291	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	190×270	額	紙、水彩
292	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	191×270	額	紙、水彩
293	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	270×382	額	紙、水彩
294	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×380	額	紙、水彩
295	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×380	額	紙、水彩
296	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	295×775	額	紙、水彩
297	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
298	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×382	額	紙、水彩
299	おもひでぼろぼろ	美術ボード	1991	190×270	額	紙、水彩
300	おもひでぼろぼろ	背景画	1991	270×380	額	紙、水彩、セル、セル絵具
301	おもひでぼろぼろ	美術設定	1991	257×365	ケース	紙、鉛筆、色鉛筆
302	おもひでぼろぼろ	美術設定	1991	256×361	ケース	紙、鉛筆
303	おもひでぼろぼろ	美術設定	1991	256×362	ケース	紙、鉛筆
304	おもひでぼろぼろ	美術設定	1991	256×365	ケース	紙、鉛筆
305	おもひでぼろぼろ	美術設定	1991	257×728	ケース	紙、鉛筆
306	おもひでぼろぼろ	美術設定	1991	255×725	ケース	紙、鉛筆
307	おもひでぼろぼろ	美術設定	1991	257×363	ケース	紙、鉛筆
308	おもひでぼろぼろ	美術設定	1991	257×365	ケース	紙、鉛筆
309	おもひでぼろぼろ	美術設定	1991	257×362	ケース	紙、鉛筆
310	おもひでぼろぼろ	美術設定	1991	256×363	ケース	紙、鉛筆
311	おもひでぼろぼろ	美術設定	1991	257×365	ケース	紙、鉛筆
312	おもひでぼろぼろ	美術設定	1991	257×364	ケース	紙、鉛筆
313	おもひでぼろぼろ	美術設定	1991	257×363	ケース	紙、鉛筆
314	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	183/185×270	3点1額	紙、水彩
315	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	195×270	3点1額	紙、水彩
316	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	185/186×270	3点1額	紙、水彩
317	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	270×382	額	紙、水彩
318	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	270×382	額	紙、水彩
319	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	270×380/382	額	紙、水彩
320	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	252×382	額	紙、水彩
321	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×382	額	紙、水彩
322	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	270×382	額	紙、水彩
323	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190×270	額	紙、水彩、セル、セル絵具
324	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×383	額	紙、水彩
325	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	382×270	額	紙、水彩
326	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	198/200×270	額	紙、水彩、セル、セル絵具
327	平成狸合戦ぽんぽこ	スケッチ	1994	192×270	ケース	紙、水彩

328	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	245×662	額	紙、水彩、セル、セル絵具
329	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×382	額	紙、水彩
330	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	381×270	額	紙、水彩
331	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	248/245×700/705	額	紙、水彩、セル、セル絵具
332	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	243/240×710/705	額	紙、水彩
333	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190×270	額	紙、水彩
334	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190×270	2点1額装	紙、水彩
335	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190×270	2点1額装	紙、水彩
336	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190/195×270	額	紙、水彩
337	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190/195×270	額	紙、水彩
338	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
339	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×382	額	紙、水彩
340	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×380	額	紙、水彩
341	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190/195×270	額	紙、水彩、セル、セル絵具
342	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190×270	額	紙、水彩
343	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190×270	額	紙、水彩
344	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	270×383	額	紙、水彩
345	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	560×365	額	紙、水彩
346	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	382×270	額	紙、水彩
347	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190×270	額	紙、水彩
348	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190×270	額	紙、水彩
349	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×380	額	紙、水彩
350	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	180×270	額	紙、水彩
351	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×383	額	紙、水彩、セル、セル絵具
352	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	195×270	額	紙、水彩
353	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190×270	額	紙、水彩
354	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×380	額	紙、水彩
355	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	195/193×270	額	紙、水彩
356	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	270×382/381	額	紙、水彩
357	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画およびセル画	1994	295/290×366	額	紙、水彩、セル、セル絵具
358	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×381	額	紙、水彩
359	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190×270	2点1額	紙、水彩
360	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190×270	2点1額	紙、水彩
361	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190×270	額	紙、水彩
362	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	185×270	額	紙、水彩
363	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
364	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×382	額	紙、水彩
365	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×381	額	紙、水彩
366	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	245/243×665	額	紙、水彩
367	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	193/195×383	額	紙、水彩
368	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	260/257×873	額	紙、水彩、セル、セル絵具
369	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	250×695	額	紙、水彩
370	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	252/255×730/733	額	紙、水彩、セル、セル絵具
371	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	270×383	額	紙、水彩
372	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	205×360	額	紙、水彩、セル、セル絵具
373	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×382	額	紙、水彩
374	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×190/191	額	紙、水彩
375	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×190	額	紙、水彩
376	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	190/195×270	額	紙、水彩
377	平成狸合戦ぽんぽこ	背景画	1994	270×383	額	紙、水彩
378	平成狸合戦ぽんぽこ	美術設定	1994	257×364	ケース	紙、鉛筆
379	平成狸合戦ぽんぽこ	美術設定	1994	364×257	ケース	紙、鉛筆
380	平成狸合戦ぽんぽこ	美術設定	1994	257×364	ケース	紙、鉛筆
381	平成狸合戦ぽんぽこ	美術設定	1994	257×364	ケース	紙、鉛筆
382	平成狸合戦ぽんぽこ	美術設定	1994	257×364	ケース	紙、鉛筆
383	平成狸合戦ぽんぽこ	美術設定	1994	257×364	ケース	紙、鉛筆
384	平成狸合戦ぽんぽこ	美術設定	1994	257×364	ケース	紙、鉛筆
385	平成狸合戦ぽんぽこ	美術設定	1994	257×364	ケース	紙、鉛筆
386	平成狸合戦ぽんぽこ	美術設定	1994	257×364	ケース	紙、水彩、鉛筆
387	平成狸合戦ぽんぽこ	美術設定	1994	257×364	ケース	紙、鉛筆
388	平成狸合戦ぽんぽこ	美術設定	1994	257×364	ケース	紙、鉛筆
389	平成狸合戦ぽんぽこ	美術設定	1994	257×364	ケース	紙、鉛筆
390	平成狸合戦ぽんぽこ	美術設定	1994	257×364	ケース	紙、鉛筆、色鉛筆
391	平成狸合戦ぽんぽこ	美術設定	1994	257×364	ケース	紙、鉛筆
392	平成狸合戦ぽんぽこ	美術設定	1994	257×364	ケース	紙、鉛筆
393	平成狸合戦ぽんぽこ	美術ボード	1994	270×383	額	紙、水彩
394	耳をすませば	背景画	1995	540/535×370/368	額	紙、水彩、セル、セル絵具

395	耳をすませば	背景画	1995	424×312	額	紙、水彩
396	耳をすませば	背景画	1995	252×360	額	紙、水彩、セル、セル絵具
397	耳をすませば	背景画	1995	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
398	耳をすませば	背景画	1995	255×360	額	紙、水彩、セル、セル絵具
399	耳をすませば	背景画	1995	253×360	額	紙、水彩
400	耳をすませば	背景画	1995	255×360	額	紙、水彩、セル、セル絵具
401	耳をすませば	背景画	1995	245/230×648	額	紙、水彩、セル、セル絵具
402	耳をすませば	背景画	1995	230×566	額	紙、水彩
403	耳をすませば	背景画	1995	558/560×320/325	額	紙、水彩、セル、セル絵具
404	耳をすませば	背景画	1995	230×645/643	額	紙、水彩
405	耳をすませば	背景画	1995	396×575	額	紙、水彩
406	猫の恩返し	背景画	2002	255×359	額	紙、水彩
407	猫の恩返し	背景画	2002	250/255×360	額	紙、水彩
408	猫の恩返し	背景画	2002	255×360	額	紙、水彩
409	猫の恩返し	背景画	2002	228×920/918	額	紙、水彩
410	猫の恩返し	背景画	2002	275×425	額	紙、水彩
411	猫の恩返し	背景画	2002	283/285×460	額	紙、水彩
412	猫の恩返し	背景画	2002	350×482	額	紙、水彩
413	猫の恩返し	背景画	2002	275×425	額	紙、水彩
414	もののけ姫	美術ボード	1997	383×270	額	紙、水彩
415	もののけ姫	背景画	1997	763×373/370	額	紙、水彩、セル、セル絵具
416	もののけ姫	美術設定	1997	775×365	額	紙、鉛筆
417	もののけ姫	美術ボード	1997	185×271	額	紙、水彩、セル、セル絵具
418	もののけ姫	美術設定	1997	256×365	額	紙、鉛筆
419	もののけ姫	背景画	1997	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
420	もののけ姫	美術設定	1997	230×350	額	紙、鉛筆
421	もののけ姫	美術ボード	1997	190×271	額	紙、水彩
422	もののけ姫	美術設定	1997	363×515	額	紙、鉛筆
423	もののけ姫	美術ボード	1997	190×270	額	紙、水彩
424	もののけ姫	美術設定	1997	230×350	額	紙、鉛筆
425	もののけ姫	美術ボード	1997	193×270	額	紙、水彩
426	もののけ姫	背景画	1997	380×360	額	紙、水彩、セル、セル絵具
427	もののけ姫	背景画	1997	600×370	額	紙、水彩、セル、セル絵具
428	もののけ姫	背景画	1997	570×425/430	額	紙、水彩、セル、セル絵具
429	もののけ姫	美術ボード	1997	382×271	額	紙、水彩
430	もののけ姫	背景画	1997	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
431	もののけ姫	美術ボード	1997	190×270	額	紙、水彩
432	もののけ姫	背景画	1997	270×381	額	紙、水彩、セル、セル絵具
433	もののけ姫	美術ボード	1997	195/193×270	額	紙、水彩
434	もののけ姫	背景画	1997	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
435	もののけ姫	美術ボード	1997	190×270	額	紙、水彩
436	もののけ姫	美術ボード	1997	190×270	額	紙、水彩
437	もののけ姫	美術ボード	1997	190×270	額	紙、水彩
438	もののけ姫	背景画	1997	270×381	額	紙、水彩、セル、セル絵具
439	もののけ姫	美術ボード	1997	191×270	額	紙、水彩
440	もののけ姫	背景画	1997	260/265×645	額	紙、水彩、セル、セル絵具
441	もののけ姫	美術ボード	1997	193×270	額	紙、水彩
442	もののけ姫	背景画	1997	305×1183		水彩、セル、セル絵具
443	もののけ姫	背景画	1997	305×1184		水彩、セル、セル絵具
444	もののけ姫	背景画	1997	305×1184	3階	水彩、セル、セル絵具
445	もののけ姫	背景画	1997	305×1184		水彩、セル、セル絵具
446	もののけ姫	背景画	1997	300×1082		紙、水彩
447	もののけ姫	美術ボード	1997	190×270	額	紙、水彩
448	もののけ姫	背景画	1997	270×382	額	紙、水彩
449	もののけ姫	美術ボード	1997	191×270	額	紙、水彩
450	もののけ姫	美術ボード	1997	190×270	額	紙、水彩
451	もののけ姫	背景画	1997	270×381	額	紙、水彩
452	もののけ姫	背景画	1997	270×382	額	紙、水彩
453	もののけ姫	美術ボード	1997	193×238	額	紙、水彩
454	もののけ姫	美術ボード	1997	192×270	額	紙、水彩
455	もののけ姫	美術ボード	1997	192×270	額	紙、水彩
456	もののけ姫	背景画	1997	270×383	額	紙、水彩、セル、セル絵具
457	もののけ姫	背景画およびセル画	1997	270×383/381	額	ヒエゾグラフ、セル、セル絵具
458	もののけ姫	背景画	1997	270×383/381	額	紙、水彩
459	もののけ姫	背景画	1997	270×383	額	紙、水彩
460	もののけ姫	美術ボード	1997	192×270	額	紙、水彩
461	もののけ姫	背景画	1997	270×380	額	紙、水彩

462	もののけ姫	美術ボード	1997	192×270	額	紙、水彩
463	もののけ姫	美術ボード	1997	190×270	額	紙、水彩
464	もののけ姫	背景画	1997	270×383	額	紙、水彩、セル、セル絵具
465	もののけ姫	美術ボード	1997	192×273	額	紙、水彩
466	もののけ姫	背景画	1997	270×384	額	紙、水彩、セル、セル絵具
467	もののけ姫	背景画	1997	1610×387	3階	紙、水彩
468	もののけ姫	背景画	1997	270×383	額	紙、水彩、セル、セル絵具
469	もののけ姫	背景画	1997	270×386	額	紙、水彩、セル、セル絵具
470	もののけ姫	背景画	1997	270×382	額	紙、水彩
471	もののけ姫	背景画	1997	270/274×1000/1003	額	紙、水彩
472	もののけ姫	背景画	1997	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
473	もののけ姫	背景画	1997	270×382	額	紙、水彩
474	もののけ姫	美術ボード	1997	190×270	額	紙、水彩
475	もののけ姫	背景画	1997	270×382	額	紙、水彩
476	もののけ姫	美術ボード	1997	190×270	額	紙、水彩
477	もののけ姫	背景画	1997	270×1060	額	紙、水彩
478	もののけ姫	背景画	1997	270×382	額	紙、水彩
479	もののけ姫	背景画	1997	270×381	額	紙、水彩
480	もののけ姫	背景画	1997	270×382	額	紙、水彩
481	もののけ姫	背景画	1997	270×383	額	ビエソグラフ、セル、セル絵具
482	もののけ姫	背景画	1997	270×383	額	紙、水彩
483	もののけ姫	背景画	1997	270×382	額	ビエソグラフ、セル、セル絵具
484	もののけ姫	背景画	1997	270×382	額	紙、水彩
485	もののけ姫	背景画	1997	270×381	額	紙、水彩
486	もののけ姫	背景画	1997	270×381	額	紙、水彩、セル、セル絵具
487	もののけ姫	背景画	1997	270×381	額	ビエソグラフ、セル、セル絵具
488	もののけ姫	背景画	1997	270×381	額	紙、水彩
489	もののけ姫	背景画およびセル画	1997	436×705/708	額	紙、水彩、セル、セル絵具
490	もののけ姫	背景画	1997	265×1050	額	紙、水彩、セル、セル絵具
491	もののけ姫	美術ボード	1997	365×265	額	紙、水彩
492	千と千尋の神隠し	背景画	2001	580×385	額	紙、水彩
493	千と千尋の神隠し	背景画	2001	580×377/383	額	紙、水彩
494	千と千尋の神隠し	背景画	2001	257/258×486/483	額	紙、水彩
495	千と千尋の神隠し	背景画	2001	593/590×369/365	額	紙、水彩
496	千と千尋の神隠し	背景画	2001	248/247×715/718	額	紙、水彩
497	千と千尋の神隠し	背景画	2001	418×385/390	額	紙、水彩、セル、セル絵具
498	千と千尋の神隠し	背景画	2001	254/254×520/518	額	紙、水彩
499	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×382	額	紙、水彩
500	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
501	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×382	額	紙、水彩
502	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×381	額	紙、水彩
503	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×383	額	紙、水彩
504	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×382/380	額	紙、水彩、セル、セル絵具
505	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×383/382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
506	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×384	額	紙、水彩
507	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
508	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×382	額	紙、水彩、セル、セル絵具
509	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×383	額	紙、水彩、セル、セル絵具
510	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×383	額	紙、水彩
511	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×382	額	紙、水彩
512	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×380	額	紙、水彩
513	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×346	額	紙、水彩
514	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×383	額	紙、水彩
515	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×382	額	紙、水彩
516	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×383	額	紙、水彩
517	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×383	額	紙、水彩、セル、セル絵具
518	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×383	額	紙、水彩
519	千と千尋の神隠し	背景画	2001	270×383	額	紙、水彩
520	ハウルの動く城	背景画	2004	415×375	額	紙、水彩
521	ハウルの動く城	背景画	2004	297×405	額	紙、水彩
522	ハウルの動く城	背景画	2004	260×455	額	紙、水彩
523	ハウルの動く城	背景画	2004	270×548	額	紙、水彩
524	ハウルの動く城	背景画	2004	270×473	額	紙、水彩
525	ハウルの動く城	背景画	2004	347×497	額	紙、水彩
526	ハウルの動く城	背景画	2004	250×945	額	紙、水彩
527	ハウルの動く城	背景画	2004	270×382	額	紙、水彩
528	ハウルの動く城	背景画	2004	270×382	額	紙、水彩

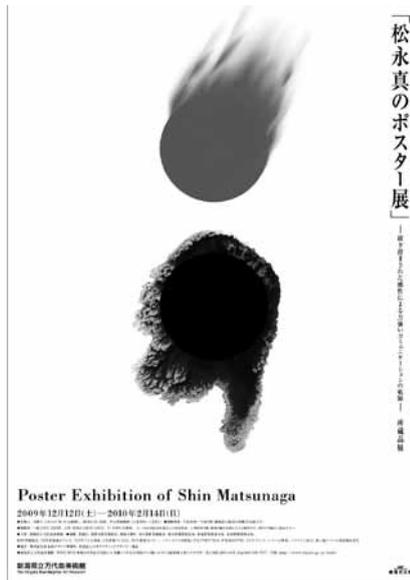
529	ハウルの動く城	背景画	2004	270×381	額	紙、水彩
530	ハウルの動く城	背景画	2004	270×381	額	紙、水彩
531	ハウルの動く城	背景画	2004	270×381	額	紙、水彩
532	ハウルの動く城	背景画	2004	270×382	額	紙、水彩
533	ハウルの動く城	背景画	2004	270×382	額	紙、水彩
534	ハウルの動く城	背景画	2004	270×382	額	紙、水彩
535	ハウルの動く城	背景画	2004	270×381	額	紙、水彩
536	ゲド戦記	背景画	2006	270×382	額	紙、水彩
537	ゲド戦記	背景画	2006	270×381	額	紙、水彩
538	ゲド戦記	背景画	2006	270×382	額	紙、水彩
539	ゲド戦記	背景画	2006	270×382	額	紙、水彩
540	ゲド戦記	背景画	2006	303/302×382	額	紙、水彩
541	ゲド戦記	背景画	2006	270×381	額	紙、水彩
542	ゲド戦記	背景画	2006	320×723/725	額	紙、水彩
543	ゲド戦記	背景画	2006	390×395	額	紙、水彩
544	ゲド戦記	背景画	2006	270×380	額	紙、水彩
545	ゲド戦記	背景画	2006	270×380	額	紙、水彩
546	崖の上のポニョ	背景画	2008	272/271×383	ケース	紙、水彩、色鉛筆、クレヨン、パステル
547	崖の上のポニョ	背景画	2008	270×382	ケース	紙、水彩、色鉛筆、クレヨン、パステル
548	崖の上のポニョ	背景画	2008	270×382	ケース	紙、水彩、色鉛筆、クレヨン、パステル
549	崖の上のポニョ	背景画	2008	270×382	ケース	紙、水彩、色鉛筆、クレヨン、パステル
550	崖の上のポニョ	背景画	2008	270×382	ケース	紙、水彩、色鉛筆、クレヨン、パステル
551	崖の上のポニョ	背景画	2008	270×382	ケース	紙、水彩、色鉛筆、クレヨン、パステル
552	空想科学の機械達展	背景画およびセル画	2002	444/440×295	額	紙、水彩、セル、セル絵具
553	空想科学の機械達展	背景画	2002	270×444/440	額	紙、水彩

第3章 〈反映〉 映画を離れて

554	LETTERS	挿絵	1993	354×265	額	紙、水彩
555	LETTERS	挿絵	1993	350/348×266/267	額	紙、水彩
556	LETTERS	挿絵	1993	265×350	額	紙、水彩
557	男鹿和雄画集	表紙イラスト	1996	292×455	額	紙、水彩、鉛筆
558	男鹿和雄画集Ⅱ	表紙イラスト	2005	336×578	額	紙、水彩
559	第二楽章	展示用イラスト (映画「はだしのゲン」背景画)	1997	507×620	額	紙、水彩
560	第二楽章	展示用イラスト	1997	506×616	額	紙、水彩、色鉛筆
561	第二楽章	展示用イラスト	1997	505×615	額	紙、水彩
562	第二楽章	挿絵	1997	230×353	額	紙、水彩
563	第二楽章	挿絵	1997	230×333	額	紙、水彩
564	第二楽章	挿絵	1997	230×353	額	紙、水彩
565	第二楽章	挿絵	1997	230×353	額	紙、水彩
566	第二楽章	挿絵	1997	230×353	額	紙、水彩
567	第二楽章	挿絵	1997	260×358	額	紙、水彩
568	第二楽章 長崎から	挿絵	1999	260/258×364/366	額	紙、水彩
569	第二楽章 長崎から	挿絵	1999	256×366	額	紙、水彩
570	第二楽章 長崎から	挿絵	1999	260×365	額	紙、水彩
571	第二楽章 長崎から	挿絵	1999	258/256×363	額	紙、水彩
572	第二楽章 長崎から	挿絵	1999	258/257×364	額	紙、水彩
573	第二楽章 沖縄から 「ウミガメと少年」	挿絵	2006	400×675	額	紙、水彩、クレヨン
574	第二楽章 沖縄から 「ウミガメと少年」	挿絵	2006	338×535/533	額	紙、水彩、色鉛筆、クレヨン
575	第二楽章 沖縄から 「ウミガメと少年」	挿絵	2006	300×535	額	紙、水彩、クレヨン
576	第二楽章 沖縄から 「ウミガメと少年」	挿絵	2006	300/298×480/482	額	紙、水彩、色鉛筆、クレヨン
577	第二楽章 沖縄から 「ウミガメと少年」	挿絵	2006	300×542	額	紙、水彩、色鉛筆、クレヨン
578	第二楽章 沖縄から 「ウミガメと少年」	挿絵	2006	296×420	額	紙、水彩、色鉛筆、クレヨン
579	映画興行師	挿絵	1997	257×360	額	紙、水彩
580	映画興行師	挿絵	1997	266/264×362/362	額	紙、水彩
581	映画興行師	挿絵	1997	265×362	額	紙、水彩
582	映画興行師	挿絵	1997	256×362/363	額	紙、水彩
583	映画興行師	挿絵	1997	263×362	額	紙、水彩
584	映画興行師	挿絵	1997	240×362/363	額	紙、水彩
585	映画興行師	挿絵	1997	263×364/363	額	紙、水彩
586	ねずてん	絵本より	2003	310/306×422	額	紙、水彩
587	ねずてん	絵本より	2003	308×418	額	紙、水彩

588	ねずてん	絵本より	2003	300×417	額	紙、水彩
589	ねずてん	絵本より	2003	304×420	額	紙、水彩
590	ねずてん	絵本より	2003	310×764	額	紙、水彩
591	ねずてん	絵本より	2003	286/285×725/722	額	紙、水彩
592	ねずてん	絵本より	2003	304×390	額	紙、水彩
593	ねずてん	絵本より	2003	300×765	額	紙、水彩
594	ねずてん	絵本より	2003	310×750	額	紙、水彩
595	種山ヶ原の夜	DVDより	2006	273×785	額	紙、水彩、色鉛筆、セル、クレヨン
596	種山ヶ原の夜	DVDより	2006	270×375	額	紙、水彩、色鉛筆、セル、クレヨン
597	種山ヶ原の夜	DVDより	2006	270×540/542	額	紙、水彩、色鉛筆、クレヨン
598	種山ヶ原の夜	DVDより	2006	274×380	額	紙、水彩、色鉛筆、セル、クレヨン
599	種山ヶ原の夜	DVDより	2006	275×505	額	紙、水彩、色鉛筆、セル、クレヨン
600	種山ヶ原の夜	DVDより	2006	272×376	額	紙、水彩、色鉛筆、セル、クレヨン
601	種山ヶ原の夜	DVDより	2006	275×785/783	額	紙、水彩、色鉛筆、セル、クレヨン
602	ちゃぐりん	表紙イラスト	2004	332/330×260	額	紙、水彩
603	ちゃぐりん	表紙イラスト	2003	330×258	額	紙、水彩
604	ちゃぐりん	表紙イラスト	2006	327×255	額	紙、水彩
605	ちゃぐりん	表紙イラスト	2004	332×266	額	紙、水彩
606	ちゃぐりん	表紙イラスト	2003	329×255	額	紙、水彩
607	ちゃぐりん	表紙イラスト	2002	332×252	額	紙、水彩
608	ちゃぐりん	表紙イラスト	2002	328×253	額	紙、水彩
609	ちゃぐりん	表紙イラスト	2002	335×252	額	紙、水彩
610	中小企業向け業界誌	表紙イラスト	1999	192×272	2点1額	紙、水彩
611	中小企業向け業界誌	表紙イラスト	1999	190/192×272	2点1額	紙、水彩
612	中小企業向け業界誌	表紙イラスト	2000	192×270	2点1額	紙、水彩
613	中小企業向け業界誌	表紙イラスト	2000	192×270	2点1額	紙、水彩
614	中小企業向け業界誌	表紙イラスト	1999	190×270	2点1額	紙、水彩
615	中小企業向け業界誌	表紙イラスト	1999	190×270	2点1額	紙、水彩
616	中小企業向け業界誌	表紙イラスト	2000	236×168	額	紙、水彩
617	中小企業向け業界誌	表紙イラスト	2002	298×214	額	紙、水彩
618	中小企業向け業界誌	表紙イラスト	2000	298×210	額	紙、水彩
619	中小企業向け業界誌	表紙イラスト	2000	298×210	額	紙、水彩
620	中小企業向け業界誌	表紙イラスト	2000	296/297×210	額	紙、水彩
621	中小企業向け業界誌	表紙イラスト	2001	297/295×210	額	紙、水彩
622	スケッチ	スケッチ		148×100	ケース	紙、水彩
623	スケッチ	スケッチ		100×148	ケース	紙、水彩
624	スケッチ	スケッチ		267×185	ケース	紙、水彩
625	スケッチ	スケッチ		170×57	ケース	紙、水彩
626	スケッチ	スケッチ		188×269	ケース	紙、水彩、鉛筆
627	スケッチ	スケッチ		100×148	ケース	紙、水彩
628	スケッチ	スケッチ		100×148	ケース	紙、水彩
629	スケッチ	スケッチ		100×148	ケース	紙、水彩、鉛筆
630	スケッチ	スケッチ		255×362	ケース	紙、水彩
631	スケッチ	スケッチ		273×203	ケース	紙、水彩
632	スケッチ	スケッチ		200×277	ケース	紙、ペン、色鉛筆
633	スケッチ	スケッチ		192×272	ケース	紙、水彩
634	スケッチ	スケッチ		195×270	ケース	紙、水彩
635	スケッチ	スケッチ		192×272	ケース	紙、水彩
636	スケッチ	スケッチ		100×148	ケース	紙、水彩

所蔵品展



松永真のポスター展

研ぎ澄まされた感性による力強いコミュニケーションの軌跡

【趣旨】

松永真（まつなが・しん）氏【1940（昭和15）年東京生まれ】は、今日最も精力的に活躍している、日本を代表する世界的なグラフィックデザイナーの一人。ポスターのみならず、シンボルマークのデザインからパッケージのデザイン、彫刻やドローイングまで、様々な分野において、新鮮で大胆な発想に基づいた話題作を次々と発表している。毎日デザイン賞、芸術選奨文部大臣新人賞、ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ金賞・名誉賞、イコグラダ大賞、紫綬褒章など国内外での多くの受賞歴があり、作品の完成度の高さは、海外でも高い評価を受け、世界76箇所の美術館などに多数の作品が永久保存されている。近年では、ブランドの思想の根幹から最終的な商品計画までをデザイン主導で展開し、具体化した結果、2007（平成19）年に第9回亀倉雄策賞や東京ADC会員賞など、多くを受賞している。

今回の展示は2部構成とし、所蔵作品の中から選りすぐったポスター作品と第9回亀倉雄策賞受賞作関連作品を紹介した。氏のシンプルな造形の背後にある、深い洞察力と自由なひらめきを浮き彫りにすることを目指した。

【総括】

●評価すべき点

日本のグラフィックデザインの優れた成果のひとつである松永真氏の代表的なポスターを網羅して紹介できた。改めてグラフィックデザインの意

義と造形的な美しさについて見直す機会となった。

●検討課題

企画・準備段階では「松永真のデザインと亀倉雄策賞の10年」として実施予定であった。だが、所蔵品であるとの意識から、館担当者と作者・関係者側との連絡が密でなかったため、実施内容についての了解が得られず、調整の結果、内容変更を行って実施することになった。会期直前の変更のため、早めの印刷物作成など、十分な周知活動が展開できず、多くの観客を呼ぶことができなかった。所蔵品展とはいえ、作者・関係者と緊密な連絡調整を欠かしてはいけないことを学んだ展覧会であった。

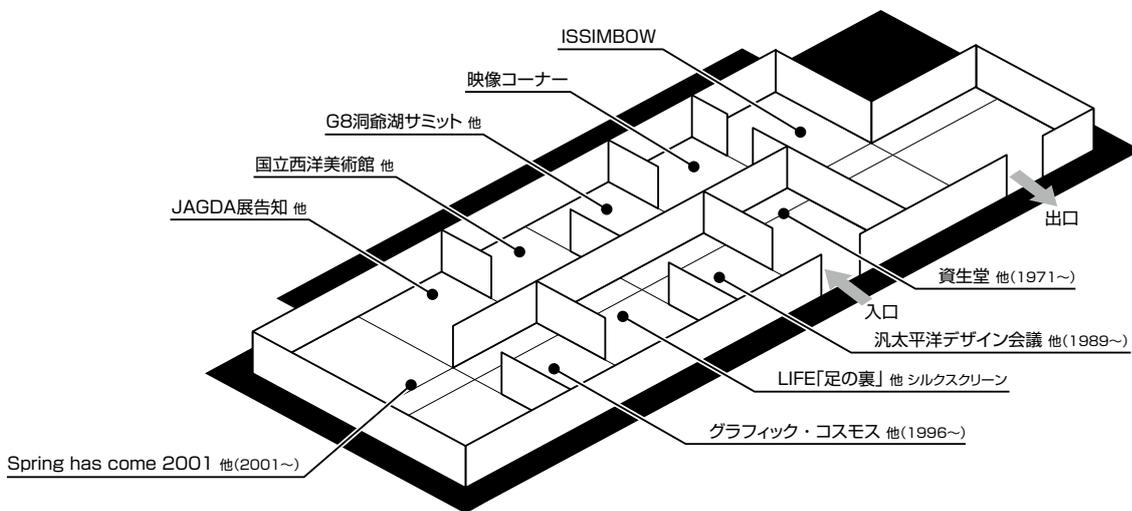
【開催日・その他】

＝2009年12月12日(土)～2010年2月14日(日)
(50日間)＝

*休館日：月曜日（1月11日(月・祝)は開館し、翌12日(火)休館）年末年始期間(12月28日～1月3日)

主 催：新潟県立万代島美術館

後 援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエムしばた、



燕三条エフエム放送株式会社
 特別後援：社団法人日本グラフィックデザイナー協会
 協力：株式会社松永真デザイン事務所
 観覧料：一般……………310円 (250円)
 大学・高校生……………150円 (120円)
 中学生以下無料
 ※ () 内は20名以上の団体料金



・朝日新聞夕刊(東京版) 1月27日(水)
 「グラフィックの本流探る 早川良雄・田中一光
 東京で同時に展覧会」西田健作

・その他
 新潟日報 12/12(土)
 新潟日報夕刊 1/13(水)
 北日本新聞 12/24(木)
 読売新聞 1/29(金)

【関連行事】

・作品解説会
 会期中の土・日・祝日(全19回)
 ただし他のイベントがある日は除く
 14:00より、美術館展示室にて、当館学芸員
 参加人数：延べ59人

・美術鑑賞講座
 「広告と美術」
 1月16日(土) 14:00~15:30
 万代島ビル11階 NICOプラザ会議室
 講師：藤田裕彦(近代美術館学芸課長)
 参加人数：7人

【関連記事】

●新聞
 ・新潟日報 1月16日(土)
 「松永真のポスター展 万代島美術館で開催中
 国際派の仕事 広範囲に紹介」桐原浩

●雑誌
 「月刊にいがたタウン情報」1月号
 「week!」2009年12/18-1/7号
 「県民だより」2010年冬号
 「新潟情報」1月20日号

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	1,252
	前売	—
無料観覧者数	無料	413
	免除	110
総観覧者数		1,775
有料率(%)		70.5

担当 桐原浩、飯島沙耶子

【出品リスト】

作品名	制作年	素材・技法	クライアント	寸法 (縦×横cm)	版型
1 人・人・人 資生堂サンオイル	1971	オフセット	株式会社資生堂	103.0×72.8	B1版
2 人・人・人 資生堂ビューティケイク	1971	オフセット	株式会社資生堂	103.0×72.8	B1版
3 PEACE "Love, Peace and Happiness"	1986	オフセット	(社)日本グラフィックデザイナー協会	103.0×72.8	B1版
4 Japan "forever"	1988	オフセット	(社)日本グラフィックデザイナー協会	103.0×72.8	B1版
5 PEACE "旅は人間を教育する"	1988	オフセット	(社)日本グラフィックデザイナー協会	103.0×72.8	B1版
6 PEACE "地球は誰のものでもない"	1989	オフセット	(社)日本グラフィックデザイナー協会	103.0×72.8	B1版
7 VISION OF WATER	1989	オフセット	(社)日本グラフィックデザイナー協会	103.0×72.8	B1版
8 フランス革命200周年記念人権ポスター	1989	オフセット	Artists 89	103.0×72.8	B1版
9 汎太平洋デザイン会議'89東京	1989	オフセット	ICGRADA、 (社)日本グラフィックデザイナー協会	103.0×72.8	B1版
10 第5回 国際デザインコンペティション「土」	1990	オフセット	国際デザイン交流協会	103.0×72.8	B1版
11 91 OBJECTS BY 91 DESIGNERS	1991	オフセット	ギャラリー 91、ニューヨーク	103.0×72.8	B1版
12 COMMUNICATION & PRINT	1991	オフセット	大日本印刷(株)	103.0×72.8	B1版
13 PEACE "一度起こってしまったことは二度と元には戻らない"	1991	オフセット	(社)日本グラフィックデザイナー協会	103.0×72.8	B1版
14 仁摩サンドミュージアム	1991	オフセット	仁摩サンドミュージアム	103.0×72.8	B1版
15 田川市美術館オープン	1991	オフセット	田川市美術館	103.0×72.8	B1版
16 筑豊ゆかりの作家たち展	1991	オフセット	田川市美術館	103.0×72.8	B1版
17 I'm here. "すべてに始まりがある。"	1992	オフセット	(社)日本グラフィックデザイナー協会	103.0×72.8	B1版
18 FROM TOKYO	1993	オフセット	東京アートディレクターズクラブ	103.0×72.8	B1版
19 高岡市イメージポスター いきがい・うるおい・いきおい	1992	オフセット	高岡市	101.4×144.6	BO版 (パネル)
20 ローム no. 3	1993	オフセット	(株)ローム	101.4×144.6	BO版 (パネル)
21 松永真のグラフィックデザイン・スロベニア展	1994	シルクスクリーン	ビエンナーレオブインダストリアルデザイン・スロベニア	103.0×72.8	B1版
22 松永真のペーパーフリース・ベルギー展	1994	シルクスクリーン	国際トレードマークセンター・ベルギー	103.0×72.8	B1版
23 LIFE [足の裏]	1994	シルクスクリーン	日本デザインコミッティー	103.0×72.8	B1版
24 LIFE [葉]	1994	シルクスクリーン	日本デザインコミッティー	103.0×72.8	B1版
25 LIFE [枯れ木]	1994	シルクスクリーン	日本デザインコミッティー	103.0×72.8	B1版
26 メタルフリース "筋金入り"	1995	シルクスクリーン		145.5×103.0	BO版 (パネル)
27 松永真のフリース展	1995	シルクスクリーン	和光	102.5×145.5	BO版 (パネル)
28 松永真のフリース展	1995	シルクスクリーン	和光	145.4×102.8	BO版 (パネル)
29 グラフィック・コスモス "Love, Peace and Happiness"	1996	オフセット		145.0×102.4	BO版 (パネル)
30 グラフィック・コスモス "Love, Peace and Happiness"	1996	オフセット		145.0×102.4	BO版 (パネル)
31 ジタン・ブロード	1996	シルクスクリーン	セイタ (パリ)	145.0×102.4	BO版 (パネル)
32 ジタン・ブロード・レジェール	1996	シルクスクリーン	セイタ (パリ)	145.0×102.4	BO版 (パネル)
33 IdcN	1996	シルクスクリーン	株式会社国際デザインセンター	103.0×72.8	B1版
34 COP3 地球温暖化防止京都会議	1997	オフセット	京都市	103.0×72.8	B1版
35 黒川紀章回顧展 Kurokawa Kisho Retrospective Penser la Symbiose	1997	オフセット	パリ日本文化会館、 黒川紀章回顧展実行委員会	145.0×102.4	BO版 (パネル)
36 河口湖美術館	2001	オフセット	河口湖美術館	103.0×72.8	B1版
37 第9回日経BP広告賞	2002	オフセット	日経BP社	103.0×72.8	B1版
38 JAPAN "燃え盛るか日本、燃え尽きるか日本。"	2001	オフセット	(社)日本グラフィックデザイナー協会	103.0×72.8	B1版
39 VIVA20C 20世紀の物質と映像のデザイン展	2000	オフセット	日本デザインコミッティー	103.0×72.8	B1版
40 田中一光 ポスターとグラフィックアート展 ギンザ・グラフィック・ギャラリー第200回企画展	2002	オフセット	ギンザ・グラフィック・ギャラリー	103.0×72.8	B1版
41 田中一光 ポスターとグラフィックアート展 ギンザ・グラフィック・ギャラリー第200回企画展	2002	オフセット	ギンザ・グラフィック・ギャラリー	103.0×72.8	B1版
42 "Spring has come 2001" - No.03	2001	オフセット		145.6×103.0	BO版 (パネル)
43 "Spring has come 2001" - No.09	2001	オフセット		145.2×102.7	BO版 (パネル)
44 "Spring has come 2001" - No.12	2001	オフセット		103.0×145.6	BO版 (パネル)
45 "Spring has come 2001" - No.13	2001	オフセット		103.0×145.6	BO版 (パネル)
46 "Spring has come 2001" - No.14	2001	オフセット		103.0×145.6	BO版 (パネル)
47 Composition of Drawing "女の顔"	2003	オフセット	共同印刷株式会社セールスプロモーションセンター	103.0×72.8	B1版
48 Composition of Drawing "飛行船"	2003	オフセット	共同印刷株式会社セールスプロモーションセンター	103.0×72.8	B1版
49 Composition of Drawing "髭の男"	2003	オフセット	共同印刷株式会社セールスプロモーションセンター	103.0×72.8	B1版
50 Composition of Drawing "鴨"	2003	オフセット	共同印刷株式会社セールスプロモーションセンター	103.0×72.8	B1版
51 Composition of Drawing "男"	2003	オフセット	共同印刷株式会社セールスプロモーションセンター	103.0×72.8	B1版
52 JAGDAベストワンポスター展告知ポスター	2003	オフセット	(社)日本グラフィックデザイナー協会	103.0×72.8	B1版
53 JAGDAサポートポスター展告知ポスター	2003	オフセット	(社)日本グラフィックデザイナー協会	103.0×72.8	B1版

54	JAGDAメンバーズポスター展サポートポスター "VISUALOGUE"	2003	オフセット	(社)日本グラフィックデザイナー協会	103.0×72.8	B1版
55	松永真のポスター展 カナダ (トロント)	2003	オフセット	国際交流基金トロント日本文化センター	103.0×72.8	B1版
56	松永真のポスター展 ブラジル (サンパウロ)	2003	オフセット	国際交流基金サンパウロ日本文化センター	103.0×72.8	B1版
57	Mana Screen, Matsunaga Shin マナスクリーン株式会社25周年記念 新作ポスター展	2003	シルクスクリーン	マナスクリーン株式会社	103.0×72.8	B1版
58	Mana Screen, Matsunaga Shin マナスクリーン株式会社25周年記念 新作ポスター展	2003	シルクスクリーン	マナスクリーン株式会社	103.0×72.8	B1版
59	YKK AP イメージポスター	2004	オフセット	YKK AP 株式会社	103.0×72.8	B1版
60	Water for Life	2005	オフセット	(財)広島国際文化財団 (社)日本グラフィックデザイナー協会	103.0×72.8	B1版
61	MANIFESTI D'ARTISTA. 1955-2005	2005	デジタルプリント	国際北斎研究センター	145.0×102.4	B0版 (パネル)
62	国立西洋美術館	2004	シルクスクリーン	国立西洋美術館	144.5×102.5	B0版 (パネル)
63	国立西洋美術館	2004	シルクスクリーン	国立西洋美術館	145.2×102.7	B0版 (パネル)
64	Drawing for Cultural Column on the Asahi Shimbun	2005	デジタルプリント	朝日新聞社	145.2×102.7	B0版 (パネル)
65	Welcome to Japan	2006	デジタルプリント	国際グラフィック連盟	145.2×102.4	B0版 (パネル)
66	AGI-Japan 2006	2006	オフセット	国際グラフィック連盟	102.7×72.6	B1版 (パネル)
67	G8北海道洞爺湖サミット開催記念ポスター	2008	デジタルプリント	(社)日本グラフィックデザイナー協会	145.5×102.5	B0版 (パネル)
68	ショーモン国際ポスター・グラフィックデザイン フェスティバル20周年記念ポスター	2009	デジタルプリント	20e Festival International de l'Affiche et du Graphisme de Chaumont	144.4×96.4	B0版変形 (パネル)
69	HIROSHIMA APPEALS 2007 NO MORE HIROSHIMA!	2007	オフセット	(財)広島国際文化財団 (社)日本グラフィックデザイナー協会	102.7×72.6	B1版 (パネル)
70	ISSIMBOW "Katachi-koh" Beautiful life [美]	2006	長型 24個入	株式会社医心方	9.2×27.1×2.4	
71	ISSIMBOW "Katachi-koh" Beautiful life [美]	2006	長型 12個入	株式会社医心方	6.2×27.1×2.4	
72	ISSIMBOW "Katachi-koh" Beautiful life [美]	2006	角型 24個入	株式会社医心方	12.2×12.2×2.4	
73	ISSIMBOW "Katachi-koh" Healthy life [健]	2006	長型 24個入	株式会社医心方	9.2×27.1×2.4	
74	ISSIMBOW "Katachi-koh" Healthy life [健]	2006	長型 12個入	株式会社医心方	6.2×27.1×2.4	
75	ISSIMBOW "Katachi-koh" Healthy life [健]	2006	角型 24個入	株式会社医心方	12.2×12.2×2.4	
76	ISSIMBOW "Katachi-koh" Lively life [活]	2006	長型 24個入	株式会社医心方	9.2×27.1×2.4	
77	ISSIMBOW "Katachi-koh" Lively life [活]	2006	長型 12個入	株式会社医心方	6.2×27.1×2.4	
78	ISSIMBOW "Katachi-koh" Lively life [活]	2006	角型 24個入	株式会社医心方	12.2×12.2×2.4	
79	ISSIMBOW "Katachi-koh" Assort	2006	27個入	株式会社医心方	12.4×37.4×3.0	
80	ISSIMBOW "Katachi-koh" Assort	2006	18個入	株式会社医心方	12.2×27.1×2.6	
81	ISSIMBOW キービジュアル A	2005	オフセット	株式会社医心方	102.7×145.2	B0版 (パネル)
82	ISSIMBOW キービジュアル B	2005	オフセット	株式会社医心方	102.7×145.2	B0版 (パネル)
83	ISSIMBOW グラフィックアート A	2006	デジタルプリント	株式会社医心方	102.6×72.5	B1版 (パネル)
84	ISSIMBOW グラフィックアート B	2006	デジタルプリント	株式会社医心方	102.6×72.5	B1版 (パネル)
85	ISSIMBOW グラフィックアート C	2006	デジタルプリント	株式会社医心方	102.6×72.5	B1版 (パネル)
86	ISSIMBOW グラフィックアート D	2006	デジタルプリント	株式会社医心方	102.6×72.5	B1版 (パネル)
87	ISSIMBOW グラフィックアート E	2006	デジタルプリント	株式会社医心方	102.6×72.5	B1版 (パネル)
88	ISSIMBOW グラフィックアート F	2006	デジタルプリント	株式会社医心方	102.8×72.6	B1版 (パネル)
89	ISSIMBOW グラフィックアート G	2006	デジタルプリント	株式会社医心方	102.6×72.2	B1版 (パネル)
90	ISSIMBOW グラフィックアート H	2006	デジタルプリント	株式会社医心方	102.6×72.5	B1版 (パネル)
91	ISSIMBOW グラフィックアート I	2006	デジタルプリント	株式会社医心方	102.6×72.5	B1版 (パネル)
92	ISSIMBOW カレンダー 2007	2007	オフセット	株式会社医心方	102.6×72.5	B1版 (パネル)
93	ISSIMBOW ロゴポスター	2007	デジタルプリント	株式会社医心方	102.5×145.2	B0版 (パネル)
94	ISSIMBOW ロゴポスター	2007	デジタルプリント	株式会社医心方	102.4×145.0	B0版 (パネル)



花鳥風月—現代日本画にみる自然の美

【趣旨】

日本は豊かな自然に恵まれ、季節ごとに様々な表情を持っている。そしてそこに暮らす人々は、季節ごとの植物や生物、自然の情景を日々大切にしてきた。それらはまた美術作品の重要な主題ともなり、今なお豊かな作品を生み出し続けている。今回の所蔵品展では、日本の自然の豊かさや美しさを象徴的に言い表す「花鳥風月」という言葉をテーマにして、戦後から現代の日本画を約90点紹介した。会場は2章から構成され、第1章「花鳥—生命に託す心」では、植物や様々な生物の姿を描いた作品を、第2章「風月—風景に託す心」では風景や自然の姿を描いた作品を展示し、それぞれの作品に息づく自然の美や生命の輝きを紹介した。

また特別展示として、江戸末期に活躍した新潟の画人、行田魁庵（1812-1874）らによって描かれた《新潟年中行事絵巻》（平成20年度新収蔵品）を修復後に初めて公開した。

【総括】

●評価すべき点

- ・新しい視点から所蔵作品を紹介し、来館者にその魅力を再認識してもらうことができた。
- ・万代島美術館で初めて《新潟年中行事絵巻》を展示し、多くの観覧者が江戸時代末期の新潟の風俗行事の様子を楽しんで鑑賞し、関心を持っていた。ただけだ。
- ・所蔵品展のため、低料金で充実した展示内容を

見ていただけた。

●検討課題

- ・来館者数は辛うじて目標数値に届いたが、幅広く広報すれば来館者数をもっと伸ばしたと考えられる。

【開催日・その他】

＝2010年2月27日(土)～3月31日(水)(28日間)＝

主 催：新潟県立万代島美術館

後 援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般……………310円 (250円)

大学・高校生……………150円 (120円)

中学生以下無料

※ () 内は20名以上の団体料金

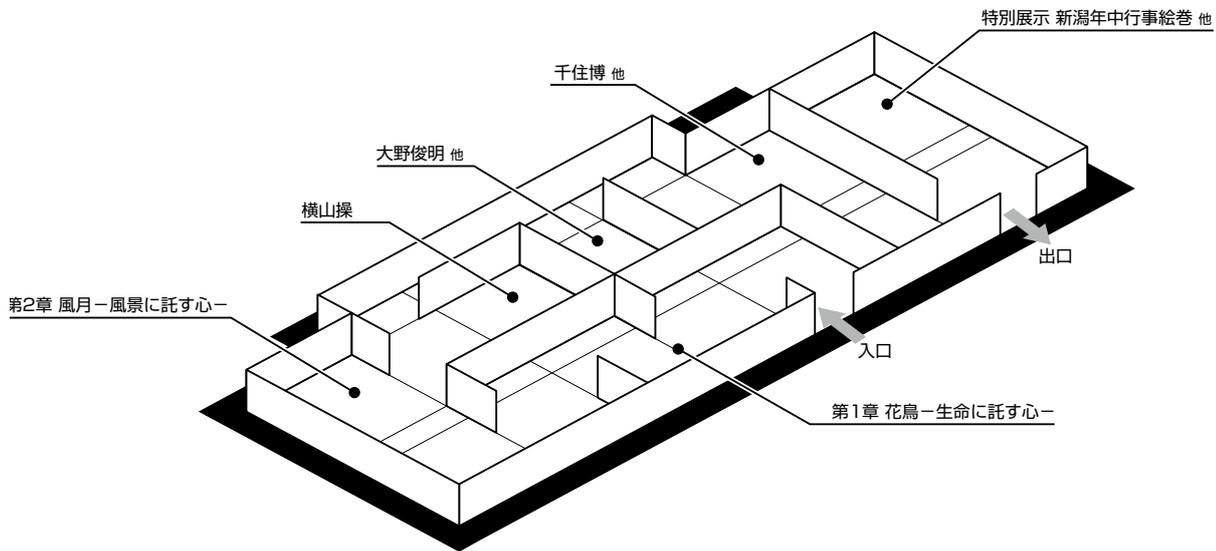
【関連行事】

- ・美術鑑賞講座

「日本画の歴史入門 花鳥画の歴史」

3月13日(土) 14:00～15:30

万代島ビル11階NICOプラザ会議室



講 師：飯島沙耶子（当館美術学芸員）
参加人数：19名

- ・作品解説会
他のイベント開催日を除く土・日・祝日（全10回）午後2時～ 万代島美術館展示室
当館学芸員
参加人数：延べ175人

【関連記事】

●新聞

新潟日報 2/27(土)
北日本新聞 3/25(木)

●雑誌

トツときガイド 1・2月号、3・4月号
月刊にいがたタウン情報 3月号
Komachi 春号

●テレビ

3月15日(月) NCV 「にいがたフラッシュ」

●ラジオ

3月6日(土) FM PORT 79.0 「Good Morning Port City Saturday」／飯島沙耶子

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	2,156
	前売	—
無料観覧者数	無料	482
	免除	148
総観覧者数		2,786
有料率 (%)		77.3

担当 飯島沙耶子、池田珠緒、澤田佳三

【出品リスト】

■第1章 花鳥—生命に託す心—

作品名	作家名	制作年	技法	寸法(縦×横cm)	形状
白い華	加山又造	1995	紙本彩色	53.0×73.0	額
白菜と小鳥	加山又造	1961	紙本彩色	60.0×73.5	額
馬	加山又造	1957	紙本彩色	61.2×73.7	額
鳥	加山又造	1961頃	麻、彩色	27.4×21.7	額
トキ	三輪晁勢	1963	紙本彩色	194.0×130.5	額
滄海	三輪晁勢	1968	紙本彩色	194.0×130.5	額
菖蒲	三輪晁勢	1980	紙本彩色	154.6×191.2	額
残雪の椿園	番場春雄	1972	紙本彩色	221.0×174.8	額
はつなつの譜	大矢黄鶴	1965	紙本彩色	218.8×173.6	屏風
緑韻再々	林潤一	1985	紙本彩色	225.0×177.0	額
豊粟花(春)	林潤一	1998	紙本彩色	230.0×130.0	額
山百合(夏)	林潤一	1998	紙本彩色	230.0×130.0	額
鶏冠花(秋)	林潤一	1998	紙本彩色	230.0×130.0	額
冬牡丹(冬)	林潤一	1999	紙本彩色	230.0×130.0	額
清韻	大矢紀	1994	紙本彩色	220.0×180.0	額
降	竹内浩一	2000	紙本彩色	230.0×180.0	額
ぶどうに雨	竹内浩一	2001	紙本彩色	183.5×226.2	額
新雪	山崎隆夫	1980	紙本彩色	222.5×180.5	額
茄子	山崎隆夫	1990	紙本彩色	215.0×180.0	額
生命の讃歌—鹿(黒月)	中野嘉之	1998	紙本彩色	220.0×110.0	額
生命の讃歌—鹿(白月)	中野嘉之	1998	紙本彩色	220.0×110.0	額
牡丹図	渡辺信喜	1989	紙本彩色	168.0×370.0	屏風
魚図	八木幾朗	1980	紙本彩色	180.0×1440.0	パネル

■第2章 風月—風景に託す心—

森の静寂	東山魁夷	1964	紙本彩色	121.7×162.8	額
比叡山	白倉嘉入	1962	紙本彩色	111.0×128.8	額
待春	中島萬木	1967	紙本彩色	152.0×91.5	額
夜	工藤甲人	1963	紙本彩色	130.0×161.0	額
やわらかき夜	柴田長俊	1990	紙本彩色	162.0×130.3	額
夜のカテドラル	八田哲	1989	紙本彩色	207.0×230.0	額
燈台	横山操	1959	布本彩色	43.0×72.5	額
月嶺	横山操	1959	布本彩色	43.5×73.5	額
炎々桜島	横山操	1959頃	紙本彩色	116.6×80.4	額
曇れる丘	横山操	1959頃	紙本彩色	27.5×50.3	額
波濤	横山操	1960	紙本彩色	52.2×86.4	額
流星	横山操	1960	布本彩色	51.0×74.0	額
湖映	横山操	1960	布本彩色	53.8×36.4	額
富士	横山操	1960頃	布本彩色	35.0×53.0	額
伊豆	横山操	1964	紙本墨画	74.0×180.0	額
満月潮	横山操	1968	紙本彩色	179.0×363.0	屏風
春近し	横山操	1969	紙本彩色	90.0×65.2	額
ふるさと	横山操	1966	紙本彩色	50.6×65.2	額
中央公論表紙絵	横山操	1966-68	紙本彩色	19.7×21.5	額 36点

1966(昭和41)年1月号「富士山」

1966(昭和41)年2月号「川」

1966(昭和41)年3月号「ウォール街」

1966(昭和41)年4月号「春」

1966(昭和41)年5月号「城」

1966(昭和41)年6月号「ゴンドラ」

1966(昭和41)年7月号「ナイアガラ」

1966(昭和41)年8月号「グランドキャニオン」

1966(昭和41)年9月号「マンハッタン」

1966(昭和41)年10月号「長城」

1966(昭和41)年11月号「オランダ」

1966(昭和41)年12月号「エッフェル塔」

1967(昭和42)年1月号「暁富士」

1967(昭和42)年2月号「雪国」

1967 (昭和42) 年3月号「桜島」					
1967 (昭和42) 年4月号「水郷」					
1967 (昭和42) 年5月号「鯉のぼりのある風景」					
1967 (昭和42) 年6月号「奥入瀬」					
1967 (昭和42) 年7月号「夏の家」					
1967 (昭和42) 年8月号「白い壁」					
1967 (昭和42) 年9月号「月」					
1967 (昭和42) 年10月号「林の道」					
1967 (昭和42) 年11月号「夕焼け」					
1967 (昭和42) 年12月号「冬山」					
1968 (昭和43) 年1月号「紅白梅」					
1968 (昭和43) 年2月号「ノートルダム」					
1968 (昭和43) 年3月号「武蔵野」					
1968 (昭和43) 年4月号「利根川」					
1968 (昭和43) 年5月号「丘の大樹」					
1968 (昭和43) 年6月号「丘の街」					
1968 (昭和43) 年7月号「信濃路」					
1968 (昭和43) 年8月号「考える葦」					
1968 (昭和43) 年9月号「十五夜」					
1968 (昭和43) 年10月号「紅葉」					
1968 (昭和43) 年11月号「秋色落日」					
1968 (昭和43) 年12月号「冬日和」					
宵の星	おの の じゅんめい 大野俊明	1999	紙本彩色	162.0×388.0	額
京都	大野俊明	1989	紙本彩色	168.0×370.0	屏風
秋晴るる	わた べ の しんぎ 渡辺信喜	1992	紙本彩色	170.0×606.0	屏風
瀬	はこ ぎ わ つ ま さ 箱崎睦昌	1999	紙本彩色	182.0×380.0	パネル
道二題	むら た し げ き 村田茂樹	1991	紙本彩色	各227.3×162.1	額
山水-亡隠 I	いとう あきら 伊藤彬	2000	紙本彩色	210.0×360.0	パネル
山水-くずるる 2	いとう あきら 伊藤彬	1997	紙本彩色	182.0×546.0	パネル
ノルマンディ墨色(エトルタ)	ひらまつ れい じ 平松礼二	1999	絹本彩色	180.0×420.0	屏風
ノルマンディの夢の季	ひらまつ れい じ 平松礼二	1998	紙本彩色	112.1×162.1	額
WATERFALL	せんじゅう ひろし 千住博	2000	紙本彩色	194.0×266.0	パネル
野火	なかの けい ち 中野嘉之	2000	紙本彩色	各208.5×421.0	屏風
■特別展示 平成20年度新収蔵品					
新潟年中行事絵巻	なめ た かいあん 行田魁庵ほか	江戸末期	紙本彩色	40.7×781.9	卷子

巡回ミュージアム

【趣旨及び総括】

巡回ミュージアムは、新潟県立近代美術館・万代島美術館の収蔵作品の中から作品を選定し、県内を巡回展示するもので、県立美術館の収集活動の成果を披露するとともに、広く県民に美術鑑賞の機会を提供し、文化振興をはかることを目的としている。

本年度は2館の施設を会場に開催、それぞれの会場の個性を生かしながらの展示となった。会場の条件が大きく異なったため、会場ごとに出品リストを設定し、弥彦村では彫刻や工芸を含む38点、上越市では西洋絵画を含む47点の作品を展示した。

例年どおり、主要作品の解説を掲載した「鑑賞の手引き」を製作し、鑑賞者に無料配布して教育普及効果を図るほか、会期中に当館職員による作品解説会を実施した。

【開催地・開催期日・その他】

・弥彦村会場 弥彦村総合コミュニティーセンター

5月3日(日)～6月11日(木) (40日間)

会期中無休

開館時間：9：30～16：30

主催：新潟県立近代美術館、新潟県教育委員会、弥彦村、弥彦村教育委員会、弥彦の丘美術館

後援：新潟日报社、NHK新潟放送局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、朝日新聞新潟総局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、三條新聞社、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、燕三条エフエム放送

作品解説会：5月5日(火)、5月24日(日)、6月7日(日) 午後2時～

出品点数：38点

入場者数：1,509名

・上越市会場 小林古径記念美術館

7月25日(土)～8月30日(日) (32日間)

会期中無休

開館時間：9：00～17：00

主催：新潟県立近代美術館、新潟県教育委員会、小林古径記念美術館

後援：新潟日报社、NHK新潟放送局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0

作品解説会：8月8日(土) 午後2時～

出品点数：47点

入場者数：4,387名

【出品リスト】

分野	作家名	作品名	制作年	彫上越	
1	日本画	竹内栖鳳	秋陽	1926	○
2	日本画	宇田狹野	鷹ヶ峰	1933	○
3	日本画	橋本閑雪	梅溪漁舟図	1941	○
4	日本画	川端龍子	夕茜(越後出雲崎展望)	1953	○
5	日本画	加山又造	馬	1957	○
6	日本画	麻田鷹司	那智	1960	○
7	日本画	加山又造	白菜と小鳥	1961	○
8	日本画	工藤甲人	夜	1963	○
9	日本画	東山魁夷	森の静寂	1964	○
10	日本画	横山操	林	1968	○
11	日本画	三輪晃勢	遊	1971	○
12	日本画	三輪晃勢	朱いトキ	1977	○
13	日本画	岩田正巳	夢	1982	○
14	日本画	川合清	秋	1983	○
15	日本画	柴田長俊	やわらかき夜	1990	○
16	日本画	加山又造	白い華	1995	○
17	日本画	横尾深林人	菖蒲	不明	○
18	日本画	横山操	暉	不明	○
19	日本画	小林古径	文珠	1943	○
20	日本画	小林古径	紅梅	1927頃	○
21	素描	小林古径	異端(下絵)	1914	○
22	素描	小林古径	簪	不明	○
23	洋画	牧野虎雄	麦扱く農婦等	1918	○
24	洋画	矢野友衛	習作	1920	○
25	洋画	三岸節子	風景	1924	○
26	洋画	安井曾太郎	京都風景	1924	○
27	洋画	安宅安五郎	群蝶	1926	○
28	洋画	石井柏亭	池	1928	○
29	洋画	須田国太郎	三輪附近	1934	○
30	洋画	牧野虎雄	朝顔	1946	○
31	洋画	佐藤哲三	残雪	1952	○
32	洋画	林武	帽子の女	1953頃	○
33	洋画	児島善三郎	森と聚落	1958	○
34	洋画	倉石隆	街裏	1959-63	○
35	洋画	宮芳平	きざはし	1959-64	○
36	洋画	富岡惣一郎	作品	1963	○
37	洋画	笹岡了一	外川港の夕釣	1964	○
38	洋画	岡鹿之助	朝の城	1970	○
39	洋画	鳥越慶	雪の季節	1972	○
40	洋画	中澤茂	炎天下に立つ乙女	1972	○
41	洋画	小原稔	棚	1975	○
42	洋画	三芳悌吉	オルガンの上	1977	○
43	洋画	横尾茂	春、肌さむき頃	1977	○
44	洋画	笹岡了一	ウィリアム物語	1978	○
45	洋画	鈴木力	中世の町(カノボ広瀬エナ)	1989	○
46	洋画	田崎広助	箱根の富士	不明	○
47	洋画	藤島武二	日の出	不明	○
48	西洋画	A.フォンターネ	ブジェイ高原	1858-60頃	○
49	西洋画	J.E.ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859	○
50	西洋画	G.クールベ	エトルタ海岸、夕日	1869	○
51	西洋画	J=B=C.コロー	ビブリ	1874-75	○
52	西洋画	J.ルオー	晩秋No.3	1948-52	○
53	西洋画	J.デュプレ	羊飼いの	1883	○
54	西洋画	C.モネ	コロンプの平原、霜	1873	○
55	工芸	佐々木象堂	鍍銀馬置物	1933	○
56	工芸	佐々木象堂	鍍銀色絵籠哥置物	1940	○
57	工芸	二代宮田藍堂	銅型鍍銀ひねり一編置物	1976	○
58	工芸	鶴巻三郎	春の日のマリア	1980	○
59	彫刻	明田川孝	若き蒙古	1938	○
60	彫刻	イサム・ノグチ	女(リシケシユにて)	1956	○

イベント

コンサート・講演会等

種別	開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内容	対象・定員他	会場	参加者数
コンサート	6月21日(日)	午後7時～午後9時	ネオテニー・ジャパン	キャンドルナイト@kinbi	畠山徳雄 五十嵐ファミリー アンサンブル	アートフェスタ・ネオネオの一環として、キャンドルナイトとミニコンサートを行う	一般 参加無料	当館脇花の広場	500
	7月12日(日)	午後3時～午後4時30分		nomadic	Noism09	ネオテニー・ジャパンのイベントとしてNoismが新作「ZONE」の一部を上演		当館企画展示室	113
	7月25日(土)	午後2時～午後3時30分		電子音響室内楽「Ar」	福島諭 濱地潤一	アートフェスタ・ネオネオの一環として、現代の最新の芸術表現である電子音楽の一例を紹介		当館ギャラリー	90
講演会等	4月29日(水)	午後2時～午後2時30分	油絵事始め	ギャラリー・トーク	早津剛	企画展開催にあわせ、現代の画家の眼から見た初期の洋画家たちの作品について語る	一般 聴講無料	当館企画展示室	25
	5月24日(日)	午後2時～午後3時30分		ギャラリー・トーク	池山阿有				20
	5月5日(火)	午後2時～午後4時	油絵事始め 山岡コレクショ ンの魅力	青木茂	企画展開催にあわせ、明治美術の第一人者である青木氏が、山岡コレクションの魅力語る	当館講堂		45	
	7月21日(火)	午後2時～午後3時	ネオテニー・ジャパン	ギャラリー・トーク	秋山さやか 加藤泉 鴻池朋子 須田悦弘	企画展出品作家4名が、展示室で自身の作品について語る		当館企画展示室	30
	8月2日(日)	午後2時～午後3時30分		高橋龍太郎× ゲストトーク	高橋龍太郎 内田真由美 児島やよい	企画展出品作品の所蔵者が、日本の現代アートについて、コレクターの視点から語る		80	
	8月30日(日)	午後2時～午後4時		山口晃アール ティストトーク	山口晃	企画展出品作家の山口晃が、自身の制作や作品について語る		178	
	10月31日(土)	午後2時～午後3時30分	土田麦僊	土田麦僊とヴェ トイユの少女 画像 の背後のフランス	柏木加代子	講師の著書「かきつばた」の内容を凝縮して話し、麦僊作品の新たな解釈を提示		当館講堂	66
公開制作	6月23日(火)～25日(木)	午後2時～午後4時	ネオテニー・ジャパン	秋山さやか公開制作	秋山さやか	企画展出品作家の秋山さやか が長岡をテーマにした新作を制作する様子を公開	一般参加無料	当館講座室	39

講座

種別	回	開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内容	対象・定員他	会場	参加者数
美術鑑賞講座	第1回	5月16日(土)	午後2時～午後3時20分	油絵事始め	近代美術史入門1 明治期の洋画	桐原浩 (万代島美術館業務課長)	幕末から明治にかけて活躍した高橋由一、地元長岡出身の小山正太郎を中心に紹介	一般 聴講無料	当館講堂	35
	第2回	5月23日(土)	午後2時～午後3時50分	油絵事始め	近代美術史入門2 明治期の日本画	横山秀樹 (当館副館長)	美術に関する諸制度が確立してゆく明治期に活躍した日本画家たちを紹介			37
	第3回	5月30日(土)	午後2時～午後3時20分	油絵事始め	近代美術史入門3 大正期の日本画	長嶋圭哉 (当館主任学芸員)	東京の日本美術院、京都の国画創作協会などで活躍した画家を中心に紹介			25
	第4回	9月26日(土)	午後2時～午後3時50分	土田麦僊	土田麦僊 人と作品	横山秀樹 (当館副館長)	近代日本画の新しい可能性を追求し続けた日本画家・土田麦僊の画業について紹介			60
	第5回	10月3日(土)	午後2時～午後3時30分	西洋の魅力を探る旅	西洋美術史入門1 北方ルネサンス(ドイツ)	桐原浩 (万代島美術館業務課長)	15-16世紀のドイツ美術について、デューラーを中心に紹介			24
	第6回	10月10日(土)	午後2時～午後3時30分	西洋の魅力を探る旅	西洋美術史入門2 近代リアリズム(フランス)	平石昌子 (当館学芸課長代理)	19世紀初頭の歴史画から印象派の風景画へといたる近代リアリズムの潮流を紹介			20
	第7回	10月17日(土)	午後2時～午後3時45分	西洋の魅力を探る旅	西洋美術史入門3 モダニズム(フランス)	濱田真由美 (当館主任学芸員)	セザンヌを出発点に、20世紀前半のフランスを中心に展開した諸芸術運動について紹介			24
	第8回	10月24日(土)	午後2時～午後3時20分	土田麦僊	昭和期の麦僊-古 典美の追求と朝鮮	長嶋圭哉 (当館主任学芸員)	古典美術の研究や朝鮮旅行がもたらした影響を考え、麦僊が追い求めた美を紹介			34
	第9回	11月28日(土)	午後2時～午後3時20分	あふれる詩心 -版画と陶芸	詩心あふれる芸術 家たち	平石昌子 (当館学芸課長代理)	言葉と造形性という視点から川上澄生、棟方志功、齋藤三郎の芸術を中心に紹介			32
	第10回	12月5日(土)	午後2時～午後3時30分	コルヴィツ とバルラッハの版画	コルヴィツとバ ルラッハ	桐原浩 (万代島美術館業務課長)	互いの仕事に敬意を払い、困難な時代を生き抜いた二人の芸術家の活動を紹介			18
	第11回	2月27日(土)	午後2時～午後3時30分	マルチ・アーティスト 阿部展也	阿部展也とその周辺	濱田真由美 (当館主任学芸員)	阿部展也の多彩な活動から生まれた作品や交流のネットワークについて紹介			11
	第12回	3月20日(土)	午後2時～午後3時30分	佐々木象堂と新潟 の金工	佐々木象堂と新潟 の金工	藤田裕彦 (当館学芸課長)	柏崎・佐渡を中心とする新潟県の金工の歴史と佐々木象堂の作品について紹介			33

ワークショップ

種別	開催日	時間	関連展覧会名	演題等	担当者or講師名	内 容	対象・定員他	会場	参加者数
びじゅつ ☆体験隊	4月26日(日)	午後2時～ 午後3時20分	油絵事始め	高橋由一の《鮭図に迫る》-さかなをえがく	野村宏毅 (当館主任学芸員)	干物の「魚」を鉛筆・色鉛筆・ペン・筆ペン等で描いて、高橋由一の思いに迫る	一般 定員 16名	当館 講座室	13
発見!びじゅつかん	5月3日(日)	午後2時～ 午後3時30分		美術館の舞台裏探検	立川厚生 (当館学芸課長代理)	普段見ることのできない美術館の裏側を探検したり、作品展示の疑似体験をしたりする	一般	当館内	19
	7月12日(日)	午後2時～ 午後2時30分	現代美術のクラシック	ギャラリートーク 美術でおしゃべり①	佐藤克己 (当館主任学芸員)	展示室で楽しくおしゃべりしながら鑑賞する。いろいろな見方をし、みんなの意見を聞くことによって、楽しさを広げる	一般	常設 展示室	8
	7月26日(日)	午後2時～ 午後2時40分	現代美術のクラシック	ギャラリートーク 美術でおしゃべり②	立川厚生 (当館学芸課長代理)		一般		6
びじゅつ ☆体験隊	8月9日(日)	午後2時～ 午後3時30分		ゆめの広がる石コウのタマゴ	立川厚生 (当館学芸課長代理)	何が生まれるタマゴか、想像しながら思い思いの大きさや色のタマゴを石膏でつくる	一般 定員 20名	当館 講座室	25
	9月20日(日)	午後2時～ 午後3時30分	土田麦僊	大人のぬり絵-土田麦僊の舞妓を描く	佐藤克己 (当館主任学芸員)	土田麦僊の近代的な様式美による華やかな舞妓の世界を、ぬり絵を通して体感する	一般		11
	10月4日(日)	午後2時～ 午後3時30分	現代美術のクラシック	色と形でピカソに挑戦	立川厚生 (当館学芸課長代理)	ピカソの絵を参考に、文字を入れたり紙を貼ったりして表し、キュビズムの技法に挑戦する	一般 定員 20名		8
発見!びじゅつかん	11月1日(日)	午後2時～ 午後3時30分		落ち葉をあつめてカラフル・アート	野村宏毅 (当館主任学芸員)	落ち葉を使って、コラーージュやはり絵等で画面構成をする	親定 5 子員 組		4
特別	6月21日(日)	午前10時30分～ 午後4時	ネオテニー・ジャパン	秋山さやか ワークショップ「長岡をつづる」	秋山さやか	長岡の街を散策して集めた「気になるモノ」を使い、思い出を「手紙」のかたちで表現する	一般 定員 20名		10
	8月16日(日)	午前10時30分～ 午後4時	ネオテニー・ジャパン	丸山直文 ワークショップ	丸山直文	企画展出品作家である丸山直文の作品の特徴である「ステイニング技法」を使って表現する	一般 定員	6	

映画鑑賞会

回	開催日	時間	関連展覧会名	タイトル	内 容	対象・定員他	特記事項	参加者数
第1回	5月2日(土)	午前10時～/ 午後2時～		仔鹿物語	1990年/116分/ 16mmフィルム3本	一般 鑑賞無料	新潟県立生涯学習 推進センター共催	午前15名/ 午後13名/ 計28名
第2回	8月8日(土)	午前10時～/ 午後2時～	ネオテニー・ジャパン	アーティストドキュメンタリー 映画「≡草間彌生」	2008年/102分/ DVD		午前20名/ 午後23名/ 計43名	
第3回	8月15日(土)	午前10時～/ 午後2時～	ネオテニー・ジャパン	アーティストドキュメンタリー 映画「≡天明屋尚」	2008年/80分/ DVD		午前9名/ 午後14名/ 計23名	
第4回	8月22日(土)	午前10時～/ 午後2時～	ネオテニー・ジャパン	アーティストドキュメンタリー 映画「≡舟越桂」	2004年/98分/ DVD		午前7名/ 午後18名/ 計25名	
第5回	8月29日(土)	午前10時～/ 午後2時～	ネオテニー・ジャパン	アーティストドキュメンタリー 映画「≡会田誠」	2003年/98分/ DVD		午前11名/ 午後31名/ 計42名	
第6回	9月5日(土)	午前10時～/ 午後2時～	ネオテニー・ジャパン	アーティストドキュメンタリー 映画「≡森山大道」	2001年/84分/ DVD		午前18名/ 午後24名/ 計42名	
特別	7月21日(火)～ 8月6日(木)	午前9時～ 午後5時	ネオテニー・ジャパン	青木陵子+伊藤存「説子/2008」	2008年/DVD		計998名	
	8月7日(金)～ 9月10日(土)	午前9時～ 午後5時	ネオテニー・ジャパン	長岡造形大学 映像作品	4分30秒 DVD		計1,103名	
	12月12日(土)	午前10時～/ 午後2時～	あふれる詩心-版画と陶芸	彫る 棟方志功の世界	1975年/38分/ DVD		午前19名/ 午後27名/ 計46名	

体験コーナー

実施期間	関連展覧会名	コーナー名	内 容	設置場所	点 数 等
4月23日(休)～ 6月14日(日)	小林古径と院展の日本 画家たち	パズルでアート	展示された小林古径の《紫苑》、《飛鴨》ジグソーパズルを楽しむ	常設展示室 入口机上	2セット
		古径のぬり絵に挑戦	展示された小林古径《紫苑》、《飛鴨》のぬり絵を色鉛筆で仕上げ、掲示する	常設展示室 ロビー机上	応募 218点
		千野茂のポーズに挑戦	展示された千野茂の「フォーム」「裸婦」のポーズをとる。また、彫刻にしてみたい「座っているポーズ」を入形モデルを使って表す。モデルの写真を掲示する	常設展示室 ロビー机上	
6月18日(休)～ 9月13日(日)	現代美術のクラシック	パズルでアート	展示された響喺《日本》、篠原有司男《花魁殺し》のジグソーパズルを楽しむ	常設展示室 入口机上	2セット
		阿部展也と岡本太郎の ぬり絵に挑戦	展示された阿部展也《太郎》、岡本太郎《顔》のぬり絵を色鉛筆で仕上げ、掲示する	常設展示室 ロビー机上	応募 1082点
		色を組み合わせると素敵 な模様にな!	短冊型の色画用紙片を編んで平面的な模様や立体作品をつくって飾る	常設展示室 ロビー机上	
9月19日(土)～ 11月15日(日)	西洋の魅力を探る旅ー モネ、ロダンからピカソ まで	パズルでアート	展示されたモネ《コロンブの平原、霜》、デュプレ《羊飼ひ》、土田麦僊《舞妓林泉図》のジグソーパズルを楽しむ	常設展示室 入口机上	3セット
		クールベとミレイのぬり 絵に挑戦	展示されたクールベ《エトルタ海岸、夕日》、ミレイ《アリス・グレイの肖像》のぬり絵を色鉛筆で仕上げ、掲示する	常設展示室 ロビー机上	応募 303点
		色と形でピカソに挑戦	展示されたピカソの「テーブルの上のギターと楽譜」の各部分の形をアクリル板を使って型を用意しておく。型に合わせて折り紙を切り取り、台紙に再構成して貼り、作品に仕上げる。できたものを掲示する	常設展示室 ロビー机上	応募 20点
		ロダンのポーズに挑戦	展示されたロダンの「考える人」「疲れ」「カリアテードとアトラント」などのポーズをまねして、ロダンの思いを体感する	常設展示室 ロビー	
11月19日(休)～ 2月7日(日)	コルヴィッツとバルラッ ハの版画	パズルでアート	展示されたコルヴィッツ《農民戦争7：囚人》、バルラッハ《神の変容：第1日》のジグソーパズルを楽しむ	常設展示室 入口机上	2セット
		ベヒシュタインと深澤 索一のぬり絵に挑戦	展示されたベヒシュタイン「われらの父よ」《天におられるわたしたちの父よ》、深澤索一「代々木風景」のぬり絵を色鉛筆で仕上げ、掲示する	常設展示室 ロビー机上	応募 52点
		木版画の摺りに挑戦	展示されたベヒシュタインの「われらの父よ」《天におられるわたしたちの父よ》の一部を彫った版を使って、木版画の摺りを体験する。摺った紙に色鉛筆で彩色し、掲示する	常設展示室 ロビー机上	応募 57点
2月11日(休)～ 4月11日(日)	佐々木象堂と新潟の金工	パズルでアート	展示された佐々木象堂「鍍銅色絵鸚哥置物」、石山恵美子「門の組曲」のジグソーパズルを楽しむ	常設展示室 入口机上	2セット
		三代宮田監堂のぬり絵 に挑戦	展示された三代宮田監堂《終わりのない物語「月下独酌唐・李白に捧ぐ」》のぬり絵を色鉛筆で仕上げ、掲示する	常設展示室 ロビー机上	応募 30点
		宝石の色をデザインし よう	ラウンド・ブリリアント・カットの図に色鉛筆で彩色し、掲示する	常設展示室 ロビー机上	応募 105点
		アルミホイルでアクセ サリーを!	アルミホイルでアクセサリーやオブジェをつくり、展示する	常設展示室 ロビー机上	応募 170点

その他のイベント

種別	開 催 日	時 間	タイトル	内 容	対象・ 定員他	会 場	参加者数
展示 体験	7月28日(火)～ 8月3日(月)	午前9時～ 午後5時 最終日は午後3時まで	こどもアート ミュージアム	こどもを中心とした「みる楽しみ、ふれる楽しみ」をテーマに「見方・考え方」を広げた児童・生徒の表現作品の展示やワークショップを行う	一 般・ こども・ 親 子	当館ギャラ リー	14企画 471名 来場

出前講座

開催日	時間	団体名	会場	講座名	担当者	参加者数
6月5日(金)	午後3時10分～ 午後4時30分	燕市西蒲原郡小学校教育 研究会	燕市立小中川小学校	美術鑑賞講座 「横山操と新潟」	横山秀樹 (当館副館長)	20
6月23日(火)	午後4時～ 午後4時45分	長岡市立上組小学校造形部	長岡市立上組小学校	ワークショップ 「どこでもアート つんで・ならべて」	立川厚生 (当館学芸課長代理)	14
7月9日(木)	午前10時40分～ 午後3時35分	新潟市立亀田小学校6年	新潟市立亀田小学校	ワークショップ 「マチスの切り絵に迫る」	立川厚生 (当館学芸課長代理)	59
9月8日(火)	午前9時30分～ 午後3時	新潟市立岡方第二小学校 1～6年	新潟市立岡方第二小学校	ワークショップ 「どこでもアート つんで・ならべて」 「現代アートを体験 形と色の組み合わせ」 「マチスの切り絵に迫る」	立川厚生 (当館学芸課長代理)	71
9月25日(金)	午前10時30分～ 午後3時	県立月ヶ岡養護学校ふな おか分校高等部	県立月ヶ岡養護学校ふな おか分校	ワークショップ 「マチスの切り絵に迫る」	立川厚生 (当館学芸課長代理)	17
10月7日(水)	午後1時30分～ 午後3時30分	まなびすと in 柏崎 (市民講座)	柏崎市市民プラザ	美術鑑賞講座 「砂浜を描いた洋画家 國領経郎」	佐藤克己 (当館主任学芸員)	12
10月14日(水)	午前9時～ 午前11時	出雲崎町立出雲崎小学校 1年	出雲崎町立出雲崎小学校	ワークショップ 「どこでもアート つんで・ならべて」	佐藤克己 (当館主任学芸員)	33
10月20日(火)	午前10時～ 午前11時30分	関川村やまゆり大学 (高齢者大学)	関川村村民会館	ワークショップ 「色と形でピカソに挑戦」	立川厚生 (当館学芸課長代理)	37
10月21日(水)	午後2時～ 午後3時	長岡市立小国中学校3年	長岡市立小国中学校	美術鑑賞講座 「長岡出身の洋画家 小山正太郎」	野村宏毅 (当館主任学芸員)	45
10月31日(土)	午後1時30分～ 午後3時30分	糸魚川市立糸魚川小学校 PTA	糸魚川市立糸魚川小学校	ワークショップ 「現代アートを体験 形と色の組み合わせ」 「マチスの切り絵に迫る」 「色と形でピカソに挑戦」	立川厚生 (当館学芸課長代理)	100
11月15日(日)	午後2時～ 午後4時	三条市民公開講座	三条市立図書館	美術鑑賞講座 「岩田正巳と新興大和絵の画家たち」	長嶋圭哉 (当館主任学芸員)	22
1月20日(水)	午前10時30分～ 午前12時	県立高等養護学校手まり の里分校1・2年	県立高等養護学校手まりの 里分校	ワークショップ 「マチスの切り絵に迫る」	立川厚生 (当館学芸課長代理) 野村宏毅 (当館主任学芸員)	62
2月27日(土)	午後1時30分～ 午後3時	燕市小中川児童館	燕市小中川児童館	ワークショップ 「現代アートを体験 形と色の組み合わせ」 「どこでもアート つんで・ならべて」	立川厚生 (当館学芸課長代理) 野村宏毅 (当館主任学芸員)	43

刊行物

刊行物

刊行物名	概要	仕様	発行部数	発行日	内容
平成21年度展覧会案内リーフレット	平成21年度の企画展と常設展の日程及び内容、年間のイベント予定などをまとめたもの。	A3変形版 観音四ツ折り 4色×4色	40,000部		
新潟県立近代美術館だより「雪椿通信」32号	美術館からの情報発信として一般来館者向けに編集したもの。	A4版 8頁	3,000部	2009年 4月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・特集：「ネオテニー・ジャパン」展をより楽しむために ・特集：土田麦僊にみる「理想的な美」 ・平成20年度の新収蔵品 ・あしあと：普及活動報告 ・アートボランティア通信 ・イベント情報 ・利用案内/ショップ&レストラン情報/万代島美術館情報
新潟県立近代美術館だより「雪椿通信」33号	美術館からの情報発信として一般来館者向けに編集したもの。	A4版 8頁	3,000部	2009年 10月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・企画の視点：「あふれる詩心—版画と陶芸」 ・展覧会予告：阿部展也の多面性に迫る ・平成20年度の新収蔵品 ・所蔵品紹介：イコン《キリストの復活と十二大祭》 ・あしあと：教育普及活動報告 ・アートボランティア通信 ・イベント情報 ・利用案内/ショップ&レストラン情報/万代島美術館情報
「土田麦僊」図録	企画展覧会カタログ	A4変形版 210頁	1,700部	2009年 9月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・ごあいさつ ・謝辞 ・土田麦僊—東洋的な、そうして個展的な— / 横山秀樹 ・第1章 文展と風景画「土田麦僊の初期作品について—《島の女》をとおして—」 / 平賀麻子 ・第2章 国画創作協会と滞欧「麦僊の舞妓—《三人の舞妓》から《明粧》まで」 / 池田珠緒 ・第3章 帝展と七絃会展「未完の『晩年』—昭和期の麦僊について」 / 長嶋圭哉 ・麦僊遺品・写真 ・主要作品一覧 ・年譜 ・参考文献 ・再録「土田麦僊遺作展覧会目録」（昭和13年） ・出品目録
「あふれる詩心」図録	企画展覧会カタログ	B5版 48頁	400部	2009年 11月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・第1章 創作版画の頃 ・第2章 輝く個性の開花 ・第3章 疎開時代 ・第4章 それぞれの道 ・「あふれる詩心—川上澄生 / 棟方志功 / 齋藤三郎」 / 平石昌子 ・作家の言葉 ・作家略歴 ・作品リスト

作品解説会

来館者サービスの一環として、展覧会への理解を深め、より充実した鑑賞の機会となるように、学芸員による作品解説会を行った。

常設展は毎週土曜日の午前11時から、企画展は毎週日曜日の午後2時から、それぞれの会場で行った。他事業と重なった場合も、会場が重ならない限り解説会を行った。参加者がなかった解説会については、記録から除いた。

企画展

展覧会名

期日(曜)	人数
油絵事始め リアリズムを求めて	
4月12日(日)	10
4月19日(日)	15
4月26日(日)	20
5月 3日(日)	10
5月10日(日)	15
5月17日(日)	8
5月31日(日)	22
小計	100

ネオテニー・ジャパン

7月26日(日)	25
8月 9日(日)	5
8月16日(日)	10
8月23日(日)	30
9月 6日(日)	42
小計	112

土田麦僊

9月20日(日)	20
9月27日(日)	22
10月 4日(日)	35
10月11日(日)	12
10月18日(日)	35
10月25日(日)	30
11月 1日(日)	40
11月 3日(火)	60
小計	254

あふれる詩心

11月22日(日)	25
11月29日(日)	30
12月 6日(日)	10

12月13日(日)	8
12月27日(日)	20
1月10日(日)	10
1月17日(日)	25
1月24日(日)	15
小計	143

マルチ・アーティスト 阿部展也

2月21日(日)	5
2月28日(日)	10
3月 7日(日)	3
3月14日(日)	10
3月21日(日)	4
3月28日(日)	15
小計	47

企画展合計

656

常設展

にいがたの風景	
4月 4日(土)	2
4月18日(土)	1
小計	3

小林古徑と院展の日本画家たち

4月25日(土)	3
5月 2日(土)	6
5月16日(土)	6
5月23日(土)	10
5月30日(土)	8
6月 6日(土)	10
6月13日(土)	2
小計	45

現代美術のクラシック

6月20日(土)	2
6月27日(土)	2
7月 4日(土)	2
7月18日(土)	1
8月 1日(土)	5
8月 8日(土)	3
8月22日(土)	15
8月29日(土)	2
9月 5日(土)	5
小計	37

西洋の魅力を探る旅

9月19日(土)	5
9月26日(土)	10
10月 3日(土)	6
10月10日(土)	15
10月17日(土)	7
10月24日(土)	10
10月31日(土)	10
11月 7日(土)	4
11月14日(土)	2
小計	69

コルヴィッツとバルラッハの版画

11月21日(土)	3
11月28日(土)	1
12月12日(土)	2
1月 9日(土)	5
1月23日(土)	10
小計	21

佐々木象堂と新潟の金工

2月27日(土)	2
3月 6日(土)	5
3月20日(土)	6
3月27日(土)	1
小計	14

収蔵品展

東海道五十三次とジャポニズム	
4月 5日(日)	13
小計	13

常設展・収蔵品展合計

202

団体への解説

小林古径と院展の日本画家たち

期日(曜)	団体名	人数
6月 3日(水)	JAえちご上越新井地区女性部	44

ネオテニー・ジャパン

期日(曜)	団体名	人数
9月10日(水)	横浜美術館協力会	44

土田麦僊

期日(曜)	団体名	人数
9月29日(火)	長岡市三島郡美術教育研究会	24
9月30日(水)	三条市小学校教育研究会	14
10月 6日(火)	長岡・大島コミュニティセンター	22
10月 8日(木)	新潟教弘	34
10月 9日(金)	新潟教弘	44
10月15日(木)	長岡市教育センター	24
10月16日(金)	胎内市生涯学習課	25
10月21日(水)	長岡・阪之上コミュニティセンター	21
10月21日(水)	とやま美の友の会	20

あふれる詩心

期日(曜)	団体名	人数
12月 3日(木)	村上市神林地区文化協会	26
12月 6日(日)	阿賀町公民館	14
12月16日(水)	栃木県議会	7

学校教育との連携

●展覧会の鑑賞

・展覧会の解説

油絵事始め

期日	学校名	人数
4月22日(水)	大鷲小	35
4月28日(火)	新潟北高	235
5月11日(月)	小千谷小	70
5月11日(月)	長岡造形大学	30
5月12日(火)	小千谷小	69
5月14日(木)	新潟青陵大学短期大学部	43
5月20日(水)	燕北中	19
5月21日(木)	三条・第三中	29
5月30日(土)	高田高	19

県展長岡展

期日	学校名	人数
6月 4日(木)	千田小	45
6月 8日(月)	長岡大学	24
6月 9日(火)	江陽中	28
6月 9日(火)	旭岡中	9
6月10日(水)	大巻中	16
6月10日(水)	長岡・東中	157
6月11日(木)	赤泊小	18
6月12日(金)	芦ヶ崎小	25
6月13日(土)	加茂農林高	8

ネオテニー・ジャパン

期日	学校名	人数
6月19日(金)	塩殿小・川井小・岩沢小・真人小	31
6月26日(金)	上組小	91
6月27日(土)	五十嵐中	23
7月16日(木)	入広瀬中	38
7月22日(水)	明德高	20
7月24日(金)	長岡造形大学	31
7月28日(火)	長岡造形大学	243
7月28日(火)	本成寺中	15
7月28日(火)	今町中	12
7月30日(木)	関原中	9
8月 2日(日)	下田中	19
8月 3日(月)	新関中	48
8月 4日(火)	新発田・東中	10
8月 5日(水)	大潟町中	17

8月 6日(木)	直江津東中	26
8月 6日(木)	十日町・南中	13
8月 6日(木)	湯之谷中	19
8月 6日(木)	金津中	8
8月 6日(木)	柏崎市・第三中	18
8月 6日(木)	加治川中	7
8月17日(月)	湯沢中	9
8月17日(月)	朝日中	10
8月20日(木)	長岡・東中	12
8月21日(金)	堀之内中	8
8月21日(金)	長岡工業高	17
8月25日(火)	長岡商業高	14
8月25日(火)	上組小	48
9月 1日(火)	新潟デザイン専門学校	87
9月 3日(木)	新潟大学	26
9月 4日(金)	和泉小・吉谷小	41
9月 4日(金)	国際映像メディア専門学校	45
9月 4日(金)	新潟デザイン専門学校	67
9月 8日(火)	東小千谷小・東山小	73
9月 8日(火)	日本アニメ・マンガ専門学校	33

現代美術のクラシック

期日	学校名	人数
9月11日(金)	大積小	7

土田麦僊

期日	学校名	人数
9月19日(土)	北辰中	7
9月24日(木)	長岡明德高	261
9月24日(木)	長岡商業高	40
9月25日(金)	長岡商業高	41
9月29日(火)	赤塚小	37
9月29日(火)	長岡商業高	40
9月29日(火)	山谷沢小	26
9月30日(水)	長岡商業高	40
9月30日(水)	大巻中	9
10月 7日(水)	井栗小	58
10月 7日(水)	五十嵐中	26
10月 8日(木)	燕中	25
10月11日(日)	小千谷中	21
10月15日(木)	小出中	156
10月27日(火)	五泉市青少年育成センター	6
10月28日(水)	出雲崎高	43
10月29日(木)	長岡商業高	68

西洋の魅力を探る旅

期日	学校名	人数
11月 4日(水)	日越小	179
11月 6日(金)	燕中	21
11月 6日(金)	上通小	29
11月10日(火)	見附南中	4

あふれる詩心

期日	学校名	人数
11月27日(金)	千田小	26
12月18日(金)	希望ヶ丘小	88

コルヴィッツとバルラッハの版画

期日	学校名	人数
1月29日(金)	新町小	89
2月 4日(金)	希望ヶ丘小	91

マルチ・アーティスト 阿部展也

期日	学校名	人数
2月17日(水)	長岡聾学校	6
3月 9日(火)	長岡・東中	3

アートボランティア

1 アートボランティア活動の目的

来館者（お客様）に対する生涯学習機会の増大とサービスの向上を図るため、アートボランティアを募集し、活動を推進する。

2 アートボランティア登録人数

年度当初15名が登録

年度途中登録3名

3 主な活動内容

- (1) 当館で行った展覧会やワークショップ等の各地域でのポスター掲示やチラシ配布を行った。
- (2) 年間スケジュールに基づいて、ワークショップや講演会・美術鑑賞講座・映画鑑賞会等の補助をした。
- (3) 当館所蔵作品や未整理作品の整理・写真撮影を行った。
- (4) キャプション・展示ケース等の清掃・整備を行った。
- (5) これまで撮りためたビデオテープの整理や蔵書整理を行った。
- (6) 6月21日(日)実施のキャンドルナイトの企画運営を行った。
- (7) 企画展の時期にあわせて「土田麦僊学習会」を行い、アートボランティア同士での作品解説を実施した。

4 活動方法

基本的にはアートボランティアの都合のつく日、都合のつく時間に活動を行った。

キャンドルナイトの打ち合わせや準備、「土田麦僊学習会」では、特別に日時を設定して活動を行った。

5 成果

- アートボランティアの皆さんが意欲的に活動に取り組み、自分たちの活動に充実感・満足感を感じていた。
- ポスターの掲示・チラシの配布が、より幅広い地域まで可能となった。
- ポスター・チラシの振り分け作業やキャプションの整理にもお手伝いいただいたことで、学芸課職員がそれ以外の業務に振り向けられる時間を確保できるようになった。
- 未整理作品の整理、特に「亀倉コレクション」の整理が大いに進んだ。

- キャンドルナイトは「ネオテニー・ジャパン」の関連行事の一環として、今年度が最初の取組であったが、アートボランティアの意見を積極的に取り入れ、充実した内容のイベントとなった。

6 次年度の課題

- アートボランティアが全員集まる機会があまりなく、ボランティア同士の情報交換が積極的に実施できなかった。情報交換の場を積極的に設けていく。
- キャンドルナイトでは、アートボランティアが中心となって企画運営できた。次年度はさらに規模を拡大し、アートボランティアの中心活動の一つにしていきたい。
- 「亀倉コレクション」の整理した成果を展覧会で発表できるようにしていく。
- 作品解説会へのアートボランティアの参加に向けて、学習会等を今後も継続的に設定していく。



博物館実習

学芸員取得を目指す学生のための博物館実習を実施し、12名の実習生を受け入れた。美術館学芸員の諸業務に関する講義の他、各分野の作品の取り扱いについて実習を行った。さらに当館所蔵品のなかから約10点の作品を実際に展示したり、常設展の作品解説会を行ったりするなど、学芸業務を実際に体験させることに重点をおいた。

担当：長嶋圭哉、平石昌子

実習期間 7月27日(月)～8月7日(金)
ただし、土・日曜日は除く

実習生の所属大学および受入人数

新潟大学	3名
長岡造形大学	4名
群馬女子大学	1名
金沢大学	1名
川村学園女子大学	1名
明治学院大学	1名
立正大学	1名
	合計12名

実習カリキュラム

月日	時限	内 容
7月27日(月)	1	開講式・オリエンテーション
	2	館内見学
	3	講 義：博物館運営に関わる法律 現在の博物館を取り巻く状況
	4	講 義：作品の調査・研究
7月28日(火)	1	講 義：美術館の教育・普及
	2	講 義：学校教育と美術館教育
	3	実 習：作品の取り扱い・展示・点検（平面作品）
	4	
7月29日(水)	1	講 義：作品の収集・分類・保管
	2	講 義：作品の保存・修復
	3	実 習：作品の取り扱い・展示（軸・屏風）
	4	
7月30日(木)	1	講 義：学芸課の業務／展覧会の企画から礼状まで
	2	展覧会鑑賞（企画展／常設展）
	3	講 義：美術館のサービスと来館者の視点
	4	実 習：作品の取り扱い・展示（工芸）
7月31日(金)	1	講 義：美術館の広報
	2	実 習：作品の取り扱い・展示（彫刻）
	3	他館見学（県立歴史博物館）
	4	

月日	時限	内 容
8月3日(月)	1	講 義：総務課の業務／施設管理・安全対策
	2	講 義：美術館の地域連携（ボランティアと友の会）
	3	実 習：展覧会計画（リスト・図面・開催要項・挨拶パネル作成）
	4	
8月4日(火)	1	実 習：展覧会計画（キャプション作成）
	2	
	3	
	4	実 習：展示室パネル立て
8月5日(水)	1	作品搬入
	2	展示
	3	
	4	展示講評・撤収
8月6日(木)	1	実 習：図書の整理
	2	
	3	実 習：基本カード作成
	4	実 習：作品解説会準備
8月7日(金)	1	実 習：作品解説会準備・相互検討
	2	
	3	実 習：作品解説会・講評
	4	実習のまとめ・閉講式

8時50分出勤

- ① 9：00～10：30（80分）
- ② 10：40～12：00（80分）
- ③ 13：10～14：30（80分）
- ④ 14：50～16：10（80分）

実習場所：会議室を基本とする

イベント

講演会

月 日	時 間	関連展覧会名	演 題 等	講 師 等	内 容	対象・定員他	会 場	参加者数
7月4日(土)	午後2時～	佐伯祐三展	佐伯祐三とその芸術	橋爪節也 (大阪大学総合芸術博物館教授)	展覧会の内容に合わせ、佐伯祐三の作品と人物について語る	一般 聴講無料	NICOプラザ (11F)	56

計56名

美術鑑賞講座

開 催 日	時 間	関連展覧会名	演 題 等	講 師 等	内 容	対象・定員他	会 場	参加者数
6月13日(土)	午後2時～		日本画家の生涯と作品② 土田麦僊	池田珠緒 (当館主任学芸員)	土田麦僊の主要作品をその生涯とともに紹介する	一般 聴講無料	NICOプラザ (11F)	20
7月18日(土)	午後2時～		現代の美術-1980年代	藤田裕彦 (近代美術館学芸課長)	1980年代の世界および日本の美術について紹介する			16
8月8日(土)	午後2時～	佐伯祐三展	佐伯祐三-天才画家という存在	澤田佳三 (当館主任学芸員)	企画展に関連し、佐伯祐三の作品と評価について紹介する			60
10月10日(土)	午後2時～		世界遺産をめぐる旅⑤中世 グルジアの教会壁画	高晟竣 (近代美術館主任学芸員)	グルジアの中世壁画・モザイクについて紹介する			12
11月14日(土)	午後2時～		美術の姿④-近代の壁画を めぐって	澤田佳三 (当館主任学芸員)	明治から昭和前期までの日本近代の壁画について紹介する			10
1月16日(土)	午後2時～	松永真のポスター展	広告と美術	藤田裕彦 (近代美術館学芸課長)	19世紀末から今日までの欧米の広告と美術について紹介する			7
2月6日(土)	午後2時～		北東アジア近現代美術史① ロシア・ビョートル大帝からペレストロイカまで	高晟竣 (近代美術館主任学芸員)	ロシアの近現代美術史について紹介する			6
3月13日(土)	午後2時～	花鳥風月展	日本画の歴史入門 花鳥 画の歴史	飯島沙耶子 (当館美術学芸員)	日本絵画の伝統的な画題である花鳥画について紹介する			19

計150名

アーティスト・トーク

開 催 日	時 間	関連展覧会名	演 題 等	講 師 等	内 容	対象・定員他	会 場	参加者数
5月2日(土)	午後2時～	美の視点・記憶のかたち	アーティスト・トーク	小林充也(出品作家)	自作について解説する	一般 要入場料	当館展示室	24
5月4日(月・祝)	午後2時～			杉原伸子(出品作家)				30
5月9日(土)	午後2時～			麻績勝広(出品作家)				26
5月10日(日)	午後2時～			星野健司(出品作家)				15
5月16日(土)	午後2時～			吉原悠博(出品作家)				22
5月17日(日)	午後2時～			稲田亜紀子(出品作家)				25
5月24日(日)	午後2時～			西村 満(出品作家)				50
5月31日(日)	午後2時～			近藤 充(出品作家)				35
6月7日(日)	午後2時～			鶴巻貴子(出品作家)				26

計253名

トークイベント

開 催 日	時 間	関連展覧会名	演 題 等	講 師 等	内 容	対象・定員他	会 場	参加者数
7月26日(日)	午後6時30分～	佐伯祐三展	Noism金森穰 佐伯祐三を通じ創作を語る	金森穰(Noism)、澤田佳三(当館主任学芸員)、司会:石塚かおり(BSN新潟放送)	佐伯祐三について、金森氏が自らの体験を交えて語る	一般 申込制	当館展示室	36

計36名

映画上映会

月 日	時 間	関連展覧会名	演 題 等	講師等	内 容	対象・定員他	会 場	参加者数
8月14日(金)～ 16日(日)	1日4回 9:30/12:00/ 14:30/17:00	ジブリの絵職人 男鹿和雄展	男鹿和雄展開催記念 「男鹿和雄の世界」 上映会	主催: 株式会社 ブルボン	音楽にのせて男鹿和雄の アニメーションの背景画を 紹介する。	各回220名 (招待)	T-joy長岡 シアター2	2640
9月19日(土)～ 10月2日(金)						入場料1,500円	T-joy新潟万代/ T-joy長岡	372/ 400

計3,412名

コンサート

開 催 日	時 間	関連展覧会名	演 題 等	講 師 等	内 容	対象・定員他	会 場	参加者数
11月7日(土)	1回午前11時～ 2回午後1時30分～ 3回午後3時～	ジブリの絵職人 男鹿和雄展	ジブリの絵職人男鹿和雄 展開催記念「はなちゃん ず」スタジオジブリ名曲 コンサート	はなちゃんず	ジブリ作品の名曲をよし笛で演 奏する。曲目:「となりのトトロ」 「愛は花、君はその種子」「もの のけ姫」「海の見える街」他	一般	万代島ビル 1階	1回120 2回120 3回100

計340名

ワークショップ

開 催 日	時 間	関連展覧会名	演 題 等	講 師 等	内 容	対象・定員他	会 場	参加者数
11月7日(土)	午後1時～	ジブリの絵職人 男鹿和雄展	「ジブリの絵職人男鹿和雄展」新潟展 開催記念ワークショップ おりがみ 折って…絵を描いて… 男鹿和雄さ んと遊ぼう!	男鹿和雄(出品作家)、 宮下東子(当館主任学芸員)	90cm四方の大きな折り 紙でウミガメを折り、思 い思いの模様をつけ、撮 影する。	小学生 申込制	NICO プラザ (11F)	10

計10名

刊行物

刊行物名	概要	仕様	発行部数	発行日	内容
平成21年度展覧会案内リーフレット	平成21年度の展覧会の日程及び内容、年間のイベント予定などをまとめたもの。	A4版 観音4つ折り 日英2カ国語表記	40,000部	平成21年 3月31日	・展覧会予定 ・美術鑑賞講座案内／観覧料免除／乳幼児・障害者向け施設案内 ・友の会案内／市内美術館紹介 ・駐車場案内／交通案内
新潟県立万代島美術館便り「B-island」No.9	美術館からの情報発信として一般来館者向けに編集したもの。	A4版 4頁	5,000部	平成21年 3月31日	・企画展紹介／ピアトリクス・ポター展 そのみどころ／ばんびのあゆみ／イベントピックアップ／学芸員コラム／所蔵品展紹介／所蔵作品紹介／近代美術館の企画展
「記憶のかたち」展図録	自主企画展の図録。	A4版変形 本文72頁	1,000部	平成21年 5月2日	・西村満 図版「記憶の風景」藤田裕彦 ・小林充也 図版「ふるさとへの〈追憶と夢〉」小見秀男 ・鶴巻貴子 図版「カタチをつくる、版の記憶へ」小見秀男 ・杉原伸子 図版「記憶の底から芽生えるもの」池田珠緒 ・稲田亜紀子 図版「記憶の淵で」池田珠緒 ・近藤充 図版「記憶をさがす旅」澤田佳三 ・麻績勝広 図版「記憶の時間」澤田佳三 ・星野健司 図版「鉄に託された記憶と希望」高巖峻 ・吉原悠博 図版「土地の記憶」藤田裕彦 ・略歴 ・作品リスト

作品解説会

企画展		7月19日(日)	30	1月23日(土)	1
午後2時から展示室において解説会を行った。		7月20日(月)	30	1月24日(日)	0
金GOLD 黄金の国ジバングと佐渡金銀山展		7月25日(土)	16	1月30日(土)	6
日時	人数	7月26日(日)	30	1月31日(日)	10
4月4日(土)	17	8月1日(土)	25	2月7日(日)	0
4月5日(日)	13	8月2日(日)	25	2月11日(木)	8
4月11日(土)	11	8月9日(日)	35	2月13日(土)	5
4月12日(日)	13	8月15日(土)	32	2月14日(日)	7
4月18日(土)	28	8月16日(日)	40	計	59
4月19日(日)	25	8月22日(土)	30		
計	107	8月23日(日)	50	花鳥風月展	
		8月29日(土)	40	日時	人数
美の視点 記憶のかたち		8月30日(日)	20	2月27日(土)	30
日時	人数	計	523	2月28日(日)	20
5月3日(日)	5			3月6日(土)	12
5月5日(火)	10			3月7日(日)	13
5月6日(水)	6	所蔵品展		3月14日(日)	20
5月23日(土)	1	午後2時から展示室において解説会を行った。		3月20日(土)	8
5月30日(土)	10	松永真のポスター展		3月21日(日)	16
6月6日(土)	2	日時	人数	3月22日(月)	20
6月14日(日)	8	12月12日(土)	2	3月27日(土)	16
6月20日(土)	4	12月13日(日)	1	3月28日(日)	20
6月21日(日)	4	12月19日(土)	0	計	175
計	50	12月20日(日)	1		
		12月23日(水)	5		
佐伯祐三展		12月26日(土)	0		
日時	人数	12月27日(日)	2		
7月4日(土)	56	1月9日(土)	0		
7月5日(日)	15	1月10日(日)	7		
7月11日(土)	30	1月11日(月)	3		
7月12日(日)	19	1月17日(日)	1		

団体への解説

佐伯祐三展

日時	団体名	人数
7月 8日(水)	新潟市小学校研究協議会図画工作部	114
8月 3日(月)	新潟美術学園	37
8月 5日(水)	新潟美術学園	25
8月 6日(木)	築地農村環境改善センター	24
8月20日(木)	県内国立大学附属学校園合同部会図工・美術研修	7
8月21日(金)	胎内市教育研究会図工・美術部会	10
8月27日(木)	板倉区高齢者大学	23
計		240

男鹿和雄展

日時	団体名	人数
9月26日(土)	社会福祉法人更正慈仁会地域活動支援センター	12
9月29日(火)	さくらの家	8
9月30日(水)	三条市小学校教育研究協議会	11
10月 2日(金)	県立精神医療センター社会復帰部	21
11月 3日(火)	医療福祉大学	71
11月19日(木)	三条市大崎公民館	23
計		146

学校教育との連携

●展覧会の鑑賞

・展覧会の解説

美の視点 記憶のかたち

日時	学校名	学年	人数
5月21日(木)	新潟大学教育学部附属新潟中学校	2年	39
5月29日(金)	新潟市立小新中学校	3年	21
6月 2日(火)	新潟市立白新中学校	1・2・3年	19
6月 2日(火)	新潟市立関屋中学校	1・2・3年	21
6月 3日(水)	胎内市立中条中学校	1・2・3年	18
6月 4日(木)	新潟大学教育学部附属新潟中学校	2年	40
6月 9日(火)	新潟市立早通中学校	1・2・3年	17
6月16日(火)	佐渡市立羽茂小学校	6年	11
	佐渡市立小村小学校		
	佐渡市立大滝小学校		
計			186

佐伯祐三展

日時	学校名	学年	人数
7月17日(金)	燕高校	3年	33
8月 3日(月)	新発田市立猿橋中学校	1・2・3年	15
8月 3日(月)	新潟市立東新潟中学校		33
8月 7日(金)	五泉市立五泉中学校	1・2・3年	12
8月 9日(日)	新発田市立豊浦中学校	1・2年	8
8月21日(金)	胎内市立中学校		8
計			109

松永真のポスター展

日時	学校名	学年	人数
1月28日(木)	新潟大学教育学部附属新潟中学校	1年	40
計			40

花鳥風月展

日時	学校名	学年	人数
3月16日(火)	新潟大学教育学部附属新潟小学校	5・6年	15
計			15

・作品鑑賞のみ

美の視点 記憶のかたち

日時	学校名	学年	人数
5月 8日(金)	県立新潟養護学校中学校部	1・2・3年	3
5月12日(火)	新潟市立山潟中学校	2年	8
5月13日(水)	新潟市立巻西中学校	2年	5
5月15日(金)	新潟市立月潟中学校	1年	10
5月19日(火)	新潟市立新津第一中学校	2年	7
5月20日(水)	胎内市立中条中学校	2年	17
5月20日(水)	三条市立第二中学校	2年	23
5月20日(水)	長岡市立北中学校		5
5月21日(木)	新潟市立小合中学校	2年	4
5月21日(木)	小千谷市立片貝中学校	2年	14
5月22日(金)	新発田市立豊浦中学校	2年	6
5月27日(水)	阿賀町立阿賀津川中学校	2年	22
5月28日(木)	新潟市立上山中学校	2年	6

6月 9日(火)	新潟市立下山中学校	1・2・3年	34
6月 9日(火)	新潟大学教育学部附属長岡中学校	1・2・3年	17
6月10日(水)	高志中学校	1年	12
6月19日(金)	明鏡高校	2年	77
	計		270

佐伯祐三展

日時	学校名	学年	人数
7月 4日(土)	新発田市立第一中学校	1・2・3年	18
7月 8日(水)	新潟大学教育学部附属新潟中学校	2年	37
7月16日(木)	津南町立上郷中学校	2年	2
7月28日(火)	新発田市立東中学校	1・2年	5
8月 3日(月)	燕市立燕中学校	1・2・3年	14
8月 7日(金)	五泉市立愛宕中学校	1・2・3年	9
8月18日(火)	柏崎市立第三中学校	1・2・3年	16
8月27日(水)	新潟市立二葉中学校	2・3年	5
	計		106

「佐伯祐三展」で作成し展示室内で使用したジュニア向けのセルフガイドのデータを希望する中学校の教諭に提供し、授業での利用に供した。

- ・新潟市立木戸中学校
- ・新潟市立下山中学校
- ・新潟市立新津第一中学校
- ・新潟市立関屋中学校
- ・五泉市立五泉中学校
- ・新潟市立二葉中学校
- ・新発田市立本丸中学校

男鹿和雄展

日時	学校名	学年	人数
9月19日(土)	魚沼市立堀之内中学校	1・2・3年	8
9月19日(土)	魚沼市立広神中学校	1・2・3年	18
9月24日(木)	新潟市立曾根小学校	1年	53
10月 1日(水)	新潟市立二葉中学校	1・2・3年	101
10月 2日(金)	新潟市立小合小学校	3年	19
10月 7日(水)	新発田市立本丸中学校		6
10月 9日(金)	新潟大学教育学部附属長岡中学校		16
10月 9日(金)	新潟市立山王中学校	2年	30
10月10日(土)	三条市立大崎中学校		15
10月10日(土)	新発田市立第一中学校	1・2・3年	16
10月15日(木)	小千谷西高校	3年	153
10月16日(金)	新潟市立市ノ瀬小学校	2年	9
10月16日(金)	阿賀野市教育委員会 中学	2年	2
10月16日(金)	阿賀野市立笹神中学校	2年	33
10月17日(土)	長岡市立刈谷田中学校	2年	3
10月23日(金)	上越市立春日中学校	3年	34
10月27日(火)	県立新潟養護学校高等部	2年	3
10月28日(水)	南魚沼市立石打小学校	4年	16
10月28日(水)	南魚沼市立上関小学校	4年	12
10月28日(水)	新潟市立岡方中学校	2年	26
10月28日(水)	出雲崎高校	1年	46
10月29日(木)	長岡向陵高校	1・2年	9
10月29日(木)	長岡商業高校	1・2・3年	40
10月29日(木)	高田高校	1・2・3年	19
10月29日(木)	三条高校	1・2年	24
10月29日(木)	安塚高校	2年	4

10月29日(木)	新井高校	1・2年	23
10月29日(木)	有恒高校	1・2・3年	16
11月 2日(月)	妙高市立姫川原小学校		17
11月 5日(木)	三条市立月岡小学校	5年	50
11月 5日(木)	新潟市立木山小学校	3年	22
11月 6日(金)	燕市立燕中学校	1年	36
11月 7日(土)	村上市立村上第一中学校	1・2年	8
11月 7日(土)	湯沢町立湯沢中学校		13
11月11日(水)	新潟市立東青山小学校	6年	91
11月11日(水)	新潟大学附属特別支援学校	5・6年	5
11月13日(金)	新潟市立小新中学校	3年	21
11月13日(金)	新潟市立五十嵐中学校	特別支援学級	5
11月13日(金)	新潟市立五十嵐中学校	2年	102
11月17日(火)	小千谷市立吉谷小学校	4・5年	32
11月17日(火)	阿賀町立三宝小学校		16
11月18日(水)	新潟大学附属特別支援学校	5・6年	5
11月19日(木)	光栄幼稚園		108
11月21日(土)	高志高校		13
11月21日(土)	新潟市立金津中学校		9
11月24日(火)	三条市立大崎中学校	2・3年	4
11月24日(火)	三条市立下田中学校	1・2・3年	14
11月24日(火)	阿賀野市立堀越小学校	4年	27
11月26日(木)	新潟市立小新中学校	2年	20
11月26日(木)	新潟市立豊照小学校	5・6年	29
11月27日(金)	新潟市立結小学校	6年	151
11月27日(金)	三条市立森町小学校	3年	22
11月27日(金)	新発田市立米倉小学校	5年	12
11月27日(金)	新発田市立加治川中学校	1・3年	2
11月27日(金)	南魚沼市立大巻小学校	4年	28
	計		1,616

松永真のポスター展

日時	学校名	学年	人数
1月26日(火)	柏崎市立中通小学校	5年	8
1月26日(火)	第一高等学院新潟校	1・2・3年	34
1月30日(土)	高志高校	1・2年	4
	計		46

花鳥風月展

日時	学校名	学年	人数
3月 9日(火)	新潟大学工学部機能材料工学科		14
3月11日(木)	県立新潟養護学校高等部		13
3月31日(水)	高志高校	1・2年	3
	計		30

●その他の活動

日時	学校名	学年	内容	人数
4月15日(水)	新潟市立白南中学校	1年	校外学習	6
5月 7日(木)	新潟市立小須戸中学校	2年	総合学習	6
5月21日(木)	新潟市立石山中学校	2年	校外学習	10
7月15日(水)	新潟市立白根北中学校	1年	職場訪問学習	6
	計			28

観覧料免除

新潟県立近代美術館規則第13条の規定に基づき、学校教育活動として観覧する場合の生徒及び小中学校・特別支援学校・高等学校の引率者、心身障がい者及びその介助者等に対し、観覧料を免除した。

また、学校からの要請があった場合、その内容に応じて解説・案内・レクチャーなどを行った。

展覧会名	会期	日数	学校等						障がい者	介助	合計
			小中・特			高校					
			校数	引率	校数	生徒	引率				
金GOLD 黄金の国ジバングと佐渡金銀山	平成21年4月1日～4月19日	19	0	0	0	0	0	166	66	232	
美の視点 記憶のかたち	5月2日～6月21日	45	13	19	1	77	11	103	35	245	
没後80年記念 佐伯祐三展	7月4日～8月30日	58	11	15	1	33	7	437	142	634	
ジブリの絵職人 男鹿和雄展	9月19日～11月29日	66	38	87	11	350	24	1,109	450	2,020	
松永真のポスター展	12月12日～平成22年2月14日	50	2	3	2	38	3	55	11	110	
花鳥風月展	2月27日～3月31日	28	1	1	2	16	12	96	23	148	
合計		266	65	125	17	514	57	1,966	727	3,389	

夏休み期間 観覧料免除者数

月	期間	日数	開催企画展名称	高校生	合計	月計
7	18～31	14	没後80年記念 佐伯祐三展	47	47	47
8	1～30	30	没後80年記念 佐伯祐三展	274	274	274

博物館実習

学芸員資格取得を目指す学生のための博物館実習を実施し、9名の実習生を受け入れた。各分野についての講義の他、作品の点検・取り扱いの指導、他館見学も行った。最終日には各自に所蔵品展を使った展覧会企画を発表してもらい、学芸員の仕事について学んだ実習の総まとめとした。



7月29日 (水)	1	他館見学 新潟市歴史博物館 新潟市美術館
	2	
	3	
7月30日 (木)	4	研究課題（発表資料作成）
	1	発表準備
	2	発表・講評
	3	
4	閉校式	

- ① 10:10～11:20 (70分)
- ② 11:40～12:50 (70分)
- ③ 14:10～15:20 (70分)
- ④ 15:40～16:50 (70分)

実習期間7月22日(水)～30日(木)まで全6日間

実習生の大学および受入人数

新潟大学	1名
富山大学	1名
筑波大学	1名
立命館大学	1名
清泉女子大学	1名
京都女子大学	1名
武蔵大学	1名
横浜国立大学	1名
金沢学院大学	1名
計	9名

実習カリキュラム

月日	時限	内容
7月22日 (水)	1	開校式・館長講話・オリエンテーション
	2	施設案内
	3	企画展見学（佐伯祐三展）
	4	研究課題（課題説明、資料収集）
7月23日 (木)	1	博物館法・展覧会の企画運営・美術館の課題
	2	広報活動・資料整理
	3	作品の点検・取り扱い（日本画）
	4	研究課題（テーマ決定、構成検討）
7月24日 (金)	1	教育普及活動
	2	作品の点検・取り扱い（工芸）
	3	受付・監視の仕事
	4	研究課題（リスト・図面作成）
7月28日 (火)	1	美術館教育
	2	作品収集・修復・著作権
	3	作品の点検・取り扱い（平面）
	4	所蔵品管理・情報管理・刊行物

新潟県立近代美術館

【研修】

- 藤田裕彦 平成21年度博物館学芸員専門講座
文部科学省国立教育政策研究所
- 野村宏毅 平成21年度美術館を活用した鑑賞
教育の充実のための指導者研修 東京
国立近代美術館、国立新美術館
- 濱田真由美 平成21年度美術館等運営研究協
議会 大阪大学中之島センター、国
立国際美術館
- 長嶋圭哉 日本博物館協会研究協議会「美術館
の情報発信」ホテルニューイタヤ、
栃木県立博物館
- 佐藤克己 平成21年度子どもゆめ基金助成事
業 国立科学博物館
- 平石昌子 平成21年度研究協議会「美術館の
情報発信」、財団法人日本博物館協会
東京都写真美術館
- 長嶋圭哉 美術館連絡協議会第6回学芸員研修
セミナー「美術館の情報発信」目黒
区美術館
- 高 晟俊 全国美術館会議情報・資料研究部会
「美術館の情報発信」国立新美術館

【紀要執筆】

- 濱田真由美 「戦前の阿部展也（芳文）の活動—
瀧口修造との関係を中心に」
- 長嶋圭哉 「大正・昭和戦前期における岩田正巳
の画風変化について—新興大和絵
会、国画院とのかかわりから」
- 平賀麻子 「土田麦僊《島の女》をとおして—近
代日本画の女性表現の一動向」
- 佐藤克己 「新潟県立近代美術館・万代島美術館
所蔵作品データベースの作成につ
いて」
- 野村宏毅 「《鮭図》に迫る—さかなをえがく：
ワークショップの成果と課題」

【展覧会図録執筆】

- 藤田裕彦 「西村満—記憶の風景」『記憶のかた
ち』図録（新潟県立万代島美術館）
- 高 晟俊 「星野健司—鉄に託された希望と記
憶」『記憶のかたち』図録（新潟県
立万代島美術館）
- 藤田裕彦 「吉原悠博—土地の記憶」『記憶のかた
ち』図録（新潟県立万代島美術館）
- 高 晟俊 「在日韓国人の美術—日本現代美術
史のなかで」『アリアンの花の
種 Korean Diaspora Artists in
Asia』図録（韓国国立現代美術館）
- 濱田真由美 「丸山直文」（作家解説）『ネオテ
ニー・ジャパン—高橋コレクション』
図録
- 横山秀樹 「土田麦僊—東洋的な、そして古典
的な—」『土田麦僊』図録
- 長嶋圭哉 「未完の『晩年』—昭和期の麦僊につ
いて」『土田麦僊』図録
- 平賀麻子 「土田麦僊の初期作品について—《島
の女》をとおして」『土田麦僊』図録
- 横山秀樹 「安宅安五郎の《砂丘に立つ子供》と
中原梯二郎の《若きカフカス人》」
『会津ハ—と越の学び舎』図録（新
潟市会津ハ—記念館）
- 平石昌子 「あふれる詩心—川上澄生／棟方志功
／齋藤三郎」『あふれる詩心—版画
と陶芸』図録

【著述活動】

- 藤田裕彦 「第49回東日本工芸展」（あーとびっ
くす）『新潟日報』2009年5月11日
- 藤田裕彦 「還暦記念・市川正美工芸展」（あー
とびくす）『新潟日報』2009年
5月25日
- 藤田裕彦 「齋藤尚明作陶展」（あーとびく
す）『新潟日報』2009年7月17日
- 横山秀樹 「思い出の展覧会—土田麦僊展」『美
連協ニュース』104号
- 横山秀樹 「伊藤赤水新作展」『新潟日報』2009
年9月16日
- 横山秀樹 「渡辺信二展」（あーとびくす）『新
潟日報』2010年1月15日
- 濱田真由美 「電子音響室内楽10 Permutation
of Time（時の置換）」（あーとび
くす）『新潟日報』2010年3月2日
- 高 晟俊 「ダヴィット・ガレジ（グルジア）、ベル
トゥパニ修道院主聖堂の壁画につ
いての覚書」『ルクス・アルティウム
—越宏一先生退任記念論文集』中央
公論美術出版

【講演会、講義、展覧会監修等】

- 高 晟俊 シンポジウム「ミュージアムをどう
評価するの—学芸員の専門性と美
術館・博物館のカー」企画進行・指
名コメント（美術史学会、東京都美
術館）2009年5月9日
- 高 晟俊 国際シンポジウム「アジアの韓人作
家たち」パネラー（韓国国立現代美
術館）2009年7月17日
- 長嶋圭哉 「横山操『中央公論』表紙絵原画展」
作品解説（弥彦の丘美術館）2009
年8月22日
- 長嶋圭哉 「ふるさとの先人展 尾竹三兄弟・こ
しの千涯展」講演会（新潟市潟東地
区公民館）2009年10月3日
- 藤田裕彦 雪梁舎美術館 新潟県伝統工芸展〈公
募〉審査 2009年10月21日
- 高 晟俊 「世界遺産 黄金の都イスタンブール—
ビザンティン美術における「金」」
（講演：朝日カルチャーセンター横
浜）2009年10月30日
- 長嶋圭哉 「ブレ戦略イニシアティブ「A.R.T.」
の構築」研究集会における指導・助
言（筑波大学芸術専門学群）2009
年11月14日
- 長嶋圭哉 「ウッドワン美術館所蔵品展」作品解
説 2010年1月4日
- 横山秀樹 「成川美術館所蔵—春うらら〜さく
ら・桜」作品解説 2010年1月8日
- 横山秀樹 富山県立水墨美術館 寄贈作品検討委
員会委員 2010年2月18日
- 藤田裕彦 シンポジウム「地域連携によるアート
プロジェクトの推進」パネラー（新潟大
学駅南キャンパス）2010年2月21日
- 横山秀樹 雪梁舎美術館 作品解説 2010年2月
28日
- 高 晟俊 「世界遺産をめぐる旅—中世ルーマニ
アの教会堂壁画」（講演：朝日カル
チャーセンター）2010年3月4日
- 横山秀樹 群馬県立近代美術館 寄贈作品検討委
員会委員 2010年3月11日

新潟県立万代島美術館

【研 修】

- 宮下東子 平成21年度博物館学芸員専門講座
文部科学省国立教育政策研究所
- 桐原 浩 日本博物館協会研究協議会「博物館
における広報活動について」東京都
写真美術館
- 桐原 浩・澤田佳三 全国美術館会議 情報資料
研究部会「美術館の情報発信」国立新
美術館

【紀要執筆】

- 澤田佳三 「画家の中の『生活』—佐藤哲三を起
点に」『新潟県立近代美術館研究紀
要第9号』新潟県立近代美術館

【展覧会図録執筆】

- 澤田佳三 「『天才画家・佐伯祐三』の意味」『没
後80年記念 佐伯祐三展—パリで天
逝した天才画家の道』展図録、産経
新聞大阪本社、2008年9月
- 池田珠緒 「杉原伸子 記憶の底から芽生えるも
の」『記憶のかたち』展図録、新潟
県立万代島美術館、2009年5月
- 池田珠緒 「稲田亜紀子 記憶の淵で」『記憶の
かたち』展図録、新潟県立万代島美
術館、2009年5月
- 澤田佳三 「近藤充 記憶をさがす旅」『記憶の
かたち』展図録、新潟県立万代島美
術館、2009年5月
- 澤田佳三 「麻績勝広 記憶の時間」『記憶の
かたち』展図録、新潟県立万代島美
術館、2009年5月
- 池田珠緒 「麦傭の舞妓—《三人の舞妓》から
《明粧》まで」『土田麦傭』展図
録、新潟県立近代美術館、2009年

【著述活動】

- 桐原 浩 「池田美弥子展 水平線描き新たな感
覚探る」(あーとびっくす)『新潟
日報』2009年8月13日
- 澤田佳三 「麻績勝広作品展 心躍らせた異国の
光景描写」(あーとびっくす)『新
潟日報』2009年8月15日
- 澤田佳三 「『大矢紀展』に寄せて—長き研さん
を示す 半世紀超す画業概観」『新
潟日報』2009年9月25日

- 池田珠緒 「横山操と久保田安定の作品展 不出の
小品 貴重な鑑賞機会」(あーとびっく
す)『新潟日報』2009年10月28日
- 宮下東子 「VOICE 学芸員の在る—日」月刊『社
会教育』2009年11月号(財団法人
全日本社会教育連合会) p.42-43
- 桐原 浩 「県伝統工芸作家展・公募展 目を引く
作品に加え公募作」(あーとびっく
す)『新潟日報』2009年11月10日
- 宮下東子 「猪爪彦一の世界展(弥彦の丘美術
館)」(あーとびっくす)『新潟日報』
2009年12月1日
- 澤田佳三 「鈴木力展 画家の心づかいと手しご
と」(あーとびっくす)『新潟日報』
2009年12月2日
- 澤田佳三 「絵画館と壁画—東京府養正館と国史
絵画—」『昭和期美術展覧会の研究
戦前篇』中央公論美術出版

【講演会、講義、展覧会監修等】

- 桐原 浩 新潟大学人文学部「連続講義 キャ
リア形成」講師 2009年7月22
日、7月29日、8月6日
- 桐原 浩 雪梁舎美術館「新潟県伝統工芸作家
展・公募展」審査 2009年10月
21日
- 池田珠緒 新発田ロータリークラブ「落谷虹児
の世界」講師 2009年12月7日
- 宮下東子 新潟デザイン専門学校「新潟デザイン
専門学校 卒業制作展」審査 2010
年2月5日
- 飯島沙耶子 雪梁舎美術館「2009年中央展出品
作家展 作家交流会」コメンテーター
2010年3月14日
- 宮下東子 雪梁舎美術館「2009年中央展出品作
家展 作家交流会」コメンテーター
2010年3月28日

美術品の収集

平成 21 年度収集作品一覧

分野	各 領 域 点 数	合計点数
世界の美術	日本画1 油彩画他2	3
日本の美術	現代美術1 デザイン39	40
新潟の美術		0
総合計		43

新潟の美術

分野	作 家 名 (生歿年)	作 品 名	制作年	寸 法 (cm)	素材・技法・形状	購 入 ・ 寄 贈
日本画	斎藤満栄 (さいとう・みつえい) 1948-	橋 (カレル)	2008	175×220	紙本彩色 額装	作家寄贈
油彩画他	河内文夫 (かわうち・ふみお) 1939-2008	アストリアスへの旅	1996	162.1×130.3	油彩・カンヴァス	作家遺族寄贈
		エル・カミーノ	2007	194.0×162.0	油彩・カンヴァス	

日本の美術

分野	作 家 名 (生歿年)	作 品 名	制作年	寸 法 (cm)	素材・技法・形状	購 入 ・ 寄 贈
油彩画他	ヨシダミノル (よしだ・みのる) 1935-2010	Just Curve for Blue	1966	260×183×195	油彩・カンヴァス (変形)	作家寄贈
デザイン	松永 真 (まつなが・しん) 1940-	G8 北海道洞爺湖サミット 開催記念ポスター	2008	145.6×103.0	紙・デジタルプリント	作家寄贈
		ショーモン国際ポスター・グラ フィックデザインフェスティバル 20周年記念ポスター	2009	145.6×97.1	紙・デジタルプリント	
	植原亮輔 (うちはら・りょうすけ) 1972-	「THEATRE PRODUCTS」 120 Days Shop ポスター (ピンク)	2007	53×76	インク・紙、まくり	作家寄贈
		「THEATRE PRODUCTS」 HONEYMOON/Vietnam Airlines Fashion Show	2007	8×23	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 HONEYMOON/Vietnam Airlines 立上チラシ	2008	51.5×36.4	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 CYNDY 立上ポスター	2008	84×57	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 CYNDY Fashion Show INVITATION ポスター	2008	34.9×60.1	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 CYNDY Fashion Show INVITATION (セット)	2008	22.5×16	インク・紙、袋入り	
		「THEATRE PRODUCTS」 CYNDY Fashion Show INVITATION (チケット)	2008	7.5×35	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 CYNDY Fashion Show INVITATION for PRESS	2008	7.5×36	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 CYNDY 展示会案内状	2008	7.5×17.5	インク・紙、まくり	
		THEATRE PRODUCTS SHIBUYA PARCO SHOP リ ニューアルオープン案内状	2008	43.4×22	インク・紙、まくり	
		THEATRE PRODUCTS SHIBUYA PARCO SHOPCARD(銀)	2008	5.5×9	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 COUNTRY 展示会案内状	2008	19.2×11.5	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 COUNTRY Fashion Show INVITATION (案内)	2008	5×19.2	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 COUNTRY Fashion Show INVITATION Ticket	2008	8.1×19.2	インク・紙、まくり	

分野	作家名(生歿年)	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法・形状	購入・寄贈
デザイン	植原亮輔 (うへはら・りょうすけ) 1972-	「THEATRE PRODUCTS」 COUNTRY Fashion Show INVITATION Ticket (A公演)	2008	8.1×19.2	インク・紙、まくり	作家寄贈
		「THEATRE PRODUCTS」 COUNTRY Fashion Show INVITATION Ticket (B公演)	2008	8.1×19.2	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 COUNTRY Fashion Show INVITATION ツール(ビジュアル)	2009	34.1×19.2	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 COUNTRY Fashion Show INVITATION ポスター	2009	29.3×77	インク・紙、まくり	
		THEATRE PRODUCTS FIRST SHOP オープン案内状	2004	22×10.5	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 GREEN FINGERS 立上チラシ	2007	29.6×42	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 NOSTALGIA 立上チラシ	2007	29.6×42	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 COUNTRY 立上ポスター	2009	42×59.4	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 JOY 立上ポスター	2009	51.4×72.8	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 JOY 展示会案内状	2009	14.3×11.5	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」JOY Fashion Show INVITATION ポスター	2009	50×42.8	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」JOY Fashion Show INVITATION ツール(写真3点)	2009	28.9×29.7	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」JOY Fashion Show INVITATION ツール(ビジュアル)	2009	28.9×29.7	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」JOY Fashion Show INVITATION ツール(チケット)	2009	4.2×14.3	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 JOY After Party INVITATION	2009	5×16.3	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 JOY Stamp Rally(押印)	2009	18×5.5	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 JOY Stamp Rally(白紙)	2009	18×5.5	インク・紙、まくり	
		THEATRE PRODUCTS OMOTESANDO SHOP オープ ン案内状(シール付封筒)	2009	12×23.5	インク・紙、まくり	
		THEATRE PRODUCTS OMOTESANDO SHOPCARD (金)	2009	5.5×9	インク・紙、まくり	
		「THEATRE PRODUCTS」 BOMBAY 展示会案内状	2009	18.5×11	インク・紙、まくり	
「THEATRE PRODUCTS」 BOMBAY Fashion Show INVITATION ポスター	2009	61.3×49.3	インク・紙、まくり			
「THEATRE PRODUCTS」 BOMBAY Fashion Show INVITATION	2009	11×19.5	インク・紙、まくり			
「THEATRE PRODUCTS」 BOMBAY Party 案内状	2009	13×11	インク・紙、まくり			

新収蔵品

日本の美術



油彩画他
ヨシダミノル《Just Curve for Blue》



デザイン
松永真《ショーモン国際ポスター・グラフィックデザインフェスティバル 20周年記念ポスター》



デザイン
松永真《G8 北海道洞爺湖サミット 開催記念ポスター》



デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」120 Days Shop ポスター(ピンク)》



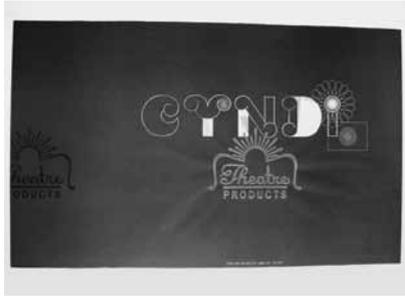
デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」HONEYMOON/Vietnam Airlines Fashion Show》



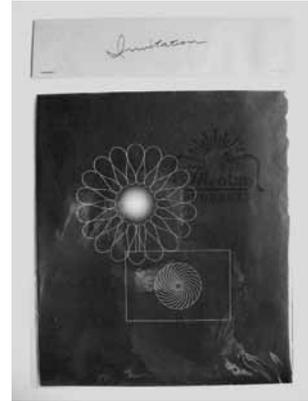
デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」HONEYMOON/Vietnam Airlines 立上チラシ》



デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」CYNDY 立上ポスター》



デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」CYNDY
Fashion Show INVITATION ポスター》



植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」CYNDY Fashion Show INVITATION
(セット)》



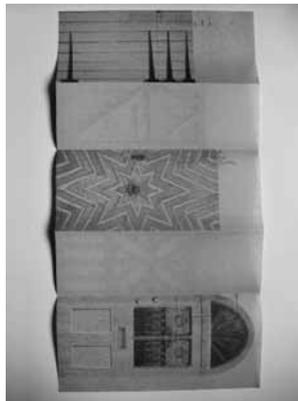
デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」CYNDY
Fashion Show INVITATION (チケット)》



デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」CYNDY
Fashion Show INVITATION for PRESS》



デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」CYNDY 展示
会案内状》



デザイン
植原亮輔《THEATRE PRODUCTS SHIBUYA PARCO SHOP リニューアルオー
プン案内状》



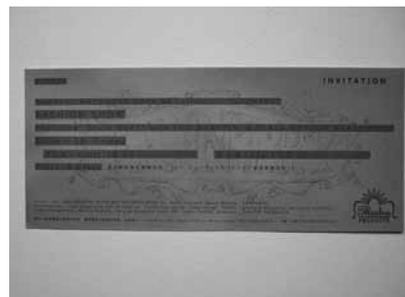
デザイン
植原亮輔《THEATRE PRODUCTS SHIBUYA
PARCO SHOPCARD(銀)》



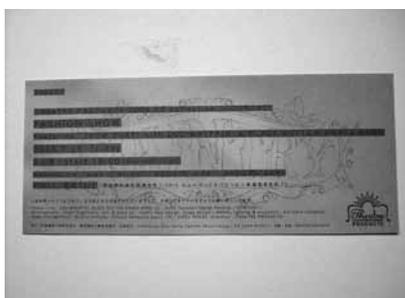
デザイン
植原亮輔《[THEATRE PRODUCTS]
COUNTRY 展示会案内状》



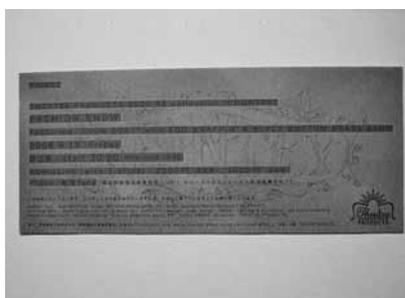
デザイン
植原亮輔《[THEATRE PRODUCTS]COUNTRY
Fashion Show INVITATION (案内)》



デザイン
植原亮輔《[THEATRE PRODUCTS]COUNTRY
Fashion Show INVITATION Ticket》



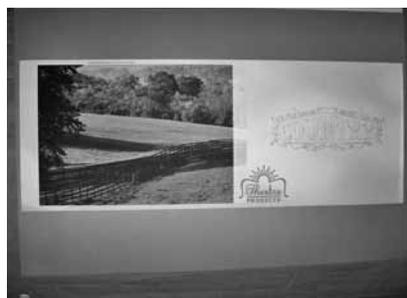
デザイン
植原亮輔《[THEATRE PRODUCTS]COUNTRY
Fashion Show INVITATION Ticket (A公演)》



デザイン
植原亮輔《[THEATRE PRODUCTS]COUNTRY
Fashion Show INVITATION Ticket (B公演)》



デザイン
植原亮輔《[THEATRE PRODUCTS]
COUNTRY Fashion Show INVITATION
ツール (ビジュアル)》



デザイン
植原亮輔《[THEATRE PRODUCTS]COUNTRY
Fashion Show INVITATION ポスター》



デザイン
植原亮輔《THEATRE PRODUCTS FIRST SHOP オープン案内状》





デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」JOY
Fashion Show INVITATION ツール(写真3点)》



デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」JOY
Fashion Show INVITATION ツール (ビジュアル)》



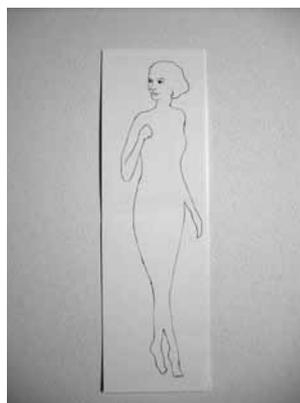
デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」JOY
Fashion Show INVITATION ツール (チケット)》



デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」JOY After
Party INVITATION》



デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」JOY Stamp Rally(押印)》



デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」JOY Stamp Rally(白紙)》



デザイン
植原亮輔《THEATRE PRODUCTS
OMOTESANDO SHOP オープン案内状 (シール付
封筒)》



デザイン
植原亮輔《THEATRE PRODUCTS OMOTESANDO SHOPCARD(金)》



デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」 BOMBAY 展示会案内状》



デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」 BOMBAY Fashion Show INVITATION ポスター》



デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」BOMBAY Fashion Show INVITATION》



デザイン
植原亮輔《「THEATRE PRODUCTS」 BOMBAY Party 案内状》

新潟の美術



日本画
斎藤満栄《橋（カレル）》



油彩画他
河内文夫《アストリアスへの旅》



油彩画他
河内文夫《エル・カミーノ》

美術品の修復

平成21年度 修復作品一覧

分野	作家名	作品名	制作年	修復内容	修復者	修復期間
日本画	行田魁庵	新潟年中行事絵巻	江戸末期	修理、クリーニング、復元、彩色	神尾萬匠堂 (新潟県)	平成21年 7月 3日～ 平成21年11月 日
版画	ホアン・ミロ	太陽の讃歌 (30点)	1975年	マット新調	ナガイ画材 (新潟県)	平成22年 2月22日
				額新調	はにわ (新潟県)	平成22年 3月15日

美術品の貸出

平成21年度 作品貸与一覧 (近代美術館所管作品)

展覧会名	貸出先	会期	作家名	作品名
佐伯祐三展—バリエーションで天逝した天才画家の道	大阪市立美術館	(平成20年 9月 9日～10月19日)	佐伯祐三	広告塔
	高松市美術館	(平成20年10月24日～12月 7日)		パンテオン寺院
	北海道立近代美術館	(平成21年 4月24日～ 6月14日)		
没後5年記念 加山又造展	新潟県立万代島美術館	(平成21年 7月 5日～ 8月31日)	加山又造	月と駱駝
	国立新美術館	(平成21年 1月21日～ 3月 2日)		
兼統を育てた謙信公のふるさと展	高松市美術館	(平成21年 4月17日～ 5月31日)	(作者不明)	上杉謙信並二臣像 (寄託作品)
	長岡市栃尾美術館	(平成21年 3月 7日～ 6月 7日)		上杉謙信五言対句 (寄託作品)
だまし絵展	名古屋美術館	(平成21年 4月11日～ 6月 7日)	金昌烈	水滴
	Bunkamura ザ・ミュージアム	(平成21年 6月13日～ 8月16日)		
	兵庫県立美術館	(平成21年 8月25日～11月 3日)		
五姓田GOSEDA—明治の新潟を描き残した絵師	新潟市歴史博物館	(平成21年 4月25日～ 6月 7日)	チャールズ・ワグマン	新潟の家
日本の美術館名品展	東京都美術館	(平成21年 4月25日～ 7月 5日)	梅原龍三郎	紫禁城
			岸田劉生	冬枯れの道路 (原宿附近写生)
			藤田嗣治	私の夢
			安井曾太郎	読書
			横山操	朔源
天地人—直江兼統とその時代	サントリー美術館	(平成21年 5月30日～ 7月12日)	(作者不明)	上杉謙信並二臣像
	新潟県立歴史博物館	(平成21年 7月25日～ 9月 6日)		
画家の眼差し、レンズの眼—近代日本の写真と絵画	神奈川県立近代美術館	(平成21年 6月27日～ 8月23日)	浅井忠	農人
横山操 雑誌『中央公論』表紙絵原画展	弥彦の丘美術館	(平成21年 7月11日～ 8月23日)	横山操	中央公論表紙絵 (36点)
				燈台
				月嶺
				春近し
				流星
				湖映
				炎々桜島 (小)
				曇れる丘
				波濤
				富士
				ふるさと
				森の詩
人と自然6				
コリアン・ディアスポラ	韓国国立現代美術館	(平成21年 7月17日～ 9月27日)	難波田龍起	長い棒をもつ農婦 (寄託作品)
第15回秘蔵の名品アートコレクション展	株式会社ホテルオークラ	(平成21年 8月 4日～ 8月30日)	フィンセント・ファン・ゴッホ	夕映えの中のマルト
オルセー美術館展 パリのアール・ヌーボー	世田谷美術館	(平成21年 9月12日～11月29日)	モーリス・ドニ	緒那智
日本画にみる世界遺産の旅	茨城県天心記念五浦美術館	(平成21年10月17日～11月23日)	麻田鷹司	春日野
神話 ～日本美術の想像力～	奈良県立美術館	(平成21年10月24日～12月24日)	高村真夫	春日野

展覧会名	貸出先	会期	作家名	作品名
昭和から平成へ 未来へつなく伊勢神宮の美	式年遷宮記念神宮美術館	(平成21年10月28日～11月29日)	渡辺義雄	伊勢神宮：内宮御正殿北側回廊の大床・高欄と西宝殿
				伊勢神宮：内宮宇治橋
				伊勢神宮：内宮遷宮直後の新旧併存の景
				伊勢神宮：外宮中重における勅使の祝詞
				伊勢神宮：内宮中重
				迎賓館：朝日の間
				迎賓館：中門から本館正面全景を望む
				迎賓館：夜の主庭噴水
清方/Kiyokata ノスタルジアー江戸の粋を愛した日本画家、鐷木清方のまなざし	サントリー美術館	(平成21年11月18日～平成22年 1月11日)	鐷木清方	春の夜のうらみ
				桜姫
				曲亭翁像
				海辺聞鹿
				梅王
				お嬢吉三
				毛剃
				鏡獅子
				狐火
				保名
				辰橋
龜倉雄策ポスター展	燕市産業史料館	(平成22年 2月 5日～ 3月22日)	龜倉雄策	原子エネルギーを平和産業に！
				ニコンSP
				ニコンカメラ
				東京オリンピックシンボルマークポスター
				東京オリンピック 陸上
				東京オリンピック 公式ポスター
				EXPO '70 シンボルマーク
				EXPO '70 日本の祭
				札幌オリンピック フィギュアスケート
				ICSID '73
				ヒロシマアピールズ1983
				89名古屋デザイン博覧会
				ニッコールレンズ
				ニッコールレンズ
				東京オリンピック 水泳
				ヤマギワ国際照明コンペ入選作品展
				札幌オリンピック ジャンプ
				UCLA日本古典芸能団招聘記念
				83東京国際照明デザインコンペティション入賞作品展
				日本の12人のグラフィックデザイナー
				JAPAN
				communication&print comprint international
				平和と環境のポスター
symposium-4				
IBM 「speed」				
新潟への旅	新潟市美術館	(平成22年 2月13日～ 3月22日)	安宅安五郎	越後六拾景図 (27点)
			五十嵐二郎	越後海景

万代島美術館所管作品 貸与一覧

展覧会名	貸出先	会期	作家名	作品名
菅原健彦展	岡崎市美術博物館	(平成21年 9月18日～11月 8日)	菅原健彦	円形のジャングルジム
	練馬区立美術館	(平成21年11月15日～12月27日)		
日本画にみる世界遺産の旅	茨城県天心記念五浦美術館	(平成21年10月17日～11月23日)	八田哲	夜のカテドラル

管理・運営



新潟県立近代美術館

常設展観覧者数(常設展のみの観覧者)

期間 (企画展名)	第1期				第2期			第3期		第4期			第5期			合計 (年間316日)
	H21年4/1~6/14(73日間)				H21年6/18~9/13(84日間)			H21年9/19~11/15(53日間)		H21年11/19~H22年2/7(64日間)			H22年2/11~H22年3/31(42日間)			
	4/1~4/5 5日間 (東海道五十三次とジャポニスム)	4/7~4/10 4日間 (常設展のみ)	4/11~5/31 51日間 (油絵事始めリアリズムを求めて)	6/2~6/14 13日間 (常設展のみ)	6/18~7/20 29日間 (常設展のみ)	7/21~9/10 52日間 (ネオテネー・ジャパン)	9/11~9/13 3日間 (常設展のみ)	9/19~11/3 42日間 (土田麦僊展)	11/4~11/15 11日間 (常設展のみ)	11/19~11/20 2日間 (常設展のみ)	11/21~1/24 50日間 (あふれる詩心-版画と陶芸)	H22年1/26~2/7 12日間 (常設展のみ)	H22年2/11~2/14 4日間 (常設展のみ)	H22年2/16~3/28 36日間 (マルチ・アーティスト阿部展也)	H22年3/30~3/31 2日間 (常設展のみ)	
一般	218	27	182	461	561	169	100	180	306	9	61	115	52	79	8	2,528
大学・高校生	9	1	10	7	24	14	10	12	5	0	11	8	1	20	0	132
人小計	227	28	192	468	585	183	110	192	311	9	72	123	53	99	8	2,660
団体	16	3	20	98	46	49	1	48	16	2	16	12	7	18	2	354
大学・高校生	0	0	0	23	0	3	0	2	1	0	0	0	1	0	0	30
体小計	16	3	20	121	46	52	1	50	17	2	16	12	8	18	2	384
無料	24	2	8	283	202	17	11	13	251	3	4	184	2	5	1	1,010
免除	15	5	1	72	68	2	3	2	300	1	5	14	3	6	2	499
合計	282	38	221	944	901	254	125	257	879	15	97	333	66	128	13	4,553
	1,485 (7,620)				1,280 (27,376)			1,136 (16,239)		445 (4,340)			207 (1,860)			4,553 (57,435)

*企画展開催中は、その観覧者数が常設展観覧者と重複する。
 *()内は企画展観覧者数をあわせた人数。
 *無料には友の会会員を含む。

企画展観覧者数

企画展名	油絵事始めリアリズムを求めて ~日本近代洋画への道~ 4/11~5/31(51日間)	ネオテネー・ジャパン 高橋コレクション 7/21~9/10(52日間)	土田麦僊 9/19~11/3(42日間)	あふれる詩心-版画と陶芸 川上澄生/棟方志功/齋藤二郎 11/21~1/24(50日間)	マルチ・アーティスト 阿部展也 2/16~3/28(36日間)	合計
一般	3,122	14,851	8,190	2,419	706	29,288
大学・高校生	156	1,291	157	48	78	1,730
人小計	3,278	16,142	8,347	2,467	784	31,018
団体	224	335	614	237	172	1,582
大学・高校生	72	514	3	3	0	592
体小計	296	849	617	240	172	2,174
前売	267	1,940	2,045	-	-	4,252
無料	1,690	5,889	2,937	1,015	622	12,153
免除	604	1,276	1,157	173	75	3,285
合計	6,135	26,096	15,103	3,895	1,653	52,882

企画展名	油絵事始め	ネオテネー・ジャパン	土田麦僊	あふれる詩心	合計
図録販売数(冊)	148	1,008	727	255	2,138
音声ガイド使用数(台)	0	0	1,228	0	1,228

特別展（共催）

展覧会名	会期	日数	観覧者数
県展「長岡展」	6/5~6/14	10	4,854
友の会作品展	9/21~10/4	13	748
長岡「市展」	11/11~11/15	5	5,200
長岡市中学美術展	11/14~11/15	2	636
ジュニア展	1/29~2/7	9	2,964
友の会 15周年のあゆみ展・手ぬぐい展	3/20~3/28	8	600
計		47	15,002

巡回ミュージアム

開催地	会場名	会期	日数	観覧者数
弥彦村	弥彦村コミュニティセンター	5/3~6/11	40	1,509
上越市	小林古径記念美術館	7/25~8/30	32	4,387
計			72	5,896

総観覧者数

	常設展	企画展	共催展	巡回ミュージアム	合計
観覧者数	4,553	52,882	15,002	5,896	78,333

新潟県立万代島美術館

所蔵品展・企画展 観覧者数

展覧会名	黄金の国ジパング と佐渡金銀山展	記憶のかたち	佐伯祐三展	男鹿和雄展	松永真のポスター展	花鳥風月	合計	
期間	4/1~4/19 (19日間)	5/2~6/21 (45日間)	7/4~8/30 (58日間)	9/19~11/29 (66日間)	12/12~2/14 (50日間)	2/27~3/31 (28日間)		
個人	一般	2,730	1,807	10,498	58,290	934	1,919	76,178
	大高生	101	125	397	7,013	112	146	7,894
	小計	2,831	1,932	10,895	65,303	1,046	2,065	84,072
団体	46	174	457	939	182	91	1,889	
前売（一般のみ）	2,075	322	5,175	14,514	0	0	22,086	
無料	1,400	1,314	3,379	21,731	437	482	28,743	
免除	232	245	955	2,020	110	148	3,710	
合計	6,584	3,987	20,861	104,507	1,775	2,786	140,500	

*団体の数には「友の会」も含まれる。

講堂・ギャラリーの貸出 新潟県立近代美術館

県民の文化活動の促進に資するため、新潟県立近代美術館講堂及びギャラリー使用要項に則り、講堂は1日につき26,400円、ギャラリーは1日につき17,300円で貸し出した。

講堂用状況

使用日	行 事 名	内 容
4/2	カワイ音楽教室音研究会	ピアノ講座
5	ピアノ発表会	ピアノ演奏
15	カワイ音楽教室音研究会	ピアノ講座
29	ピアノ発表会	ピアノ演奏
5/21	知事とのタウンミーティング	「いじめ問題」のパネルディスカッション
6/8	ピアノ練習	ピアノ練習
14	ピアノ教室発表会	ピアノ演奏
27	ファミリーフェスティバル	講演会
28	ベスト音楽教室発表会	音楽教室発表会
7/20	ピアノ発表会	ピアノ演奏
8/23	音楽発表会	音楽教室発表会
25	カワイ音楽教室音研究会	ピアノ講座
28	ファミリーフェスティバル	講演会
9/12	ピアノ発表会	ピアノ演奏
13	ピアノ発表会	ピアノ演奏
10/30	カワイ音楽教室音研究会	ピアノ講座
11/7	ピアノ発表会	ピアノ演奏
8	ピアノ発表会	ピアノ演奏
10,11	第49回長岡市美術展覧会	表彰式
14	ピアノ発表会	ピアノ演奏
15	ピアノ発表会	ピアノ演奏
21	食の安全 安心フォーラム	食の安全 安心に係る意見交換会
22	ピアノ発表会	ピアノ演奏
23	三輪晃久 講演会	講演会
23	ピアノ発表会	ピアノ演奏
12/3	カワイ音楽教室音研究会	ピアノ講座
6	ピアノ発表会	ピアノ演奏
13	2009 クリスマスコンサート	ピアノ教室 クリスマス会
19	ピアノ発表会	ピアノ演奏
20	ピアノ発表会	ピアノ演奏
23	ピアノ発表会	ピアノ演奏
26	ファミリーフェスティバル	講演会
27	ピアノ発表会	ピアノ演奏
1/10	ピアノ発表会	ピアノ演奏
2/21	新潟県書き染め大会表彰式	特別賞受賞者の表彰
3/21	ピアノ発表会	ピアノ発表会
22	ピアノ発表会	ピアノ演奏
28	ピアノ発表会	ピアノ演奏

以上38件(延べ日数…39日)

ギャラリー使用状況

期 間	日数	展 示 会 名	内 容
5/1~5/7	7	染色画の展示会	染色画の展示会
6/21	1	長岡おやこ劇場	演劇鑑賞
9/21~10/4	13	第13回友の会作品展	作品展
10/9~10/14	5	新潟県読書大会優秀作品展	絵画展覧会
11/14~11/15	2	第13回長岡市中学校美術部作品展	作品展
1/23	1	長岡おやこ劇場	絵画展覧会
2/19~2/23	4	新潟県書き初め大会	作品展
3/20~3/28	9	友の会15周年のあゆみ展・てぬぐい展作品展	ポスター・てぬぐい展

以上8件(延べ日数…42日)

講座室使用状況

使用日	日数	展 示 会 名	内 容
4/1	1	ワインモニター説明会	会議
4/29	1	ピアノ発表会	控室
5/21	1	知事とのタウンミーティング	控室
6/4	1	49回長岡市美術協会展打ち合わせ	打ち合わせ
7/10	1	社内教育用ツール活用セミナー	セミナー
7/30	1	講習会	Web 講習会
8/23	1	音楽発表会	控室
8/28	1	ファミリーフェスティバル	控室
10/16	1	県警備業協会調査説明会	労務費調査説明会
11/10~11/11	2	第49回長岡市美術展覧会	控室
11/22	半日	食の安心、安全フォーラム	控室
11/23	半日	三輪晃久 講演会	控室
12/19	1	ピアノ発表会	控室
12/26	1	ファミリーフェスティバル	控室
1/10	1	ピアノ発表会	控室
1/30	1	三井ホームローン控除説明会	税金に関する説明会
3/21	1	ピアノ発表会	控室
3/22	1	ピアノ発表会	控室

以上18件(延べ日数…18日)

新潟県立近代美術館

展覧会名	展覧会開催期間	入場者数	回答者	回収率
油絵事始 リアリズムを求めて	4月11日～5月31日	6,135	82	1.3%
ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション	7月21日～9月10日	26,096	335	1.3%
土田麦僊	9月19日～11月3日	15,103	105	0.7%
あふれる詩心-版画と陶芸	11月21日～1月24日	3,895	34	0.9%
マルチ・アーティスト 阿部展也	2月11日～3月28日	1,653	21	1.3%
合計		52,882	577	1.1%

I 企画展覧会の感想

展覧会名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	合計
油絵事始 リアリズムを求めて	43	34	3	1	1	82
ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション	203	95	19	11	7	335
土田麦僊	54	36	7	4	4	105
あふれる詩心-版画と陶芸	17	14	2	0	1	34
マルチ・アーティスト 阿部展也	7	11	1	1	1	21
合計	324	190	32	17	14	577
構成比	56%	33%	6%	3%	2%	100%

II 企画展覧会のきっかけ

展覧会名	新聞	テレビ	ラジオ	街頭ポスター	雑誌	インターネット	友の会だより	知人	たまたま来て	その他	無回答	合計
油絵事始 リアリズムを求めて	14	8	3	28	3	5	5	9	17	8	2	102
ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション	82	110	11	78	31	24	5	32	34	60	10	477
土田麦僊	49	25	4	13	6	10	3	8	3	17	4	142
あふれる詩心-版画と陶芸	6	4	1	7	1	3	3	4	7	4	4	44
マルチ・アーティスト 阿部展也	4	1	0	6	1	1	1	2	9	3	1	29
合計	155	148	19	132	42	43	17	55	70	92	21	794
構成比	27%	25%	3%	23%	7%	7%	3%	9%	12%	16%	4%	137%

III 常設展の感想

展覧会名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	合計
油絵事始 リアリズムを求めて	27	25	2	0	28	82
ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション	86	93	20	10	126	335
土田麦僊	21	49	11	0	24	105
あふれる詩心-版画と陶芸	11	10	2	0	11	34
マルチ・アーティスト 阿部展也	6	7	2	1	5	21
合計	151	184	37	11	194	577
構成比	26%	32%	6%	2%	34%	100%

IV 普段の情報源

展覧会名	新聞	テレビ	ラジオ	街頭ポスター	雑誌	インターネット	友の会だより	知人	たまたま来て	その他	合計
油絵事始 リアリズムを求めて	38	36	13	17	14	30	4	8	6	2	168
ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション	140	214	39	84	87	147	8	26	18	13	776
土田麦僊	70	62	22	14	15	21	4	7	2	3	220
あふれる詩心-版画と陶芸	21	22	3	7	7	10	2	1	4	0	77
マルチ・アーティスト 阿部展也	12	9	6	7	7	6	1	0	1	1	50
合計	281	343	83	129	130	214	19	42	31	19	1,291
構成比	48%	59%	14%	22%	22%	37%	3%	7%	5%	3%	222%

V 当館への来館回数

展覧会名	初めて	2回以上	5回以上	10回以上	無回答	合計
油絵事始 リアリズムを求めて	18	18	15	28	4	83
ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション	101	83	61	70	20	335
土田麦僊	17	20	22	43	3	105
あふれる詩心ー版画と陶芸	5	4	7	16	2	34
マルチ・アーティスト 阿部展也	5	1	2	11	2	21
合計	146	126	107	168	31	578
構成比	25%	22%	19%	29%	5%	100%

VI 展覧会ジャンルの希望

展覧会名	日本画	洋画 (日本)	西洋 絵画	彫刻	版画	工芸	書	写真	デザイン	現代美術	その他	無回答	合計
油絵事始 リアリズムを求めて	34	26	27	11	12	12	15	23	22	22	9	5	218
ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション	90	6	95	59	56	54	30	94	131	141	36	23	815
土田麦僊	71	39	35	17	14	11	12	10	13	11	0	7	240
あふれる詩心ー版画と陶芸	14	14	13	6	8	3	0	5	2	6	2	3	76
マルチ・アーティスト 阿部展也	7	9	5	4	2	6	4	5	2	9	1	3	57
合計	216	94	175	97	92	86	61	137	170	189	48	41	1,406
構成比	37%	16%	30%	17%	16%	15%	10%	24%	29%	33%	8%	7%	242%

VII ボランティア

展覧会名	参加しない	参加したい					合計
		展示作業	作品解説	ポスター掲示 チラシ配り	ワークショップ の手伝い	その他	
油絵事始 リアリズムを求めて	69	3	0	5	7	1	85
ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション	277	23	23	20	27	0	370
土田麦僊	92	5	1	5	5	1	109
あふれる詩心ー版画と陶芸	30	3	1	1	2	0	37
マルチ・アーティスト 阿部展也	19	1	1	0	1	0	22
合計	487	35	26	31	42	2	623
構成比	84%	6%	4%	5%	7%	0%	107%

〔性別〕

展覧会名	男性	女性	無回答	合計
油絵事始 リアリズムを求めて	27	50	6	83
ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション	98	207	30	335
土田麦僊	36	61	8	105
あふれる詩心ー版画と陶芸	18	15	1	34
マルチ・アーティスト 阿部展也	9	12	0	21
合計	188	345	45	578
構成比	33%	60%	8%	100%

〔お住まい〕

展覧会名	長岡市	市外	市内/市外 の選択なし	県外	無回答	合計
油絵事始 リアリズムを求めて	27	21	20	10	4	82
ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション	108	73	91	42	21	335
土田麦僊	30	27	28	14	6	105
あふれる詩心ー版画と陶芸	13	7	10	3	1	34
マルチ・アーティスト 阿部展也	8	6	5	2	0	21
合計	186	134	154	71	32	577
構成比	32%	23%	27%	12%	6%	100%

〔年代〕

展覧会名	小中学生	高校生	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70才以上	無回答	合計
油絵事始 リアリズムを求めて	13	13	0	9	4	10	17	7	7	4	84
ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション	84	28	3	53	58	36	31	12	5	26	336
土田麦僊	8	2	0	7	2	15	19	23	21	8	105
あふれる詩心ー版画と陶芸	2	0	0	1	4	7	4	11	3	2	34
マルチ・アーティスト 阿部展也	3	0	0	1	3	3	4	5	2	0	21
合計	110	43	3	71	71	71	75	58	38	40	580
構成比	19%	7%	1%	12%	12%	12%	13%	10%	7%	7%	100%

新潟県立万代島美術館

平成21年度開催展覧会名	会 期	入館者数	アンケート回収数	アンケート回収率
黄金の国ジバングと佐渡金銀山展	平成21年4月1日～4月19日	6,584	37	0.6%
美の視点 記憶のかたち	平成21年5月2日～6月21日	3,987	186	4.7%
没後80年記念 佐伯祐三展	平成21年7月4日～8月30日	20,861	491	2.4%
ジブリの絵職人 男鹿和雄展	平成21年9月19日～11月29日	104,507	2,195	2.1%
松永真のポスター展	平成21年12月12日～平成22年2月14日	1,775	75	4.2%
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	平成22年2月27日～3月31日	2,786	118	4.2%
合 計		140,500	3,102	2.2%

I 展覧会の感想

展覧会名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	合 計
黄金の国ジバングと佐渡金銀山展	21	10	1	0	5	37
美の視点 記憶のかたち	120	45	7	5	9	186
没後80年記念 佐伯祐三展	350	94	13	4	30	491
ジブリの絵職人 男鹿和雄展	1,730	276	51	19	119	2,195
松永真のポスター展	52	14	7	1	1	75
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	91	19	3	1	4	118
合 計	2,364	458	82	30	168	3,102
構 成 比	76.2%	14.8%	2.6%	1.0%	5.4%	100.0%

II 作品や作家についての解説

展 覧 会 名	内容量とも適当	量が多い	量が少ない	わかりにくい	無回答	合 計
黄金の国ジバングと佐渡金銀山展	23	3	2	1	8	37
美の視点 記憶のかたち	125	6	26	9	20	186
没後80年記念 佐伯祐三展	378	37	19	5	52	491
ジブリの絵職人 男鹿和雄展	1,524	306	145	43	177	2,195
松永真のポスター展	60	2	6	3	4	75
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	97	1	6	1	13	118
合 計	2,207	355	204	62	274	3,102
構 成 比	71.1%	11.4%	6.6%	2.0%	8.8%	100.0%

III 展覧会についてどのようにお知りになりましたか

展 覧 会 名	新 聞	テレビ	ラジオ	県民だより	街頭ポスター	雑 誌	知 人	インターネット	その他	合 計
黄金の国ジバングと佐渡金銀山展	13	16	3	2	12	1	5	1	4	57
美の視点 記憶のかたち	25	14	3	4	65	5	60	14	36	226
没後80年記念 佐伯祐三展	161	148	15	26	230	14	60	34	72	760
ジブリの絵職人 男鹿和雄展	272	1639	104	63	704	182	345	67	165	3,541
松永真のポスター展	9	0	1	2	25	7	17	10	13	84
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	33	8	3	3	49	5	6	8	18	133
合 計	513	1825	129	100	1085	214	493	134	308	4,801
構 成 比	10.7%	38.0%	2.7%	2.1%	22.6%	4.5%	10.3%	2.8%	6.4%	100.0%

お客様ご自身について

(1) 性別

	男	女	(不明)	計
黄金の国ジパングと佐渡金銀山展	20	15	2	37
美の視点 記憶のかたち	94	85	7	186
没後80年記念 佐伯祐三展	197	283	11	491
ジブリの絵職人 男鹿和雄展	693	1,486	16	2,195
松永真のポスター展	37	37	1	75
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	49	66	3	118
合 計	1,090	1,972	40	3,102
構 成 比	35.1%	63.6%	1.3%	100.0%

(2) 年代

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	(不明)	計
黄金の国ジパングと佐渡金銀山展	13	2	3	4	2	5	7	1	37
美の視点 記憶のかたち	31	26	28	21	27	33	20	0	186
没後80年記念 佐伯祐三展	87	51	48	62	95	97	46	5	491
ジブリの絵職人 男鹿和雄展	746	710	264	183	176	75	17	24	2,195
松永真のポスター展	9	19	13	7	10	9	8	0	75
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	13	18	14	6	12	29	20	6	118
合 計	899	826	370	283	322	248	118	36	3,102
構 成 比	29.0%	26.6%	11.9%	9.1%	10.4%	8.0%	3.8%	1.2%	100.0%

(3) お住まい

	新潟市内	新潟市以外 の下越地区	佐渡地区	中越地区	上越地区	県外・海外	(不明)	計
黄金の国ジパングと佐渡金銀山展	16	6	2	9	2	2	0	37
美の視点 記憶のかたち	108	18	2	28	2	21	7	186
没後80年記念 佐伯祐三展	230	59	10	59	18	104	11	491
ジブリの絵職人 男鹿和雄展	989	348	22	546	132	121	37	2,195
松永真のポスター展	45	7	0	7	2	14	0	75
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	59	15	0	14	5	22	3	118
合 計	1,447	453	36	663	161	284	58	3,102
構 成 比	46.6%	14.6%	1.2%	21.4%	5.2%	9.2%	1.9%	100.0%

(4) 当館へは主としてどんな交通手段でおいでになりますか。すべてお答えください。

	徒歩	バス	タクシー	自家用車	貸切バス	JR	自転車	その他	(不明)	計
黄金の国ジパングと佐渡金銀山展	5	8	2	25	0	2	2	2	0	46
美の視点 記憶のかたち	36	50	7	91	3	23	19	4	1	234
没後80年記念 佐伯祐三展	59	149	30	261	1	55	29	17	13	614
ジブリの絵職人 男鹿和雄展	221	328	43	1,604	22	161	78	29	23	2,509
松永真のポスター展	22	31	2	34	2	10	5	1	1	108
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	22	32	8	65	1	18	4	0	2	152
合 計	365	598	92	2,080	29	269	137	53	40	3,663
構 成 比	10.0%	16.3%	2.5%	56.8%	0.8%	7.3%	3.7%	1.4%	1.1%	100.0%

(5) 当館へ来たのは何回目ですか。

	初めて	2回以上	5回以上	10回以上	無回答	合 計
黄金の国ジパングと佐渡金銀山展	18	18	15	28	4	83
美の視点 記憶のかたち	101	83	61	70	20	335
没後80年記念 佐伯祐三展	17	20	22	43	3	105
ジブリの絵職人 男鹿和雄展	5	4	7	16	2	34
松永真のポスター展	5	1	2	11	2	21
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	146	126	107	168	31	578
合 計	25%	22%	19%	29%	5%	100%

組織及び業務

新潟県立美術館の業務【20年4月現在】

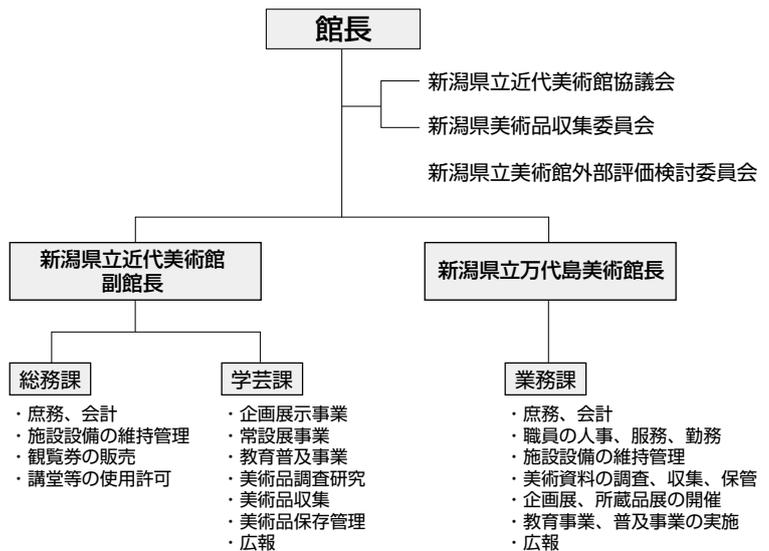
■新潟県立近代美術館条例（平成5年3月31日 新潟県条例第24号） 最終改正 平成19年27日条例第72号（抜粋）

（設置）第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、新潟県立美術館（以下「美術館」という）を長岡市千秋3丁目に設置する。

2 前項に規定する美術館には、教育委員会の定めるところにより、分館として新潟県立万代島美術館（以下「万代島美術館」という。）を設置する。

（事業）第2条 美術館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術品、美術に関する資料等（以下「美術品等」という）の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 美術品等の利用に関し必要な説明、助言、指導等に関すること。
- (3) 美術品等の調査及び研究に関すること。
- (4) 美術品等に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の主催及びその開催の援助に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、美術館の目的を達成するために必要な事業



職員

新潟県立近代美術館

館長 徳永 健一
副館長 横山 秀樹

- 総務課 総務課長 山口 巖
主任 三津田美香
主事 星野 豊彰
主事 加瀬真奈美
非常勤職員 深井 尚子
- 学芸課 学芸課長 藤田 裕彦
学芸課長代理 立川 厚生
学芸課長代理 平石 昌子
主任学芸員 佐藤 克己
主任学芸員 野村 宏毅
主任学芸員 今井 有
主任学芸員 高 晟俊
主任学芸員 濱田真由美
美術学芸員 長嶋 圭哉
臨時的任用職員 平賀 麻子（～H22.3.12）

嘱託員 山本 咲恵
嘱託員 池乘 進
嘱託員 田中 里枝
嘱託員 林 美穂子
嘱託員 岩崎 聡子
嘱託員 本多 五月
嘱託員 堀井つかさ
嘱託員 中島 結衣

新潟県立万代島美術館

近代美術館万代島美術館長 小田島久高

- 業務課 業務課長 桐原 浩
業務課長代理 丸山 久枝
主任 齋藤 陽子
主任学芸員 宮下 東子
主任学芸員 澤田 佳三
主任学芸員 池田 珠緒
美術学芸員 飯島沙耶子
臨時的任用職員 渡辺 裕佳（H22.1.25～）
- 嘱託員 佐藤 則子
嘱託員 山崎麻希子
嘱託員 松原 亜子（～H21.5.31）
嘱託員 岡 有子
嘱託員 相馬 幸絵
嘱託員 三浦 華林
嘱託員 糸川 佳子（H21.6.2～）

新潟県立近代美術館

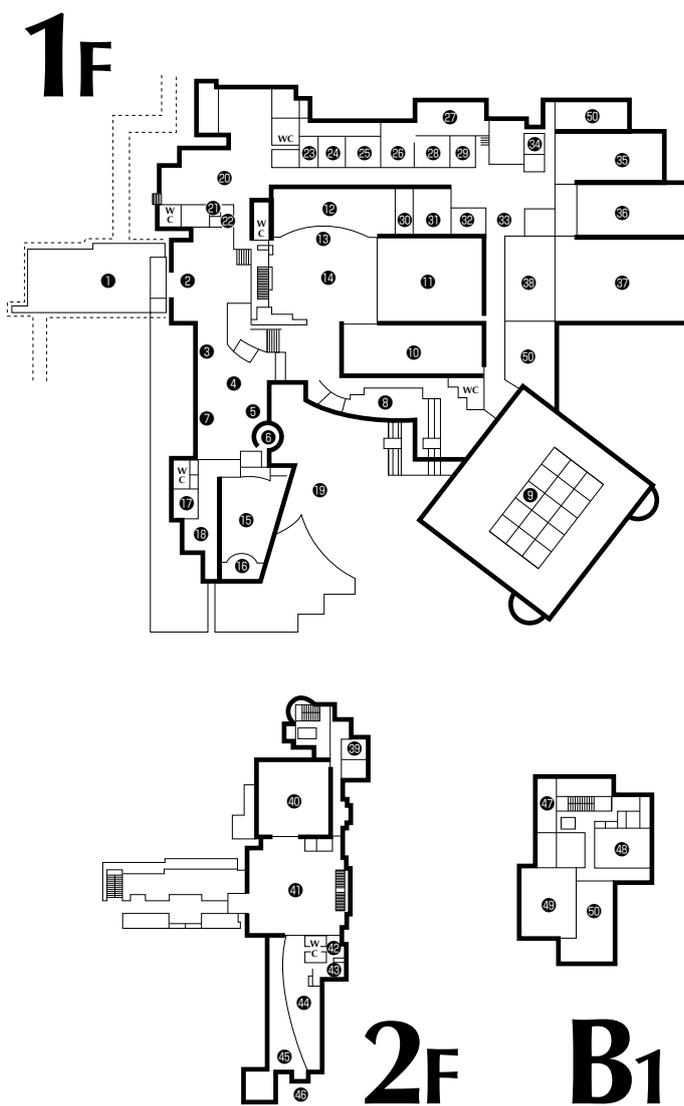
【施設概要】

〈名 称〉新潟県立近代美術館
 〈所 在 地〉新潟県長岡市千秋3丁目278-14
 〈設 計〉(株)日本設計
 造園設計 (株)日本設計・(株)日本造園
 設計期間 1990年9月～1991年2月
 〈監 理〉新潟県土木部都市整備局営繕課
 (株)日本設計
 〈施 工〉大成・吉原・小杉特定共同企業体
 電気工事 六興・大原・長岡特定共同企業体
 空調工事 三建・日立・越後特定共同企業体
 衛生工事 ナカムラ・北陸特定共同企業体
 ガス工事 北陸瓦斯(株)
 昇降機工事 日本オーチスエレベーター
 備品工事 (株)高島屋
 植栽工事 北陸緑化、ニューガーデン、
 長生園、宮川苑、吉茂造園、
 鈴木造園、新潟造園土木、
 長岡ガーデン、川崎農園、
 グリーン産業、松本造園
 工事期間 1991年7月29日～1993年5月31日
 〈総工事費〉 9,859,851千円
 支出内訳
 建築工事費 7,442,809千円
 造園工事費 1,216,187千円
 電気工事費 79,654千円
 展示工事費 1,121,201千円
 〈主体構造〉 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、
 プレストレストコンクリート梁
 基礎・地業 PHC抗
 〈規 模〉 地下1階、地上2階、塔屋1階
 軒高 13.0m
 最高高 19.250m
 主なスパン 3.9m
 階高 5.7m
 〈面 積〉 敷地面積 33,800㎡
 建築面積 9,133㎡
 延床面積 10,723㎡
 地下-機械室・電気室 716㎡
 1階-展示室・収蔵庫・講堂・
 事務室・他 8,873㎡
 2階-レストラン・県民ギャラリー
 1,064㎡
 屋階-E L V 機械室
 地域地区 市街化調整区域
 〈面積配分〉
 導入部門 1,356㎡
 (エントランスホール636㎡、
 ロビー576㎡、ほか)
 展示部門 2,674㎡
 (常設展示室391㎡+472㎡+265㎡、
 企画展示室1,332㎡、ほか)
 教育普及部門 384㎡
 (講堂234㎡、講座室53㎡、
 ハイビジョン67㎡、ほか)
 収蔵部門 1,746㎡
 (収蔵庫第一292㎡、第二575㎡、
 第三267㎡、作業室49㎡、ほか)
 調査研究部門 272㎡
 (研究室83㎡、資料保管室61㎡、
 書庫128㎡)
 管理事務部門 416㎡
 (事務室133㎡、会議室70㎡、
 館長室55㎡、ほか)
 設備・機械 1,017㎡
 (熱源機械室、電気室、空調機械室、ほか)
 他共用部門 2,858㎡
 (廊下、階段、ほか)

〈展示室の環境〉
 室の明るさ 70～150lux+局部照明
 照明方法 全体照明(ダウンライト・間接)
 スポットライトによる局部照明
 光源の種類 ハロゲンランプ(熱線カット)
 美術館用蛍光灯
 温度・湿度 夏季/26℃・50%
 冬季/22℃・55%
 〈主な設備〉
 空調方法 個別式(単一ダクト方式・FCU方式)
 熱源:ガス・電気
 熱源機器/ガス冷温水発生機2台
 冷房能力/240USRT
 暖房能力/52,000kCal/h
 冷却塔/2,810,000kCal/h
 空調機器/全空気方式 空冷ヒート
 ポンプエアコンファン
 給排水衛生 給 水/上水直結
 給 湯/中央式(ガス)、
 個別式(電気)
 排 水/屋内台流、屋外下水道放流
 給排水 B1F床上受水槽(FRP40㎡)
 排水槽/有効0.76㎡
 電 気 受 電/3相3線 50Hz 6.6kV
 660kW
 発電機/3φ3W 50Hz 6.6kV
 375kVA
 非常保安動力/300kVA
 非常保安電灯(スコット)/50kVA
 変圧器/1,400kVA7台
 防 災 消火/屋内消火栓、屋外消火栓、
 ハロゲン化物消失
 排煙/自然排煙
 屋内消火栓 粉末消火器 ハロン
 消火設備 ハロン消火器 連結散
 水設備 屋外消火栓
 昇降機 乗用E L V/750kg積
 (30m/分)1台
 人荷用E L V/3,000kg積
 (30m/分)1台
 駐車場 屋内2台、屋外165台
 〈主な外部仕上〉
 屋 根 アルミクラッド鋼板立ハゼ葺
 外 壁 四丁掛精妬器質タイル(割肌)
 二丁掛精妬器質タイル
 建 具 アルミサッシュ電解二次着色
 ステンレスサッシュH.L.仕上
 外 構 御影石ブロック+陶製ブロック舗装
 〈主な内部仕上〉
 エントランスホール
 天井/コンクリート打放し
 壁/御影石こぶ出し仕上
 床/御影石ジェットバーナー仕上
 展示室 天井/P.B.E.P.
 壁/ガラスクロスE.P.
 床/タイルカーペット
 収蔵庫 天井/壁/スプルス
 床/ナラ縁甲板張
 講 堂 天井/
 壁/四丁掛精妬器質タイル+P.B.E.P
 床/カーペット
 研究室・事務室
 天井/岩綿吸音板
 壁/ビニールクロス貼
 床/タイルカーペット

【施設の配置】

- | | |
|---------------|--------------|
| ① キャンपी | ②⑥ 研究室 |
| ② エントランスホール | ②⑦ 書庫 |
| ③ ロビー | ②⑧ 資料保管室 |
| ④ ミュージアムショップ | ②⑨ 倉庫 |
| ⑤ データベース室 | ②⑩ フィルム保管室 |
| ⑥ ハイビジョンギャラリー | ②⑪ 撮影室 |
| ⑦ レファレンス | ②⑫ 作業室 |
| ⑧ 企画展示室ロビー | ②⑬ 荷解室 |
| ⑨ 企画展示室 | ②⑭ 燻蒸室 |
| ⑩ 展示室 1 | ②⑮ 収蔵室 1 |
| ⑪ 展示室 2 | ②⑯ 収蔵室 3 |
| ⑫ 展示室 3 | ②⑰ 収蔵室 2 |
| ⑬ 常設展示室ロビー | ②⑱ 展示備品倉庫 |
| ⑭ 中庭 | ②⑲ ガallery控室 |
| ⑮ 講堂 | ②⑳ ガallery |
| ⑯ ステージ | ②㉑ アトリウム上部 |
| ⑰ 講座室 | ②㉒ レストラン事務室 |
| ⑱ 講堂ロビー | ②㉓ 厨房 |
| ⑲ 屋外展示スペース | ②㉔ レストラン |
| ⑳ 事務室 | ②㉕ 吹抜 |
| ㉑ 乳児室 | ②㉖ テラス |
| ㉒ ロッカー室 | ②㉗ ドライエリア |
| ㉓ 応接室 | ②㉘ 電気室 |
| ㉔ 館長室 | ②㉙ 熱源機械室 |
| ㉕ 会議室 | ②㉚ 空調機械室 |



新潟県立万代島美術館

【施設概要】

〈機能別延床面積〉

	内 訳	用 途 等	面 積
展示 1,400㎡	第一展示室	美術館所蔵の美術品等の展示	420㎡
	第二展示室	国内外の美術品等の企画展示	980㎡
収蔵 134㎡	収蔵庫	美術品等の保管	106㎡
	収蔵庫前室	収蔵庫の温室度を安定させる	28㎡
専用エレベーター	29㎡	地下1階より美術品を搬入	29㎡
管理 559㎡	事務室	学芸員、一般事務の執務室	63㎡
	資料倉庫	文書・書籍カタログ等の収納	33㎡
	準備室	展示作業用の作品移動ケース置場等	95㎡
	荷解室	美術品の開梱・点検場所	93㎡
	救護室	来館者の救護、職員の休憩等	22㎡
	給湯室	給水、湯沸かし等	3㎡
	トイレ	職員・来館者用	84㎡
	空調機械室	美術館専用の空調機械設置	120㎡
	ポンペ庫	ハロン消化設備用ポンペ庫（予）	46㎡
共通 649㎡	ロビー	来館者の導入、休憩及びインフォメーション等	271㎡
	廊下等	来館者の通路、避難経路など	359㎡
	乳児室	乳児のために使用	6㎡
	ロッカー・ルーム	来館者の利便のために手荷物を保管	13㎡
その他 159㎡	専用エレベーター(B1F)	美術品の搬入用	25㎡
	専用エレベーター機械室	専用エレベーター用の機械設置	14㎡
	専用荷捌スペース	美術品の荷捌スペース	120㎡
合 計			2,930㎡

〈建築概要〉

1. 全体概要

種 別／複合ビル内包型 公立美術館

所 在 地／新潟県新潟市万代島5番1号

工事期間／平成12年10月3日～

平成15年3月30日

敷地面積／103,128.93㎡

(万代島一団地認定敷地全体)

建築面積／6,017.37㎡

延床面積／52,585.54㎡

(うち、美術館2930.00㎡)

構造種別／鉄骨鉄筋コンクリート造

階 高／美術館フロア6.3m

2. 建築主体

設 計／鹿島建設株式会社一級建築士事務所

監 理／鹿島建設株式会社一級建築士事務所

施 工／鹿島・大成・福田・五洋・本間・東
亜共同企業体

3. 仕上げ（美術館部分のみ）

屋 根／鉄筋コンクリート下地断熱アスファ
ルト防水押え、コンクリート鋼製根
太組天然スレート敷

外 壁／プレキャストコンクリート下地アル
ミスパンドレル張り、アルミカーテ
ンウォールふっ素樹脂焼付塗装、プ
レキャストコンクリートカーテン
ウォールふっ素樹脂常乾塗装

内 装／（設備概要を参照のこと）

4. 電気設備

電力引込／3相3線6.6Kv50Hz、2回線受電、
地中引込

受 変 電／1階サブ変電所。

キュービクル式受変電設備

非常用電源／発電機1台、ディーゼル1000KVA、
蓄電池400AH

電話設備／電話配管（機器、配線は別）

放送設備／非常放送兼用アンブ 1160W、130回線。

美術館業務用アンブ 80W、5回線

5. 空調設備

熱 源／全体熱源：冷温水発生器（ガス焚）
240RT×2台

収 蔵 庫：空冷ヒートポンプ

空 調 機／コンパクトエアハンド

単一ダクト

換 気／個別換気

給気ファン1台、排気ファン15台

制御機構／24時間中央温度管理システム

6. 昇降機

乗 用／ロープ式 210m/分 定員20名
1,350kg 4基(うち、車椅子仕様1基)

荷 物 用／油圧式

15m/分 3,000kg 1基

テーブルリフター／

リフト 0.9m

テーブル 2.0m×2.0m 3,000kg

〈設備概要〉

1. 展示室概要

壁 仕 上／不燃プラスチックボード、ガラスクロス
表面仕上げ。

床 仕 上／フローリング

可 動 壁／不燃プラスチックボード、ガラスクロス
表面仕上げ。L4.0m×H4.5m：30枚、
L2.0m×H4.5m：26枚、L2.4m×
H4.5m：4枚

固定展示ケース／2箇所

(外側) スチール製・高透過ガラス・スチール製・
アクリル焼付塗装、高透過ガラス・重量
キャスター・アジャスター付、シリンダー
錠付

(内側) 低ホルマリン合板、クロス張り、エアタイト、
寸法D18.0m、W1.2m、H4.5m

照 明／全て美術館用UV/IRカットフィルター付
ベース照明：ハロゲンウォール
ウォッシャー200W

展示照明：ローボルトハロゲン
(12V50W)、

ケース内照明：高効率照明器具
(32W) およびローボルトハロゲン
(12V50W)

設定温湿度／春・夏期：23℃、60%
 秋・冬期：20℃、50%
 (変動率±3℃、±10%以内)

2. 収蔵庫概要

床 仕 上 / フローリング
 壁 仕 上 / ゼオライトパネル (天井共)
 内部寸法 / L11.5m、W7.5m、天井H3.5m
 入口寸法 / H3.0m、W3.0m
 収蔵庫内作品固定方法 / 収蔵棚
 収蔵庫扉の構造及び仕様 / スチール製
 耐火2時間扉
 照 明 / 高効率照明器具 (32W)。美術館用
 UV / IRカットフィルター付。
 空 調 / 恒温恒湿パッケージ2台 単一ダクト
 (VAV)
 設定温湿度 / 春・夏期：22℃、55%
 秋・冬期：22℃、55%
 (変動率±2℃、±5%以内)

3. 搬入口関連概要

専用搬入口寸法 / H3.8m、W5.0m
 高位置の接岸ドック / 地上からの高さ0.7m
 可動接岸ドック / 0~0.9mレベルまで
 油圧式リフト / 最大重量3,000kg
 クレーン / 最大重量3,000kg
 搬入可能なクレーンの最大サイズ /
 H3.0m、W3.0m、D3.0m
 セキュリティ / 画像センサー機械警備



荷解室への立入管理 / カードリーダー方式電気錠
 昇降機内部寸法 / L3.6m、W3.0m、天井H3.0m

4. 防災設備

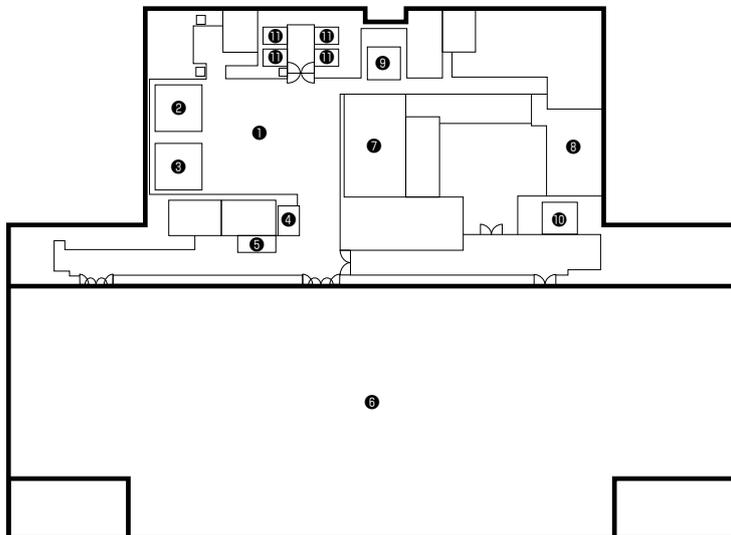
消火設備 / 湿式スプリンクラー (全体)
 展示室、準備室、荷解室及び収蔵庫
 はハロン消火
 感知器の種類 / 自動煙感知
 火災警報への伝達 / 発信機、非常電話
 補助消火栓 / 搬入場所 1基、その他 4基
 連結送水管 / その他 2基
 消 火 器 / 搬入場所：粉末ABC
 展 示 室：ハロンガス
 そ の 他：粉末ABC及びハロンガス

5. 防犯設備

監視設備 / ITVモニター、ITVカメラ15台
 (美術館14台、EV1台)
 機械警備設備 / 画像センサー+スピーカ
 警備会社 / SECOM株式会社
 使用警報機の種類 / 画像センサー及び
 水銀スイッチ
 警報入電場所 / 館内中央監視盤及び
 美術館事務室
 盗難防止ケースの種類 /
 ガラス・ケース及び壁面固定
 ケース全てにシリンダー錠付

【施設の配置】

- ① エントランスホール
- ② ミュージアムショップ
- ③ ハイビジョンギャラリー
- ④ 情報検索コーナー
- ⑤ 乳児室
- ⑥ 展示室
- ⑦ 収蔵庫
- ⑧ 事務室
- ⑨ ロッカー・自販機
- ⑩ 作品専用エレベーター
- ⑪ エレベーター



新潟県立近代美術館協議会

【委員】

(平成20年6月1日から平成22年5月31日まで)

●学識経験者

- 市川 政憲 (茨城県近代美術館館長)
- 塚原 正彦 (常磐大学大学院准教授)
- ◎近藤フヂエ (新潟大学教育学部教授)
- 本間 ケイ (新潟県美術家連盟理事・洋画/日展会友)
- 名塚 彰夫 (長岡観光・コンベンション協会事務局長)

●社会教育関係者

- 小林 弘
(長岡市社会教育委員兼公民館運営審議委員会委員/新潟県社会教育協会理事)

●学校教育関係者

- 浅井 俊一
(新潟県中学校教育研究会美術部長/新潟市金津中学校長)
- 三上 祥司
(新潟県高等学校文化連盟美術・工芸専門部委員長/新潟県立小千谷高等学校教諭)

●一般公募

- 渡辺 関靖
(フリー写真家/新潟県医療審議委員会委員/新潟市病院事業運営審議委員会委員)
- 菅原志津子 (主婦)

※◎は委員長 ○は副委員長

新潟県美術品収集委員会

【委員】

- 宮田 亮平 (東京藝術大学学長)
- 本江 邦夫 (多摩美術大学教授)
- 福岡 奉彦 (上越教育大学教授)
- 草薙奈津子 (平塚市美術館館長)
- 松本 透 (東京国立近代美術館副館長)
- 柳原 正樹 (富山県水墨美術館副館長)
- 前川 公秀 (佐倉市美術館館長)

平成21年度は収集委員会は招集せず、書類手続きにより収集候補作品の審議を行った。

新潟県立美術館友の会

新潟県立美術館友の会は、新潟県立近代美術館開館の翌年、平成6年4月8日に「新潟県立近代美術館友の会」として発足。平成15年新潟県立万代島美術館の開館にともない2館共通の友の会組織となり、「新潟県立美術館友の会」と改称した。会員649名。

広く美術を愛する人たちを中心として、美術館の活動及び運営に協力するとともに、美術を通じて教養を豊かにし、会員相互の親睦を深め、芸術文化の普及、向上を図ることを目的として活動している。

●会費・会員

一般会員	一般	¥4,000	527名
	後期	¥1,000	6名
	学生	¥2,000	5名
ファミリー	会員	¥10,000	82名
特別会員	個人	¥30,000 (一口)	1名
	法人		28名

●会員の特典

- ・会員証による常設展の無料観覧
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展で使用できる無料観覧券の配布
- ・企画展図録の割引
- ・近代美術館、万代島ビル内のレストランの割引
- ・友の会会報、美術館便り等の配布
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展開場式への参加

●役員体制

会 長 小柳 喜實
 副会長 小林 新治 丸山 結香
 理 事 伊藤 文吉 大西 厚生 小栗 俊郎
 清田 知之 丸岡 稔 吉澤 昭宣
 監 事 田中 信也 堀井 一明
 代議員 阿部美恵子 荒川 昭寿 石丸 雨虹
 大屋 悦子 尾崎 正 小幡 武代
 恩田 里士 片野 トク 金子 仁
 榎谷 一代 小林 博 近藤フチエ
 斎藤 英世 佐藤 節子 佐藤 嘉信
 高石 恒一 高野 豊昌 田中 弘邦
 土屋 蔵三 豊野 玉枝 羽賀 亨
 永井 正二 原 和彦 保坂 太
 本多 ヨシ 真壁 浩司 丸山 智
 山梨玲江子 山本 正明 若月昇治郎
 顧 問 豊口 協 平山 征夫

■事務局 事務局員 佐藤 和子

●事業内容

- ◇友の会だよりの発行
- ◇ミュージアムグッズの販売 近代美術館、万代島美術館のミュージアムショップにて、グッズを委託販売
- ◇「ポスター発送作業」近代美術館で開催される展覧会のポスター発送作業への協力
- ◇「新潟県内博物館等友の会連絡会」加盟団体との連携
- ◇5月23日「第1回新潟県内博物館等友の会サミット」会場：阿賀野市立吉田東伍記念博物館
- ◇6月21日「キャンドルナイト@KINBI」への協力
- ◇7月28日～8月3日「こどもアートミュージアム」ヘワークショップの企画で参加（「雨の日が楽しいな！私のビニール傘」）会場：近代美術館ギャラリー
- ◇8月22日「ネオテニー展～友のおすすめ鑑賞会」
- ◇9月7日～20日、22日～9月10日「長岡造形大学と近代美術館との共催展への協力」会場：近代美術館ギャラリー
- ◇9月20日～10月4日「第13回友の会作品展」同時開催「第9回全国高等学校版画選手権大会はなが甲子園」会場：近代美術館ギャラリー
- ◇10月12日～11月8日までの毎土日「男鹿和雄展 折り紙ワークショップへの協力」会場：万代島美術館ロビー
- ◇10月17日～25日「第11回亀倉雄策賞受賞展 植原亮輔展ならびにJAGDA新人賞作家展への協力」会場：近代美術館ギャラリー
- ◇10月28日～29日「東京～町田・世田谷～美術館めぐりの旅」西山美術館、町田市立国際版画美術館、町田市民文学館ことばらんど、静嘉堂文庫美術館、世田谷美術館の5館を鑑賞
- ◇11月1日「長岡市大手通フリーマーケットへの参加」
- ◇3月20日～28日 友の会15周年記念展「友の会15周年のあゆみ展～近代美術館・万代島美術館とともに」「手ぬぐいTOKYO」200人のクリエイターによる200の提案 会場：近代美術館ギャラリー
- ◇3月23日友の会15周年交流会 会場：レストラン・喫茶「広告塔」

自己評価に対する委員評価

はじめに

平成21年度の新潟県立美術館の自己評価は、昨年度に続き2回目となります。美術館の活動の全分野で見直しが行われました。このような評価は、もしそれが美術館の長期的、短期的な活動の改善や見直しに繋がるものでなければ、手間暇をかけて自己評価を書いてもほとんど意味がないこととなります。

目標の設定において、限られた人材や予算のため、はじめから高く設定されていないケースもあるでしょう。また、評価の対象となる活動の目標も抽象的な大目標であり、単年度での達成の程度については、具体的に詳細な特記事項に関する概要を丹念に読んでいただくをお願いしたいと思います。

この10年美術館の予算があらゆる領域において縮小されています。このこと自体、計画の遂行や進捗に大きな障害となってきています。今日民間ほどでなくとも、公的機関においても、あらゆる無駄が点検され、目に見える効率性が求められています。しかしながら地方において失われた活力をとりもどすために、地方独自の文化の育成や再生が叫ばれています。その中心的な役割のひとつを担うことができる県立近代美術館には、率先した取組を行うことが期待されています。物心ともども公的な支援は不可欠であり、目に見える明確な支援こそ、そこで働く人々を鼓舞し責務を強く自覚させることができるとともに、評価そのものが真に意味を持つこととなります。

周知のように芸術文化は公的支援なしには推進することはできませんし、評価はそれに直結するものでなければなりません。支援者の期待に添えていけるように、一層の改善に取り組むことを関係者一同あらためて銘記したいと考えています。

平成22年5月

新潟県立近代美術館協議会
会長 近藤 フヂエ

第1章 県立近代美術館の自己評価に対する総括的所見

1 平成21年度における美術館運営の全般について 20年度の評価では、

- ・先導的な教育コンテンツの創造
- ・地域社会と連携するための組織的対応
- ・利用者評価の策定

について、組織の構築や予算化、あわせて、職員の資質の評価とスキルアップを目指す長期的戦略の必要性を指摘した。しかしながら、21年度は、特別展、企画展をこなすことが精一杯で、自己評価では、それらに対する対応について十分な成果をあげることができなかった。

そのような状況にあって、万代島美術館では、企画展終了後に、社会教育機関としての美術館活用度を受け止めるための意見交換を行うなど、目標に接近しようという姿勢が感じられた。その一方で、近代美術館の自己評価は、県作家を中心とした特別展、企画展を開催するという目標を提示しただけで、経営改善への取り組みが十分なされなかったことはきわめて残念なことで、このような経営姿勢も評価の上で問題が残ると思われる。

2 目標設定のあり方について

20年度の評価報告書が指摘している美術館が果たすべき社会的使命は、これまでのように宝物を収蔵して、見せることを中心にすえるのではなく、コミュニケーションから新たな学びをうみだす経営改革を目指すもので、人と人を結びつけ、地域を豊かにしようとする挑戦的な事業を展開することである。

県立近代美術館は、予算的にも人材的にも、特別展、企画展に過度に偏重しており、公的な美術館が実践しなければならないコミュニケーションや学びへの新規事業が展開できない現状は深刻な状況にあるといえる。

21年度は、目標の設定方法、計画立案が当初設定した経営評価の仕組みと乖離したものとなってしまった。22年度は、前年度踏襲のまま、既存の事業を消化することに汲々とするのではなく、年度当初に、あらかじめ経営改革のテーマを設定し、社会的使命を果たすために、実現可能な目標を設定し、組織が一丸となって取り組むような経営姿勢を確立することを期待したい。

3 目標に対する達成状況について

評価とは、業績を数値、序列化するために行うものではなく、評価をするプロセスで、経営資源の見直しを行い、未来を創造するヒントを発見するために実施するものである。

今回の試行的な評価から発見できた問題と課題について、優先順位を決め、解決にあたり、22年度の経営や事業展開をより良いものに進化成長させていくことを期待したい。

第2章 分野別に見た自己評価に対する委員評価

1 経営に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

館長の方針指示、業務目標の設定、面談、会議や日常の議論等の中で、「作品鑑賞の場から学び、人づくり、交流の場へ」という美術館の使命は、昨年度以上に職員間に認識・共有が図られている。このことは、業績内容に「<まなび>の観点から展覧会事業と教育普及事業が連動」「教育普及に結びつく方向」等の記述があるように、意識的に盛り込まれていることが明らかである（特に万代島美術館）。

21年度も昨年度同様、現場レベルで構築されたノウハウを活かし、来館者の学習支援活動が展開された。教育普及活動全般の組織的な位置づけがあいまいな中で、予算づけがされない中において、職員がアイデアを持ち寄り、鑑賞活動における展示解説、ワークショップなどが自主的に実施されたことは、特筆すべき成果であろう。

しかし、20年度の評価報告書でも指摘されているように、それらは職員の情熱や業務改善に期待した取組でしかなく、館の意思決定の仕組みや予算づけは、依然として、企画展を中心にした業務構成のままになっている現状は、早急に改善される必要がある。効果的に教員籍の学芸員のコーディネーター機能を活用する組織的な体制を整備すること、第二の職員として、友の会やボランティア、コンパニオン、ミュージアムショップ、レストランなどの業務スタッフなどを組み入れるなど、さらに地域社会とより深いリレーションシップを築きあげながら、地域社会を美術館に参画させることを視野にいれた取り組みを起こすための経営環境整備に取り組む必要がある。

22年度は、21年度の反省をふまえ、上記で指摘された経営改革に取り組むための方向性を提示するような経営努力に期待したい。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

昨今の財政的・人的な厳しい状況の中で、職員の使命感と創意工夫のもと「学びの場、人づくりの場、親しみの持てる場」づくりに向けて確かな取り組みが行われている。

本年度は、「学び」の観点から教育普及事業、普及事業・連携事業において、昨年度構築された分業体制がさらに強化され、ワークショップ、展覧会等に関する講座の開設、中学生向けの観賞用資料の作成・配布（万代島美術館）、ワークショップ、アーティスト・トーク、美術史連続講座、巡回ミュージアム、出前講座など（近代美術館）、多彩な事業が展開されたことは高く評価できる。

なかでも近代美術館における出前講座は全13回実施され、県内各地で幅広い年齢層に対し、機関・団体との連携・協働事業として実施された。従来の学校に加え、児童館、公民館（市民講座、高齢者講座、公開講座）が新たに加わったこと、教師と事前の打ち合わせの実施によるT・T（ティーム・ティーチング）が行われたことは特筆すべきであり、今後の教育普及事業の拡大に大きな示唆を与えてくれる。万代島美術館においても、学校との連携・協力事業の参加校が106校と増加している。

しかしながら、来館者の高齢化や固定化が起きており、潜在的な利用者の掘り起しがされていないことは、

依然として深刻な経営課題であるといえる。それらの課題に対応するためにも、従来の展覧会とは一線を画して、館が丸となって、教育活動を目的として学びや人づくりを目標とした新規事業の構築につとめる必要がある。

そのためには、22年度こそ、それに対する専門的なスキルや資質を持った人の配置や研修体制の整備、学びや人づくり事業に対する独自の予算付けをするなどの経営システムの改善に着手してもらいたい。

(3) 自己評価に対する総括

美術館の使命として設定した「県民に親しまれる」「学びの場」「生活の中に美をとりいれる」といった課題を達成するためには、展覧会を中心に事業を構築してきた従来の美術館経営のあり方や学芸員の仕事のあり方を大胆に見直し、新規の事業構築に取り組む必要がある。

21年度は、20年度同様、全職員がこれまで蓄積してきた経験やノウハウを持ち寄ることで、全館的な視点にたつて、美術館の経営資源の見直しを行うことができた。その結果、設定した使命や目標を達成するために着手すべき課題が明らかになり、それらがあらゆる職員に共有されたことの意義は大きなものがある。22年度は、この成果を活かして具体的な経営改革に歩みだすことを期待したい。

2 事業に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

ほぼ達成できていると思われるが、ボランティア組織の養成、友の会との協働など、人を育てるということは大変な仕事であるが、人手不足、予算不足の中でこそ、今後さらに達成させてほしい。

作品展示や解説や移動美術館などにおいて、観衆と作品をコーディネートする、とりわけ児童・生徒への教育方法の具体的な取り組みに一層の工夫が求められる。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

近代美術館、万代島美術館とも、取組内容は、バランスに配慮して、ほぼ妥当と思われるが、その効果においてはいかがだろうか。常識的なバランスだけでなく、館独自の視点で企画を立ち上げる姿勢があることが望まれる。

近代美術館における、巡回ミュージアム、出前講座事業は、今後ますます発展させてほしい。

(3) 自己評価に対する総括

両館とも、バランスのとれた幅広いプログラムを作り、そして努力もしていることはわかるが、特筆に備する事項が少ないように思う。館を挙げて、優先的事項に対する取り組みを強化し、それを評価することが必要ではないだろうか。

3 利用者満足に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

「利用者満足」に関する自己評価は近代美術館、万代島美術館ともに「2、潜在的な利用者の把握」を除いた全てのテーマが「おおむね目標を達成」し3の自

己評価である。これは、職員全員が「利用者（お客様）あつての館の存立」を意識している成果であり、実績内容からも利用者満足を追求めるための工夫が多く見て取れる。また今後の課題も明確に把握されており、問題意識を持ち業務を遂行する姿勢が表れている。

「1、利用者のニーズ」については、アンケートの回収率がふるわず、自己評価が3にとどまっているのはなぜか。反応が得られないというのはどういったことなのか、まずは分析を試みればよいだろう。

「2、潜在的な利用者の把握」については、実施目標に掲げた「無作為抽出アンケート」が、両館ともに前年度同様に予算化をされず未実施のままである。それに対し、近代美術館は、代替策として県民アンケートの参加などの検討までを行い、自己評価は2「目標をやや下回っている」としている。しかし、客観的に見れば検討を行っただけで、「目標をやや下回っている」との評価は妥当であるとは考え難い。万代島美術館は「評価せず」としているが、「自分では出来ない」のであれば、「自分でできることは何か」と発想を変え代替案を模索する姿勢を求めたい。

「4、サービスデザイン」では、展示構成を充実させるよう、学習機能を高めるよう努力されていて、私たち来館者にもそれが伝わる。評価は3だが、他にどのような課題があるのか、展示内容を深めていくための力加は何か、自己評価からはよく読み取ることができない。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

具体的な取り組み内容は、「学び」を軸に利用者満足高めよう企画実施されている。特に講座、配布資料、ワークショップなどは、両館ともに利用者の学びをサポートするための工夫や親しみや楽しさを感じて貰えるような試みもあり、その妥当性は高い。そして、それらが、利用者のリピート化や高い評価を得るなど実績をあげている。特に、近代美術館では、美術鑑賞講座を連続した入門講座として、繰り返し訪れる機会を自ら作りだしている。聴講者が少ないという課題があるが、逆に人数が少なくとも継続実施する姿勢を期待したい。出前講座という新たな試みは、美術の魅力を伝える試みとして評価できるのではないか。万代島美術館では、会場内の作品説明以外に、土日は学芸員が解説を行い、より知識を得たい利用者ニーズに応えている。このような地道な努力の積み重ねが利用者満足を高めて行くものと思われる。

「利用者ニーズの把握」をする方法として、アンケートは妥当ではあるが、回収率の低さ（近代美術館1～2%）を見るとその効果は心もとない。利用者には何らかの動機付けをしなければ、アンケートの回収率を上げていくことは難しいと考えられる。しかしながら、アンケートの内容は展覧会ごとに異なっており、工夫されていると感じた。いずれにしてもよりの確にニーズを把握する為にも、アンケートに依存するだけでなく、能動的にニーズを把握する方法（利用者との直接対話）を模索すべきである。「潜在的な利用者の把握」も同様であり、無作為抽出アンケートとは別に、グループインタビューなど自前でできるマーケティングの手法を取り入れることも考える必要がある。

(3) 自己評価に対する総括

今後の課題として認識されているように、利用者、潜在的利用者のニーズは多様化、高度化している。今後、両館が県民に「学びの場」として支持されるためには、利用者、潜在的利用者の「ニーズ把握」の強化は不可欠である。そして、把握したニーズ情報が、いかに早く、効率良く、効果的に普及プログラムの計画や学習プログラムの立案（そして、全ての業務）にフィードバックされるようなマネジメントサイクル（PDCA）を構築することを期待している。

21年度は両館ともに、（展示を）「見せる」から、「学び」（を利用者に提供する）へと大きく視点が変わり、またそれが具体的な取り組みにも表れていることから、22年度に大きな期待を寄せたい。しかしながら、緊縮する経営資源の下、館の自助努力だけで「利用者満足」を高めていくことが難しくなる時がくるだろう。そのためにも外部の知財、人材、資源とのコラボレーションをすることが必要であり、教育機関、友の会やボランティア団体、民間企業や他の文化施設などとの関係構築にも注力して欲しい。

4 企画展に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

21年度は「新潟県固有の文化」を見直すことを目標のひとつにかかげ、作品の借用も容易でない土田麦僊、また、来館者数で多くは見込めない阿部展也を企画展にとりあげた英断は評価したい。ただ、残念なことは、それを実施したことによって美術館自身が何を得たか、将来へのどんな展望や確信を得ることで、自分たちが新たな始まりに立てたのか、それを表明することが外部評価を美術館の考える方向へ導くのである。折角の英断が、残念ながら、しばらく見ていない作品を懐かしむだけの展覧会に終わってはいないか。

批評精神ということでは、「ネオデニー・ジャパン」展は、まさに美術館のそれを問う展覧会であったはずである。美術館は、現代美術のこうした傾向のどこに着眼し、その問題点を今後どう展開していくのか、この展覧会を開催したことで美術館に何が始まったのか、そこが見えない。はじめて美術館にきたという人たちも少なくないと思えるほど、若い人たちが目を向けてくれたことは喜ばしいことだが、今後彼らの期待を取り込むどのような戦略を美術館はもったのだろうか。

万代島美術館では年間の来館者が予定を上回ったことは、数値的には評価されよう。ただ、どうだろうか、美術館はノルマは達成できたが、新たな始まりとなるものを得たのだろうか。そこが自己評価から見えてこない。男鹿和雄展に多くの人々が来られたのは、万代島美術館の企画のゆえか、男鹿和雄という素材ゆえか。この来館者数の実績をどのように分析し、そこから将来的にどのような地平が開かれたのかを、自己評価としてうかがいたいのである。多くの人が見たいと思っているものを提供するの、美術館の役目であるだろう。それを単に流行とかたづけしては、その場限りのことになる。ここでも批評精神をもって、なぜ人気があるのか、そして美術館としてそれをどう受けとめるのか自己評価に盛り込まれるべきである。どれだけ来館者の数が増えてもそれだけで高い評価をしては、もうひとつの「美の視点」展の評価を下げねばならなくなる。地域の作家の活動をはげます取り組みには敬意

を表し、来館者数は達成に遠く及ばなくてもそれだけで評価を低くできるものではない。

この「美の視点」の来館者数が低い理由は、広報媒体の不足として片付けられるものではない。媒体の不足を理由にするまえに、美術館側の批評精神がどれだけことを尽くしたかを省みるべきであろう。紹介する作家が著名でないときほど、親身な批評精神が問われるのである。この作家のこういう点に着目するということを、将来的な視野を開いてどこまで親身にことを尽くしたかどうか。折角のチャレンジングな試みのあとで、今回の自己評価からは、次への展開への期待が感じられないのは残念である。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

「油絵事始め展」では、油絵ということばの魅力が若い層には段々薄れているように感じられる現在、ワークショップ「高橋由一の《鮭図》にせまる」は貴重な取り組みであった。「土田麦展」の地道な研究成果による自主企画性には敬意を表すが、その分、関連イベントについては、その成果を十分に提供すべく、そのことに特化してより工夫をすべきではなかったか。「あふれる詩心」展は、地味ではあっても独自性やデータの蓄積などの成果があったと考える。「阿部展也展」は、県出身作家の再評価のよい契機になったといえ、活動領域ごとの展示構成や資料、写真のスライド上映などの独自性は認められるものの、やはり多くの観覧者にとっては、阿部の画風の変遷や活動の広がりへの理解は難しかったのではないだろうか。また、図録が制作されなかったのは残念である。

万代島美術館では、「美の視点」展での丁寧なつくりの自主企画性に好感が持てた。作家の選出にあたっては、今後も選択基準が不明瞭にならないように、また誤解が生じないような配慮をお願いしたい。また、継続的に企画されていくことで目標が達成されることは言うまでもない。「佐伯祐三展」は、中高年層には知名度の高い作家で、最晩年までの作品が一望できる充実した企画展で、作品解説、作家略歴、中学生対象の鑑賞資料の作成については高く評価したい。「男鹿和雄展」は、人気の高い分野の企画展で来館者数も目標値の149%と高く、関連イベントも充実しており、美術館に対する認知度は上がったと考える。また今回のアニメーションの背景画は、絵画技法的には基本技法を駆使して描かれており、絵画技法入門の解説には最適であり、こうした大勢が観覧する機会を利用して取り組むことも考えてはどうだろうか。

(3) 自己評価に対する総括

試行錯誤のなか、緒についたばかりの事業評価であるからやむを得ないことではあるが、自己評価が不十分であり、委員たちから指摘されていることでもある。評価シートは煩雑を避けるべきだが、自己評価は、組織の目標と意志に照らして、実績を検証し、将来に向けてどのような新たな課題と方向性、あるいはその変更の必要をとことんことを尽くして表明する場所である。美術館の外部評価がなされるようになった当初から、芸術や文化に関する事業の評価が単純に数値化されることについては、大変な議論があった問題である。極端なことを言えば、教育に収支のことなど問わ

れないのに、教育の一環と位置づけられている公立美術館の文化事業になぜ収支が厳しく問われるのか。限られた資源を有効につかうために運営の改善を絶えず図るうえで、数値は、目安として必要であろう。しかしながら、入場者数の多寡だけで事業の質の良し悪しが決まるわけではないと考えるならば、外部評価を意味あらしめるものは、事業主体としての組織の使命への意志以外にはない。ことを尽くさずに、根拠が共有されずに、みずから段階評価をしてしまうことは、美術館にとってよいことではない。むしろ、実績を組織自身の批評精神に立って分析し、組織の明日を選び取っていくことを外部に表明することがまず必要であり、明日の可能性に対して、外部評価がなされることが、のぞましいと考える。評価の目安は、次の一歩、新たな始まりが感じられるか否かが分水嶺であり、それがない場合は、やるべきことをおおむね果たしたという目安の3にとどまる。

外部評価は、自己評価がどこまでできているかによって決まるといっても過言ではない。その自己評価に不可欠なものが、学芸員を中心とした当事者の批評精神である。今そここの展覧会をやるべきであるとの判断は、まさに批評精神からくるものではないか。展覧会とは批評精神なしにはありえないものである。さらにいえば、「戦略」といわれているものも、これなくしてはありえない。自己評価とは、この批評精神がどこまで遂行され、そしてその遂行によって組織が新たに何を学んだか、そしてこの新たに得たものは選択的に進めるに値するものかどうか検証することであり、それなくしては、次の一歩が見えず、すべてが場当たりのものに終わってしまう。批評精神によって自ら業務遂行のなかで学習することで、美術館自身が変わっていくのである。今回の自己評価を見て、残念に思うのは、どの企画展にしても、これだけをやりましたという報告にとどまる感があり、そこから次の企画に向かうような、「戦略的」な継続性がうかがえないことである。それぞれの美術館の企画の個性や方向性を形成するのは、こうしたなかで生まれてくる、絶えざる始まりの雰囲気であり、美術館に来られる人たちが期待するのは、そうした雰囲気ではないだろうか。

第3章 平成22年度県立近代美術館運営への提言

【近藤フチエ 会長】

美術館のもっとも重要な仕事は、年間数度行われる企画展と常設展である。企画の良し悪しが来館者の数や館の活動に対する一般的な評価となる。観客数が企画の是非に直接関係するわけではないが、観客のニーズを知る指標のひとつであるから、過去の企画の評価を行い今後に活かしていくことが望まれる。館独自の企画でなくとも、企画の選択には戦略的な視点が必要と思う。大都市圏と地方都市では人々の関心は同じでないし、世代によっても関心は異なる。独自の市場調査ともいうべきものが必要だろう。

美術館の活動は複数年で計画され、実施されることが多いので、評価も複数年の計画と年次ごとの評価と複数年の評価を行うことが効果的だと思われる。

【市川 政憲 副会長】

21年度の年間目標として、「新潟県固有の文化を見直すこと」を明確にするとたわれているが、地域文化の「固有性」について、組織としてどのように理解し、またどのような意識が共有されたのであろうか。そもそも、県固有の文化といわれるものは、どこまで対象化できるものなのか。目標にも「新潟県らしさ、当館らしさを打ち出す」ことが目指されているとおり、特産品を紹介するように、県出身あるいは「ゆかりの」作家を取り上げてすむことでもないだろう。21年度の企画展では、県出身の作家が取り上げられているが、それによって、この目標はどこまで、具体的な成果を得たのだろうか。県という地域レベルで文化の「固有性」というものを、問題含みのこととして考えてみることは必要ではあるが、無批判に全面に打ち出せるものなのだろうか。

固有の文化とは、たとえば、全国的に知られた対象を高く掲げることよりは、美術館自身が地域に腰を据え、近いところを掘り起こすことなど美術館活動の実践を通じて、見えてくるものではないだろうか。固有性とは、実践の前にすでにある何かであるよりは、実践を通じて生み出されるものではないだろうか。固有性を超えて広く知られたものを固有性の文脈に引き戻して見直すよりは、いまだ知られずに埋もれているものを掘り起こしてみることのほうが、「固有性」という観点からは、美術館の批評的視点に適った創造的なことになるのでは。

県単位の地域という枠組みに対して、即かず離れずに、内向き過ぎず、外向き過ぎずに、境域に批評的精神の視座を形成することが、まずもっての課題ではないだろうか。そのために公立美術館は、もう少し地域に根を下ろした活動が必要ではあるが。

【塚原 正彦 委員】

見せ物小屋から学びと人づくりのミュージアムに
ミッションは学びと人づくり

新潟県立近代美術館は、学びと人づくりの場に生まれ変わることを使命に設定し、それを実現するために経営評価を行っています。

そこでは、来館者が美術館とかかわることで得ることができた学びが重要なポイントになります。そのためには、何をすべきか具体的に考えてみましょう。

これまでの文化や教育の分野では、お手本が示され、それらを鑑賞したり、それらに接近するというアプローチが主流をしめてきました。

そこでは、ミュージアムに展示されていたり、教科書に記録されたモノや知識が重要視されて、学びは付録のような扱いを受けてきました。

学びということに重きをおくと、鑑賞の場ではなく活動の場として、そこで何を育むかということが重要な要素となってきます。

学芸員は想像力を刺激するデザイナー

イギリスのミュージアムを訪れると、子どもたちが展示物の前に座ってデッサンしたり、何らかのアクティビティに参加している光景をあたり前のように目にすることができるようになりました。

イギリスの大英自然史博物館 (Natural History Museum) は、「ミュージアムは教育の場であり常に未来の創造のための空間を目指す」という理念を掲げ、

子どもを主役にした活動中心のマネジメントに転換しました。

恐竜展示のコーナーでは、「恐竜が減びたのはなぜですか」という問い掛けをします。

子どもたちからは、「ウンチを出しすぎて減びた」「けんかをして減びた」など、想像力に満ちた子どもたちが考えた仮説が寄せられました。学芸員が、それらをイラスト化して展示します。

このプログラムでは、自分たちが見たり、感じたりしたこと、イメージしたこと、考えたことを、みんなで意見交換し、学びあうようなアクティビティです。このような想像力と創造力を育む苗床になるプログラムが、たくさん用意され、未来のための人づくりが行われています。

学びはコミュニケーションから

ウィリアム・モリス (William Morris) が創設にかかわり、①デザインの人材を養成すること、②デザインの消費者を養成すること、③デザインの学習を創造することをミッションにしているヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアム (Victoria & Albert Museum) は、最先端のデジタルミュージアムに取り組んでいます

参加する子どもたちにはデジタルカメラが提供され、館内を探検します。子どもたちは、ミュージアムの収蔵品にふれた感動をデジタル写真に記録していきます。探検を終えた子どもたちは、自分たちの撮ってきた感動に、メッセージを書き込んだり、レイアウトを工夫するなどして、編集を加え、ポスターが創作し、それを展示します。

デジタルコミュニケーションの最大の利点は、自ら編集し、双方向のコミュニケーションが展開出来ることにあります。それを活用することで、イメージーションやクリエイティビティを刺激し、それを育むアクティビティの可能性は無限にひろがっていきます。

デジタルコミュニケーションを効果的に活用することで、ミュージアムを、自分たちが見たり聴いたり感じたりしたことを表現し、それを交換しあいながら、みんなで学びあう交流の拠点に変えることができるのです。

美と暮らしの縁結びから

企画展や教育普及活動を仕掛けることで、美術館に来館してもらうのではなく、日々の生活をとおり、来館者とかかわるための学びやコミュニケーションをくりひろがる新たな展開こそが求められています。

【本間 ケイ 委員】

事業に関することで、まなびの中の戦略、美術を日常生活に活かすことができる学習プログラムを開発する、とあるが、対象をボランティア育成にとどめず、広く利用者をふくめた学習プログラムを開発してみたいかがでしょうか。

万代島美術館の企画展「美の視点」、あるいは過去開催の「新潟の100人」にみられるような、県内、および出身作家をメインにした展覧会を、毎年開催してほしい。当然、予算や広報、集客など、多々問題はあることは解るが、逆に、たとえそれが単独開催であっても、公立美術館だからこそ出来ることであるし、続けることで良い方向、そして結果につながるものと思います。

あるいは、評価の中にあるように、近代美術館では県展、市展にほぼ予定した来館者があったことなどから、万代島美術館でも団体展などに会場を貸し出して、ひろく県内作家の発表の場とし、県民、市民と近しくし、親しみのある県民のための美術館としての一面を育てて欲しいと思う。

美術館は非日常的な特別な空間であってほしいが、敷居の高い特別な空間であってほしくないと思います。

【丸山 結香 委員】

県立美術館には県立であるが故の制限がある。例えば、寄付が受けられない、収益事業が出来ない、また収益を次年度に持ち越せない、などがある。これらを、補うために、館に代わって受け皿になったり、運営を行う協力団体、組織を含む協力体制をつくってはどうか。

【小林 弘 委員】

美術館と学（学校）・社（社会教育施設・団体）・民（市民・県民）との連携（参加型事業）を一層推進するとともに協働（参画・融合型事業）へのプログラム開発に取り組んではどうか。

「協働」とは、単に事業へ参加するだけではなく、事業に対してお互いに主体性を持ち対等な立場（お互いの特性を尊重し、事業内容によりその事業ごとに分担する範囲は異なります）で目的と課題を共有し（企画・運営・評価も含めます。…参画）、結果を共有（双方にメリットがあります。WIN、WINの関係）することである、と考えられています（諸説あります）。

現在、財政改革や地方分権を進める中で、いずれの施設・団体（美術館も含め）も予算不足、人手不足に悩まされていますが、市民（県民、以下市民という）の要求は多様化・複雑化・増大化しています。施設単独による自給自足のサービスでは市民の要求を満足させることはできません。そんな中、現在、施設・団体が市民と協力してサービスに取り組むという「協働」が注目されています。

一方、生涯学習が盛んになり、学んだ成果を社会に還元したいという市民も増えていきます（循環型の生涯学習社会の構築が現代的な課題です）。

「作品鑑賞中心から学びの場、人づくりの場、美術館に親しみを持ってもらえる他県にない施設づくり」という高い使命を掲げている両美術館にとって、学校、社会教育施設、市民と協働する先導的なプログラム事業の開発に着手する時期にきているのではないかと考えられます。このことが教育普及活動、普及活動、連携事業の幅を広げる新たな方法として、また新たなリーダーの掘り起こし～現に学習需要が多い高齢者層や将来的に美術館に足を運ぶことが見込まれる小・中・高校生層には有効な動機づけになる～にもつながるのではないかと考えられます。以下、いくつかの事例を述べます。

（1）学校との協働

- ・学校と協働した教育普及活動（鑑賞支援活動、美術鑑賞講座、ワークショップ、体験活動等）の作成に現場の小・中・高等学校の美術教員が加わり、「美術教育」という観点からプログラムを開発する。
- ・現在のプログラムは、美術館側が独自に作成し（現場教師とT・Tが行われた出前講座があった）、学

校現場教師の生の声（視点）が反映しているとは言い難い。

（2）公民館と協働

- ・公民館と協働した教育普及活動（ふるさと学習・講座、地域づくり講座、各種ツアー学習、市民講座、高齢者大学等）の作成に公民館主事加わり、市民の教養・専門学習という観点からプログラムを開発する。

（3）市民との協働

- ・市民ボランティアと協働した教育普及活動（鑑賞支援活動、美術鑑賞講座、ワークショップ、体験活動等）を専門家ではなく、一般市民・素人という視点からプログラムを開発する。
- ・そのための「ボランティア養成講座」を開設し、終了後は美術館ボランティア室に交代で詰めるとともに、講座等開設の環境整備を美術館側が行う。
- ・長岡市では、行政によって養成され市民ボランティア「生涯学習コーディネーター」が相談室に勤務するとともに、30近くの市民視点の講座を開設している。
- ・近代美術館のホームページによれば、ボランティア活動の内容として、作品基本カードへの貸し出し記録の記入、映画鑑賞会の受付、相澤コレクションの作品カードにナンバーを打つ仕事など美術館への参加（簡単に言えば、お手伝い）に止まっている。活動に参画（協働）することにより市民感覚に近い活動が行われるとともに、財政削減による人員確保や広報活動に寄与し、市民協働の美をあげることができのではないかと。

【三上 祥司 委員】

昨年度もお願いしましたが、評議委員の任務内容については出来るだけ初期の段階で具体的に示していただいて理解を図っていただきたいと思っています。たとえば、招待券を送付しますので企画展は出来るだけ観覧していただきたいなど。実際に企画展を観覧しないと、資料（自己評価・実績報告）だけでは評価は難しいと考えるからです。

企画展の中期目標の「新潟県の固有の文化の価値を発見し、発信するコンテンツの開発に取り組む」については、言うまでもないことですが美術の視点で県の文化財を再評価し、それを全国や世界と繋いでいく回路を模索し築いていってほしいと思っています。

【渡辺 関晴 委員】

素直に厳しい意見を言わせてもらいますと、近代美術館も万代島美術館も人口に対する入館者数は年間に数%に過ぎない。もし私が経営者であれば直ぐにも休館もしくは廃館にしたいと思います。これらは本県ばかりでなく全国一律に悩んでおられる問題で、美術館等展示館の冬の時代とも言われておりますが、しかし博物館法があり、国でも認める文化や美術の立派な教育機関であり、博物館法では、博物館の入場料は原則無料と規定されているが、現実には有料が基本になっている、この辺は図書館法と同じ国の施設で有りながら運営は異なる、そこで有料で運営する美術館は図書館と違ったサービスが求められるのは当然であり、その運営方法が美術館本来のすがたなのかも知れない。

館の職員は予算がなくては何も出来ない、私が最初

の会議でしょうか。議会で美術館に理解を示す議員を育てるのも大事だと述べた事がありました。議員が議会での質問書を出すと議会議務局から必ず質問内容の問い合わせがあるかと思えます。議員の質問一つで知事も予算を付けやすくなるので、理解ある議員作りも必要ではないでしょうか。

美術館とは、特別入って鑑賞する場という雰囲気無くする事ができれば入館者も増えるのですが、どここの美術館もこの辺で頭を痛めている点だと考えられます。しかし今まで美術のいろいろな面で貢献してきたデパートが、県内から三店舗も撤退するこれからは、ますます美術館の必要性が求められるかと思えますが、県民から期待される箱物であって欲しい。

【菅原志津子 委員】

二年間、一般公募委員としてやらせて頂き、多くを学ぶことができ大変感謝しています。高校で終わっていた学びの続きに出会い、長年抱いていた謎も展示を見て学ぶ中で解決されました。驚きです。スタッフの方々や専門家の委員の皆様が一生懸命に展示を盛り上げんと様々な努力をされているお陰だと思えました。美術は思う以上に深く、複雑に絡まっており、また長い歴史を有している分野なのだと思います。このような学びの多い展示や様々な企画を続けてほしいです。そのためには予算、来館者数の維持が欠かせない問題であることもよくわかりました。

すでに試みていることかもしれませんが、アンケートの質問を大人と子供で分けて実施することや、またこれもすでにあることかもしれませんが、楽しみ方の「虎の巻」を作り、それも「子供編、小中学編、高校編、一般編」と分けて作って紹介するのはどうでしょうか。講座に参加する人への簡単な予告にしたり、講座に参加できない人への宣伝としたり、ホームページでの宣伝にしたりするなど。これは展示の中にそういう工夫がされていてよかったので、他のところへも当てはめてみました。

沿革

《新潟県立近代美術館》

昭和63年度予算で美術館建設調査費計上

昭和63年12月

「新潟県美術品収集基金条例」制定

平成元年10月

新潟県美術館建設基本構想を策定

平成2年3月

新潟県美術館建設基本計画を策定

平成2年3月

県立近代美術館建設の設計者選考方式を指名設計競技（コンペ）に決定

平成2年3月

指名設計競技の参加設計事務所5社を決定

平成2年7月

県立近代美術館建設指名設計競技審査会開催
㈱日本設計の作品が入選

平成2年8月

設計業務の委託を㈱日本設計と契約

平成3年2月

県立近代美術館建設の実施設計策定

平成3年5月

県立近代美術館建設工事入札

大成・吉原・小杉特定共同企業体等が落札

平成3年7月

県議会で建設工事の契約承認

平成3年7月

新潟県立近代美術館の建設着工

平成4年12月

県立近代美術館建設本体工事完了・引き渡し

平成5年3月

新潟県立近代美術館条例公布

平成5年4月

新潟県立近代美術館発足

平成5年7月

開館

《新潟県立近代美術館万代島美術館》

平成12年8月

新潟県新美術館基本構想を発表

平成13年2月

新潟県新美術館基本計画を策定

平成13年4月

新潟県新美術館開設準備室発足

平成14年8月

新美術館の名称を一般公募により「新潟県立万代島美術館」と決定

平成15年3月

朱鷺メッセ万代島ビル竣工

平成15年4月

新潟県立近代美術館万代島美術館発足

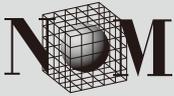
平成15年7月

開館

平成21年度
新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館 年報

編集 新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館

印刷 株式会社中央印刷
発行 平成23年2月28日



THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

新潟県立万代島美術館

The Niigata **Bandaijima** Art Museum